ブラジル

日本移民・日系社会史年表

－半田知雄編著改訂増補版－

サンパウロ人文科学研究所編

改訂増補版の刊行に際して

先に当所が半田知雄編「ブラジル日本移民史年表」を刊行したのは、１９７６年８月のことであった。それまで日本移民史・コロニア史に関する基本的な年表が無く、不便をかこっていた研究者及びコロニア一般の人々に、3年余にわたるこの半田個人の手になる労作は、大変好評をもって迎えられ、広く利用されてきた。爾来20年、当年表が絶版となってからも久しい年月がたつが、当研究所としてはその重版を望みながらも主として財政的な理由でその目途がたたず、これまでの歳月を経過してきた。

ところが昨年、日伯修好百周年にあたり、同記念事業サンパウロ協力委員会橘富士雄委員長より、記念事業の一環として編纂費を助成する故、同年表の増補版を上梓してもらいたい旨の依頼があった。当所として、もとより望むところであり、この依頼に全面的に賛同、受諾し、早速当所研究者スタッフの総力を投入、編纂事業にあたることとした。

しかし、事業に着手し半田年表を再検討してみると、１９７３年をもって終わっている同年表に、７４年以後９５年に至る期間を単に増補するだけでは十分でないことが明らかとなった。この20年の歳月の経過は、長い年月を移民史とともに歩んで来た世代の者には簡潔な表記の半田年表でも十分に理解できるが新しい世代の利用者にとっては、半田年表に更に解説を加えなければ理解不可能な事項が多く、全面的に改訂加筆する必要のあることがわかったからである。

とはいえ、記念事業の一環として、同年内に刊行まで漕ぎつけることは不可能にしても、数年をそれに費やすこともまた許されないことであった。

編纂スタッフは同じ百周年事業協力委員会に申請し、記念事業として助成を受けているプロジェクト「日系社会文化の諸相」の調査研究テーマをそれぞれかかえており、その事業と並行しての編纂を行って来たわけであるが、事業開始以来、各自分担して半田年表を再検討し手を加えると同時に、７３年以後の増補作成にも当たり、その結果を持ちより、月１～２回の会合を開いて担当部分を交換し、全員が相互に手を入れるとともに問題点を討議し、出来得る限り完全を期した。

しかしなお、問題点、疑問点のすべてを原資料に当たり、検討することは資料不足などで技術的に困難であり、また制約された期限内で時間的にも困難であった。従って、出来上がったものにはまだ不十分・不統一な部分が多くあるが、半田編に較べると改訂増補のため2倍余の重厚な版となり、一応ブラジル日本移民・日系社会の歴史の流れを把握できる内容のものとなったと考えられる。内外の研究者、日系社会一般の利用者と、広く江湖のお役に立ち得れば幸いである。

１９９６年　１０月

サンパウロ人文科学研究所　　所　長　　宮　尾　進

■凡　例

本年表に使用した文献資料は巻末に掲げてあるが、本文中の引用文献は下記の如く略記してある。

・「在伯同胞発展録」＝「発展録」
・「わが国民の海外発展一移住百年の歩み」＝「百年の歩み」
・「サンパウロ年鑑」＝「サ年鑑」
・「ブラジル日本移民の草分け」＝「移民の草分け」
・「日毎新年特別号」＝「新年特別号」
・「パウリスタ年鑑」＝「パ年鑑」
・「コロニア五十年の歩み」＝「五十年の歩み」
・「ブラジルに於ける日本人発展史」＝「発展史」
・「福島記念誌」＝「記念誌」
・「パラナ日系60年史」＝「パラナ60年」
・「移民四十年史」＝「四十年史」
・「戦後四半世紀の軌跡」：＝「戦後四半世紀」
・「埋れ行く拓人の足跡」＝「拓人の足跡」
・「物故先駆者列伝」＝「列伝」
・「コロニア戦後十年史」＝「戦後十年史」
・「コロニア産業地図」＝「産業地図」
・「伯剌西爾年鑑」＝「ブラジル年鑑、 或は「時報年鑑」

▼本年表はブラジル日本移民及び日系社会に関した事項を主としたものであるが、中心は日本移民のほとんどがはいり、しかも今日尚、日

系人130万人の72%強が居住するサンパウロ州に関する事項が多い。特に現在、全日系人の27%に当る人口が集中しているサンパウロ市及び14%が居住する市周辺の大サンパウロ都市圏が中心となる。
▼従って、サンパウロ州以外の州はミナス或はミナス・ジェイラス州、マット・グロッソ州、パラナ州又は北パラナ、南パラナなどと州名を明らかにしてあるが、州名の明記してないところはすべてサンパウロ州内、又はサンパウロ市内であり、例えば「文協」とか「ガルホン・ブエノ街」とかは、時として州名及び市名を省略してある。
▼〇〇線××駅＝戦前は鉄道線路を中心として地名を表記した。例えば「中央線モジ・ダス・クルーゼス駅」の如くであるが、これはモジ・ダス・クルーゼス市（郡）の意である。
▼以下文中の用語及び略記を記すと次の如くである。
・北パラナ、南パラナ＝パラナ州北部、南部
・ノロエステ、奥ソロカバナ、パウリスタ＝サンパウロ州内のノロエステ（北西）鉄道、奥ソロカバナ＝ソロカバナ延長線鉄道、パウリスタ＝パウリスタ延長線鉄道などの沿線地方をさす。
・ミナス＝ミナス・ジェライス州、パラナ＝パラナ州、リオ＝リオ・デ・ジャネイロ市又は州
・プ・プルデンテ＝プレジデンテ・プルデンテ市（郡）
・ミル、ミルレイス、コント＝1942年までの貨幣単位　1ミル＝1000レイス（1ミルレイス）1コント＝1000ミルレイス
・クルゼイロ＝1942年以後の貨幣単位　CRUZEIRO＝CR
・伯国＝伯剌西爾（ブラジル）国。従って、全伯は全ブラジル、聖州＝サンパウロ州。同様に聖市はサンパウロ市。
・南大河州＝リオ・グランデ・ド・スール州
・コロニア、日系コロニア＝戦前は一般に在留同胞社会或は在留邦人社会と称していたが、戦後二・三世後継世代を含めて日系社会を単に「コロニア」或は「日系コロニア」と呼ぶに至ったが、現在では「日系社会」と変りつつある。
・植民地＝戦前移民が集団して形成した開拓地を「植民地」と称し、それぞれ「〇〇植民地」と名称をつけた。「〇〇移住地」と名称したところもある。

・海興＝海外興業株式会社
・コンセッソン＝Concessao、コンセッション。政府所有地で特権賦与された土地。
・セラード＝Cerrado。ブラジル中央高原地に広がるアフリカのサバンナに似た土壌地帯。

・ブラ拓＝ブラジル拓殖組合。1930年代設立された各県海外移住組合連合会の現地事業会社。
・文協＝単に「文協」と表記の場合はサンパウロ市在、「ブラジル日本文化協会」をさす。 設立時は「サンパウロ日本文化協会了と称した。
・文化センター＝単に「文化センター」とある場合はブラジル日本文化協会ビルをさす。
・援協＝上記同様、単に「援協」とある場合はサンパウロ市在の「サンパウロ日伯援護協会」をさす。設立時は「日本移民援護協会」と称した。
・老ク連＝サンパウロ市在「ブラジル日系老人クラブ連合会」
・県連＝サンパウロ市在「ブラジル日本都道府県入会連合会」
・日文運＝サンパウロ市在「日伯文化連盟」
・日学連＝ 「日本語学校連合会」サンパウロ市にあったが現在は「日本語普及センター」に合体。
・事業団＝現在は「国際協力事業団」（JICA）をさすが、 JICAの前身であった「海外移住事業団」もさす。
・人文研＝サンパウロ人文科学研究所
・商銀＝ブラジル拓殖組合金融部門から銀行として独立した日系の「南米銀行」（Banco Americado Sul）。
・USP＝サンパウロ州立大学（Universidade de Sao Paulo）

■ 目 次

改訂増補版の刊行に際して ――――――――1
凡 例 ――――――――――――――――――――2
移民前史 ――――――――――――――――――5
移民史・日系社会史 ――――――――――――26
基礎文献 ――――――――――――――――――354

■移民前史

年　号	移　民　前　史	関連事項
1748（寛延1）	サンタ・カタリーナのデステーロ（現フロリアノーポリス）にアソーレス移民126家族（461名）が入植。 リオグランデ・ド・スールのヴィアモン、サン・ペドロに80家族のアソーレス移民。なお2年後に更に200家族が到着した。 1747年にアソーレス諸島は飢饉に見舞われたことが、移民進出の直接的要因となる。	
1776（安永5）		アメリカ独立。なお、当時既に北米にはドイツ移民が25万人いたと言われている。
1803（享和3）	**若宮丸の漂流者達** 最初にブラジルの土地を踏んだ日本人、若宮丸の漂流者達。陸奥国石巻の回船若宮丸は1793年江戸に向かう途中で難破し、16人の乗組員は7ヵ月漂流の後にロシア領オンデレッケ島に漂着して住人に救助され、大陸のイルクーツクに移って8年間滞在した。1803年にペテルブルグに移った後、津太夫、儀兵衛、左平、太十郎の4名が帰国を要望し、折からロシアが準備中だった東洋へ派遣される軍艦ナデシュダ号とネヴァ号に乗船が認められた。この船団はナデシュダ号の艦長クルーゼンシュテルンの航海記によって世界に知られるものだが、大西洋での嵐で破損した箇所を修理する為に12月20日にサンタ・カタリーナのデステーロ（現在のフロリアノポリス）に入港し、翌年2月4日まで滞在した。船団は1805年10月に長崎に到着するが、鎖国中のことで津太夫等が上陸を許可されたのは6ヵ月後のことである。彼らが石巻を出港してから13年目のことだが、この4人ははからずも日本人として最初に世界一周することになった。彼らの旅行記録は仙台藩主の命により蘭学者の大槻玄沢が『環海異聞』としてまとめたが、サンタ・カタリーナにおいては、上陸して見聞した住民、産物について記録しており、特に当時の農作物について重要な資料となっている。	
1808（文化5） 1－22		ポルトガル王朝がナポレオン軍の侵攻を避けてブラジルに移転し、1月22日にバイアに到着。 同28日にジョアン摂政は、それまでの鎖国を解きブラジルの港を友邦国に開くことを宣言。
3－8		王朝は3月8日にリオに到着し、ここを王国の仮首都とす。
9－10		ブラジル最初の新聞（半官報）Gazeta do Rio de

年　号	移　民　前　史	関連事項
		Janeiro 創刊。
11－25		外国人の土地所有を認め、ポルトガル人と同様に外国人にもセズマリア（未耕地の無償配分制度）を与えることを決定。
1812（文化９）	王朝はエスピリット・サント州のサント・アゴスチンニョとバイア州のレオポルジーナに、初めて二つの王立植民地を開設し、アソーレス移民を導入。	
1814（文化11）	ナポレオン戦争後処理のパリ会議が開かれ、これは後1815年にウィーン会議につながるが、それぞれで奴隷貿易廃止、奴隷制廃止が宣言される。	
11－25	ポルトガル王朝は、摂政名で全ヨーロッパに対しブラジルに移民を受け入れることを呼び掛ける。	
1818（文政１）	王朝は始めて移民経費を予算に計上し（４月）、バイア州南部にレオポルジーナとサン・ジョルジ・ドス・イレウスの２植民地を設定し、ドイツ人、スイス人移民を導入した（移民数は不明）。　リオ州のノーバ・フリブルゴに植民地を設定し、ここには1819～20年にスイス人移民361家族（1682名）が導入された。何れも準備不備のために植民地としては失敗している。1824年には61家族（302名）のドイツ移民もここに導入された。	
1819（文政２）	軍部及び外務大臣だったロドリーゴ・デ・ソウザ・コウチンニョは中国移民200万人導入の計画を立てたが、実際には約500名の試験導入だけに止まり、彼等はリオ方面で茶の栽培を試みた。	
1822（文政５） ９－７		ブラジルは帝国としてポルトガルから独立。 19世紀始めはラテン・アメリカ諸国の独立ブーム期で、1804年のハイチを最初として、ブラジルの近隣だけでも、1810年にアルゼンチンとチリー、1811年にはベネズエラとパラグワイ、1825年にはボリビアがそれぞれ独立している。

年　号	移　民　前　史	関連事項
1824（文政7） 3－25	帝国憲法を発布。これでカトリック信者以外のブラジル移民が正式に認可された。	
7－25	ドイツ人37名がブラジル南部に最初の外国移民として南リオグランデ州サン・レオポルド植民地に入植した。ここには後に多数のドイツ移民が入り、植民地として最初の成功例となり、やがて、ムニシピオに発展した。その7月25日がリオグランデ・ド・スール『移民の日』となっている。	
1827（文政10） 10－1		Jornal do Comercio リオ市で創刊。
12－21		Aurora Fluminense リオ市で創刊。
1829（文政12） 5－	サンパウロ地方の第1号植民地がリオ・ネグロ（現パラナ州）に設定され、ドイツ移民17家族が入植。	
6－29	サンパウロ地方第2号植民地がサント・アマーロに設定され、91家族のドイツ移民が入植。	
―――	サンタ・カタリーナ州にサン・ペドロ・デ・アルカントラ植民地（現ジョインヴィーレ）開設の準備開始。	
1834（天保5）	憲法補足令により、中央政府は正式に移植民事業を地方政府に委譲した。これによる最初のものはサンタ・カタリーナのイタジャイー、及びイタジャイー・ミリン植民地である。	
1836（天保7）	植民地法が公布され内外の個人、法人が政府の土地を利用して植民事業を行うことが認められた。この法律による1家族当りの土地面積は32～65haとされたが、実際には25haが普通であった場合が多い。なお、サンパウロのコーヒー園主で最初に移民を導入したヴェルゲイロ上院議員は、これら外国移民に政府の土地を無償で払い下げることに猛烈に反対している。	
1841（天保12）	サンパウロのコーヒー園主だったニコラウ・ペレイラ・デ・カンポス・ヴェルゲイロ上院議員は奴隷の使用が困難になるのを予想して、リメイラにあった彼のコーヒー園イビカバ農場にポルトガル移民90家族を導入した。サンパウロのコーヒー移民の最初のものである。移民の契約条件はコーヒーは歩合作で、他に移民が利用する農地を貸与する。移民は農場に家賃、土地借地料金を支払い、コーヒーは時価で農場に引き渡すものだったが、農場側の契約無視の行為で、移民達は直ちに四散してしまった。これが独立後最初のポルトガル移民で、後ポルトガル移民は1860年代から増加している。	

年　号	移　民　前　史	関連事項
7－18		ペドロ二世皇帝即位。
1846（弘化3）	先の失敗にもかかわらずヴェルゲイロ上院議員は政府の資金を得て、2回目のドイツ移民80家族をイピカバ農場に導入したが、これもすぐに四散してしまった。	
1850（嘉永3） 9－2	サンタ・カタリーナ州のブルメナウ植民地開設。最初のドイツ移民265名が到着した。後にこれは極めて発展し民間植民地のモデル・ケースとされた。	
9－4	300年間続いていたブラジルの奴隷貿易が禁止された。	
9－18	ブラジル最初の土地法が公布された。もっとも施行細則は53年に出された。この細則には、それまでポッセ（非合法占有）だった地主には土地は2倍の広さとして正式の地権が渡され、地主不明の土地は全て政府所有のものとされた。それとともに外国人、民間植民会社に対する規制も定められた。外国人に対する土地の無償交付は禁止され、植民地として会社に払い下げられるものは鉄道、港湾から13キロの範囲内で土地代金は政府が決定し、支払条件は最大6年間とするなどが規定されている。	
1853（嘉永6） 6－		ペリー浦賀来航。
1854（嘉永7） 6－26		共和党機関紙コレイオ・パウリスターノ Correio Paulistano サンパウロ市にて創刊。
―――	地方政府としてリオ・グランデ・ド・スール州が最初の移植民法を公布。	
―――	リオ・グランデ・ド・スールに最初のドイツ移民の新聞が発行され、数ヵ月遅れてジョインヴィーレ植民地にもドイツ語新聞が発刊された。なお、1973年までにブラジルで発行されたドイツ語新聞は71紙に達すると言われる。	
―――	リオ・グランデ・ド・スールに最初のウクライナ移民到着。	
―――		徳川幕府が日米和親条約を締結。これが事実上の日本の鎖国の終わりとなる。
1856（安政3）	サンパウロに最初のスペイン移民。	

年　号	移　民　前　史	関連事項
1859（安政６）	プロシア政府Heydt法によりブラジル向け出移民を禁止。その後1896年になって南３州向けの移民は解禁となった。但し、この間にもオランダなど国外に一旦出てブラジルに移民する者が続いた。	
９－17	外国移民導入の先駆者、上院議員ニコラウ・ヴェルゲイロ Nicolau Pereira de Campos Vergueiro（1778－）死。	
1860（万延１）		日本船咸臨丸が始めて太平洋横断。
―――		
1861（文久１）	サンパウロ地方政府がパリクエラ・アス一植民地設定。	
―――		ヴェネチアを除くイタリアの統一が完成。これがイタリアからの出移民増加の契機となる。
―――		北米は南北戦争の最中だったが自作農法を発布し、これがその後の移民増加の要因となった。１家族に交付される面積は160ｴｰｶｰ（約64ha）である。
1862（文久２）	サンパウロ政府がカナネイア植民地を設定。	
1863（文久３）		北米が奴隷解放。
1865（慶応１）	パラグワイ戦争に南部のドイツ移民は義勇軍－ドイツ人砲兵隊を組織して参加。	
―――		イタリアが出移民及び斡旋業者を規制する法律を施行。
1867（慶応３）１－	徳川幕府から命ぜられオランダ留学していた榎本武揚等９名が、幕府がオランダに発注していた開陽丸を日本に運ぶ途中リオに入港し、11日間滞在した（１月21日～２月１日）。	
２－16		サントス＝ジュンジャイー鉄道が開通。
10－	アメリカ南部からの移民約2800名がサンパウロ州のサンタ・バルバラに150平方㌔の土	

年　号	移　民　前　史	関連事項
	地払下げを受けて入植。	
―――	アメリカ南部からの移民がカナネイア植民地に入植。	
―――	最初のポーランド移民がパラナ州に到着し、1871年にはクリチーバ郊外にピネリンニョ植民地を設置した。なおポーランド移民が増加するのは1890年代となってからである。	
1868（慶応４） ４－25		**ハワイ第１回移民**　グアム島へ42人、ハワイへ153人、それぞれ渡航。後者を後にハワイ元年者と呼び、普通我国海外移住の初めとする（明治元年は９月８日から）。移住百年の歩み－資料編614ｐ．なお、元年者の顛末については海外興業株式会社発行の『日本移民概史』29～30ｐ．にあり。
（明治１） ９－８		日本に明治政府が発足。
1869（明治２） ２－		**第１回アメリカ本土移住者**　オランダ人スネール（ドイツ人ともいう）日本人約40人を伴い渡米。（移住百年の歩み－資料編614ｐ．）　このあと日本政府は当分は海外移民禁止の態度をとる。
1870（明治３） 10－７	この時期イギリスに派遣されていた日本海軍練習生は、遠洋航海の訓練としては大西洋航路が多く、例えば山本権兵衛などもそれに乗ってブラジルの港に上陸している。ところでこの年にバイアに入港したイギリス艦隊の旗艦リバプール号の乗組員だった前田十郎左衛門は、寄港中だった10月７日に突然割腹自殺して人々に大きなショックを与えた。（ブラジル人国記325～326ｐ．参照）	
1871（明治４）	サンパウロ地方政府は移民のために600コントの予算を計上することを承認。なお、追加予算として移民収容所建設、また移民の船賃、目的地までの輸送費補助を決定する。	

年　号	移　民　前　史	関連事項
―――		統一ドイツ帝国出現。後のブラジル移民に大きく影響することとなる。
1872（明治５）	サンパウロ州に最初のオーストリア移民到着。	
1873（明治６） ４－18		イツー共和党大会。
６－		福沢諭吉著『世界国名詳覧』出版。 日本の地理書に初めてブラジルの名が現れる。（ブラジル人国記587 p.）
８－21		ペルーと和親貿易航海仮条約調印。
1874（明治７） 10－３	サンパウロ州に最初のイタリア移民到着。	ブラジル人Francisco Antonio de Almeidaが、ブラジル帝国政府の命によってフランス天文観測隊に加わって金星観測のために日本に赴いた。フランス隊は、本隊は長崎、他一部が神戸で観測したがアルメイダ教授はあとで日本の印象記を書き、特に日本の普通教育の普及ぶりに感嘆した。
―――		リオ・グランデ・ド・スールにてドイツ移民にムッケルの反乱が起きる。
1875（明治８） １－４		オ・エスタード・デ・サンパウロ紙、当時はA Provincia de S.Paulo創刊。

年　号	移　民　前　史	関連事項
7－10		サンパウローソロカバナ鉄道開通。
8－27		パウリスタ鉄道、サンタ・バルバラまで開通。
8－31	フランスがブラジル向け移民を全面的に禁止。これは1908年7月に解禁される。	
―――	リオ・グランデ・ド・スールへの最初のイタリア人集団移民がカンポ・デ・ブーグレ（現カシアス・ド・スール）に入植。このあと1912年までロンバルジア、ヴェネチアなど北部イタリアの移民がこの地帯に多く入る。	
1876（明治9） 6－2		中央線がサンパウロからジャカレイーまで開通。
8－11		パウリスタ鉄道リオ・クラーロまで開通。これらの鉄道の開設でサンパウロのコーヒー栽培が急増していった。
1880（明治13） 11－16	ブラジルの海軍少将Artur Silveira da Mota後のBarão de Jaceguaiが条約締結のため清国Chinaに赴いた帰途、横浜に上陸。少将は東京に赴き外務省当局者と会談し、日伯修好通商条約締結が話題に上ったが成果はなかった。（ブラジル人国記327－330p.）	
1881（明治14）		日本に横浜正金銀行設立。
―――	イタリア人フランシスコ・マタラーゾが27才で渡伯。	
1882（明治15）	清国駐在のエドアルド・カラードEduardo Calado公使が帰国の途中に日本に立ち寄って両国間の国交条約について政府と交渉したがまだ時期尚早として話はまとまらなかった。（ブラジル人国記、329－330p.）	
1884（明治17） 5－1		日本に大阪商船株式会社創設。後ブラジル航路の主役となる。
1885（明治18） 1－		日本郵船株式会社創設。

年　号	移　民　前　史	関連事項
2－2		ハワイ官約移民開始。第1回は男676名、女159名、子供110名の合計945名（2月2日ハワイ着）。ここから日本政府は出移民を促進することとなる。
1886（明治19） 1－28		日本がハワイと渡航条約調印。
―――	サンパウロ向けの移民促進目的で『移民促進協会』(Sociedade Promotora de Imigração)が設立される。	
―――	サンパウロ州政府はパロン・デ・ジュンジャイー、ロドリーゴ・シルバ、アントニオ・プラード、リベロン・プレットの4植民地を設定。	
1887（明治20）	サンパウロ移民収容所の一部が完成して利用開始。	
―――		東洋汽船株式会社創立。
1888（明治21） 5－13	**ブラジルの奴隷制廃止。**これが外国移民を急激に促進させた。	
12－30		日本がメキシコと修好通商条約調印。日本として初の平等条約。
―――	渡航時期は明確ではないが、竹沢万治（四国の士族だったと言われる）と秋葉某の2人がこの頃ブラジルに生活していた。多分、芸人として海外に出て後に渡伯したものと見られる。秋葉の方は不明だが、竹沢はペドロ2世皇帝の近衛兵の柔道教師となっていたが、38才の時に共和革命が起きて失職し、後芸人達に担がれてシルコ・インペリアル・ジャポネースを結成し、ブラジル各地からウルグアイ、アルゼンチン方面まで巡業した。	
1889（明治22） 3－13	イタリアがブラジル向け移民を禁止。これは90年6月に解除された。そのため91年にイタリア移民は132,326人、イタリア側の統計では183,738人が渡伯し、これは1年間における最大数である。	
7－14	ブラジル軍艦アルミランテ・バローゾ号が横浜に入港し、この船で大武和三郎が渡伯。	
10－		第1回汎アメリカ会議。

年　号	移　民　前　史	関連事項
11－15		ブラジル共和国宣言。軍部クーデターによりブラジル帝政が廃止され共和制となる。
1890（明治23） 6－28	ブラジル政府植民に関する法令を公布。 法令第528号の規定によって**アジア人の入国禁止**を定める。（ブラジル年鑑、前編123 p.『日伯国交年代譜』）ブラジル帝国は前年の1889年共和国となったが欧州移民誘致のための努力には変更がなかった。翌年6月共和国仮政府は『外国移民配置規則』を公布し、共和国移植民政策の根本を示した。この規則第1条に、『本国において刑法によって処罰せられたることなき強壮にして農業に適する個人は共和国の諸港に入ること自由なり、但しアジア及びアフリカ土人（インド人）はこの限りにあらず。右両者は随時定むる規定により、国会の許可を得たるときは入国するを得』とある。	
7－29	大武和三郎ブラジル軍艦アルミランテ・バローゾ号でリオに着伯。	
1891（明治24） 4－9		リオ市にJornal do Brasil創刊。
7－14		サンパウロ州憲法公布。
7－	外務大臣榎本武揚（えのもと・たけあき）外務省大臣官房に初めて**移民課**なる独立の一課を設置し、海外出稼ぎ及び移民に関する一切の事項を管掌させる。1893（明治26）年この移民課は廃止され、通商局に合併。（発展史、上巻155～156 p.）	
12－		日本に吉佐移民合名会社設立。初めての民間移民会社。
1892（明治25） 10－5	ブラジル共和国政府は法律第97号を10月5日付けで発布し、シナ及び日本移民の自由入国を許可する。（ブラジル年鑑、前編123 p. 発展史、上巻65 p.）	
―――		サンパウロ市にイタリア移民の新聞Fanfula創刊。ブラジルに於けるイタリア移民の新聞は19世紀から始まって数十に及ぶが、このFanfula紙は最大級のブラジルの新聞の規模に達したものである。
―――		**アメリカで初の日本語**II

年　号	移　民　前　史	関連事項
―――	中国から475名の移民（主として広東方面から）が入国。	刊新聞「桑港」創刊。
1893（明治26） 2－	榎本武揚子爵は外相辞任後、朝野の有力者を集めて**『植民協会』を創立**した。目的の一つはメキシコに植民地を建設することであった。子爵が会長、副会長は前田正名、常任幹事は安藤太郎、加藤平四郎、評議員には杉浦重剛、佐々木友房、志賀重昂、小村寿太郎、三宅雄二郎、稲垣満次郎、近衛篤麿、星亨、柴四郎、立川雲平、林有造、金子堅太郎。（邦人海外発展史、上巻104 p.）	
―――		日清戦争始まる（1893～94年）。
1894（明治27） 4－12	勅令第42号をもって初めて日本に移民保護規則が制定される。続いて外務省令第6号をもってその施行細則が定められる（発展史、上巻153～154 p.）。これはその後『移民保護法』となる。この年サンパウロ市プラード・ジョルドン Prado Jordão 商会代表チャールス・アレキサンダー・カーライル Charles Alx. Caryle 訪日。日本吉佐移民合名会社に対して日本移民ブラジル誘入の交渉を行う。但し、ブラジルは当時無条約国であったので、日本政府は移民送出を固く禁じていた。（発展史、上巻225 p.）	
7－16	代議士根本正、官命をおびてブラジル及び中南米の視察に向かう。（根本は榎本子爵の殖民協会の中堅で熱心な移植民運動家の一人であった）根本は農商務省参事官として6月27日出張を命じられブラジル視察に渡航。9月25日リオ着。（年月日は全て鈴木南樹の『拓人の足跡』改訂版からとった。彼は訪日中、既刊の根本正伝と外務省の記録を実際に調べて書いたものである。）邦人海外発展史、下巻7 p. も参照。	
9－15	根本正はバイア、リオ・デ・ジャネイロ、ミナス・ジェイラス及びサンパウロの各州を踏査し、又各関係要路の人とも会って、この国が日本人の移民地として極めて有望であることを看取した。彼が旅行中榎本子爵や殖民協会の人々に宛た手紙にはブラジルに関する興味深い記述がある。 **＊根本正の（榎本子爵に宛てた）報告** ・・・日本移民に適すべき地はペルナンブーコの南部に有之。特にサンパウロ、ミナス・ジェイラスは最も宜しくと存候。土地肥沃にして到る処樹々高く生い茂り、小生が曾てメキシコ、ソコタスコ地方にて目撃したると同様に御座候。又サンパウロ市とサントス港の間には交通の便利充分に具わり居候。ナッシメント氏の紹介に依りサンパウロ州の知事に面会仕候処、知事は懇切に待遇せられ、小生サントスに出港の節は特別仕立ての馬車用意披致呉候。サンパウロ市よりサントス港に至る道路はなかなか立派なものにて高度は大抵2千百尺に有之、随って気候も温和に御座候。寒暖計は途中馬車の内華氏80度、サントス港にて85度を示し候。	

年　号	移　民　前　史	関連事項
	来住の移民上陸の節は先づ此処に着し候手順にて、百般の便宜備はらざるなく移民に対する取扱方法完全致居候には一驚を喫し候。目今欧州特にイタリーより来航するもの陸続踵を接し、毎週数百人に及び候。小生もサンパウロ取扱所にて一度目撃致候（中略）。 ブラジルは米国と同じく大平原を有し、土地は概して肥沃に御座候。就中ミナス、サンパウロ、リオ・グランデ・ド・スール、サンタ・カタリーナの諸州最も豊饒の地方に御座候。ミナス、サンパウロ州最も温和に有之。午前7時小生此書簡認め居り候室にて寒温器正に75度を示し候。天候も桑港又はメキシコ府の如く、至って長閑に御座候。日本移民事業にとり最も望みあるはサンパウロ州に有之。縦横に蔓延せる幾多の大平原は、以って無数の市街を建設し、永住の地と為すに足るべく、生計の程度を高め、財富を増殖し、子女に充分の教養を施し、何不足なく愉快に生活するを得べく、彼我両国の利益不過之と披存候。只必要なるは勤勉不倦の職工及び忍耐力に富みたる労働者に御座候。 何卒日本移民移植の儀御尽力有之度希望致し候。日本の為のみならず、実に人類を救ふの美事に有之と存候。（発展史、上巻231－232 p．邦人発展史下巻10～11 p．）。 ［註］本表にも既に記してある通りサンパウローサントス間の鉄道は1867（慶応3）年に開通している。それをわざわざ別仕立ての馬車で行ったというのはどういうわけか。しかも《移民取扱所》というのはサンパウロの収容所のような感がする。	
12－	連邦政府は予算法第26号を以って、移民事務は今後一切各州自らこれを管掌すべしと規定した。（発展史、上巻229 p．）	
1895（明治28） 3－20		ペルーと通商航海本条約締結。
8－21	パラー州政府土地局と東洋移民貿易会社代表者ジューリオ・ベネヴィデスとの間に日本移民3,000人移入契約が結ばれたが実現しなかった。（発展史、上巻230 p．によると《元来同会社は日本の会社でなく、又右契約履行の為、日本側へ交渉した事実もなく、全く契約調印のみに終わったらしい。》とある。）	
11－5	**日本とブラジルの国交成立** パリにおいて、日本とブラジルとの間に**修好通商航海条約**が調印され、両国の国交が開かれる。この時の日本側の全権は曽禰荒助、ブラジル側はガブリエール・デ・トレード・ピーザ・エ・アルメイダ Gabriel de Toledo Piza e Almeida であった。（全文がブラジル年鑑前編118～119 p．に出ている。なお野田良治著《ブラジル人国記》332～334 p．参照）。	
5－	[redacted] ★根本正著『南米伯剌西爾、中米、尼加拉瓦、瓦地馬拉、西印度、ゴァデロプ探検報告』が外務省通商局から発行される。	
1896（明治29） 4－	日本政府『移民保護法』公布。移民周旋業者の不良行為を防ぐ為のもの。（本文は『移民保護規則』として入江貫次《海外邦人発展史》上巻、114～118 p．にあり）	

年　号	移　民　前　史	関連事項
8－1		サンパウロ州バウルーに郡制実施。
1897（明治30） 1－	東洋移民会社は吉佐移民会社の契約を継承し移民輸送に関し社員青木忠橘をブラジルに送る。（発展史、上巻169 p．及び233 p．）	
2－12	1895年パリで調印された日伯修好通商条約の批准が交換される（ブラジル人国記、334p.）	
4－9		ハワイで日本移民上陸を拒否される。
6－16		ハワイ、アメリカへ併合の調印。
―――		コーヒーの国際価格が暴落し、安値が1906年まで続く。
8－5	東洋移民会社の応募移民はサンパウロ市のプラード・ジョルドン Prado Jordão 商会との契約にしたがって8月15日、土佐丸をもって神戸出港の予定であったが、8月5日ﾌﾟﾗｰﾄﾞ・ジョルドン商会から一通の電報が入って『コーヒー暴落の為一大恐慌起り、約束の移民は引きうけ難し、出発は中止されたし』と通告。（発展史、上巻237 P.）	
8－23	**日本公使館開設** リオ州のペトロポリスに日本公使館が開かれ初代代理公使として珍田捨巳（ちんだ・すてみ）が任命されこの日就任。なお珍田は初代総領事も兼ねる。但しこの総領事は1915年8月に閉館し、1919年再開。	
―――	ブラジルに初代の日本弁理公使珍田捨巳が着任したが、彼はブラジルは邦人の移住すべき土地にあらずとの意見で、再三にわたりその意見を本省に報告している。なお、2代目の大越公使も全く同意見であった。	
9－	Enrique Carlos Ribeiro Lisboa 初代駐日全権ブラジル公使に就任。（ブラジル人国記、337p.）	
9－25		チリーと通商航海条約を締結。
10－30	『日本移民会社』と A. Fiorita 会社との間にブラジルへの日本移民導入の話し合いが有り、この日仮契約を結んだがプラード・ジョルドン会社の破約事件などの影響もあり、ついに不成立に終わる。（発展史、上巻、238～239 p.）	

年　号	移　民　前　史	関連事項
―――		この年サンパウロでドイツ移民の新聞ドイチェ・ツァイツング創刊。
1898（明治31） 2－3		アルゼンチンと通商航海条約を締結。
8－12		アメリカがハワイを併合。これが日本移民の導入に影響してくるようになる。
―――	サンパウロ州はカンポス・サーレス植民地を開設。	
1899（明治32） 2－27		**日本から最初のペルー移民** この日横浜出港の桜丸で森岡商会は790人の第1回契約移民をペルーに送った。但し彼らは配属耕地におちつかず、91人はボリビアへ転住した。（移住百年の歩み、資料編621p.）
7－4	大越成徳、第2代弁理公使としてペトロポリスに着任。	
7－	東洋移民会社のパラー移民計画あり、これは1900年日本外務省が不許可とする。（発展史、上巻239～240p.）	
10－14	大越公使は今春以来のコーヒー市価暴落による恐慌下の情況につき長文の電報を本省宛に打っている。特にイタリア移民の惨状については、『其賃金不渡の移民数は伊国労働者の過半、即ち30万人に達せられると云ふ。』と報告。（発展史、上巻246ｐ.）	
12－15	外山義文通訳官の報告書では、フランス、ドイツ、オーストリア、ハンガリー或はスエーデン、ノールウェー等が法律をもってブラジル移民を禁止している実例をあげ、日本政府に向かって警告している。（発展史、上巻、244～245ｐ．参照）（通商　第165号）	
―――		サンパウロ市内にドイツ人がビニェイロス・クラブ設立。
1900（明治33） ―――	日本力行会創設　初代会長　島貫兵太夫。	

年　号	移　民　前　史	関連事項
8－		日本外務省が北米・カナダ行き移民の禁止を各県に訓令。
1901（明治34） 5－15	Olimpio Leite Chermont 在ベレン日本名誉領事に任命されたが1905（明治38）年1月20日退職。	
6－15		リオ市で Correio da Manhã 創刊。
8－	ブラジルの移民業者マルシアル・デ・サンツ・デ・エロルツ Marcial de Sanz de Elorz なるものが日本移民誘致のため日本へ行ったが誘致には至らなかった。外務省は翌年の3月をもって各府県宛て通牒を発し『近頃ブラジル行き移民募集の為同国より渡来し各地移民会社に募集方申入居候もの有之候由に聞及候処、当省に於ては目下のところ同国行き移民は渡航許可せざる方針につき、貴県へ認可出願候補者有之候はば、認可相成らざる様いたしたし。』といっている。（発展史、上巻、240－243p.）	
9－		ライト会社の発電はじまる。
―――		サンパウロ州内にイタリア人の農場はすでに1057を数えた。
1902（明治35） 3－	**イタリア移民禁止** イタリア政府ブラジル行き契約移民（サンパウロ州政府の渡航補助による）の渡航を禁止。（これが日本移民導入の直接の契機となる。）	
11－15		Rodrigues Alves 大統領に就任。
―――		ジョゼ・ペレイラ・ダ・グラッサ・アラーニャの小説『カナン』出版さる。エスピリト・サント州のドイツ移民を取り扱ったブラジル最初の移民小説である。
―――		この頃からアルゼンチンが盛んにイタリア移民を誘致。

年　号	移　民　前　史	関連事項
1903（明治36） 5－	Manoel Carlos Gonsalves Pereira 駐日ブラジル代理公使に任命され、1905年には弁理公使に、さらに1909年3月には特命全権公使に昇任。（ブラジル人国記337 p.）	
5－27	公使館二等書記官堀口九万一、大越公使帰朝につき、駐伯臨時代理公使となる。（ブラジル人国記、335p.）	
1904（明治37）	**商業のさきがけ** 『ブラジル年鑑』後編69 p．によると『明治37年末、山県勇三郎が水嶋峻一郎を送って山県商会の名で日本雑貨の販売をさせた。』とあるが『拓人の足跡』初版267 p．によると実は『バザール・アメリカーナと関係を結び日本から商品を取り寄せたりした』にすぎないらしい。しかも水嶋は『1907（明治40）年、内田公使着伯と前後してリオ市に上陸した一人の青年・・・』であった。商業の先駆けはむしろ2年後の薄崎商会に席を譲るべきだろう。（発展史、上巻、193～208 p．参照）	
―――	淡水税関長、宮尾舜治来伯、初期訪伯者の一人（ブラジル人国記、347－348p.）	
―――		日露戦争（1904～5年）
1905（明治38） 3－		カリフォルニア州議会に排日法案提出。
4－19	杉村濬（すぎむら・ふかし）駐伯帝国弁理公使としてリオ（ペトロポリス）に着任。	
4－	駐日ブラジル弁理公使として Manoel Carlos Gonsalves Pereira 着任。（ブラジル人国記、337p.）	この頃カイゼルの黄禍論北米を風靡。
11－15		**ノロエステ鉄道工事開始。** 1908年12月20日アラサツーバまで開通、1917年私設会社のものであったこの鉄道は連邦政府のものとなる。
12－23	水野龍（みずの・りょう）日本人の移住地を求めてチリー経由ブラジルへ向かう。1906年1月29日（？）カリヤオ上陸、乗船グレーンファーグ号を下りてリマに1ヵ月滞在。2月26日或は27日カリヤオ発チリー船でチリー国へ向かう。バルパライソには3月4日上陸。アンデス山脈はロバの背で3月6日－7日に越し、後汽車でブエノスへ向かう。約1日半の旅程。ブエノスは10日間滞在。3月27日リオ着。鈴木南樹『日伯毎日新聞』発表の『なまけもの』（日付不祥）による。	

年　号	移　民　前　史	関連事項
	[redacted]　6/30 『伯剌西爾移民事情　附・貿易状況』杉村　濬著（外務省通商局発行） 『南米伯剌西爾国サンパウロ移民状況視察復命書』　同　上 『南米伯剌西爾国ミナス・ゼライス州視察復命書』　同　上 ーこれら長文の杉村公使旅行報告書は外務省で印刷され広く配布を行ったので識者の注意をひいた。これが動機となり水野龍の移民誘入契約のための渡伯も実現されるのである。	
―――		Oliveira Lima 『*No Japão*』を刊行。ブラジル最初の日本についての本である。
1906（明治39） 2－26	**タウバテー協定** 生産過剰のコーヒーに関する協定がタウバテー（Convênio de Taubate）で開かれ、サンパウロ州統領Jorge Tibiriçaに招かれミナス及びリオの各州統領が参加した。	
―――		この年サンパウロ州内には既に次のような外国人の農場数があった。 （農場数） イタリア人・・・ 5197 ポルトガル人・・ 1607 ドイツ人・・・・ 675 スペイン人・・・ 970 オーストリア人・ 117 フランス人・・・・ 67 イギリス人・・・・ 25 その他・・・・・ 255
3－27	**水野龍**ブラジル視察の為、初めてブラジルの地を踏む。東洋汽船会社南米西海岸航路第1船グレーンファーグ号で先ずペルーに渡り、チリーに上陸するはずだった青年鈴木貞次郎を伴った。	
5－19	杉村濬公使ペトロポリスで脳溢血の為に死亡（1876－）。『病床に待して投薬すること7昼夜、而も遂にその効なく19日午前4時30分を以って、公使は遂に永眠せられぬ。呼、悲哉、痛哉』とは水野氏が杉村公使を悼む告別の辞であった。（列伝、94p.）但し、『ブラジル人国記』336によると『5月21日任所にて卒去』とあり、5月19日逝去と記している発展史（上巻263 p.）もその同じ上巻66 p. には『5月21日任所にて逝去』と記している。公式には5月21日死としているようである。墓地はリオ市サン・ジョアン・バチスタ墓地1332号。	
6－16		サンパウロ市でA Gazeta発行。

年　号	移　民　前　史	関連事項
7－16	**後藤武夫着伯** 藤崎三郎助の藤崎商会社員野間貞次郎外３名、即ち後藤武夫、佐久間重吉、田中良作がサントスに上陸。	
8－	明穂梅吉、讃岐丸（さぬきまる）で渡伯。鳥取県人、後の海外興行会社移民部長。1953年12月13日死。79歳（『目で見るブラジル60年』では５月着であるが、『拓人の足跡』では８月である。『列伝』６－７ｐ．参照。）	
8－20	安田良一一行（安田、長瀬、九玉）リオ着。８月22日サンパウロ着（スエズ、マルセイユ、ロンドン経由）。	
9－24	サンパウロ市に藤崎商会支店開設　O Japão em S.Paulo と命名。R.S.Bento 58番（後68－A）。	
10－21	隈部三郎（くまべ・さぶろう）が有川新吉、松下正彦及び西沢為三を伴って渡伯、サンパウロ着。（列伝、45－46ｐ．五十年の歩み、23ｐ．）	
11－15		ロドリーゲス・アルベス大統領死、アフォンソ・ペンナ大統領となる。
11－	[redacted]・水野龍著『南米渡航案内』京華社で発行。	
―――	サンパウロに公式の移民仲介事務所（Agencia Oficial de Colonização e de Trabalho）が設置され、移民と移民希望者の仲介を始めた。	
12－25	移民の給与を保護するカルドーゾ・デ・アルメイダ法発令。	
1907（明治40） ―――	ペルー移民のアマゾン下りによるブラジル流入が始まる。その後約10年間に400～500名の者がブラジルに入国したと見られる。	
3－15	内田定槌（うちだ・さだづち）弁理公使として着任。10月９日特命全権公使となる。（ブラジル人国記336ｐ。）	
4－14	大統領令第6485号をもって植民法を制定し、中央及び南部諸州に連邦植民地 Núcleo Colonial Federal を計画する。やがてモンソン植民地も生まれることになる。（ブラジル年鑑、前編、331p.）	
―――		アメリカが日本人労働者移民の渡航制限を要請。

年　号	移　民　前　史	関連事項
5－		サンパウロ市内から鉄道馬車Bonde de Burroが消える。
8－	大平善太郎、猿橋伝と豊島昌を伴って再渡伯、日本雑貨店『日伯商会』をリオ市に開く。これが同市における日本商店のさきがけとなる。(『拓人の足跡』初版223p. －229p. 参照。大平善太郎は、後に蜂谷吾輔を店員として伴った大橋三次の子息である。)	
11－	**移民契約成る** 水野龍再びブラジルに渡る。この年の1月30日すでに新移民法及び植民法が公付されていた。その第20条『政府は新方面よりの移民誘入を奨励する目的をもって適当と認むるときは、該移民誘入の契約をなすことを得。但し契約者毎にその員数を定め、州の利益に最も適合したる条件を附することを要す。』(入江寅次著『邦人海外発展史』、下巻50 p.) とある。 水野はサンパウロ農務長官Carlos Botelhoと交渉し11月6日をもって、同年より、向こう3ヵ年に日本移民3千人を導入することの正式調印をなした。(発展史、上巻266 p.) 因みにこの時の州統領はJorge Tibiriçaであった。なお、先に水野が伴った鈴木はファゼンダの労働体験を目的に、この頃モジアナ線チビリサー駅チビリサー農場(その中央部をシンボラーゾSimboraso といい、チビリサー農場の別名にもなっていた。) に働いていた。(『移民の草分け』188p. 参照)	
―――	**植民事業の計画** ブラジルにおける植民事業計画おこる。子爵大浦兼武を中心とし、工学博士長谷川芳之助、床次竹二郎、青柳郁太郎の有志間に相談が行われ、その実行方法について研究が進められた。(発展史、下巻2 p.『東京シンジケート創立事情』については2－6 p.)	
11－27	隈部三郎一家及び有川新吉、安田良一、西沢為蔵らリオ・デ・ジャネイロ州マカエー郡サント・アントニオ耕地に植民地建設の為にサンパウロ出発。更に11月29日はニテロイよりマカエー町に着く。	
12－1	隈部一行サント・アントニオ着。12月10日安田、西沢植民地を退去。リオ州マカエーにもどる。	
6－	刊行物　中島鉄哉の『今のブラジル』蒼泉窟蔵版、出版。著者は東京夕刊新報社長、元大阪朝日新聞記者『ブラジルを見ずにブラジルを書いた本として有名』。	
1908 (明治41) 2－8	移民を制限した日米紳士協約成立。	

年　号	移　民　前　史	関連事項
4－28	**笠戸丸出港　（神戸午後5時55分）。**	
5－1		州統領（知事）Jorge Tibiriça サンパウロ州政府を Albuquerque Lins に引き渡す。
5－3	**通訳5人男**　3月27日東京発、シベリア経由でサントス着。即ち加藤順之助、嶺昌（みね・まさる）、仁平崇（にへい・たかし）、大野基尚、平野運平。	
5－18	山県勇三郎シベリア経由でリオ着。（ブラジル年鑑、前編123 p.）	
6－3	ブラジル海軍練習船 Benjamin Constant 号が、この日横浜に入港。 ・・・日本の帆船宝久丸が南洋で難破し、36名の乗組員は当時無人島だったウェーク島で約1年間生活し、その間に16名が死亡した。ところで、生存していた20名をブラジルの練習艦ベンジャミン・コンスタン号（アントニオ・コウティンニョ・ゴーメス・ペレーラ艦長）が発見して収容し、6月3日に横浜港に入港した。日本、特に海軍はこれに感謝し、海軍次官、東郷元帥（当時大将）もそれぞれに宴を張って感謝の意を表明した。 東郷大将の招宴は、三井倶楽部にブラジル公使、他に艦長以下の乗組員を招いたものであった。なお、日本政府は後になってペレーラ艦長に勲一等瑞宝章を贈っている。なお、その宝久丸の生存者の中に三浦鑿（後の日伯新聞社長）がいたもので、彼はベンジャミン・コンスタン号に乗船を頼み、この帰国の際にブラジルに渡ったとも言われる。	

■移民史・日系社会史

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1908（明治41） 6－18	**笠戸丸第１回移民が到着。** ４月28日神戸出帆の笠戸丸（かさとまる）には781名の契約移民（165家族733名、独身者48名）の他自由渡航者12名。また皇国殖民会社社長の水野龍及び同社のブラジル業務代理人上塚周平も同船。『笠戸丸』参照。当時のサントス市の人口は５万と『記念鑑』123ｐ．に記してある。	
6－19	サントス市の新聞A Tribunaは、日本移民について“黄禍のもと”（Os amarelos）を導入することの不安を書き、またサンパウロのDiario Popularは船中に殺人事件があったと報じる。	
6－25	Correio Paulistano新聞は、初めての日本移民について移民の上陸から詳細に報じ、上陸時、またサンパウロ移民収容所内での移民の行動の見事なことを称賛。	
6－26	26日から７月６日にかけて、移民達はゾーモン（Comp. Agricola Faz. Dumont）、カナアーン（S. Paulo Coffee States Co. Ltd.）、サン・マルチーニョ（Comp. Agricola Faz. S. Martinho）、グァタパラー（Faz. Guatapara de Da. Albertina Prado e Filhos）、フロレスタ（Faz. Floresta de Dr. Godofredo Fonseca）、ソブラード（Faz. Sobrado de Dr. Franc. Antonio Souza Queiroz）の６農場に送られていった。 なお、移民収容所滞在中、日本移民の視察に州知事マノエル・ジョアキン・デ・アルブルケ・リンス（Manuel Joaquim de Albuquerque Lins）や農務長官のカンディド・フィゲレード（Candido Figueredo）が来所、移民契約の当事者であった前農務長官のカルロス・アルーダ・ボテーリョ（Carlos Arruda Botelho）も来訪した。	
7－6	公使館の三浦荒次郎通訳官は州の農事監督官と上塚周平とともに７月６日に収容所を出た移民達と行動を共にし、あわせて他の農場も視察したが、ほとんどの農場で移民達は不満を強めており、ゾーモン農場ではそれが特に激しかったと報告。	
8－25	ゾーモン農場からは52家族全員がひきあげ、他の農場では全員が退出したケースはないが、それでも多数の者が脱走、又は他に移動し、1909年９月には、配耕先で残っていたのは191名だけ。	
10－	**日本移民の初ノロエステ地方入り** これら農場を出た者達は、サンパウロやサントス市内、アルゼンチンに移転、当時工事が続いていたノロエステ鉄道工事に働いたり（当時アラサツーバにまで達していた）、リオやミナス州に移った者など。ゾーモン農場から出た中で９家族は、香山六郎に率いられて同年10月にノロエステ線トレード・ピーザ駅サン・ジョアキン農場に移ったが、これが後に日本人の大集団地となるノロエステ線にはいった最初の日本人となった。（四十年史、132ｐ.） （1912年におけるバウルー郡全体の人口は24、633人であった。D.G.I.）	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－14	このような惨憺たる成績にもかかわらず、11月14日に水野龍はサンパウロ州政府と第2回移民導入の契約を結ぶ。	
―――	植民協会の創立者、榎本武揚が72歳で死亡。	
2－ 6－19 12－	刊行物　★東洋汽船株式会社編『南米事情』。 ★サントスのA Tribuna 及びサンパウロのDiario Popularに日本移民に関する記事が出る。 ★外務省通商局より、内田定槌公使の『伯剌西爾内地事情報告書』、また三浦荒次郎通訳官の『サンパウロ出張復命書』（いずれも移民調査報告第1収録）。	
1909（明治42） 4－25	日伯商会主、大平三次に伴われ後に蜂谷商会を設立する蜂谷吾輔がリオに到着。	
5－26	野田良治、二等通訳官としてペトロポリス（リオ・デ・ジャネイロ）に着任。彼は後長くブラジルに勤務し、何度も臨時代理公使も務め、日伯関係、移民問題に大きく貢献した。	
6－14		大統領アフォンソ・ペンナ死。副大統領ニーロ・ペサーニャNilo Peçanha大統領に就任。
7－	通訳5人男の1人大野基尚にひきいられた第1回移民57名がアラサツーバ以北（現在では取り外された）の鉄道工事に参加。（発展史、上巻346 p.）	
11－16	野田良治二等通訳官臨時代理公使として就任。（ペトロポリス）	
―――	星名謙一郎渡伯。後にバイペン、ブレイジョンなどの植民地を開設（物故先駆者列伝25 p.によると1909年と推定されるし、『コロニア50年の歩み』によれば、1909年『ころか』である。62 p. 木村幸太郎記）。1926年12月12日死。	
1910（明治43） 2－	蜂谷吾輔が独立してリオ市に蜂谷商会を開設。リオの日本商店第2号。	
5－4	第2回移民船旅順丸神戸出港、竹村植民会社扱いの移民251家族945人を輸送。	
5－16	内田定槌公使ペトロポリスに帰任。このとき後の大正小学校初代教師宮崎信造（みやざき・しんぞう）を随伴。	
6－10	帝国巡洋艦『生駒』がアルゼンチン独立百年祭式典に参加した帰途に、最初のブラジル訪問艦としてリオに入港。（発展史、上巻70 p. 参照。なお、『生駒』の主なる乗組員及び便乗者の姓名は『ブラジル人国記』341～343 p. にある。）	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－28	**旅順丸サントス着** 第２回移民906名、自由渡航者３名を乗せた旅順丸がサントスに入港。皇国移民会社の所有していた権利を竹村移民会社に譲渡したもので、これは通常『竹村第１回移民』と呼ばれる。ただ、引率者は今回も水野龍であった。なお、竹村は1914年までに５回、7,630名の移民を送っている。今回の移民も笠戸丸の者達と同様にコーヒー園において紛争を起こしたが、定着率は向上し、この後は問題も次第に減少。	
8－		日本は韓国を併合して名前を朝鮮とする。
9－14	植民地計画を具体化する為に、東京シンジケート代表青柳郁太郎がリオに到着。後11ヵ月ブラジルに滞在して各地を視察し、主としてはサンパウロ州政府と交渉を進める。（発展史下巻6p.）	
10－5		ポルトガル共和国となる。
10－11	水野龍はサンパウロ州政府との間に、日本におけるサンパウロ・コーヒー販売促進についての契約を結ぶ。これに基づいて東京にカフェー・パウリスタが出現することになるが、それが具体化したのは２年後。（発展史、上巻、268 p.）	
10－12	**東洋移民会社移民導入の契約を結ぶ** 東洋移民合資会社もブラジル移民に関心を持ち、サンパウロ州政府と交渉して竹村移民会社と同じ条件で移民導入契約を結ぶ。実際の業務は1912年３月から開始し、1914年までに４回約6,500名の移民を送る。（発展史、上巻307p.～308 p.）	
11－15		エルメス・デ・フォンセッカ元帥がブラジル大統領に就任。
―――		政府のインディオ保護事業開始。
	刊行物　★外務省通商局より甘利通訳官『伯剌西爾サンパウロ州本邦移民実況視察書』（『移民調査報告』第２収録、外務省通商局発行）。 ★馬場書記生『リオ・デ・ジャネイロ州に於ける皇国植民会社豫定植民地等視察書』（同上）。 ★野田通訳官『伯剌西爾サンパウロ州住民及び植民地関係法規』（同上）。 ★内田公使『在サンパウロ州の本邦移民状況』（同上）。 ★野田通訳官『伯国サンパウロ州本邦移民状況視察報告』（同上）。 （ブラジル人国記588～589 p.）	
1911（明治44） 1－8	藤田敏郎一等書記官臨時代理公使として就任。（ペトロポリス）	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－30	モジアナ線ジャタイー駅のジャタイー農場に第２回移民家族23家族83名が入ったが、移民の借金は移民会社が支払う一札を入れ、全員が引き上げて各地に分散。（発展史、上巻、294～295ｐ．但し四十年史には３月20日とあり、さらに入耕人員は84、又その79ｐ．には大工殿村卯七１家族４人残留とある。）	
2－4	（26日まで）藤田臨時代理公使サンパウロの移民地を視察。	
2－4	ソロカバナ線セルケイラ・セザール駅にある連邦政府の**モンソン第一植民地**に日本人５家族が入植。これは政府の計画によって1909年に開設された植民地で、この５家族が**日本移民最初の土地所有者**となる。但し土地代金を払ったかどうかは不明（発展史による）。これは『北西年鑑』によれば６家族で12月に入植となっているが、ともかくこの家族達が、ここで日本人としてはブラジルで**最初に綿を栽培した者**である。 この後、モンソン第１、第２植民地には他の日本人農家も入植し、1932年当時には独立農13家族、借地農33家族の日本人集団地となっていた。この植民地の一区画面積は不明だが、10アルケールが基準だったかもしれない。ただ、なかには30アルケールを所有している家族もあった。	
―――	日本漁業調査の目的でフレデリッコ・ヴィラールが訪日。彼は帰国後に漁業局長となって日本人漁師に多くの便宜を図り、1922年（大正11）勲四等に叙せられる。	
9－11	サンパウロ市の市立劇場Teatro Municipal落成。（この建築工事には第１回移民の退耕者も就働。）	
12－29	東京シンジケート（代表青柳郁太郎）と植民の契約を締結する権限を州政府に与えるサンパウロ州法第1299号が発令された。	
3－ 6－ 8－	刊行物　★外務省通商から馬場書記生の『ブラジル、リオ・グランデ・ド・スール州独逸植民地視察報告書』。 ★大庭公著『南米四万哩』政教社版。著者の本名は大庭景秋（おおば・かげあき）軍艦生駒に乗ってブラジルを訪問した記録。 ★岡実著『南米調査資料』生産調査会版。 ★松川二郎著『南米と南洋』実業之日本社版。これは1912年までに４版を重ねる。	
1912（明治45） 3－8	東京シンジケート代表青柳郁太郎は、サンパウロ州イグアッペ管内の政府所有地の無償払い下げを受け、植民地を開設する契約を結ぶ。（ブラジル年鑑124ｐ．同後編26ｐ．四十年史82ｐ．発展史、下巻８～12ｐ．には契約の全文が載っている。）	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－30	モジアナ線ジャタイー駅のジャタイー農場に第２回移民家族23家族83名が入ったが、移民の借金は移民会社が支払う一札を入れ、全員が引き上げて各地に分散。（発展史、上巻、294～295ｐ．但し四十年史には３月20日とあり、さらに入耕人員は84、又その79ｐ．には大工殿村卯七１家族４人残留とある。）	
2－4	（26日まで）藤田臨時代理公使サンパウロの移民地を視察。	
2－4	ソロカバナ線セルケイラ・セザール駅にある連邦政府の**モンソン第一植民地**に日本人５家族が入植。これは政府の計画によって1909年に開設された植民地で、この５家族が**日本移民最初の土地所有者**となる。但し土地代金を払ったかどうかは不明（発展史による）。これは『北西年鑑』によれば６家族で12月に入植となっているが、ともかくこの家族達が、ここで日本人としてはブラジルで**最初に綿を栽培した者**である。 この後、モンソン第１、第２植民地には他の日本人農家も入植し、1932年当時には独立農13家族、借地農33家族の日本人集団地となっていた。この植民地の一区画面積は不明だが、10アルケールが基準だったかもしれない。ただ、なかには30アルケールを所有している家族もあった。	
―――	日本漁業調査の目的でフレデリッコ・ヴィラールが訪日。彼は帰国後に漁業局長となって日本人漁師に多くの便宜を図り、1922年（大正11）勲四等に叙せられる。	
9－11	サンパウロ市の市立劇場Teatro Municipal落成。（この建築工事には第１回移民の退耕者も就働。）	
12－29	東京シンジケート（代表青柳郁太郎）と植民の契約を締結する権限を州政府に与えるサンパウロ州法第1299号が発令された。	
3－	刊行物　★外務省通商から馬場書記生の『ブラジル、リオ・グランデ・ド・スール州独逸植民地視察報告書』。	
6－	★大庭公著『南米四万哩』政教社版。著者の本名は大庭景秋（おおば・かげあき）軍艦生駒に乗ってブラジルを訪問した記録。	
8－	★岡実著『南米調査資料』生産調査会版。 ★松川二郎著『南米と南洋』実業之日本社版。これは1912年までに４版を重ねる。	
1912（明治45） 3－8	東京シンジケート代表青柳郁太郎は、サンパウロ州イグアッペ管内の政府所有地の無償払い下げを受け、植民地を開設する契約を結ぶ。（ブラジル年鑑124ｐ．同後編26ｐ．四十年史82ｐ．発展史、下巻８～12ｐ．には契約の全文が載っている。）	

年　号	移　民　史・日　系　社　会　史	関連事項
3－ 10－	刊行物　★外務省通商局から藤田代理公使の『伯国サンパウロ州巡回報告書』（移民調査報告第９収録） ★井上円了著『南半球五万哩』丙午出版社版。 ★野田良治著『世界の宝庫南米』博文館版。	
―――		1912年のサントス市の人口は８万人とサンパウロ州案内書（Guia）に出ている。郡部を含めると８万６千余人。
1913（大正２） 3－10	イグアッペ管内に土地の払い下げを受けた東京シンジケートは、日本で渋沢栄一、大浦兼武、近藤康平、中野武営など政経界の有力後援者と当時の首相桂太郎承認のもとに、資本金100万円をもってブラジル拓殖株式会社を設立し、植民地開設の準備を始める（３月15日に設立登記）。尚、この会社は後に海外興行株式会社に合併される。（ブラジル年鑑、後編26ｐ．発展史、下巻12～13ｐ.）	
4－16	東京商船学校の練習船『大成丸』がリオに入港して、５月３日まで停泊し、準軍艦の待遇を受ける。	
5－	**聖市郊外ジュケリー植民地始まる** 第３回船で渡伯し、グワタパラー農場でコロノ契約を終えた秋村長寿ら熊本、福岡県出身者10家族は、先輩馬見塚竹造の斡旋で土地を探し、サンパウロ近郊のジュケリー（現在のマイリポラン）に約50アルケールの土地を求め、ジャガイモを主とする近郊作物の栽培を始める。尚、この年にはサンパウロ市内の仕事が思わしくなかった鈴木貞次郎も、８名の独身青年を率いて、同じくサンパウロ近郊のパラナイーバ管内でジャガイモと玉葱の栽培を試みた。こちらは土地が悪くて成績が上がらず、翌年にはコチア地区に移動しているが、日本人による近郊農業の創成期である。	
5－7	第５回移民船第二雲海丸（竹村第３回）が、移民1,506名を乗せてサントスに入港。尚、同船は山県勇三郎の実弟中村精七郎の所有である。	
5－15	第６回移民船若狭丸（東洋第２回）が1,588名を乗せてサントスに入港した。	
5－19		北米カリフォルニア州に排日法成立。
7－14	一等通訳官野田良治三度目の臨時代理公使に就任。	
8－5	サンパウロ州政府と東京シンジケートの契約を、ブラジル拓殖株式会社が引継ぐ手続きが	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	完了。直ちにイグアッペ管内ジュプーブラ Jupúvura 地区に入植者受け入れの準備を行う。（発展史、下巻、13 p.）	
8－18	畑良太郎、特命全権公使としてリオ（ペトロポリス）に着任。	
8－28	**ミナス金鉱移民着** ミナスの金山移民が到着。ミナス金山と契約した107名の者が、マルセイユまで日本船三島丸で、そこからはフランス船フランス号に乗ってリオに到着。唯一の金鉱移民となる。	
10－24	第7回移民船帝国丸（竹村第4回）が1,946名を乗せてサントス入港（原簿には第5回とある）。8月28日、日本を発ち、1,946人（発展史による）を運ぶ。帝国丸は神戸鈴木商店の経営している南満州汽船株式会社に属し大連に船籍を有した。	
11－3	第8回移民船若狭丸（東洋扱い）サントス入港。東洋移民会社取扱第3回の若狭丸は1,808人の移民を乗せ、9月12日神戸出帆、11月3日サントス着。（新進之伯剌西爾では1,808人、発展史、上巻は1,908人）	
11－8	上塚周平帰国の途に着く。（記念誌428 p.）	
11－	**イグアッペ植民地の入植開始。** 30家族が（あるいは28家族）11月にジュプーブラ地区に入植したが彼らは日本からの直来ではなく、コーヒー園を出てサンパウロに居た者が多い。植民地には医師1名、農業技師2名、他に会社の世話人が揃って、入植者達はその指導のもとにサトウキビを植え、それでピンガを作り始めから好成績をあげる。出稼ぎ性の移民だけだったところに永住する移民を考えての最初の計画である。尚、桂太郎がこの年の10月10日に亡くなったことから、彼の協力を記念するために郡会の承認のもとに、ここはカツラ植民地と呼ばれるようになる。（発展史下巻16 p.）	
11－30		ペルーで南米最古の邦字新聞『アンデス時報』（週刊）発刊。
12－31	輪湖俊午郎、ニューヨークを発ってブラジルへ向かう。ブラジル着は1月上旬となる。（『流転の跡』48－56 p. による。）	
―――		この年は東北地方、北海道が凶作。
―――	1912年より開始されたサントス・ジュキア鉄道（1914年完成）敷設に鉄道工夫として就労したサントス在住の沖縄県人宮城利三郎、仲村渠常吉、平良松太郎等が同鉄道沿線アナ・ジアスの州有地を払い下げてもらい米作に着手。これを皮切りに同南聖海岸地方の気候が沖縄の故郷に似ていたところから、沖縄県移住者が次々に集まり一大集団地となる。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
―――	死亡　・桂太郎（1845年～）。	
8－ 11－ 12－	刊行物　★クレマンソー著、前田長太郎訳『今日の南亜米利加』大日本文明協会版。 ★横山源之助著『南米ブラジル』南半球社版。 ★川浪顕宗著『南米渡航必携』（同上）。	
1914（大正3） 1－	サンパウロ州政府は財政土の都合と、試験としては既に同州に導入された日本移民（1万余）で充分と認むとの理由をもって、同年春期の導入を最後として、移民契約を廃棄することとなった。（発展史、上巻、86 p.）	
3－	**第1期補助金中止** サンパウロ州政府は来年度よりの日本移民の渡航費補助中止を通達。（ブラジル年鑑、後編11 p.）同年鑑10 p. の最後のところには『大正三年三月の輸送を終わるや遂に試験的日本移民の清算期を迎ふる破目に立ち至って終わった。』とある。1月の契約破棄云々は州政府の決定を示し、3月の部は移民会社（東洋と竹村）への通告を示すものか。	
4－27	第9回移民船若狭丸（東洋扱）サントス着（原簿による）。東洋第4回の若狭丸は3月10日日本発、1,688名の移民を乗せて3月25日神戸発本日サントス入港。	
5－	第10回移民船帝国丸（竹村扱）サントス着。竹村第5回であるが笠戸丸も数えて第6回と言っている。1,809名の移民を乗せて3月25日神戸発本日サントス入港。	
―――	ノロエステ線（サンパウロ州）リンス駅のバルボーザに藤永力蔵、師富巻蔵等13家族によって130アルケールを購入、入植は1916年。『パウルー管内の邦人』103 p.『記念鑑』69 p. によると大正4年頃より土地購入、1916年8家族入植とある。	
8－3		第1次大戦勃発。
8－15		パナマ運河開通。
9－2	**サンパウロ日本総領事館事務開始**（R.Augusta, 297）。**松村貞雄は初代総領事**として、この日から永続出張となる。（記念鑑596 p.）	
9－	**レジストロ植民地の初入植者** 南サンパウロ、イグアッペ郡内のレジストロ初入植者有り、深町信一、国行卯一、渡部和佐太郎（桂より転入）等が知られている。（1963年7月発行のレジストロ郡現勢概覧より）	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－	**コチア植民地の入植** 鈴木貞次郎の世話で、この年の10月、神原木平、柏野源蔵の両人が入り、ついで森田庫吉が入植、開拓に着手。(『コチア産業組合30年の歩み』27－28 p.）因みに1912年におけるクチア（コチア）郡の人口は1万と78人であった。	
10－30		**ノロエステ鉄道貫通** ポルト・エスペランサから南下した工事隊とパラナ河沿岸から北上した連中とがカンポ・グランデに近いリガソンでレールを結び、ここにバウルーからポルト・エスペランサ間が貫通する。
11－15		ヴェンセスラウ・ブラス大統領就任。
―――	神田栄太郎（笠戸丸移民）がこの頃サントス市で醤油を売り出す。	
12－24	**日本クラブ創立**　（サンパウロ市）松村総領事のキモ入りでクリスマス前夜に創立。場所はFrei Caneca街の後藤武夫宅（後藤武夫談)。但し、公式には1919年2月11日創立となって新聞に発表されている。1919年2月11日の部参照。	
2－ 3－ 4－ 12－	**刊行物**　★田辺治一郎著『伯剌西爾共和国サンパウロ州状況』横浜正金銀行発行。 ★鈴木真静著『南米へ』政教社発行。 ★大森春圃著『致富成功、南米移住法』新富源社発行。 ★ラテン・アメリカ協会編『ラテン・アメリカの富源』日本ラテン・アメリカ協会発行。 ★河田嗣郎著『植民地としてのブラジル』有斐閣発行。 ★松尾音次郎著『パナマ運河の開通と南米及メキシコの富源』北文館発行。	
1915（大正4） 3－30	**東京植民地創設** パウリスタ線（聖州）モツーカ駅に馬場直（ばば・すなお）によって東京植民地が創設される。1933年頃は70戸421名の人口とコーヒー樹16万本を数え、米作方面でも有名となる。(ブラジル年鑑後編59 p．参照。記念鑑では10月入植『開拓創始者』として馬場直、坂本一徳、三次一平、志永新蔵、古庄日吉、小畑末次、村上定八など。191p.）	
5－	富岡漸（とみおか・すすむ）がモジアナ線カニンデー駅サンタ・クルース農場で米作の請負を始める。この種の農業の先駆けとなる。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－	**邦人南パラナ入り** 長谷川武（新潟県人、外語卒後海興社員）同志６人を引き連れパラナ州アントニーナ郡のバナナ園に入り米作を行う（1915～1916）マラリアにかかり同志４人退去、聖市へ戻る。	
―――	この年杉山英雄（千葉県人、東京外語卒後弁護士）及び松田新吾（元船員）などパラナ州首都クリチーバに移り、この地での邦人先駆者となる。	
7－14	正式に**サンパウロ日本帝国総領事館開設**。初代館長総領事松村貞雄。	
7－14	松村総領事はたまたま中央線ピンダ（Pindamonhangaba）地方を視察したが、その結果にサブカイア農場に安田良一を推薦して米作を試みさせる。（聖州中央線）	
8－3	**平野植民地開拓着手**　この日が入植記念日となる。（サンパウロ州ノロエステ線、旧プレジデンテ・ペンナ現カフェーランディア駅のTres Barras。）	
8－15	ビリグイ（Birigui）植民地に初入植者あり。この年に日本人部世話人宮崎八郎も植民会社事務所の人となる。	
10－7	**大正小学校出現**　サンパウロ市のコンデ街（Conde de Sarzedas）38番に大正小学校が始められる。生徒３人。教師は宮崎信造（みやざき・しんぞう）。拓人の足跡213ｐ．伊丹金蔵著在伯同胞発展録24ｐ． [redacted]：大正３～４年頃、コンデで田頭（たがしら）甚四郎（1912渡伯）なる青年が３～４人の子供にイロハを教えていた。（田頭の略伝は伊丹著、発展録176ｐ．にあり）その後を継いだのが宮崎信造で、彼は1915年10月７日橋本重太郎（橋本亀太郎）、西本徳左ｴ門（西本徳右ｴ門）、藤井吉之助（藤安吉之助）－カッコ内は『拓人の足跡』初版213ｐ．－等の発起でコンデ街38番を校舎として借り、寺子屋式小学校（大正小学校）を始める。 大正５（1916）年１月コンデ51番に移り、同年48番へ戻り児童10数名となる。 大正８（1919）年１月29日私立公認となる。翌９年１月23日後援会創立、発起者は鮫島直哉、加来順太、木村清八、長谷川庄太郎、山田勘市、松本勧美、岡本専太郎、山田隆治、隈部維高等。（大正９年１月23日後援会創立はブラジル時報の発表。）宮崎は1924（大正13年）年６月４日死。	
10－	第１モンソン植民地にバッタの大軍襲来。既に30家族も入植者のあったこの植民地にバッタの大軍が南方から襲来し、１週間足らずで作物一切を食い尽くす。	
10－	大阪商船会社南米航路開始。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－	**ジュキア線セードロ駅に進出** 赤嶺新野栄や山城柳吉がジュキア線セードロ駅に移転。	
―――	モジ・ダス・クルーゼス、現在ビリチーバ・ミリンと呼ばれる高台に末永直記（福島県人）が他に知人２家族を引き連れて炭焼きに入ったのがモジの先駆であったが長続きせず。1915年５月以降20年、21年と続いてサバウーナ、カペーラ、コクエーラ等へ借地農がはいり定住する。 **聖市郊外エメボイ開拓** この年のエメボイ M'boy（現エンブー）に吉村光根、森長之助等がはいる。 海興のエメボイ実習場が出来る17年も前のこと。（四十年史、114p.）	
―――	北パラナ、カンバラ駅バルボーザ農場へ始めて日本人コロノ（農場労働者）がはいる。（パラナ60年史65～66 p.）	
1－ 6－ 10－	移行期　★伊達源一郎著『南米』民友社発行。 ★宮田謙一著『日本人の発展地南米事情』実業之日本社発行。 ★中村直吉著『冒険実譚アマゾン探検記』啓成社発行。 ★伊東仙三郎著『ブラジル移植民の真相』高踏書房発行。 ★ブラジル拓殖株式会社編『移住案内』同社発行。 ★ブラジル拓殖株式会社編『イグアッペ移住案内』同上。	
1916（大正５） 1－	星名謙一郎週刊『南米』発刊。（謄写版刷り16cm×24cm） 補：発展史上巻385 p．には《大正４年頃・・・》とあり、四十年史には1915年、記念艦596 p．の年表には1915年６月創刊とある。然し、『流転の跡』の記事をもとにして発刊に関係の深かった輪湖の動静を追っていくと1916年の初頭にあたる。さらにサンパウロ人文科学研究所研究レポート５号101 p．には、『南米』第105号の表紙のコピーが出ているがこれは1918年１月26日（土）発行のものであるから、この日から逆算していくと発刊は108週間前で、たまには休刊があったとしても、1916年初頭の発刊となるはずである。又新聞名が『週間南米』『南米週報』と色々に伝えられているが誤りで、本当は『南米』（O Nambei）である。むろん週刊（Semanario）ではあった。	
3－31	ブラジル移民組合出現（外務省へ届け出た日）竹村、東洋、森岡各移民会社が合併してブラジル移民組合を組織する。組合取扱い第１回移民の輸送は1917（大正６）年４月。サンパウロ支店は1917年に開設。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
―――	**南パラナ・カカツ植民地創設** 先にアントニーナに近いバナナ園で米作をして、マラリアに悩まされた長谷川武、高田ハマ子（後の長谷川夫人）、堀部栄吉などがベネジット・フマサシの土地へ無料借地で移る。マラリアが無いからという理由であった。カカツ川の上流で山紫水明の地1917年9月、長谷川の友人渡部孝の世話で土地購入の上、安本茂吉、清太郎兄弟、原甚五郎、美作兄弟などの家族が転住。その頃長谷川はクワチンガのバナナ園の支配人をしていた。この年日会も生まれる。 参考資料：『パラナ日系60年史』中のカカツに関する部分は42～43p. 61～62p. 及び91p. 等である。八重野松男の『今日のブラジル』918～921 p. さらに移民50年祭記念出版の『物故先駆者列伝』中の29 p. の長谷川武伝も参考になる。	
8－14	サンパウロ州政府はブラジル移民組合がアンツーネス・ドス・サントスとの協定により、州政府より渡航費の一部をうけて、向こう4ヵ年間に日本移民2万人を誘入することを承認。	
8－31	**『日伯新聞』創刊**　（Trav. de Castro,S. Paulo）金子保三郎と輪湖俊午郎によってはじめられた石版ずりの週刊紙であるが1919年に活字となり、同時に三浦鑿に買収され、後S. Joaquim街68に移り、さらにLiberdade街144に引っ越す。（なお、記念鑑に1915年12月発刊とあるのは誤りで、8月31日創刊説については『流転の跡』135p. 参照。）	
10－	**リンス入植の先駆者** リンス（SP）バルボーザ植民地の入植。1914年の部参照。10月入植説は『バウルー管内の邦人』130 p. による。購入面積については記録がまちまちであるが、『北西年鑑』には面積100アルケールを6家族の熊本県人で分割とあり、同じ著者の書いた『バウルー管内の邦人』では130Alq. を13家族で購入したことになっている。『記念鑑』289～290 p. には1933年の現況が出ている。	
―――	この年バウルー（SP）に沢尾磯七と北山吾一共営の日本旅館（Hotel Imperial）開業。1923年沢尾は独立して、沢尾ホテルHotel Progressoに改称（1912年度の調査によるバウルーの人口は2万4,633人）。	
―――		サンパウロ市に電気の街灯がともり出す。但し中心のトリアングロだけ。他はみなガス燈。
―――	イグアッペ植民地、桂小学校設立、公認は1918年。Album da Colonia Iguape1913～1933による。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－24	スポーツ　・コンデ坂下のスダン球場でコロニア初めての野球試合。（四十年史、357 p. 園田新筆）なお、発展史、下巻291～292 p. によるとそれ以前から試合に似たものをやっていた模様。	
11－ 12－	刊行物　★大日本文明協会編『日本人の海外発展』大日本文明協会発行。 ★『太陽』第22巻14号に野田良治訳でブラジル詩人メーロ・モライス・フィーリョ Melo Morais Filho の詩『ベン・テ・ヴィ』が掲載される。	
1917（大正6） 1－	**レジストロ植民地へ日本からの初入植者** 4家族あり。前年日本を発ち英国経由で着伯。（『20周年記念写真帖イグアッペ植民地沿革』より。）	
3－24	公使不在につき、事務取扱に加藤外松。ペトロポリス（リオ）。	
3－25	野田良治、4度目の臨時代理公使に就任。ペトロポリス（リオ）。	
6－15	**補助移民再来** ブラジル移民組合取扱いの移民1,351人を乗せた若狭丸は4月20日神戸を発って本日サントス着。これをもって補助移民がアンツーネス・ドス・サントス会社を通して再開される。同船では組合のサンパウロ支店長狩谷三市、ブラジル時報社長黒石清作、医師高岡専太郎等が渡伯。	
8－9	河内丸サントス入港。	
8－19	西原清東（さいばら・せいとう）北米テキサスからブラジルへ移住（元衆議員、衆議院副議長、同志社社長、1939年死）。『コロニア50年の歩み』33p.『記念鑑』596p. 等参照。	
8－27	シャトル丸サントス着（原簿）6月15日神戸発のシャトル丸ではイグアッペ植民地主任の白鳥尭助が輸送監督として渡伯。シャトル丸は6月16日発8月25日着と記した本もあるが、ここでは原簿の年月をあげる。	
8－31	**ブラジル時報創刊** 移民会社機関紙『伯剌西爾時報』Noticias do Brasil 創刊（Rua Cons. Furtado, 39 S.Paulo, サンタ・ルジアの角）。週刊だが南米東海岸では最初の邦文活字新聞である。主幹は黒石清作。	
9－	上塚周平再渡伯。その月日は報道源によりまちまち。9月説は記念鑑。時報紙は1938年元旦の回顧録に12月1日。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－5	ブラジル時報紙上に葡語講義欄を設ける。担当者は嶺昌。	
―――	星名のバイベン売り出す。 ソロカバナ線サント・アナスタシオ駅にバイベン（Vai－Bem 梅弁）植民地創設。土地売出は星名謙一郎による。	
―――	**ブレジョン植民地売り出す** ソロカバナ線アルヴァレス・マッシャード駅にブレジョン植民地を星名謙一郎と小笠原尚衛の共同経営で始める。入植は1918年から。ブラジル年鑑、後編54p.1917年の暮れ、毛利兄弟の初入植あり、翌年３月又２家族入植「よみもの」1945年７月号41ｐ．筆者山下定八。	
―――	イタリリー開拓（南聖海岸地帯）ジュキア線の鉄道工事に従事した大城孫吉がこの地方に入って家畜売買の仕事を始める。古我知平三郎、大城源吉ら翌年から米作を始める。（ブラジル年鑑、後編、67p.）	
10－26		第１次世界大戦でブラジル対独宣戦。
12－1	海外興業株式会社（海興）日本で創立。	
―――	茅原華山来伯し各地を視察。ブラジル時報にも寄稿。	
12－2	たこま丸サントス入港（９月21神戸発、再開第４回。上塚周平再渡伯？）	
12－28	若狭丸サントス入港（11月３日神戸発、再開第５回）	
	1917年度設立の小学校 （発展史、下巻194p.～197p.にある小学校表は創立年月日順に整理してあって便利で、一番確実性があるように見える。古いものでは『ブラジル年鑑』後編110～116p.があるが、かなり訂正すべき点がそのままになっている。 ◇旭小学校－ノロエステ線カフェランジア駅平野植民地、大正６年７月15日創立。 （註）イグアッペ郡桂植民地の小学校は現地資料によると1916（大正５）年創立。 ◇アグア・リンパ小学校－ノロエステ線アラサツーバ駅、大正６年８月31日創立。 ◇ノーバ・エスペランサ小学校－コチア郡コチア植民地、大正６年９月21日創立。	
2－ 4－ 7－	刊行物　★野田良治著『伯国サンパウロ州農園実況』ブラジル移民組合発行。 ★田口秀三著『伯国移民渡航後のしおり』同上。 ★日本移民協会編『海外叢書伯剌西爾』東洋社発行。 ★大野篤雄著『伯剌西爾サンパウロ州耕地事情及日本移民情況並商人状況』。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－ －－－	★日本移民協会編『最近移植民研究』東洋社発行。 ★東洋タイムス編『植民地大観』東洋タイムス社発行。	
1918年（大正7） 2－1	シャトル丸サントス入港、移民組合の第6回で1917年11月29日神戸発である。	
4－	東京世田谷に海外植民学校創立、校長崎山比左衛。	
5－13	**イタコロミー植民地創設着手** ノロエステ線プロミッソン駅（当時はHeitor Legrú）に上塚周平とその一党である鈴木貞次郎、香山六郎、間崎三三一、坂本留次郎等によって、いわゆる上塚第一植民地が開発され始めた。但し、エイトル・レグルーには既に前年続雪太郎、正記、末雄の兄弟、芝尾六津次（むつじ）、西川誠吉、青野栄次郎、折田清太郎、草野甚助、木本改造、奥田重記等が開拓に着手していた。（ブラジル年鑑後編43ｐ．参照。）因みに、ゴンザーガ区への入植が7名の先発隊によって行われたのは1918年9月のことであった。（『農業のブラジル』1928年9月－プロミッソン十周年記念号－に詳しい。同記念号37ｐ．より。）	
5－24	ハワイ丸サントス入港 組合第7回の移民船で2月26日神戸発。	
6－	ノロエステ線（聖州）リンス駅ウニオン（Corrego do Fi m）植民地に初入植者あり、香川県人4家族。（北西年鑑26～27ｐ.）	
6－25	**大霜**、２０年来のものと言われ、コーヒーが大被害を受ける。	
6－28	移民船若狭丸サントス入港。4月25日日本発の郵船会社若狭丸の乗船移民中に流行性脳脊髄膜炎発生、そのためシンガポール停船24日、神戸よりサントス入港まで84日を費やし、航海中死亡者53名を出した。上陸まで数日を費やしたものか7月着とする記録もある。（ブラジル年鑑後編24ｐ．最下段にも出ているが、他疾患者と合して死者60名とある。）	
6－28	野田良治、五度目の臨時代理公使となる。	
7－1	**リベイロン・プレット（サンパウロ州）に領事館分館開設**　初代主任は副領事三隅棄蔵。	
7－21	ブラジル時報社マルチニアーノ・デ・カルヴァーリョ街26番へ移る。	
8－3		米価大暴騰のため、富山

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－6	シャトル丸サントス入港。（神戸発は5月31日）	県に始まった米騒動は1道3府38県に波及した。
9－2	博多丸サントス入港－7月11日長崎港を出帆した同船にはイグアッペ植民地入植者も乗っていた。	
―――	この頃、大阪朝日新聞社特派員の神田正雄来伯。各地を視察した。	
10－	医学博士宮島幹之助来聖。ブラジル移民組合の依頼に依り移民の衛生状態を調査。	
10－26	讃岐丸（さぬきまる）サントス入港。同船は組合扱いの移民を乗せた再開第10回目であって9月6日出港。	
10－30	**公使館リオへ移る** 堀口九万一特命全権公使として就任。公使館はペトロポリスからリオ・デ・ジャネイロ市に移る。	
10－	10月から11月にかけてスペイン風邪流行。多くの犠牲者を出す。	
11－11		**大戦終わる。**
11－17	小笠原吉次（91歳）スペイン風邪で死亡。一族12家族70数名を率いて11月上旬サントス着の北海道開拓のベテランであった。	
―――	**初の日系教師** 隈部三郎の次女照子、三女暁子リオの師範学校を卒業、日系最初の小学校教師の資格を取り、翌年5月2人ともブラジルに帰化、この方面でもその先駆けとなる。	
12－11	海外興業株式会社、州令13,325号をもって営業認可となる。	
12－28	ハワイ丸サントス入港（再開第11回）。	
8－15	マット・グロッソ州カンポ・グランデ市にヴィスコンデ・デ・カイルー小学校設立。マット・グロッソ州最初の日本人経営校（発展史下巻196p.）。	
8－10	刊行物　★大武和三郎著『葡和辞典』発行。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1919年（大正8） 1－23	若狭丸サントス入港。1918年11月28日神戸発（再開第12回）。	
2－6	平野運平死。行年34歳。	
2－11	**日本クラブ創立** 1920年2月11日の紀元節に日本クラブ一周年を祝ったとブラジル時報は報じている。（サンパウロ市）	
3－21	菊地恵次郎、上塚との関係から必要資金5万円をもってイタコロミーの財政危機を救う為シャトル丸で渡伯。1920年4月8日同じシャトル丸で帰国（このシャトル丸というのは移民船ではなかったのか両航海とも移民船のリストには出ていない）。	
3－25	博多丸サントス着（第13回） 1月21日神戸出帆の博多丸は3月17日サントス港外、イーリャ・グランデに抑留される。船中脳脊髄膜炎発生サントスまで死亡者36名を出した為である。抑留された検疫所に8日間を過ごし、患者及びその家族以外は上陸を許され、抑留者は2ヵ月後上陸を許可された。（ブラジル年鑑後編24 p.）	
4－4	海外興業株式会社とブラジル拓殖会社との合併成る。即ちレジストロ植民地の経営が海興の手に移ったことである。（ブラジル年鑑前編124 p.）	
4－	海外興業株式会社アニューマス農場購入（Faz. Anhumas, Est. Corrego Rico, パウリスタ線）（面積1500町歩、コーヒー樹数300,000本）発展史、上巻182 p. ブラジル年鑑124p。	
5－2		ブラジル人大農場主の間に『ブラジル農村協会』が生まれる。
－－－	東京商業会議所副会頭、山科礼蔵来伯。	
5－10	讃岐丸サントス入港 3月27日長崎港の再開移民船第14回目のもの。	
7－1	横浜正金銀行支店がリオ・デ・ジャネイロに開設される。	
7－	総領事松村貞雄帰朝。	
7－14	鎌倉丸サントス入港。 再開第15回の移民船で5月27日長崎出帆。この船で蜂谷専一来伯。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－26	**日伯新聞、三浦鑿の経営に移る** 日伯新聞の経営が金子保三郎から三浦鑿の手に移る。譲り渡しの広告が10月3日のブラジル時報紙上に発表された。	
10－10	**在伯邦人最初の農業協同組合** ミナス州ウベラーバUberaba市に日伯産業組合が生まれる。 (Sindicato　Agricola　Nipo－Brasileiro)、そしてコンキスタConquistaには売店を出す。組合長は石橋恒四郎であった。初期米作地帯の出来事。	
―――		ノロエステ線一帯にバッタ群襲来。
11－14	日伯新聞、石版から活字印刷になる。	
11－15		エピタシオ・ペソーア大統領に就任。
11－22	ハワイ丸サントス入港－7月22日神戸発の再開移民第16回。	
12－14	讃岐丸サントス入港－10月18日神戸発の再開移民第17回。	
12－		北米移民の写真結婚禁止令が出る。実施は1920年3月1日から。
12－27		**リンス郡誕生** サンパウロ州ノロエステ線リンス駅、1920年4月21日市役所設置。
	この年に設立された小学校 ・ポア・ビスタ小学校－ノロエステ線グァイサーラ駅ポア・ビスタ植民地、大正8年5月1日創立。 ・東京植民地小学校－パウリスタ線モツーカ駅。大正8年8月1日創立。 ・ポン・スセッソ小学校－ノロエステ線プロミッソン駅上塚植民地ポン・スセッソ区。大正8年8月15日。 ・ブレジョン小学校－ソロカバナ線アルヴァレス・マッシャード駅ブレジョン第1区。大正8年12月16日創立。 －ブラジル年鑑によればアララクアラ線カタンドゥーバ駅ポア・ソルテ植民地小学校はこの年の設立であるが、発展史によると1922（大正11）年2月11日設立である。又ソロカバナ線サント・アナスタシオ駅バイベン植民地の小学校は1920（大正9）年12月15日。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1920年（大正9） 1－17	大正小学校（サンパウロ市）後援会成立（同年1月23日のブラジル時報による）。	
1－19	鎌倉丸サントス入港。 前年11月25日神戸発の再開第18回目の移民船。	
2－1	イタコロミー植民地ゴンザーガ区小学校（土間泥壁）校舎落成、開校式。上塚周平の祝詞あり。後、芝居、相撲の余興で賑わう。児童数30名。7歳から14歳までで全体の3分の2が男子。（サンパウロ州ノロエステ線プロミッソン駅）	
2－11	日本倶楽部第1回定期総会。部長黒石清作、会計熊坂清四郎、幹事山田楊之助、三浦鑿、翁長助成。	
2－15	山県勇三郎日本からリオへ帰着。（1918年5月帰朝）	
3－	**セッテ・バーラス**（イグアッペ第3植民地）**開設**（イグアッペ植民地写真帖中の『植民地沿革』による）。	
5－	外務省沖縄県人のブラジル渡航移民を差止める。1926年7月差止めを解く。	
5－13	**ミカド・クラブ発会** コンデ街大正小学校においてミカド運動クラブが発会式をあげる。中心人物は笹原憲次。黒石清作と山田楊之助が挨拶。	
5－26	土佐丸サントス入港 再開第19回移民船で3月30日神戸港。この船で海興重役時代の水野龍も渡伯。（第5回目？）	
6－1	永田稠、第1回南米視察旅行。この日ナサリー号でリオ着。滞在は約1ヵ月の予定であった。	
6－26	スポーツ　ミカド運動クラブ対在聖市米人野球団と第1回野球戦がアンタルチカ・グラウンドで戦われた。米人団13、ミカド・クラブ4。	
9－4	河内丸サントス入港－7月2日神戸発、再開移民船第20回。	
9－8	藤田敏郎サンパウロ総領事として着任。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－	前サンパウロ衛生局長 Dr. Artur Neiva 訪日。	
―――	リンス駅カンペストレ植民地へ熊本県人５家族土地購入入植。この時の先導役農田源行、はじめて土地所有者となる。彼は1914年の渡伯、1916年リンスへ転住。コーヒー栽培４年契約をやっていた。	
―――	鈴木貞次郎コレゴ・アズール植民地開設。 Corrego Azul Est. Promissão（ノロエステ線）。（４月頃のブラジル時報には連続的に土地売り出しの広告が出ている。）	
10－1	ブラジル時報社マルチニアーノ・カルヴァーリョからファグンデス Fagundes16 番へ移る。	
―――	サンパウロ市に日本人テニス・クラブ生まれる。（『コロニア60年』より。）	
11－	**モジの先駆者** モジ・ダス・クルーゼスのカッペーラ街道６Km に西江八郎借地農に入る。モジの先駆者となる。	
11－28	帝国練習艦隊『浅間』『磐手』サントス入港。司令官は海軍中将舟越揖四郎（ふなごし・せいしろう）。	
11－29	士官候補生以上がサンパウロ市を訪問、アクリマソン公園で在留民の歓迎会が催される。 **この年に設立された小学校** ・ゴンザーガ小学校――ノロエステ線プロミッソン駅上塚植民地ゴンザーガ区。大正９年２月１日創立（発展史に２月21日とあるのは誤り）。 ・コレゴ・エリージオ（東郷）小学校（日本人植民地初めての公認学校）。ノロエステ線ビリグイ駅－大正９年４月創立。 ・上アグア・リンパ小学校――ノロエステ線アラサツーバ駅上アグア・リンパ植民地。大正９年６月１日創立。 ・バイベン小学校――ソロカバナ線サント・アナスタシオ駅梅弁植民地。大正９年12月15日創立。	
11－11	死亡　ジェームス・メーラー James Mellor。ビリグイ植民地総支配人（サンパウロ土地・木材・植民会社、日本人の初入植は1915年８月15日）サンパウロの自宅で。帰化英人、享年55才（11月19日ブラジル時報紙報道）	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1921（大正10） 1－6	ブラジル、外国移民入国取締法制定。	
1－20	**バウルー市に日本領事館開設。**副領事多羅間鉄輔が着任。	
2－	プロミッソン連合青年会結成（ボンスセッソ、ビリグイジーニョ、ゴンザガ、パラマンサ、コレゴ・アズールの５区）。プロミッソン開拓10周年記念の『農業のブラジル』1928年９月15日号より。	
3－9	パナマ丸サントス入港（前年12月27日神戸発）。	
―――	**州政府の補助移民終わる**（２度目、最初は１９１４年） 翌1922年度の補助移民について当時のサンパウロ州農務長官Heitor　Penteadoは日本移民への補助金下附を拒否した。日本移民はコーヒー農場労働者としては失格と見られた。言語、風俗、習慣が違うので使用上不便である上、移動性が激しい。１年内外で出てしまうから葡、西、伊の移民の倍も費用がかかる。引き合わないというのである。かくて1923年には１人の補助移民も居なかった。（ブラジル年鑑13－14p．発展史上巻318～320p．参照）	
6－14	**スポーツ**　聖市一周25Kmマラソンにミカド・クラブ６選手参加。出発点はアベニーダ・パウリスタのトリアノン前。 鮫島新之助12着（１時間48分38秒）、菅秀吉16番、笹原憲次33番、入江善之助39番、光安万蔵46番、何れも２時間20分の規定内着、脱落者１人あり。15日時報紙発表。	
6－22	藤崎商会主藤崎三郎助ニューヨークから来伯。この日リオ着。	
7－4	三浦　環来伯。イタリア歌劇団の一員としてこの日リオ着。５日からバタフライを歌って人気沸き立つ。サンパウロでは８月７日の日曜日午後２時からマチネーで又バタフライを歌う。（８月５日のブラジル時報から）	
9－7	**バウルーで聖州新報創刊** 聖州新報Semanario de S.Paulo主幹香山六郎、バウルー市で創刊。はじめはジンク版、1925年活字となる。1934年サンパウロ市に移り、1930年から週２回、1935年週３回、そして1938年５月から日刊となる。はじめは購読料１ヵ年15ミル・レイス。	
9－30		ノロエステ線エイトル・レグルー駅がプロミッソン駅に改まる。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
12－		マット・グロッソ州カンポ・グランデに兵営起工、町の発展を促す。
12－	海外興業株式会社を退社した江越信胤（のぶたね）農業技師はサンパウロ総領事官の事務嘱託となって農事部－後勧業部となる－に勤務。	
12－27	小林美登利アメリカより着伯。（1922年元日号にブラジル時報報道）	
―――	モジ・ダス・クルーゼス駅（サンパウロ中央線）コクエーラ区に借地農として平田茂助、松村兼作、内田重左ェ門その他の家族が入る。	
―――	**死　亡**　三浦荒次郎（1861－）。第1回移民時代の公使館一等書記官。高等官二等総領事の資格で1921年3月31日依願免官となっていた。従ってその死亡年月は明らかではない。	
4－	**刊行物**　★永田稠著『南米の日本人写真帖』日本力行会発行。 ★永田稠著『海外立志伝』日本力行会発行。	
5－	★永田稠著『南米一巡』日本力行会発行。	
1922（大正11） 1－	杉山英雄ブラジル時報社へ入社。 1月6日の時報紙に入社広告を出した。1927年9月30日退社。	
1－19	**文　芸**　ベルナルド・ギマランエス著、杉山帆影訳の『奴隷の娘』Escrava Isaura がブラジル時報224号から掲載され始める。	
1－29	**アリアンサ移住地建設**のため日本で信濃海外協会発足。	
5－13	**『ノロエステ日本人会』**プロミッソンに創立総会開く。	
5－15	**宗　教**　小林美登利キリスト教の伝道をサンパウロ市で開始。午後4時からコンデ坂下大正小学校内で第1回日曜学校開催。集会者日伯男女の児童50余名、大人伯人15、日本人7名。	
7－5		青年士官によるコパカバーナ要塞の反乱。
9－7	**教　育**　**聖州義塾** Missão Japonesa do Brasil **設立宣言**設立趣意書はこの日付のブラジル時報紙上にも発表される。本拠はサンパウロ市であり、開塾は1925年である。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－7	リオ・デ・ジャネイロでブラジル独立百周年の大祭典があり、祝賀の為、日本から巡洋艦『浅間』『磐手』『出雲』の３艦が来航し、谷口尚真海軍中将指揮の下に式典に参加。 **南米視察実業団来伯。**　団長は東京商工会議所会頭山科礼蔵（彼はアマゾニア開発の計画者でもある）。視察団一行30名（通訳及び新聞記者を含む）の名は野田良治著『ブラジル人国記』345－347p. 及び発展上巻71－72p. にあり。	**ブラジル独立百年祭**
9－19	祝典参加の海軍士官達のレセプションがサンパウロ市アベニーダ・パウリスタのTrianon（現美術館階下）で催される。主催者は総領事館。又谷口中将のレジストロ訪問あり、彼の地で大歓迎会が挙行された。	
10－		サンパウロ市中央郵便局の落成式あり。
10－28	志賀重昂（地理学者）来聖。	
11－15		アルツール・ベルナルデス大統領に就任。
12－	サンパウロ州ソロカバナ線アヴァレーAvaré駅で吉崎重蔵がこの月、ホテル開業。この時代における地方ホテルの役割は大きかった。	
―――	サンパウロ市郊外イタケーラに初めて日本人農業者酒井睦雄が移り住んだ。その後1923年イタケーラ土地会社の一傭員として獣医、石橋恒四郎が入り、日本人間に土地売りを開始。一時は入植者30家族にも達した。この植民地は今日Colonia Niponicaで通っている。	
―――		この年ノロエステ線グァイサーラGuaiçara駅開設。
12－23	小林美登利の日伯合同日曜学校のクリスマス祝賀会がACM（YMCA）で催される。藤田総領事も出席。	
	死亡　・2/10 上塚道彦（上塚周平の甥）、プロミッソン青年連盟結成の為に尽力。（3月17日時報紙報） ・11/6 木藤磯右ェ門。中矢熊太郎、瀬木四十逸等と共に初期サンパウロ日本人商人、日本人行商の元祖の一人。	
7－	**刊行物**　★中尾熊喜著『葡語手紙の書き方』ブラジル時報社から出版。8月1日同社から発売。予約では10ミルだったが実価は12ミルレイス。	
9－7	★ブラジル時報社編『新進之伯利西爾』同社で発行。独立百年祭記念出版であってブラジルで初めて出た単行本。但し日本移民については極僅かしか書いていない。尚『ブラジル人国記』によると野田良治執筆の部分が79頁もあるという。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1923（大正12） 3－	坂井田（善吉）南舟、月刊「南米評論」発刊。 これは1928年6月まで続く。この年から週間新聞『南米新報』となる。（発展史下巻265P.）	
4－	日本政府伯国生まれ２世の二重国籍を防止。	
5－1	**日本公使館大使館に昇格** 堀口九萬一臨時代理大使に就任。（リオ・デ・ジャネイロ市）	
5－28	野田良治臨時代理大使に就任。	
6－	**グァインベー開拓** ノロエステ線リンス奥グァインベー（いわゆるゴヤンベー）に第二上塚植民地開拓開始。山根寛一が協力。	
6－	日本力行会海外学校を東京に創立。	
8－16	初代特命全権大使として田付七太就任。	
8－25	光彩倶楽部（写真）作品展、午後７時石井一歩宅で開催。幹事石井一歩、山田隆治、佐藤豊松（画家）、中林建二、高橋忠一。	
9－1		関東大震災
9－4	サンパウロ日本総領事斉藤和着任。	
9－	バウルー市に平田旅館（主人平田崎太郎）開業。 同　上　　日本旅館（主人沖山心平）開業。	
―――	オウリーニョスで大玉亀之助ホテル開業（サンパウロ州ソロカバナ線）。	
10－10	水野龍シャトル丸でサントス発帰国。	
10－22	**レイス移民法案** レイス（Fidelis Reis）移民法案が連邦下院に提出される。 『第４条、政府は国民の人種的精神的及び体力的組成に有害と認むるあらゆる分子の入国を遮止するため、其の何れの地より出発し来るを問わず、ブラジルに向かって渡来する移民に関し、厳重なる取締りをなすべし』『第５条、黒人種の植民のブラジル入国を禁止す、黄色人種に就いては、該人種の属する国民現在者の３分に相当する数に於いて毎年入国を許	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	可す』とある。 （註）『ブラジルを直視して』414 pには《本訳文は在ブラジル外務官憲のものに拠る》とあるが明瞭性を欠く箇所があり、その点では発展史上巻96 pのものは改訳であろうが依然すっきりしない。もう一度原文と照らし合わせて訳しておく必要がある。	
11－	石橋恒四郎によって『農業の友』社が創立され、翌年謄写版刷り（石版であったように思う）『農業の友』を出した。 1925年同社を揮旗深志に譲り1926年4月から『農業のブラジル』と誌名が変わり、活字印刷となる。	
11－21	金城山戸（第1回移民）歯科医開業免状を受ける。ピンダモニャンガーバ歯科医学校を卒業した邦人初の公認歯科医。	
11－21	野口英世博士一行、東北伯に蔓延する黄熱病禍臨検のため、北米ロックフェラー財団の派遣でリオ・デ・ジャネイロに到来。バイア州オズワルド・クルース研究所へ赴任。	
―――	笹田正数ブラジル開業医試験にパス。リンスに招かれて落ち着く。	
―――	この年、日本政府は『大震災罹災者救済の意味をもって、1人、200円宛の渡航費を補助』し、ブラジル移民110名を送った。	
	宗教　・3/12聖公会伊東八十二牧師がサンパウロに宣教開始。1924年元旦号のブラジル時報に広告があり、「日本キリスト教会仮会堂コンデ街23番、集会日曜午後8時」とあり、牧師伊東八十二。・中村ドミンゴス長八神父渡伯、布教を始める。（1923年6月11日河内丸で神戸出帆。）	
2－25 9－17	**死亡**　・元サンパウロ総領事松村貞雄（1868－）朝鮮にて。 ・レジストロ医務局医師北島研三（1870－）。	
5－18 11－10	**刊行物**　★坂井田人間（南舟）創作『狂伯爵』を時報紙上に発表しはじめる。 ★山田楊之助著『ブラジルを直視して』海外興業株式会社発行。	
1924（大正13） 2－26	**同仁会発会** 29名の維持会員をもって在ブラジル日本人同仁会を設立（1924年2月26日日本クラブで発会式を行ったとブラジル時報発表、尚ブラジル政府の正式社団法人認可は1928年10月である。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
2－29	野口英世博士サンパウロ州衛生院の招聘でバイア州に伝播する黄熱病原レプトスピラ検出実験の講演のため来聖。	
3－2	在サンパウロ帝国総領事館出張所がサントスにできる。	
4－24	ブラジル医学士院は突然レイス移民法案に対する称賛を行い、その決議を下院に提出した。これは学士院長 Miguel Couto ミゲール・コウトの意見として知られたもので、アジア人は絶対に同化せず、優生学上及び経済上の法則は該起原の分子のブラジル領土に入来するに反対することを考量したる上の決議であるとしている。	
5－9	常盤旅館コンデ‘坂上’41番に開業。（9日の時報に報道される）	
5－26		**アメリカ排日移民法成立** 上下両院通過（7月1日実施）。
7－5		サンパウロにイジドウロ革命起こる。
7－28		政府軍入聖。
7－31	東宮御成婚記念事業として大毎（大阪毎日新聞）移民267名が船費全額支給で渡航。列伝76pによると8月1日着になっているが当時の新聞報道は7月31日着で大毎移民267人の外自由渡航者4人を加えた合計271名がカナダ丸で着いている。この船で『ブラジル史』の著者アンドウ・ゼンパチも渡伯。	
6－11	サンパウロ在日本総領事館ラルゴ・ダ・セー（3番）からリベロ・バダロー街（90番3階）へ9～10の2日間休館で移る。	
10－1	アリアンサ（ノロエステ線現ミランドポリス郡）移住地創設。 この日2.200アルケールを購入登記終わる。	
10－	水野龍永住の決心をもって第8回目の渡伯。	
11－2	信濃海外協会上記アリアンサ移住地建設開始。	
12－	高岡専太郎医師伯国医師開業試験に合格、着伯12年目。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－7	**宗教**　小林美登利他10名の青年がサンパウロ市外サンターナ丘上で『サンパウロ教会創立宣言』(1934年から南米教会と改称)。	
2－1 2－25	**死亡**　・2/1 関　泰三。藤崎商会支店長（2月8日時報)。 ・2/25 山県勇三郎（1860－)。マカエーの自宅で午前11時23分（2月29日時報)。 ・宮崎信造（しんぞう)。大正小学校教師（6月6日時報)。	
6－4 1－ 3－ 9－27 1－1	**刊行物**　★聖州義塾　市民第1号発行。 ★輪湖俊午郎著『北西年鑑』発行。初期ノロエステ日本移民の状況を明らかにする。 ★藤田敏郎著『南米の殖民地』東京アルバ社発行、同年10月5日3版発行。 ■資料：ブラジル時報新年号には当時のインテリ達の寄稿論文が載っているが、小林美登利の『冥暗より黎明へ』と坂井田南舟の『先づ内に醒めよ』が目立つ。但し後者は内容のない美文。	
1925（大正14） 1－	**リンス（隣西）青年クラブ創立** 初代会長原篤（はらあつし）2代会長城間善吉。リンス青年クラブは1927年8月30日から汎リンス青年会となる。(サンパウロ州ノロエステ線)	
1－	日本外務省の移民事業は通商局第三課の仕事となる。(1934年まで)	
2－12	在マナウス（アマゾナス州）日本名誉領事にレオポルド・デ・マットス（民兵大佐－コロネル）が任命され、この日就任したが1928年1月21日病没。	
2－25	マニラ丸サントス入港（前年12月23日、日本出帆）検疫の結果、脳脊髄膜炎患者を1名発見（船医はこれを日射病と診断）又寄生虫保持者多数を発見。	
4－	札幌に日本植民学校創立。校長は服部教一。 ブルーノ・ローボ Bruno Lobo 博士、日本政府から勲三等旭日章を受ける。	
6－	**金融問題発生** 85万円低利資金借出し運動開始。日本政府に対して、コーヒー不況で苦境に立つノロエステ、ソロカバナ両線の主な日本人コーヒー園主への低利融資を求めたもの。(請願運動と言った。)	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－8	**反レイス移民法案** オリベイラ・ボテーリョ Oliveira Botelho 議員は現地視察によって得た報告意見書を下院財政委員会で朗読した。『堂々数10頁に亘るもので、徹頭徹尾日本移民のため有利であり、レイス法案中の黄色人種移民制限条項は之によって粉砕しつくされた概があった。』（発展史上巻381P. ブラジル年鑑後編20～22P.）。	
7－25	パラグアスー・パウリスタ文化植民地建設はじまる。中心人物は森淳吉牧師と山田登幸。この日、2060アルケールの土地購入契約が成立した。	
12－2	赤松・祐之（あかまつ・すけゆき）サンパウロ帝国総領事に着任。	
12－12	ハワイ丸サントス入港。移民のトラホームが問題となる。	
12－25	聖州義塾開設、塾長は小林美登利。サンパウロ市ガルボン・ブエノ街85番（当時）。	
12－ 12－30	大阪商船会社南米航路が政府指定航路となり、これからサントス丸級の船が就航するようになり、航海日数は46日に短縮される。	カフェランジアに郡制ひかれる。
12－31		Gazeta 紙主催サン・シルヴェストレ競走はじまる。
――	海興社長井上雅二来聖、奥地同胞集団地を訪問。	
――	岩崎彦弥太来聖、各地を視察。（三菱財閥）	
――	杉山英雄　日伯両語の公証翻訳人となる。	
――	**日本の国策移民開始** この年からブラジル渡航の移民全員に日本政府は船賃を支給、又移民会社の手数料移民1人当り35円も政府負担となる。	
7－15	宗教　物部赳夫（ものべ・たけお）牧師によってサンパウロ市ボニータ街（後のトマース・デ・リーマ）13番でホーリネス教会伝導開始。	
――	刊行物　★山崎芳蔵著『ブラジル』大岡山書店発行。 ★高岡熊雄著『ブラジル移民研究』宝文館発行。 ★古河大斧著『伯国の金儲け』日本植民通信者発行。 （註）古河はアルゼンチンの先輩で水野・鈴木が初めてブラジルへ渡航する時ブエノス・アイレスに居た。『なまけもの』スクラップ・ブック101p。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1926（大正15） 1－	**田付大使サンパウロ州奥地訪問** 田付七太大使は海軍武官関根中佐、粟津金六嘱託を従えてサンパウロに来、総領事館から赤松総領事、江越技師、原田書記生が加わってノロエステ在住邦人の経済調査の旅に上がった。大使一行はノロエステ、奥ソロカバナの訪問先で大歓迎を受けた。（むろんこの旅行は低資借出しに関係のあるものであるが、移民はこのときになって、初めて金融の問題に行き当たったのである。）	
4－	**『農業のブラジル』発刊** 揮旗深志によって発行されたが、1927年有馬鉄之助がこれを受け継ぎ、1930年再び揮旗の手に戻る。そしてこの年の8月佐藤常蔵の経営となる。なお、『農業のブラジル』の前身は石橋恒四郎の『農業の友』であった。	
4－	上旬85低資の請願が日本の議会を通過、貸し出しは9月下旬、日本政府によって貸主には横浜正金銀行が指定される。但し星名殺害事件が禍して貸付けは遅れて1927年となる。	
5－8	神戸に日伯協会設立、設立の有志は黒瀬弘志、平生釟三郎、岡崎忠雄、川西清兵衛、小曽根貞松等。	
5－	藤崎商会. Japão em S. Paulo 閉店。	
5－	田付七太大使アマゾニア視察、海軍武官関根中佐夫妻、江越信胤（えこし・のぶたね）農業技師及び通訳粟津金六らが随行。	
5－30	福原八郎を団長とするアマゾニア調査団ベレン港着。	
6－22	沖縄県人による球陽協会発会、初代会長翁長助成。	
7－4	第一アリアンサ移住地（Mirandópolis）キリスト教教会集会開始。	
8－7	第二アリアンサ移住地の土地1,200アルケールを鳥取海外協会が購入。	
8－31	臨時代理大使に総領事兼大使館一等書記官赤松祐之就任。	
9－1	在サンパウロ総領事代理に領事春日廓明就任。	
10－31	85低資貸付決定とブラジル時報紙はこの日付で報道している。又『五十年の歩み』53頁最下段には貸出し細目は9月下旬決定とある。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－15		ワシントン・ルイス大統領就任。同大統領は道路開設により自動車時代を招く。
11－29	北パラナ・ピリアニット（現ウライー）に山科礼蔵の南米企業組合が1万アルケール（2千コントで60万円）を購入、移住地として売出すのは1938（昭和13）年5月4日となる。	
12－3	北パラナ・バンデイランテス駅南東約20kmの地点にある1,350アルケールを日本の資本家野村徳七が購入、野村南米農場を開設。これは1925年12月日本で計画された《野村農場》の具体化である。	
12－	岡田英定教師（体操）同勢23名とともに来伯。	
――	オリンピオ・ダ・フォンセッカ・フィーリョ博士、寄生虫病調査の為国際連盟から日本へ派遣され、夫人同伴で渡日。	
12－25	オズワルド・クルース研究所員エウクリーデス・セザル・ソウザ・アラウージョ博士訪日。	
12－25		大正天皇崩御、皇太子が践祚。**昭和と改元。**
――		
――	このころ日本移民マリリアへ進出。当時は5－6家族。	アルブケルケ・リンス市がリンスに改まる。
8－15	宗教　青年広田鷹造がサン・ゴンサロ教会でギード神父P. Guido del Torroからサンパウロ市**日本人として初めて洗礼**を受ける。これを契機に日本人の間にカトリックの布教を始め、この年の11月15日、日本人の児童46人が同教会で受洗した。	
――	スポーツ　日本倶楽部のテニスコートがこの頃（1926年か27年）サンパウロ市郊外ブルックリン・パウリスタにできる。 （註）日本倶楽部はいわばサンパウロ市邦人上流社会の倶楽部であってその年代誌が明らかになると、初期軟球時代のテニスについてもわかるし、又上地旅館裏コンデとエスツダンテスの間の空地のテニスコートのこともわかるのであるが日本倶楽部についての記録が全然無いのが残念である。	
6－6 6－16 8－19	死亡　・笹原憲次（36才）。静岡県人早大卒、ミカド・クラブ創立者の一人。 ・藤崎三郎助（1868－）日本にて。 ・隈部三郎（1865－）。笠戸丸移民以前の渡航者。元判事・弁護士。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
12－12	・星名謙一郎（1867－）暗殺される。12月13日を命日とする者が多いが現地の人の記憶を信じて12日説をとる。	
1－1	刊行物　★聖州義塾から謄写版ずりの雑誌『市民』O Cidadãoの第2期（第2巻）がでる。	
12－2	★野田良治著『実査18年・ブラジル人国記』が博文館から出る。1927年3版発行。	
12－	★Bruno Lobo博士著『Japonês：no Japão, no Brasil』刊行。	
12－	★月刊雑誌『ブラジル』神戸日伯協会で創刊。	
1927（昭和2） 1－25	第2代特命全権大使有吉明就任（ブラジル年鑑前編125p.には1月25日拝命とある）。	
2－1	在サンパウロ総領事赤松祐之就任。	
2－	第三アリアンサ移住地3千アルケールを購入、（信濃、富山両海外協会合同経営）（サンパウロ州ノロエステ線）。	
3－11	**アマゾニアのオプション契約** 土地百万町歩の『コンセッソン』に関する『オプション契約』が昭和2年3月11日アマゾナス州知事Efigenio de Sales（署名者は州代表ジュリオ・セーザル・デ・リーマ）と粟津金六、山西源三郎との間に締結された。	
3－15		渡辺銀行の取付けから昭和金融恐慌が始まり、4月22日にはモラトリアムが公布された。
3－24	日系人川原潔がサンパウロ市の州立中学校 Ginásio do Estadoへ入学を許可されたことがO Estado紙に報じられた。この当時の同胞社会で一大ニュースであった。川原は後医大4年まで進級して病死した。	
3－29	日本で海外移住組合法制定、この日公布。	
5－25	アリアンサ移住地行きの特別列車が午前2時50分ソロカーバ駅を発って間もなく上りの急行列車と正面衝突、死者5名、負傷者23名を出す。	
6－	**「85低資」貸出し開始**　（星名謙一郎の死がわざわいして半年遅れる。尚、借出し運動が起こったのは1925年6月で貸出しまで満2ヵ年かかった。）	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－22	**サントス市にサンパウロ総領事館出張所が設けられる。** （1936年以降は独立のサントス領事館となる）出張所初代主任は副領事浜口光雄。昇格後は副領事南条栄が領事代理をつとめる。	
7－	ミゲール・コウト博士はブラジル教育協会で行った演説で日本の教育普及に説き進んだが、不用意な人々には気付かれないような婉曲な言辞を以って《もしも日本移民の無制限入国を許せば将来ブラジルは日本に征服されるか、然らざれば日本と共同統治の下に置かれる属国と化し了るであらう》との趣意を巧妙に表現した。	
7－	日本では勅令第229号をもって移民収容所の官制が公布され、建築費用23万余円を投じて工事にとりかかり、翌年2月、寝台数600を備えた鉄筋コンクリート5階の移民収容所が落成し3月から開所された。（尚、昭和5年3月には更に10万円かけて増築し、1,300名の収容力となった。）この収容所は後に名称が変わって神戸移住教養所となる。	
8－1	日本に**海外移住組合連合会**が生まれる。このブラジルにおける代行機関が後のブラ拓、即ちブラジル拓殖組合である。但し正式設立は1929（昭和4）年3月25日である。	
8－30	汎リンス青年会（リンス青年クラブ改組して）生まれる。	
9－	鈴木貞次郎『サンパウロ時事』発刊、石版、3～4号まで。	
10－15	**プロミッソン（ノロエステ線）青年連盟成立。**	
11－8	**東山農場 Fazenda Monte Leste 創設** 三菱系。東山農業株式会社がカンピーナス付近に農場を購入。尚、翌年は中央線ピンダモニャンガバ駅から数キロの地点にある元藤崎農場を譲り受け、又同年にはサントスで Casa Tozan Mizukami & Cia の商号のもとにコーヒー取引き業をはじめる。	
―――	この頃赤松総領事の斡旋で**サンパウロ市に日本人会が生まれる。**下町の『同志会』と上町の『日本クラブ』の対立反目を解消したい意図からであった。	
12－10	海外移住組合連合会より梅谷光貞、移住地選定及び土地購入のため来伯。（翌年8月10日帰国）	
12－11	**コチア産業組合創立** （有限責任コチア・バタタ生産者組合）当時組合員83名。（コチア産業組合30年の歩み66p～67p）68p. の註には：組合創立の月日は、届け出の書類には12月27日と記入したため、この日が創立日とされているが創立総会が実際に行われれたのは12月11日である。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
―――	神戸の日伯協会から同協会創立１周年記念事業の一つとして児童作成絵画交換が企画され、日本側からは絵画作品１万２千枚を送った。これに対してブラジル側からは1929～1930年の両年に渡ってパラー、マラニョン、バイーアの３州から児童作品を送付した。そしてお互いにその展示を行った。	
―――	**金魚養殖の先駆者**（リオ州） レオポルディーナ鉄道のリオーペトロポリス間にあるエントロンカメント駅近くのカヨアーバで金魚の養殖を初めたのは、もと東洋汽船会社南米西岸航路の船長であった長野県人高見沢森四郎（1930年４月23日病没）であった。	
―――	藤浪　鑑（あきら）医学博士はブラジルにおける寄生虫病を視察するため昭和２年渡伯し、その結果『在伯日本移民の寄生虫に関する研究報告』となり、翌年（1928）外務省通商局から刊行された。	
―――	崎山比佐衛はイギリスからアマゾンを越えてマナウスに着き、後マウエス方面を視察して海外植民学校分校設立を計画した。	
	教　育　教育統制はじまる 14日から３日間総領事赤松祐之の招集によって、各地邦人小学校代表者並びに教員がサンパウロ総領事館に集まる。会集者一同教育に関する中枢機関の必要であることに意見一致。『在伯日本人教育会』の設立となる。（そして、これはその後身である『在サンパウロ日本人学校父兄会』設立の道を開くものである。）	
―――	**宗　教**　・ギード・デル・トーロ神父の努力で日系人142名がカトリックの洗礼を受ける。（聖市）	
6－23 11－18	**死　亡**　・嶺昌（みね・まさる）サントスにて。領事、通訳５人男の１人。 ・田中　智誠（42才）。ジャーナリスト、随筆家、馳山と号す。	
5－1 6－1 ―――	**刊行物**　★聖州義塾塾友会誌『塾友』を謄写版で発行。 ★信濃海外協会編『南米ブラジルありあんさ移住地の建設』同協会で発行。 ★聖州新報社編『ノロエステ日本人年鑑』同社で発行。	
1928（昭和３） 1－	サンパウロ日本人会第１回総会を開く。	
3－	日伯新聞社主三浦鑿アマゾニア旅行から帰る。その旅行記には注目すべきものがあった。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－18	ブラジルのイエズス修道会が聖市・リベルダーデ街149番に日系子弟を対象として聖フランシスコ学園開校。	
3－20	**パラ・マンサ（Barra　Mansa）農場建設の会社創立。** この年の10月サンパウロ州ノロエステ線アヴァニャンダーバ駅に面積500アルケール、資本金150万円（昭和14年には百万円）の農場を建設。経営主体は川西清兵衛を社長とする日伯拓殖株式会社である。日伯拓殖はその後、日伯貿易の方に力を注ぐ。ブラジル年鑑前編125p．下段には《コーヒー園購入》とでている。	
3－23	桂植民地（イグァッペ郡）産業組合創立。組合員20名。	
3－23	レジストロ農業者産業組合創立。組合員220名。	
6－8	日本自由メソジスト教会から西住正義牧師来伯（1946年6月交通事故の為死）。	
6－	坂井田南舟の月刊『南米評論』が『南米新報』と改名、新聞となる。1931年12月19日終刊（サンパウロ市）。	
6－18	**バストス移住地創設記念日** この日、土地売買契約を完了。入植は翌1928（昭和3年）年からであった。	
6－	慶応大学産業研究部学生16名訪伯各地見学。	
6－	移民船ハワイ丸（3月17日神戸発）にコレラ発生し、罹病者60名、死亡者17名を出した。サントス着は6月13日、88日間の航海。	
8－9	**チエテー移住地創設記念日** この日土地売買契約終了、登記は1929年4月30日、入植は1929年6月1日から。ノロエステ線旧ルッサンヴィーラ駅。	
8－11	南米拓殖株式会社（パラー州トメアスー開拓の会社）設立。 その後ブラジルにおける代行機関として、1929年1月Comp. Niponica de Plantação do Brasilができる。土地のコンセッソン（譲与）は初め福原八郎の個人名で下付されることになっていたが、後この会社へ移譲手続きがとられた。南米拓殖は紡績系の会社で昭和3年には資本金1千万円をもって設立されたのであるが、その事業開始をみたのは昭和4年3月以降で、パラー州のアカラ郡アカラ（現トメアスー）植民地、モンテ・アレグレ植民地、カスタニャール米作試験場の建設等であった。総面積百万余町歩の開拓事業である。アカラ（トメアスー）は同年4月12日から建設着手した。（トメアスー植民地開拓15周年記念アルバム15p．に詳しい）	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－30	**プロミッソン入植１０周年祭挙行** スポーツ　この日第１回ノロエステ陸上競技大会を同地で開催。参加チーム８組、プロミッソン優勝。	
9－1	セッテ・バーラス（イグアッペ植民地内）**農業者産業組合創立。**組合員１４７名。	
9－6	**アマゾン興業株式会社創立** 会社は10月20日アマゾナス州マウエスに２万５千haの土地のコンセッソン（譲与）を受けて事業を興した。大石小作を始めとして株主も植民者として開拓を始める。1930年までに29家族136名、青年48名が入植したが中心の大石が1930年に抜け、計画は失敗した。	
9－6	サンパウロ市リベルダーデ街の日本クラブ（後のCentro Professorado）で慶大生（ブラジル訪問団）の歓迎会が催される。	
―――	ブラジル国立精神病院長ジュリアーノ・モレイラ博士夫人同伴訪日、10月31日神戸着。	
9－24 9－29		**ブラジルにおける反ファッショの動き** 聖市法大生並びに市民、黒シャツ党新聞イル・ピッコロ社を襲う。
10－15	Eugenio Aluysio de Araujo在マナウス日本国名誉領事に就任。	
	ゴイヤス州アナポリス日本人植民地売出し アナポリス石橋恒四郎、サンパウロ市タバチンゲイラ街松尾亀吉両人の名で、この日時報紙一頁大の広告を出す。尚、『拓人の足跡』の初版336p．には石橋恒四郎ゴイヤス州アナポリスの郡有地へ50家族の同胞を入植させるとあるが実際は土地売出し後、おそらく翌1929年９月以降のことと思われる。	
10－	在ブラジル同仁会が社団法人として正式に伯国政府の認可を受ける。 参考：ブラジル年鑑後編120p．には『昭和３年10月財団法人としてブラジル政府の認可を受けたが・・・』とある。但し発展史下巻170p．には『同仁会は1926年（大正15）10月９日（この日付参照）財団法人『在ブラジル日本人同仁会Sociedade Japonesa de Beneficência no Brasilとしてブラジル政府の認可を得たが後、1938年４月18日附法律第383号の規定に準拠し昭和14（1939）年10月（四十年史には12月の総会において）これをSociedade de Beneficência Santa Cruzと称した、云々』とある。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	尚、1930年12月、事務所及び診療所がガルヴォン・ブエノ街73番に移る。	
11－13	パラー州政府と南米拓殖株式会社福原八郎との間にコンセッソン締結調印を終了。ブラジル年鑑後編125p．最下段、8月11日の会社創立と関連する。	
11－14	北パラナ、トレス・バーラス移住地の土地購入。（ブラジル拓殖組合による）	
12－23	領事西川豊蔵、在サンパウロ総領事に就任。	
12－24		**マリリア市誕生** マリリアMarilia市郡制決定。1929年4月4日市として機能。
12－27		ガルサに市郡制実施。
―――	**移民の母国送金** 移民の母国送金額から見るとこの年は173万7,062円で1918年から1939年までの間で最高。第2位は1925年の146万1,166円である。リオ正金銀行扱い。	
10－14	死　亡　・瀬木四十逸（よそいつ）リンスにて。商業の先駆者、1914年渡伯。	
2－15	刊行物　★服部教一著『日本の将来』初版。海外発展論。北海道植民学校発行。 ★聖州新報社編『ノロエステ日本人年鑑』バウルー聖州新報社発行。	
4－	★農業のブラジル（第3巻第6号）イグアッペ植民地内レジストロ及びセッテ・バーラスのコーヒー栽培報告。	
7－	第1部　3万4,802本　・第2部　6万4,772本 第3部　11万7,127本　・第4部　9万0,100本 第5部　7万3,590本 ＊1927年度収穫は2,000俵（ピラード＝皮剥）	
9－	★農業のブラジル『ブロミッソン開拓10周年記念号』 Ano Ⅲ, No 30, Centro Japonês de Agricultura 発行。	
―――	★藤浪鑑著『在伯日本移民の寄生虫に関する研究報告』外務省通商局刊行。 ★田中誠之助著『邦人活躍のブラジル』鹿児島新生社発行。	
1929（昭和4） 1－		マリリアまで鉄道開通。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
2－14	サンパウロ市にカーザ東山株式会社創立。	
2－24	サン・ゴンサロ教会で約50名の日本人が受洗。	
3－	1月21日神戸出帆の備後丸ではサントス着後6人のトラホーム患者の日本内地送還者を出す。	
3－23	サンパウロ市カルモ街25番の労働会館で『日伯新聞撲滅演説会』が開かれた。弁士として顔を見せたのは牧義朝、岸本次男、藤田亀三郎等であった。（「拓人の足跡」433-434p.）	
3－25	**ブラ拓創立** 海外移住組合連合会の現地事業組織として有限責任ブラジル拓殖組合 Soc. Colonizadora do Brasil Ltda.（1919年1月10日附法律3708号持分会社法の規定により）設立。	
4－	蓮根（苗）サンパウロ市の農事通信社で発売（1929年4月号30p. 農業のブラジル参照。）	
4－10	夜、リベルダーデ街146番にあった日伯新聞社が暴漢に襲われ、活字ケースをひっくり返され、帳簿をめちゃくちゃにされた。犯人は少し前まで日伯新聞社に勤めていて解雇された西村磨と判明。三浦の国外追放事件の先駆けのようなものだった。	
4－12	**アマゾニアの開拓** パラー州アカラ（現トメアスー）植民地の先発隊が最初の斧を入れた。	
―――	これと別に個人移住者山田義雄は個人でパラー州オーレン郡内10万haの土地の開拓を試みたが、地権が取得できず放棄する。アマゾン流域に日本人が増えはじめた。尚、ペルーを下り、それ以外のルートで来た日本人が既に10家族以上ベレン方面にいた。	
―――	さきに自分も視察した崎山比左衛は、伊藤松之助をマウエスに派遣して植民学校分校の土地を探させた。	
4－28	この日ノロエステ線ルッサンヴイーラ駅チエテー移住地の46,690アルケールがブラ拓の所有として登記される。	
4－30	サンパウロ市カルモ街労働会館で同志会発会式あり。日伯新聞弾劾演説会となる。木村清八、青木梅雄、岸本次男等が主役。後日、西村磨、牧義朝（シャモのアダ名あり）等加入。6月6日ブラジル時報紙上に同志会結成とその役員の発表あり。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－8	**日本政府拓務省設置** 移植民に関する事務及び海外拓殖事業の指導奨励に関する事務は拓務大臣がこれを司り、拓務大臣はこれらの事務につき外務大臣を経て領事館を指揮監督することになった。初代は首相田中義一が兼任。	
6－10	この日付でサンパウロ市の同志会なるものから有吉明大使宛の『日伯新聞事件－其後の経過』がブラジル時報紙をかりて発表される。	
8－9	**娯楽としての映画** バウルー市に斉藤政一の『日伯シネーマ社』出現。主として日本のフィルムの地方巡回映写が目的。	
9－16	三浦鑿日本倶楽部を除名される。	
9－16	トメアスーの最初の入植者を乗せた、まにら丸ベレン入港（リオに着いたモンテ・ヴィデオ丸から乗り換えて、まにら丸で回航したもの。）全189名。	
9－19	この日付のブラジル時報の報道によると石橋恒四郎の名で売出したゴイヤス州アナポリスへいよいよ現地世話人の松尾亀吉のりこむ。	
9－23	パラー州アカラ（現トメアスー）植民地の初入植（先発隊は4月12日）43家族、単独移民8名を含む全員189名である。	
10－	**コーヒー価大暴落　－経済恐慌はじまる－** 経済恐慌発生し、コーヒー農場の労銀は30％から50％まで引き下げたところあり、場所によっては農場を放棄する外なく、ある農場主はコロノを事務所に召集し『経営を放棄する、勝手に農場のものを持ち運び移転してくれ』と声涙ともに下る宣言をなすほどで多くの話題を残す。	
10－	宮崎信造により、大正4年（一説には大正7年とある）にコンデ街に設立された大正小学校、サンパウロ市サン・ジョアキン街の今日の文化センターのある場所にに移る。	
10－24		ニューヨーク株式市場の大暴落から世界大恐慌が始まった。
12－29	**スール・ブラジル（南伯）中央農産組合**はこの日49人のバタタ（ジャガイモ）生産者によってマイリポラン（旧ジュケリー）に創立された。これが旧ジュケリー産業組合である。1954年11月南伯中央会Sul Brasilと改称される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
―――	北パラナ Cornelio Procopio に後宮農場開設（後宮武雄第２回目の渡伯で、この時事業着手）。（1931 年妻帯再渡伯、1931 年の部参照）	
―――	**ゴイヤス州アナポリスへ日本人入植** （いわゆるセラード植民地である）９月 19 日のブラジル時報の記事参照。石橋恒四郎その他の世話でこの年ゴイヤス州アナポリスの官有地コンセッソンに７家族入植。翌 1930 年には 24 家族。続いて 31 年には又３家族が入って邦人 34 家族の集団地が出来たがコンセッソンの手続きに不備な点があったとかで近辺に他の土地を求めて移動した者が多かった。	
4－28	スポーツ　聖市野球連盟が生まれ、この日（日曜）第１回戦が行われた。午前はアサヒ対パレストラ戦がコンデ坂下カンポで、午後はジェネラルモーター対パレストラ戦がジェネラルモーターのカンポで。	
7－25	文　芸　この日時報文芸欄に『植民文学への断想』が発表される。筆者は“はらだ”正体がつかめず指針もみいだせなかった戦前のコロニア文学論。	
8－9	教　育　総領事中島清一郎は在サンパウロ市有志及び教育会（1927 年３月 14 日の項参照）より成る教育相談会を聖市日本倶楽部において催し『在サンパウロ日本人学校父兄会（Liga dos Amigos da Escola Japonesa em S.Paulo）』を創立した。書記長木村末喜（1935 年退職）。 （註）これは９月３日社団法人として登録され、同年 10 月 22 日従来の教育会を解散し同時にその財産（負債）及業務一切を同父兄会（所在地 Rua São Joaquim，67）へ引き継ぐ。	
11－11	死　亡　・瀧沢仁三郎（42 才）カンポス・ド・ジョルドンにて。1913 年 10 月東洋移民第２回海外練習生として渡伯。	
3－28	刊行物　★八重野松男著『今日のブラジル』全 925p．ジャパン・タイムス社発行。貴重な移民史的資料。	
―――	★日本人同志会編『日伯新聞社三浦鑿の処分嘆願書』（非売品）出版。	
	★『農業のブラジル』耕地生活（コロノ生活）特別号。	
3－	★山田楊之助著『ブラジルを直視して』が移住案内書として海外興業株式会社から刊行。	
11－	★坂本震渓著『南米見物道中記』創元社発行。震渓は実業家巳之吉で昭和３年の旅行者である。	
―――	★崎山比佐衛著『南米の大自然－アマゾンの流を下りて』が出る。	
―――	★古川義之著『セカイヒトノゾキ』横カナで発行。古川は昭和４年の訪伯者。（出版は或は次年度）	
―――	★田渕勲著『伯国経済事情と在伯邦人状態の経済的視察』外務省通商局。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－10	★この日のブラジル時報紙に水野龍の『同化の用意』なる一文が載っている。『移住地で同化をなすものにして、移住地に同化するにあらず』の論。移住地での≪で≫は移住地の住民を日本文化によって指導するものであって、移住地にの≪に≫は移住地の文化にとけこむことである。彼の論は後者を否定することであった。	
1930（昭和5） 3－16	**北パラナ、ロンドリーナへの進出** 北パラナ土地会社日本人部総代理人、氏原彦馬募集の第1回視察団がロンドリーナ到着。	
―――	カ・ナカオ（K. Nakao）肥料工場がサンパウロ市郊外ジャグアレーに建つ。	
4－9	アリアンサ移住地において『アリアンサ時報』が創刊される。同紙は1937年5月12日アラサツーバ市に進出『日伯協同新聞』と改名、週刊。1932年2月から株式会社となり、それまでの輪転謄写から活字印刷となる。社長、宮尾厚、主筆中川権三郎。	
4－16	臨時代理大使に（大使館一等書記官）縫田栄四郎就任。（リオ・デ・ジャネイロ市）	
4－	聖州政府はコーヒー調節資金2千万ポンドの借款を英米に獲得し、経済界の前途ようやく見直される。	
5－	海外植民学校は主事今井修一にアマゾナス州マウエスの土地５００町歩を購入させ同校出身者を送って直ちに開拓の事業に着手させる。7月19日の項参照。（ここには1932年校長崎山比佐衛が家族を挙げて同志数人と共に移住し、南米分校として農耕に従事することになる。崎山比佐衛は、1875年（明治8年）高知県生まれで青山学院神学部卒業の後、1918年「海外植民教育会」を発足。移住先駆者となる青年養成の「海外植民学校」を東京に創設した。この学校の実地教育のための分校がマウエスに設立されたのは1929年で、11回までの卒業生300人余りを送り出した。	
6－7	大阪商船会社の新造船リオ・デ・ジャネイロ丸（第1世で1万トン）処女航海に出る。	
7－19	海外植民学校分校設立の為のマウエスの土地500町歩購入の売買登記完了。（発展史下巻149p.）	
8－ 10－3	**移民激減**　河内丸36名、神奈川丸休航。	**国家主義時代来る** 30年ゼツリオ革命勃発、11月3日ゼツリオ・ヴァルガス政権を握る。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－18	**アマゾニア産業研究所設立（Instituto Amazonia）** 1927年の粟津金六、山西渡三郎の百万町歩オプション契約を引継いだ、上塚司（つかさ）の一行22名は、アマゾナス州首府マナウスにおいてパリンチンス郡ヴィーラ・バチスタの売買仮契約を結び、10月21日現地において産業研究所の立柱式並びに斧下式を兼ねて入植祭を行う。上塚司は1890年熊本県生まれ、衆議院議員、大臣秘書などを歴任した後、1930年4月に国士館高等拓殖学校を創立。翌年より高等拓殖学校卒業生（通称、高拓生）が渡伯し、アマゾン開拓に従事したのを契機に1932年「アマゾニア研究所」を、翌年、日本に財団法人「アマゾニア産業研究所」を設立した。	
10－	中村嘉寿代議士、続いて漢那憲和代議士来伯、サンパウロ州及びマット・グロッソ州の各地を視察。	
12－9	14日までエスプラナーダ・ホテルで矢崎千代二のパステル画個展がある。（サンパウロ市）	
6－	**芸　能**　**第1回慈善演芸会** 中島清一郎総領事時代、サンパウロ市婦人団体水曜会主催のもとに第1回慈善演芸会がアクリマソン公園で開催される。演奏に参加した人達は池辺春麿、同夫人、杉本芳之助夫人等、琴、尺八、三味線の演奏及び舞踊がある。	
4－23	**死　亡**　・高見沢森四郎、リオ州エントロンカメントに近いカヨアーバで。金魚飼いの先駆者。昭和2年の部参照。	
8－	・山科礼蔵（1864－）。1922年9月7日の部参照。	
―――	**刊行物**　★市毛孝三著『ブラジルの産業と経済』。	
―――	★江越信胤著『産業上よりみたる新ブラジル』。	
―――	★石川達三著『最近の南米往来記』昭文閣書房発行。	
―――	★古屋敏恵（としえ）『神秘境アマゾンを探る』。	
―――	★聖州新報社編『ノロエステ、ソロカバナ、パウリスタ線邦人年鑑』（三線年鑑）聖州新報社発行。	
1931（昭和6） 1－1	ブラジル新政府は移民入国制限令を実施したが、日本移民に限り同年1月に1万2,000人の入国を許可した。	
―――	福原八郎のミッションに同行した五反田貴己は、1929年大阪にYMCA海外協会を設立し、アマゾン開拓青年団を募集し、全国から47名の青年が参加した。1年余りの訓練の後に、この年にモンテ・アレグレに入植したが、たちまち不平が出て3ヵ月で解散し副団長の平賀練吉だけが残った。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
――	トメアスーでは、日本移民が養蚕を試み、またキャベツ、トマト、ピーマン、キュウリ、ナス、大根などの栽培に成功した。アマゾン流域で最初のものと見られる。	
3－12	大統領令をもって三浦鑿の国外追放令がおりる。翌13日リオ電として新聞に報道される。尚、三浦は23日リオ市で逮捕され、26日ドイツ船モンテ・オリヴィア号で国外追放となる。	
6－3	サンパウロ市に大河内製薬会社創立。	
6－20	アマゾニア産業研究所の土地に入植する高拓生第1回の47名がパリンチンスに到着した。	
7－2	アリアンサ移住地に栗原自然研究所が開設される。神屋信一、大窪文秀、勝浦茂雄の3人による。	
7－4	在サンパウロ帝国総領事に内山岩太郎就任。	
8－11	この日付をもって改正（新）内国人雇傭令が公布される。その内容は個人、企業団、協会、組合、会社で雇人5人以上を有する商工業者はその3分の2以上ブラジル人を雇傭する義務あるものとす、というのである。	
9－1	サンパウロ市郊外M' boy（後のEmbu）に海外興業会社経営の農事実習場が開設される。但し、公式の開校祝いは1932年6月26日となる。	
9－16	カンポス・ド・ジョルドンのアベルネシアに療友会が生まれる。カンポス在住の日本人を中心に創立されたもの。（サンパウロ州中央線）	
9－	「勿体なし、コーヒーの海中投棄既に30万俵に上がる」（記念誌452p.） 10月まで廃棄コーヒー120万俵に及ぶ。（同上453p.）コーヒーに依存していたが、ブラジルは世界大恐慌のためのコーヒー価格の下落に苦しみ、この年から過剰コーヒーを政府が購入し、破棄するという荒療治を始めた。1939年11月までに実に3,384万俵のコーヒーが焼却された。	
9－18		満州事変起こる （『せっかく移民法修整案が次の議会に提出されようとするところまで好転していた日米関係はつまづいてしまった。』）Vagabond Joe, 69p.
12－15日	臨時代理大使に黒沢二郎（リオ大使館一等書記官）就任。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
―――	後宮武雄の後宮農場が300アルケールの土地を得て北パラナ、コルネリオ・プロコピオに開設される。第３回目の渡伯でこの時から本格的に事業を促進。	
―――	日本郵船との協定成って**大阪商船南米航路を独占**。１万トン級大型船７隻、７千トン級優秀船５隻を就航させることになる。	
―――	ブロミッソン（ノロエステ線）産業組合創立。	
―――	イガラパーバ（サンパウロ州アルタ・モジアナ線）産業組合創立。	
１－15	美術　・21日まで在伯同胞第１回美術展がサンパウロ市リベルダーデ街の日本倶楽部で開かれる。	
４－29	スポーツ　・第１回全伯邦人陸上競技大会聖市パウリスターノ・クラブで挙行、コチア青年会優勝。参加チーム５ヵ所。	
５－31	死亡　・田付七太（1867－）、前ブラジル大使。	
６－28	・Walter Seng（1873－）。サンタ・カタリーナ病院長、外科の大家。日本移民と関係深い人。	
12－30	・本山彦一（1853－）。大毎移民実行者。	
―――	刊行物　★日本語による『ブラジル地理』『ブラジル歴史』を在サンパウロ日本人学校父兄会で発行。	
―――	★辻小太郎著『ブラジルの同胞を訪ねて』が出る。	
―――	★中田義介著『唖の見たブラジル』	
―――	★難波勝治著『新天地を求めて』旅行の足跡を克明に記述して当時のブラジル在留同胞社会を知るよい資料である。	
―――	★矢崎千代二著『南米絵の旅』1930-31年にかけてブラジルを旅行した時の旅行記。	
―――	★神戸久一著『ブラジルの実生活』	
12－30	★岩本巌編「童謡唱歌教材集」上巻。在伯国唱歌研究会。	
1932（昭和７） １－14	**日本新聞創刊** 社長翁長助成を中心とする沖縄県人一派が旧南米新報を買収して創立したもの。中西周甫を主筆として迎えた。 （ブラジル年鑑後編242p．但し、同年鑑後編234p．の『出版』及び235p．の『日本新聞』などの記事は242p．のものと一致しない。発展史下巻265p．には“１月14日創刊”とある。）（本社、聖市コンデ・デ・サルゼーダス街22番）	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－15	画家藤田嗣治夫人同伴来聖。（3月初旬個展を開く）	
1－22	留学医師八木勝郎ブラジル医師免許試験に合格。	
3－1	医師高岡専太郎に京都大学から博士号が送られる。	日本陸軍は1931年から満州事変を引き起こしていたが、この日に満州国建国を宣言。
3－3	日伯裁縫女学校創立。	
3－25	父兄会主催で第1回教育研究会を開催（25－26日）集まった教師57名、会場は聖市サン・ジョアキン街父兄会事務所。	
5－1	北パラナ、トレス・バラス移住地（現アサイー）入植準備開始。この日、原始林にはじめて斧を入れる。	
5－26	聖市サン・フランシスコ学園の3階建ての新築校舎落成。	
5－	総領事館の肝入りで聖市に耕地通訳協会生まれる。	
6－1	『中央線聖市郊外農業組合』成立。モジ・ダス・クルーゼスに本部を置く。	
6－	**渡航者に支度金も下付** ブラジル移民に日本政府は渡航費補助の他、満12歳以上1人につき50円の渡航準備（支度）金を下付することに決定、実施を見た。	
6－25	梶本明、ノロエステ線ビリグイ駅で『北西民報』を出す。	
6－26	エメボイ（M' boy）農場実習場Instituto de Prática Agrícola de São Paulo開場式。 海外興業株式会社経営の同実習場は既に1931年9月から実習生を入れて実際的な活動を開始したが、1932年になって準備万事整ったので実習場関係内外人を招待して開場式を挙げる。	
6－	ミゲール・コウトDr. Miguel Couto博士は医学院創立103年記念会において、式辞に続いて行った演説中「人種、宗教の著しく異なった日本人の無制限入国はブラジルの人種型構成に害がある。従って北米に倣ってその入国制限を行う必要があるのは勿論、政府は既に外国移民制限令を発したにもかかわらず、望ましからざる日本人の為に例外を設け1万	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	３千名の入国を許可したことは実に言語道断である」と獅子吼。 また、伝統的に親日態度を示していたジョルナル・ド・コメルシオ紙も満州事変及び上海事変発生以来急に態度を変え、コウトの反対説に共鳴し、これを支持する排日論を頻々とその紙上に掲げるに至る。	
6－27	サンパウロ市に日本人同仁会主催のトラホーム撲滅運動の講習会が開かれる。	
7－1	サントス漁業組合設立 1928（昭和３）年のポンタ・ダ・プライア漁業組合は法規によらない単なる相互扶助機関に過ぎなかった。	
7－9		サンパウロ護憲革命勃発。３ヵ月後講和成立。
7－16	在サンパウロ邦人有志赤十字後援団を組織し、４邦字新聞社後援のもとに革命支持のため金品募集を開始。	
8－1		護憲革命の紙幣（Bonus de Guerra）市場に姿を現す。
8－14	第３代特命全権大使林久次郎リオに着任。	
9－	植民学校の崎山比佐衛校長一族郎党を率いてアマゾナス州マウエスに入る。	
10－	**在伯同胞総数** サンパウロ帝国総領事館人口票に基づく調査によれば、現在の在伯邦人戸数は総数23,507戸、その総人口は13万２千689人で地方別集団のトップはノロエステであり、職業別に見ると、90％が農業であった。	
10－4		護憲革命終わる ５日から12日まで休日となる。
11－11	1933年度入伯許可の日本移民は２万５千800名。	
11－22		**コーヒー植付禁止令布告される** 向こう３ヵ年の禁止。パラナ州はまだコーヒー樹が少なかったので法令から除外される。これ以降パラナ州のすばらしい発展がはじまる。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－29	日本で日伯中央協会創立、総裁は高松宮、副会長は徳川頼貞侯爵。	
―――	**トレス・パラス（現アサイ）売出す** ブラ拓移住地トレス・パラス（北パラナ）が土地を売出す。面積1万8千アルケール。コーヒー植付禁止令布告後である。	
―――	平野植民地（サンパウロ州カフェランジア駅）組合創立。	
―――	河合武夫、日本人で最初にマッケンジー大学工学部を卒業。次年度は鈴木威が卒業。（サンパウロ市）	
―――	この頃パウリスタ線ツパン駅に邦人進出。	
12－19	**産業組合法発布**（ゼツリオ）大統領令22,239号。これに基づき有限責任株式会社コチア・バタタ生産者組合は1933年8月にコチア産業組合と改称。後、多くの邦人農協が組織されていった。	
12－31	同仁会書記鈴長助成辞任。山崎芳蔵が後任者となる。	
9－1	宗教　・南米キリスト教会（在サンパウロ市、無所属）伝道開始、牧師は青木明一。	
4－14	文芸　・ブラジル時報社懸賞小説第1等が発表され、園部武夫の『賭博時代』が当選。	
	死亡　・3/2　目黒静、アラサツーバにて。第1回移民、耕地通訳などをし、当時新移民達の為につくす。 ・10/12　山田隆次（1889－）。サンパウロ市ラルゴ・ダ・セーに騒擾起こり凶弾を受けて即死、医師。	
1－13	刊行物　★岩本巌編『童謡唱歌集』謄写版。リンスで出版。 ★J. Pinto e Silvaの"Minha Patria"ブラジル歴史『わたしの国』が在サンパウロ日本人学校父兄会訳で同会から発行。各地の日本人教師、教育学校関係者、上級生徒等に配布。この種の仕事としては初めてである。但し一般人向きとしてのブラジル歴史は1933年に出版される『ブラジル年鑑』前編17－53P.の『歴史』がよいし、より詳しい。 ★鈴木貞次郎著『伯国移民の草分』神戸日伯協会発行。	
3－1	★ブルーノ・ローボ博士『日本人よりブラジル人へ』（葡語）新著出版。	
5－16	★海外興業株式会社レジストロ産業部から『紅茶の製造法』。 ★木村末喜著『教育礼讃論』サンパウロ日本人学校父兄会から発行。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
―――	★永田稠著『両米三巡』。 ★松岡冬樹著『拓人闘病法』日本植民通信社発行。	
10－30	★『郷友』創刊号。サンパウロ耕地通訳協会。	
4－	**日本人経営の小学校** 在サンパウロ日本人学校父兄会の1932年4月現在の調査によると、ブラジルにおける日本人小学校は187校あり、その他既に開校をみたものの未だ届け出ていないものの数は20校を数えることが出来る。更に1校の生徒数は最大243名、平均49名となる（ただし非日系伯国人生徒を含まず）。ブラジル年鑑後編108p．尚、在伯邦人設立小学校一覧表はブラジル年鑑後編110－118p．にあり。	
6－19	日本病院建設資金募集の為聖市婦人団体「水曜会」主催のもとにサンターナ劇場で慈善演芸会を催し、好成績をあげる。	
1933（昭和8） 1－30		ドイツにヒットラー内閣が成立した。
2－3	ジアリオ・デ・サンパウロ主筆アシス・シャトーブリアンAssis Chateaubriandソロカバナ線の邦人棉作地帯の視察の途に上ぼる。	
3－8	モジ・ダス・クルーゼス産業組合誕生。サンパウロ州中央線。	
3－27		日本は国際連盟を脱退。
4－3	高岡医学博士の診療所がサンパウロ市Conselheiro Furtado街に開かれる。（互生会設立は1933年6月）	
4－19	日伯裁縫女学校　R. Lavapes, 63に移転。	
4－29	日伯シネマ社が肉弾三勇士、人柱四勇士を聖市カルモ街の労働会館で上映。	
5－15		ツエッペリン伯号サンパウロ市の上空を飛ぶ。
5－27	日本植民学校長服部教一アフリカ丸で訪伯。9月頃帰朝の予定とブラジル時報紙報道。	
6－18	**日本移民渡伯25周年記念祭**をサンパウロ市ビラ・マリアナ区の日本病院敷地で行う。招待された笠戸丸渡航者60名。この日移民事業の功労者日本人26名ブラジル人8名が表彰される。式の後日本病院定礎式が行われた。（起工式は1936年4月5日）。夜、ベルゲイロ街のテアトロ・パウリスターノで芝居≪歌舞伎の夕べ≫あり。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－	医学博士高岡専太郎と安藤潔（全八）互生会を組織し在伯移民の衛生の為『家庭と健康』というパンフレットを発行。本部をサンパウロ市におき、会費は10ミルレイス。	
6－	**サンパウロ女学院創立**　（1957年財団法人として登録、赤間学院となる。）	
6－30	**負債半減令出る** 1933年6月30日以前のブラジル農家の一切の負債の半減を施行する旨の法令が出る。85低資も半減となる。	
7－4	サンパウロ州政府から日伯通商関係促進の為伯国原料品携行渡日中であったリーノ・フィノッキこの日横浜着。	
10－12	貴族院議員今井五介（75）空路北米からベレンを経てこの日リオ着。	
10－18	東山銀行 Casa Bancaria Tozan Ltda. サンパウロ市に設立。	
11－3	**生存者叙勲第1号** 水野龍と上塚周平にこの日付で勲六等旭日章が授与されることになった。（11月8日ブラジル時報発表、更に伝達は1934年2月11日となる。）	
12－25	在サンパウロ日本人学校父兄会主催で各地に日本語教師に対するポルトガル語の講習会が開催される。場所はレジストロ、サンパウロ、プレジデンテ・プルデンテ及びリンス。期間は12月15日から翌年1月末日まで。これはポルトガル語の読み書きの出来ないものは日本語（外国語）の教師たる資格無しとする新法令の為であった。	
―――	移民輸送監督の南拓社員臼井牧之助がパラー州のトメアスーに胡椒（ピメンタ・ド・レイノ）の苗20本をシンガポールから移植。芽をふいたのは3本であった。この苗木を育てたのが加藤友治と斉藤円治であった。（トメアスー植民地開拓25周年記念アルバム19p. に詳しい。）	
―――	アマゾニア産業研究所で栽培を試みていたジュートの中から、尾山良太が2本の優良品種を発見して種子を採集した。後、その種子の増殖に努力し、1937年に始めて繊維を商品化するがこれが1960年代はアマゾナス州最大の産業に発展した。	
6－18	スポーツ　**スポーツ興隆の年** 伯国柔剣道連盟がサンパウロ市で発会式を挙げる。（連盟主催の全伯大会は1941年まで9回を重ねた－池田重二著『躍進の60年』94頁）	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－2	日本から陸上選手訪伯。ペルー、チリー、アルゼンチンを経てブラジルに到り、サンパウロ及びリオの伯国選手と競技及び交歓を行う。選手は６名で福井行雄、住吉耕作、大島謙吉、藤枝昭英、朝隈善郎及び大江秀雄であった。	
9－6	在伯邦人スポーツ連盟が生まれる。６～７日パウリスターノ・クラブ競技場で第２回陸上競技大会を催す。ノロエステ優勝。第２位はソロカバナ。参加は９チーム。（第２回大会は1932年開催のはずであったが護憲革命の為中止。）	
9-9～10	サンパウロ市において日伯国際陸上競技大会が開かれ、神戸日伯協会の白根会長贈呈の優勝楯は、110mハードルの勝者、伯国の至宝バジリア選手（後のサンパウロ州政府厚生局長）が獲得した。（この大会は日本から訪伯した選手団を迎えての日伯対抗の大会であってコロニア選手は参加しなかった。）1965年10月15日発行『ブラジル40周年記念号』87頁。	
11-1～5	第１回全伯少年野球大会がリンス青年会の主催で同地で行われる。５日間にわたる熱戦。	
11－19	互生会主催第１回少年陸上競技大会がサンパウロ市ブルックリン・パウリスタの日本クラブ運動場で開催。	
11－	第１回日伯対抗陸上競技大会がパウリスターノ・クラブ競技場で挙行され、邦人側13種目中の５種目に勝つ。	
	死　亡　・3/10 武藤山治（1867－）。鐘紡社長。時事新報社長。トメアスー植民地創設者。	
3－1 6－18 6－29 －－－ －－－ 11－ 5－	刊行物　★鈴木貞次郎著『ブラジル日本移民の草分け』神戸日伯協会版。 ★ブラジル時報社編『ブラジル年鑑』を発行。 ★Diario de S. Paulo紙は32p.の日本移民特集号を出す。 ★この年、世界の癩視察の途中ブラジルを訪問した国立癩療養所長島愛生園の医官、林文雄は帰国後『世界の癩視察旅行記』を出し、続いて『世界の癩を訪ねて』を書いた。 ★イグアッペ植民地創設２０周年記念写真帖発行、発行者は安中末次郎。 ★『武徳』（第２号は12月）伯国柔剣道連盟発行。 ★中山夢浪『ブラジル情景写真帖』自費出版。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－	<ブラジル在留同胞社会における主要定期刊行物一覧表> （1933年5月現在）ブラジル年鑑後編236p. 伯剌西爾時報　・ブラジル時報社　一週2回　12p.　年30ミル 日伯新聞　・日伯新聞社　一週　刊　8p.　〃 聖州新報　・聖州新報社　一週2回　8p.　〃 日本新聞　・日本新聞社　一週　刊　6p.　〃 アリアンサ時報・アリアンサ時報社　一週　刊　4p.　年12〃 物産週報　・日伯物産通信社　一月　刊　20p.　休刊中 農業のブラジル・農業のブラジル社　一月　刊　100p.　年30ミル 波　紋　・波　紋　社　一月　刊　100p.　（娯楽誌） ポプラール　・リンス通信社　一月　刊　70p.　（少年少女向娯楽雑誌） 葡語講義録　・サンパウロ父兄会　一年10回　100p. ブラジルの国語・妹尾正男　一2ヵ月1回　不定、学習書 カナ・ブラジル・カナ・ブラジル社　一週　刊　8p.　子供の読物 青　空　・サンパウロ父兄会　一月　刊　4p.　父兄会機関誌 若　人　・農業のブラジル社　一月　刊　ースポーツー 力行の叫び　・力行会聖市支部　一月　刊　19p.　機関誌 更　新　・更新社　一隔月刊　50p.　12ミル　機関誌 角笛・おかぼ　・アリアンサ時報社　一月　刊 ・新天地　・　〃 家庭と健康　・互生会　一月　刊　8p.　衛生関係 郷　友　・耕地通訳協会　一月　刊　50p.　機関誌	
1934（昭和9） 1－27	ソロカバナ線の日本語教師に対する葡語講習会開催、主催はサンパウロ父兄会、場所はプレジデンテ・プルデンテ市、受講者35人、期間50日。	
1－28	汎ソロカバナ教育会創立についての第2回相談会をプレジデンテ・プルデンテ市で開催。	
2－	渡辺儀平『**商工業者の友**』を発刊。	
2－11	**最初の叙勲式** 紀元節のこの日、サンパウロ日本総領事館邸でブラジル日本移民の功労者水野龍と上塚周平に対して勲六等単光旭日章の伝達式がある。	
3－25	ゴエス・モンテイロ陸相日本移民を賞讃、排日論を駁す。ジアリオ・デ・サンパウロの主筆シャトーブリアン、親日論を掲げ各方面の名士これになびく。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－	在サンパウロ日本人学校父兄会々報第２号（４月）に**在伯日本人小学校総数**が発表される。	
4－18	サンパウロ市に**『在伯日本人文化協会』**が設立される。会長は前メキシコ、アルゼンチン公使古谷重綱、副会長は海外移住組合の宮坂国人、尚、同協会は種々の出版物を世に出す。	
―――	サンパウロ医大 Ernesto de Souza Campos 教授、助教授及び学生の一団が見学の為渡日。	
4－23	**日伯産業組合中央会創設** （サンパウロ総領事館の斡旋による。）	
4－29	海外各地の社会事業団に対して皇室より下賜金があり、ブラジルでこれを受けた団体は在伯日本人同仁会サントス医局、バウルー医局、レジストロ医局、セッテ・バーラス医局、アマゾニア産業研究所付属療養所、アカラ（トメアスー）病院。同仁会下賜金は日本病院建設基金の一部となる。	
5－24	憲法審議会において移民入国二分制限案通過（146 対 41）。	
5－27	着任以来25年になる野田良治にブラジル政府から『南十字星勲章三等章』が授与される。	
6－	日本外務省の移民事務は６月からアメリカ局第二課が扱う。	
6－22	海興社長井上雅二再び来伯この日リオ着、８月末空路アマゾンへ向かう。	
7－16	**外国移民二分制限法公布** ミゲール・コウト派の提出した各国移民制限条項は辞句の整理を経てこの日公布された憲法中に下記の如く挿入された。（1937 年 11 月 10 日の部参照） ・補項第６ 国家の領土内への移民の入国は移民の人種的並びに体質的及市民的資格［の統合］を保障する為に必要なる制限を受くべし。 但し各国移民入国は最近50年間にブラジルに定着したる当該国人の総数に対し毎年その百分の二（２％）の限度を超ゆることえず。（日本移民の入国数は過去に 124,457 人であり、この割り当ては 2,489 人となる）。	7/16　1934 年憲法が公布された。全体としては 1931 年のスペイン憲法を手本としたものと言われる。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－	新憲法によってアマゾニア産業研究所が受けていた百万町歩のコンセッソンが問題となる。即ち、『一万ヘクタール以上の面積を有する土地のコンセッションは各場合につき上院の許可を受くるに非ざれば、之をなすことをえず。』	
8－10	パラー州**ベレン市に日本領事館が新設**され、初代領事として浜口光雄が就任。	
8－15	サンパウロ市のラジオにHora Japonesa新設。午後5時から6時までの間の15分間Radio Educadoraが放送。19日にはSuzy Piedadeの『六段』のピアノ放送がある。	
8－19	サンパウロ市郊外エメボイM' boy（現エンブー）農事実習所第1回卒業式が行われる。卒業生32名。	
8－23	**聖州棉日本へ行く** 聖州棉が最初に日本へ輸出された。この日、ブエノス丸で見本として60俵が日本向け送付された。この日本向の輸出は1936年から急増した。それに合わせてサンパウロ州の棉生産も急増し、1939年には5250万アローバに達するが、その半分は日系農家の栽培であった。	
9－10	在サンパウロ総領事に（大使館一等書記官）市毛孝三就任。	
9－13	臨時代理大使に内山岩太郎就任。	
10－21	**学連創立** 学生連盟が大正小学校で発会。発起人は下元健郎（法）、川原潔（医）など15名。機関誌『学友』発行を決定。	
11－	聖報サンパウロ進出 聖州新報がバウルー市からサンパウロ市に移転、週2回発行となる。尚、葡語名Semanario de S. Paloは Noticias de S.Paulo,になる。	
11－15		政府コーヒー局（DNC）の発表では、1930年からこの時点までに政府は4855万俵のコーヒーを買い上げ、内3384万俵を焼却した。
―――	岡本寅蔵アッサム茶の種子をレジストロに持ち込む。	
―――		この年は東北地方は冷害、西日本は干害で大凶作となった。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－	スポーツ　第1回全伯少年選抜野球大会がリベルダーデ球場（コンデッサ・デ・サン・ジョアキンとベドローゾ街の間にあった低地）で行われリンス、バイベン、サンパウロの3チームが参加、内山総領事杯を中心に争う。主催はサンパウロ青年会。	
9－23	互生会主催少年陸上競技大会がブルックリン・パウリスタの日本倶楽部運動場で行われた。11団体176人の参加があったが個人戦であった。（1934年の全伯少年陸上がこれであったかもしれない。）	
1－3	芸能　・長唄二葉会第1回おさらい。夜、蜂谷宅で。越後獅子、勧進帳等。	
3－10	死亡　・武藤山治（1867－）。『ブラジル』1965年10月15日発行にはこの日鎌倉で暴漢の兇手に倒れたとあるが、『列伝』 75p. には昭和8年3月10日とある。	
8－29	・河田明。同仁会医。博士。	
11－18	・藤浪鑑、日本にて。在伯日本移民の寄生虫に関する研究報告あり。医博。	
2－	刊行物　★渡辺儀平『商工業者の友』発刊。 ★在伯日本人文化協会編『伯国憲法審議会における日本移民排斥問題の経過』。葡文・訳文。	
――	★その他、同文化協会の刊行物。 ★ネストール・アスコリ著『ブラジルに於ける日系人』葡文。 ・『アルベルト・トーレスの思想とトーレス同志会に就きて』邦文。 ・『日本人種の雑婚』 葡文。 ★阿部文夫著紀行文集『鬼蓮』台湾で出版。 ★井上雅二著『移住制限問題に直面して－三たび友邦大ブラジルを訪ふ』 実業の日本社発行。 ★佐藤初枝著『日伯料理と製菓の友』初版。	
――	★ Diario de S. Paulo : Brasil e Japão Civilizacões que se Completam。『ブラジルと日本、補完しうる二文明』が出る。25周年記念特集号を本にしたもの。	
8－2	★香山六郎著『在伯日本移植民25周年記念鑑』バウルー市の聖州新報社で発行。	
8－31	★『子供の園』ブラジル時報社から発行。	
10－	★学生連盟機関誌『学友』創刊。	
1935（昭和10） 1－18	第4代特命全権大使沢田節蔵着任。	
4－	**弓場農場の"新しき村"建設はじまる。** サンパウロ州ノロエステ線ミランドポリス駅第一アリアンサ移住地隣接のフォルモーザ区。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	41アルケールを購入。弓場勇が同志と共に文化村建設開始。	
4－	ブラジル訪問の経済視察団（この視察団一行のブラジルにおける行動は昭和11（1936）年1月25日刊行の『伯国経済事情』に詳しい。） この使節団によってブラジルの綿が日本に大量に輸出されるようになった。	
4－8	4月8日横浜発。5月16日リオ着。6月11日解散、11月28日まで全員帰国。 団　長　－　平生釟三郎（川崎造船）夫人同伴 使　節　－　関桂三　（東洋紡）　・伊藤竹之助　（伊藤忠） 渥美育郎　（大阪商船）　・岩井尊人　（三井物産） 奥野勁　（三菱商事） 事務長　－　山崎壮重　（元領事） 団　医　－　山口寿　（医博） 随　員　－　9名	
4－	南拓が事業縮小をしたためトメアスーの入植者の多くが四散した。南下した者も多く、サントスで125名が海興の手で救助された。尚、植民地に残った者は11月にアカラ産業組合を設立し、相互協力の方針を定める。トメアスーには1929年から1936年までに352家族（2104名）が入植し、転出者は276家族（1603名）に及んでいる。	
5－	北パラナのアラポンガスにカトリック教徒の植民地Colonia Esperança（信愛植民地）創設。	
6－1	日本から南米向けの海外放送はじまる。	
6－14		**ロンドリーナ鉄道開通** 北パラナのロンドリーナにこの日鉄道開通。サンパウロとの鉄路連絡が完成する。
6－22	Casa Bancária Bratac設立の許可が下りる。（サンパウロ市）	
―――	サンパウロ市に近いサン・ベルナルド・ド・カンポの郊外に松本竜一、瑞穂村を建設。面積は約200アルケール、一時は40家族の自作農を有した。	
6－26	**チエテーの橋完成。** ノロエステ線ルッサンビーラ駅チエテー川のノーボ・オリエンテ橋完成その落成式。1931年起工。幅5.70m、長さ130.00mの鉄筋コンクリートの吊橋。設計及び工事監督は木村貫一郎（圭石）。後にペレイラ・バレット橋と改名された。（1990年10月ダムが出来て水没）	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－19	ベレン（パラー州）代理領事として副領事古関富弥が就任。	
8－3	東麒麟の盛大な披露会がサンパウロ市リベルダーデ街の日本クラブでひらかれる。東麒麟はカンピーナスの東山造酒会社の日本酒。	
9－2	国際文化振興会派遣の文化使節前ブラジル公使堀口九萬一着。夫人・令嬢同伴。9月14日サンパウロ音楽学校で『日本文化について』を仏語で講演。	
9－17	日本でアマゾニア産業研究所がアマゾニア産業株式会社に改組された。この現地代行機関がComp. Industrial Amazonenseである。	
11－	マセード・ソアーレス外相カンポス・ド・ジョルドンの私有地を同仁会の結核療養所の敷地として寄附する。	
―――	**メルカード・ムニシパル新設** この年サンパウロ市立中央市場が開かれる。それまでジェネラル・カルネイロとピンチ・シンコ・デ・マルソ街の角にあった旧メルカードがカンタレイラ街の新設市場の方へ移ったのである。この市場を中心にサンパウロ市における日系人の一集団区≪メルカード付近≫が形成される。	
2－1	**スポーツ**・ブラジル海軍から水泳師範として招かれて来た斉藤巍洋（たかひろ、またギョウとも呼んだ）がこの日から海軍スポーツ連盟で教授をはじめる。 （尚、同年9月14日には盛大な表彰式があり、任務完了して帰国した。リオ・デ・ジャネイロ市。）	
3－30	**美　術**・聖美会創立（サンパウロ美術研究会）。事務所をアラゴアス街32におく。	
7－16	**死　亡**・菊池恵次郎。上塚周平の友人でイタコロミー植民地の財的援助者。 滞伯は1919年3月21日から1920年4月8日まで。	
3－15	**刊行物**★園部英文歌集『旅路』京都洛北の星社から出版。旧日伯社員、武者小路実篤の序文がある。	
4－	★石川達三の『蒼氓』が同人雑誌『星座』に発表され、同年第1回芥川賞受賞。	
―――	★Raul Tavares （Contra-Almirante）の"Guerra Russo-Japonesa Segundo os Historicos Oficiais Japoneses e Russos内1934－1935年上下2巻出版。	
3－1	★「ブラジル日本人医師会雑誌」第1号。ブラジル日本人医師会。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1936（昭和11） －－－	リオ・デ・ジャネイロ市に『伯国日本文化協会』Instituto Brasileiro de Cultura Japonesa が設置される。	
2－1	**棉花時代はじまる** 大阪に資金２百万円の『日伯棉花株式会社』が設立される。当時の社長は平生釟三郎。ブラジルには支社『ブラスコット』を設け、神崎昌太が来伯し、サンパウロ州内邦人集団地５ヵ所に繰棉工場を建て、その経営にあたった。	
2－11	アマゾニア産業株式会社現地代行機関 Comp.Industrial Amazonense が資本金 4000 コントで成立し、この日パリンチンス登記役場に登記完了。尚、この年にパリンチンスでは尾山、中内の２名で始めて 3，5 トンのジュートの繊維がとられた。	
2－26		**日本２．２６事件勃発。** 近衛連隊約 1，400 名の反乱。
4－5	サンパウロ日本病院起工式が聖市ビラ・マリアナ地区の敷地で挙行される。	
－－－	トメアスーに南拓移民最後の 12 家族と青年３名が到着した。トメアスー残留組の主作は米で、約３万俵が収穫されていた。この年、ベレンにて日本人 10 数名が「ベレン野菜組合」を設立。	
4－15	日伯両国間国際無線電話開通。	
5－ －－－	総領事館邸で市毛孝三総領事が会長となり、同好の士によって『ブラジル古代文化（考古学）同好会』が生まれる。	6月パラグアイへ初日本移民入国。二部制限法によるブラジルの入国制限対策としてブラ拓が計画したものであった。
6－12	舞踏家与世山彦志夫妻来伯につき、球陽協会主催で日本クラブに於いて紹介の宴を催す。	
6－15	**日伯農事協会創立。**それまで海外興業株式会社の経営であったエメボイ農事実習場を引継ぐことになり、名称も M' boy 農事訓練所となり 11 月 24 日開所式挙行。同訓練所は後にカシンギーに移り終戦直後まで続く。	
7－1	Brazcot Ltda．創立。（聖市）	
8－	リオ・グランデ・ド・スール州に初めての日本人植民地。サンタ・ローザ郡オリゾンチーナ	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	に富岡漸（バロン富岡）を主任として米作を目的に入植した。（第２次大戦勃発と共に同植民地が国境に近いという理由で強制退去にあう。）	
8－16	総領事館邸へサンパウロ市の作家、画家、音楽家などのインテリ連を招いて日本美術紹介の夕べを催す。市毛総領事と画家半田の仕事、美術品は各方面から借り集める。市毛総領事は浮世絵版画の蒐集家であり、このときギリェルメ・デ・アルメイダやオズワルド・デ・アンドラーデその他と知り合う。	
8－29	テニスの日本デ杯選手藤倉二郎、サントスの「カーザ東山」へ着任。	
9－19	ブラジル経済視察団の訪日。首班として行ったのは前労働・工商大臣 Salgado Filho である。	
9－23	島崎藤村・有島生馬ブエノス・アイレスで開催されたペン・クラブ大会の帰途来聖。この日は長野県出身者の歓迎会が日本倶楽部で開かれ、24日（日）には２人の講演がサンパウロ広場のシルクロ・イタリアーノで行われた。藤村は日本の近代文学について、生馬は２．26事件の真相について。このあとサントス、リオ・デ・ジャネイロなどを探訪。１０月１日リオ発の米船でニューヨークへ発つ。	
10－	医大３年生氏原正明、２世最初の陸軍少尉に任官。	
12－12	文芸誌『地平線』発刊の為の相談会。発刊は翌年３月で第９号まで続け、その後は1938年２月創刊の雑誌『文化』に合流。	
―――	日系初めての２世弁護士誕生。下元健郎。	
12－	**２世と不敬事件** 学生連盟の機関誌『学友』に下元健郎が「私らの心情」と題して書いた文章が、「菊花事件」として問題になった。２世がブラジルを母国と認めた最初の記録である。	
12－20	午後２時サンパウロ裁縫女学院で第１回女学部並びに専修部の卒業式挙行。	
4－18	[redacted]－26日まで、リベルダーデ街日本倶楽部で半田知雄第１回絵画個展開催。	
9－20 11－1	[redacted]・田中三次大尉によって救世軍日本人部の伝道開始。 ・コンデ街40番に自由メソジスト聖市教会設立。牧師西住正義。	
11－	[redacted]・市毛総領事夫人の主催で『日本の夕べ』と名付けた日本音楽演奏会が催され	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	る。会場はアラゴアス街Suzy Piedade宅。多くのブラジル人を招いて行われ、この種のものとしては最初であった。	
―――	**ジュート定着** 1933年にアマゾニア産業研究所アンジラ入植地において尾山良太によって発見されたジュートが新種と確認されて「尾山種」と名付けられ、この年から増産されることになった。	
7－6 9－27 11－11	**死　亡**　・上塚周平（1876－）。上塚植民地創設者。 ・梅谷光貞東京にて。アリアンサ移住地の創設者。海外移住組合連合会専務理事。移住地の選定購入にあたる。 ・加藤順之助リンスにて。通訳5人男の1人。ブラジル時報は11月12日午前5時リンス大福旅館にて死と報道。	
――― ――― ――― ―――	**刊行物**　★ブルーノ・ローボ著『祖先を忘れて－外国人を排撃す』 Esquecendo os antepassados：Combatendo os extrangeiros、1936年発刊。 ★モレイラ・ギマランエス著『極東にて』No extremo Oriente, o Japão の再版で初版は明治41年。 ★アリアンサ移住地十年史刊行会編『創設十年』信濃海外協会発行。 ★安藤全八訳『肉慾』後に絶版。戦後出たものはもぐり出版。	
1937（昭和12） 1－28	**初の1世弁護士** 木下正夫（36年ニテロイ法大卒）弁護士許可となる。1世コロニア人としては最初である。	
2－1	カンポス・ド・ジョルドン結核療養所開所。（前年11月8日落成式挙行。）	
2－10		83歳でマタラーゾ1世死。1854年3月9日イタリアで生まれ1882年渡伯。移民中の大成功者。
3－21	モンテ・ヴィデオ丸で最初のブラジル人日本留学生Luiz Antonio PimentelとMozart Varela、3月21日リオから出発。	
5－1	**準2世・2世青年の動き** 聖市学生連盟第1回修養会主催、毎月第1日曜、先輩有志を招待して開催の予定という。	
5－8	サンパウロ州（政府）移民誘入50周年記念博覧会がドン・ペードロ二世公園で開催。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	日本館は16コントの出費でささやかなものであったがレンタン、漆塗りのタマンコ（木製のサンダル）、タワシ等の出品で人気をよんだ。会期は3ヵ月。	
5－17	渡伯途上の移民香港で遭難。上陸用のランチ爆発28名死（移民24名）。尚、輸送船リオ・デ・ジャネイロ丸は6月28日サントスに着く。『発展史』上巻192p．又同年7月21日発行の時報紙の報道によると≪6月13日香港惨事の犠牲者16名中の6名の遺骨15日夕刻サントス着、17日同地共同墓地に埋葬≫。	
6－19	市毛孝三総領事のお声がかりで学生の『龍土会』生まれる。	
7－7		支那事変（中日戦争）勃発。
7－10	日本で「日南産業株式会社」設立。（ブラ拓の組織拡張の為）	
7－	Casa Bancaria Bratac 開店。（南米銀行の前身）	
7－18	外国語新聞雑誌発行取締規制が出る。	
―――	Casa Bancaria Kaiko 開店。（サンパウロ市）	
8－15	**日本人の南リオ・グランデ州への進出決定。** この日ウルグァイ河のサント・アントニオ港に第1陣到着、3家族？海興とダーネ・コンセイソン（Dahne Conceicão & Cia.）で契約入植したもの。翌年第2陣10家族入植。	
9－1	聖市法大に日本語講座開設、講師は古谷重綱。	
9－14	ブラジル中央日本人会設立 Centro Niponico do Brasil 会場は日本倶楽部。集会者37。『・・・難なく安産』とブラジル時報紙は報道したが・・・。	
9－18	**中央日会流産** “聖市日本人会”は“ブラジル中央日本人会”を認めず、と爆弾声明を発した。これは官選代表による日本人会だからとの理由である。かくて中央日本人会の設立は38年1月出直すことになる。	
9－28	北島弘毅（こうき）イグアッペ副郡長に郡役所から任命される。日系では初めて。	
10－	商社並びに工場の使用人はその3分の2をブラジル人となすべし、との法令が出る。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－4	在伯同胞の国防献金230コントを陸海軍省宛に送る。その後銃後婦人会、青年会等からも次々と送金があり、国防献金運動は同胞社会の大きな動きであった。	
10－5	バレリーナ若松慶子、移民としてサントス丸で着伯。	
11－10	クーデター後の、いわゆる新憲法にもり込まれた移民入国２分制限の規定は： －第151条－ 国の領土内における移民の入国、分配及び定着は法律の定むる要求及び条件に従うべし、但し、各国の移民流入は最近50年間にブラジル国内に定着したる当該国人の総数に対して毎年其の百分の二（２％）の限度を超ゆることを得ず。	ゼツリオ・バルガス独裁政権確立。
―――	14歳未満者に外国語教授禁止。 －外国人入国法第８章第85及び第87条－ 農村学校の教授はブラジル国語をもっておこない、14歳未満者に外国語の教授を禁じ、外国語印刷物の発行は其筋の許可を要す。	
3－ 6－	文　芸　・文芸誌『地平線』創刊。 ・島崎藤村、一部サンパウロで取材した作品「巡礼」を『改造』に発表。	
11－9	音　楽　・11、14、16日、テアトロ・ムニシパール（サンパウロ市立劇場）で藤原義江の独唱会がある。尚、12日は大正小学校で児童のため特別歌い、夜はリラ・クラブで講演会があった。13日はシルクロ・イタリアーノ（サンパウロ広場、現存せず）で在伯同胞の為特別歌う。17日はサントス、19日からリオ・デ・ジャネイロ。	
9－3	スポーツ・第２回全伯野球大会を聖市ポンテ・ペケーノ球場で挙行。３、４、６、７日で８日の決勝はアリアンサ対サンパウロでサンパウロ軍が勝つ。	
10－26	サンパウロ市アルモニアでテニスクラブ招待の南米オープン戦で、藤倉二郎優勝。南米の双璧（チリーのディックを一蹴、決勝戦でアルゼンチンのザッパ）を完封する快挙は在留同胞を栄誉に酔わせた。	
11－	野球審判協会が生まれる。会員は竹田仙造、木村威稜雄、高野富継、大坪愛児、吉田光雄、横沢太一、松隈悟等。 死　亡　・1/11　斉藤龍男42歳、プレジデンテ・プルデンテで。愛称たっちゃんはミカド・クラブの名ピッチャー、笹原憲次の好いパートナーであった。 ・6/25　前ブラジル大使有吉明（1876－）。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
2－5	[redacted] ★高岡専太郎著『ブラジルの家庭医書』互生会出版部から発行。農村の宝典であった。	
3－	★文芸誌『地平線』創刊。	
―――	★海興発行『日本移民概史』非売品、100頁ほどの小冊であるが貴重な資料である。	
8－	★安藤全八著『葡文典接続法解説』サンパウロ市協同社。	
8－1	★俳誌『南十字星』発刊、発行兼編集人は木村圭石。	
10－1	★『黎明』文教普及会の機関誌。編者は古野菊生、武本由夫。	
12－10	★大武和三郎著『葡和新辞典』。日本で最初のもので実に多くの移民がこれを利用した。	
―――	★娯楽雑誌『羅針盤』。発行者辻本登。２ヵ年位続く。	
1－27	ー[redacted]ー　ブラジル時報1292号に鈴木南樹の『五人男の思い出、４．平野運平君』が掲載されている。五人男の思い出は37年1月20日から38年3月31日まで13回掲載で完了。	
11－15	ブラジル時報創刊20周年記念号20－21の両頁には『桂植民地創設当時の事情』がでている。	
1938（昭和13） 1－27	リオ・デ・ジャネイロ市で日伯商業会議所発会。（創立総会は1月11日であった。）	
2－22	リンス中央日会からゼツリーナが独立し、“ゼツリーナ連合植民会”を組織する。	
3－17	**日本語教育の難関** 時報紙の報道によると外国語教授を禁じられた10歳以下（３年生以下）には読本を使用せぬ日語教授法を採用することにしたという。但し一つの試みに過ぎなかった。	
4－6	**初期養鶏** エメボイ農事訓練所に勧業部を通じて日本から取り寄せた白色レグホーン、プリモース・ロック、及びロード・アイランドが90％から96％の産卵率を示していると、この日のブラジル時報は報じる。実習場から訓練所に変わったエメボイは7月に閉鎖の予定で、その後はカシンギーに移る予定。	
5－4	**北パラナ、ピリアニット（現ウライー）の土地売出開始。** 所有者の『南米土地株式会社』の代表であった海興の中野巌と日伯産業会社代表矢崎節夫との間に契約成り、矢崎が主任となって売り出す。現地代表は渡辺萬次郎である。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－	**邦字紙日刊となる** 先ずこの月、聖州新報が日刊となり、7月には日伯新聞が8月23日にはブラジル時報も日刊となる。	
6－10	貴族院議員丸山鶴吉訪伯。	
7－11	海軍少将山本信次郎がカトリック国民使節として訪伯。滞聖は7月22日から8月11日まで、奥地はリンス、プロミッソン及びレジストロをまわる。日本人会主催聖市講演会は7月29日。9月8日ブラジルより北米へ向かう。	
7－18	エメボイ農事訓練所（実習場の部）最終卒業式。	
8－	**新移民法実施** 1930年の移民法に基づく改正新移民法は移民の文化上（教育上）の活動に更に大きな制限を加えた。	
9－3	ブラ拓鉱業部 Comp. de Mineração Brasileira Ltda. 設立。	
―――	1936年に発足した「ベレン野菜組合」が資本金500ミルで登録組合となった。	
9－4	第2回全伯青年雄弁大会がサンパウロ市サン・ジョアキン街のリラ・クラブ（現兵営）で午後6時半から。教育普及会及び4新聞社後援のもとに開かれる。	
9－13	ブラ拓商事部 Casa Bratac Ltda. 設立登記了。	
11－6	午後7時から聖市ガルボン・ブエノ街の聖州義塾で崎山比佐衛の講演があり、題は『アマゾンを語る』。	
11－12	天城篤治、臨時代理大使に就任。	
11－19	学連龍士会主催2世学徒の討論会『日本精神とは？』が午後8時から日本倶楽部で開かれる。	
―――	ブラジル陸軍工兵少佐 Jose de Lima Figueiredo 観戦武官として日本にあり、1年間、日本、中国及び満州を視察。	
―――	ブラジル人留学生ルイス・カナジオ及びクローヴィス・コレア・ガスパル渡日。	
―――	**日本からブラジル向けラジオ放送が開始される。**	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
―――	カシンギー農事試験場が、農事訓練所と同じ場所に設置される。これは拓務省の予算による日伯農事協会の経営であった。（戦後は一時コチア産組の総合運動場になっていたが、1970年1月6日運動場の売却と共にChacara　Pirajussaraと呼ばれたこの土地も消え去る。）	
―――	**音　楽**　アマチュア音楽団体イオリアン・クラブ結成。	
―――	三井物産会社の出張所Nipo- Brasileira Ltda. がリオ・デ・ジャネイロ市に設置される。	
―――	サンパウロ市に東洋棉花株式会社支社Algodoeira do Sulが現れる。尚、森商会の名で設立されたのは1937年で、この38年に南部棉花と改称、ついで南米棉花となる。戦後は1953年資産凍結解除と共に再出発。	
12－19	ブラ拓棉花部Algodoeira Bratac設立。	
12－22	文教（ブラジル日本人文教普及会）主催教育会議が開かれた。出席者60余名。	
12－25	**全日語学校の閉鎖** この日をもってブラジル全国の外国語学校、主として日・独・伊等の学校が全面的に閉鎖される。 ○この年におけるサンパウロ州の日本人学校数は294校、ドイツ系20校、イタリア系は8校であった。 ○尚、ブラジル時報紙には10月21日に予報として『運命の12月29日』を報道している。そして邦人小学校は476校、教員数554名（男468、女86名）、その中、有資格者は279名であった。	
	死　亡　・5/22　大原栄蔵（1893－）。実業家1912年渡伯。 ・6/30　木村貫一郎（1867－）。俳人、工学士、ペレイラ・バレット橋の設計及び工事を担当。	
5－	**刊行物**　★聖州新報日刊となる。7月には日伯が日刊となり8月23日からブラジル時報も日刊となる。	
10－	★短歌雑誌『椰子樹』創刊（1941年10月休刊、47年5月再刊）。	
11－1	★『産業のブラジル』創刊。月刊農業雑誌でブラジル拓殖組合によって刊行される。編集長八木橋豊。	
8－	★宮腰千葉太述『日本精神講話』	
12－20	★竹下増次郎編『在伯同胞活動実況大写真帖』竹下写真館。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
12－1 8－ －－－	★『文化』遠藤書店から創刊。総合雑誌で主幹は安藤潔（全八）。 ★歌集『移り来て』聖州新報社から。同社編集の『聖報歌壇』歌人の作品集。 ★チエテー自治会編『チエテー十年史』。	
－－－		この年からブラジル政府のラジオ放送「HORA DO BRASIL」が開始される。
1939（昭和14） 1－1	中西良介武官（陸軍大佐）教育問題に介入（ブラジル時報新年号）、問題を起こす。	
1－10	特命全権大使桑島主計（かずえ）着任。	
1－	聖市法科大学生を中心に**日伯文化研究会生まれる。**（この頃の法科大学とはサンフランシスコ広場のサンパウロ法科大学）	
1－20	サンパウロ銃後青年会では『軍用機』献納運動に新しい計画をたて2月11日から各日本人集団地を飛行機で運動促進の為訪問することに決定。	
2－17	サンパウロ市に貿易斡旋所が開設される。	
3－22	バンデイランテス産業組合が同志18名によってジュケリー（マイリポラン）に創立される。はじめの名はニッポ・ブラジレイラ農産組合。	
4－17	外国人登録がこの日リオで着手される。	
4－18	ブラジル人で最初の**日本語公証翻訳人誕生。**サンターナ・ド・カルモ、試験官は入江書記生と長谷川武。	
4－29	**日本病院落成式挙行。**　翌年9月24日開院式を行う。	
4－	総領事館関係の調査によると日本人諸団体数は日本人会、青年会、処女会等を合わせて260である。（職業団体は含まない）	
5－下旬	シネ・ロザリオで『五人の斥候兵』上映、入場料4,500レイス、7月3日から地方巡回、全サンパウロ州からマット・グロッソ州カンポグランデをまわる。巡回興行者は日伯シネマ社。	
5－	日伯新聞発刊停止。（1940年7月25日『ブラジル朝日』と改名して再刊）	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－6	北パラナー・マリンガーの日本人草分け田口虎夫、義則兄弟がこの地方の密林に最初の斧を入れる。	
5－20	リオの「ジョルナル・ド・ブラジル」紙が、アマゾンに於ける日本人のジュート栽培成功を大々的に報道。	
6－	東京帝大法学部教授法学博士田中耕太郎がブラジル日本文化協会の招請によって来伯。リオ及びサンパウロ市で学術講演をなし、ブラジル人に日本文化を紹介、帰国後は講演、寄稿或は著書によってブラジルを日本に紹介した。	
7－15	豪華船「あるぜんちな丸」南米航路につく。	
7－中旬	**ブラジルより引き揚げる帰国者多数。** (ナショナリズム旋風によって多くの同胞がブラジルを離れた。)	
―――	日伯新聞社主三浦鑿の国外追放決定（物故先駆者列伝－日本移民五十年祭委員会刊)。なお第1回目の追放は（1931年3月）途中解除。	
7－29	スポーツ・南部忠平「ぶえのすあいれす丸」で着伯。 （12月11日サントス出帆の、ぶえのす丸でアルゼンチンへ去る）	
9－1	1933年3月8日創立の『モジ出荷組合』が『モジ産業組合』として更正。（サンパウロ州中央線）	
9－3		第2次大戦はじまる。
9－29	“ニッポン号”が世界一周の途次、この日サンパウロのコンゴニアス空港に着く筈であったが曇天の為着陸できずサントスへまわる。同機は8月26日東京羽田を発った大阪毎日、東京日々新聞社の企画した国産機による世界一周飛行の途次ブラジルに飛来したもの。	
10－1	“ニッポン号”リオ着。同機搭乗の親善使節大原武夫は日伯中央協会会長徳川侯爵からヴァルガス大統領及びブラジル日本文化協会会長に宛てたメッセージ並びに神戸日伯協会長から同じく大統領に宛てたメッセージを委託されて、その伝達の使命を果たした。この神戸日伯協会からのメッセージは細字書家本間癡堂がコメ一粒に葡語をもって細書し、これを“ニッポン号”銀紙製模型（横30ミリ、縦42ミリ、高さ15ミリ）の胴に納めたものであった。	
11－5	芸　能　・サンパウロ市リラ・クラブ（サンジョアキン街）において邦楽公演会あり、主催者は日本音楽舞踊研究会。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
―――	雑誌『植民』A Colonização 創刊、主幹は進藤憲吉。発行者名義は Yukishigue Tamura. 外国語出版物取締法の為停刊となる。	
―――	**日本からラミーの苗を輸入** 海外興行株式会社社員松井丙吉、日本から新しいラミーの苗をもたらす。パラナ州ウライ方面で栽培が増えた。	
―――	この年のブラジル人訪日者は 医学博士 Paula Souza 教授, Alexander Conder が夫人及び２令嬢を同伴して訪日。日本各地及び朝鮮、満州、北支を視察。 サンパウロ法科大の Jose Soares de Melo 教授及び Djalma de Fonseca Hermes がそれぞれ夫人同伴で訪日。	
	死　亡　・1/20　中村直吉（1880 ―）。神戸日伯協会理事。 ・2/28　渡辺孝（1903 ―）。海興に勤め、後モジ組合の生みの親となる。 ・4/11　西原清東（さいばら・せいとう、1861 ―）米国テキサス州ウェブスターで。ブラジルにおける米作先駆者の１人。立憲政友会代議士、同志社々長などを勤めた。1917 年来伯。 ・5/22　安養寺顕三（1903 ―）京都にて。コロニア・スポーツ界の功労者、主として水泳を指導する。 ・11/11　中矢熊太郎。初代中矢商店主。(1888-1939) 1930 年、サンパウロ市近郊ビラ・カロンで醤油の醸造（日の出醤油）を開始した。 ・12/6　赤間重二（じうじ）、37 歳。サンパウロ女学院主。1930 年渡伯。北大水産科卒。日語小学校教師を勤めた後、夫人みちへの創立したサンパウロ裁縫女学院の経営に従事。	
6－1 2－17	刊行物　★輪湖俊午郎著『バウルー管内の邦人』。 ★雑誌『植民』創刊。 ★『伯国経済』創刊号。日伯新聞社経済調査部。	
1940（昭和15） 1－16	田村幸重（後の連邦代議士）ら法大生の卒業式が午後９時からサンパウロ市立劇場で催される。	
1－17	海外教育功労者 31 名に帝国教育会からの表彰状及び記念品（銀盃）伝達式。（於サンパウロ総領事館）	
1－18	―24 日までリンス市で文教普及会主催の教育指導員講習会を催す。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
2－21	豪華船「ぶらじる丸」この日リオ入港、「あるぜんちな丸」の姉妹船で従来のジーゼル船が45日を費やした日伯間を35日の航海に短縮。	
3－11	サンパウロ法科及び医科大学生22名より成る日本文化見学団訪日。団長は日伯文化研究会会長、ブラジル柔剣道連盟会長、サンパウロ貿易斡旋所顧問弁護士の肩書を有するマリオ・ボテーリョ・デ・ミランダ。 日系では唯一人山城ジョゼーが参加。日本内地・満州・朝鮮を2ヵ月余りにわたって視察。	
4－	新生の聖市日本人会会長に蜂谷専一が推される。	
―――	画家大橋了介夫妻来伯。エレナ夫人はオスカール・ペレイラ・ダ・シルヴァの娘。	
7－25	旧日伯新聞『ブラジル朝日』と改称して発刊。	
8－15	南米銀行（カーザ・バンカリア・ブラタクから銀行（BANCO）に昇格）設立。この日認可になり開店は南米銀行の名称で10月となる。	
8－16	サンパウロ市に日本商業会議所設立 Cámara de Comércio Japonesa この日創立総会。但し8月12日からジョン・メンデス広場154番5階で事務が開始されていた。役員は会頭蜂谷専一、副会頭後藤武夫、専務理事渡辺儀平、会計理事杉本芳之助、理事羽瀬良作、梅田久吉、菅山鷲造、中野巌、欠田豊次郎、、書記長中西周甫、書記斉藤広志。	
8－29	この日から4日間シネ・ロザリオで『白蘭の歌』上映。	
9－24	日本病院開院式。	
9－27	臨時代理大使に工藤忠夫就任。	
―――		ベルリンで日独伊の3国同盟調印される。
10－1	サンパウロ市の**南米銀行営業開始。**	サンパウロ市の人口が400万を超えたと葡字紙報道。
11－10	**紀元2600年祭挙行** 総領事官邸では祝賀式が挙行され午前9時から在留民約300人が参加。この日は日曜日でゼツリオ・ヴァルガス政権樹立10周年記念日でもあった。日本では帰朝中の蜂谷吾輔に叙勲あり、勲六等瑞宝章。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－22	東京朝日リオ特派員荒垣秀雄訪聖、10日間滞在の予定。	
―――	詩人 Claudio de Souza 夫人同伴訪日。	
12－5	この日から20日までサンパウロ市で大橋了介絵画個展開催。	
1－	スポーツ　・紀元2600年記念第11回明治神宮体育大会に2世を含んだブラジル日本人陸上競技代表6名が監督井上清一に率いられて参加、代表選手6名は島田二郎、峰定美、石田登、小田幸太郎、玉置清、松原宗高。	
4－27	・パカエンブーの市立競技場落成。	
―――	・水泳家、斉藤巍洋初航のぶらじる丸で再渡伯。	
	死亡　・3/14　中村ドミンゴス長八神父（1865－）アルヴァレス・マッシャードにて。1923年8月25日サントス着。 ・6/1　田中三次、救世軍大尉。	
1－	刊行物　★江見清鷹著『在伯邦人社会の文化及び経済諸相』発行。	
3－15	★岸本次男『断』発行につき、この日、購読者募集の広告を時報紙に出す。戦後1947年再刊、断続的に発行。	
8－25	★『在伯邦人職員録』日伯情報社。	
9－12	★安藤全八（潔）著『ブラジル史』発行。	
―――	★小野真禅著『ブラジルに於ける第一線に活躍する人々』上巻。下巻は未発刊。	
10－20	★『自然』Natura 第1号が栗原自然科学研究所から出る。	
1941（昭和16） 1－7	日系4人サンパウロ法大卒。平田進、高畠清、芳賀定一、芳賀芳子。	
2－	外国人登録をしないものは一切の商行為を禁じられる。	
3－19	在クリチーバ（パラナ州）帝国領事館開設。初代領事は小峰俊一（19日着、26日就任）。	
4－	ブラ拓製糸株式会社設立。本社サンパウロ市、工場バストス市。	
6－29	『全伯産業組合青年連盟』略称『産青連』結成。第4回農村中堅青年講習会（サンパウロ市）の終了後。	
7－末	**邦字紙停刊** ・聖州新報廃刊（アジア人はアジアへ帰ろ！の告別の辞あり）。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－31	・伯剌西爾時報廃刊（これまでブラジル時報と記述されてきた）。この月『本日限り』の社告をあげて停刊。	
―――	・日本新聞、廃刊。	
―――	・ブラジル朝日（旧日伯新聞）ポ語だけとなり、12月下旬停刊を命じられる。	
―――	パラー州カスタニャールの佐藤信市（東京農大卒）がアマゾン流域で最初の近代的養鶏を成功させた。	
8－29	30、31の3日間全伯野球大会がサンパウロ市サント・アマーロ線カンポ・ベーロ東山球場で開催、戦前最後の大会となる。	
12－初旬	日本から郵便物が最後のものとしてまとまってサンパウロ市に着く。	
―――	今井商会創立（社長は今井繁義、福岡県人、1926年河内丸着伯）。	
12－7	**芸能**　・聖市サン・ジョアキン街のリラクラブで日本音楽演奏会が催される。これが戦前最後の公演で以後4年間中止となる。	
12－8		**太平洋戦争（～1945）はじまる。**（ブラジルでは7日）
6－20	**スポーツ**　・サンパウロ運動クラブ誕生。（邦人体協サンパウロ・スポーツ連盟支部として）	
	死　亡　・7/24　崎山比左衛（1875－）アマゾナス州マウエスにて。海外植民学校長。 ・11/28　前田光世（1880－）コンデ・コマ（高麗伯爵）のアダ名あり。アマゾン開拓の世話役。柔道家。	
1－20	**刊行物**　★輪湖俊午郎著『流転の跡』出版（移民初期人物の点描あり）。	
1－27	★『平野二十五周年史』平野植民地日本人会。	
8－30	★鈴木貞次郎著『埋もれ行く拓人の足跡』初版。	
9－30	★『パ延長線教育史』パ延長線教育史刊行会。	
12－20	★『ブラジルに於ける日本人発展史』上巻、外務省アメリカ局から発行（非売品）本年表には『発展史上巻』と略記。	
12－	★"Diretrizes" 79号、社長Samuel Weinerが編集した『サンパウロ州における日本語教育の実況報告』が発表される。	
1942（昭和17） 1－15		この日から27日までリオ・デ・ジャネイロ汎米会議開催。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－19	**サンパウロ州保安局、敵性国民に対する取締令を公布告示。** 内容は自国語で記されたものの頒布、公衆の場での自国語の使用、保安局発給の通行許可証（Salvo Conducto）なしの旅行又保安局に予告無しの転居等々の禁止。	
1－29	**国交断絶・在外公館閉鎖。** 15日～27日に亘り、リオ、デ、ジャネイロに於いて汎米外相会議開催。アルゼンチンを除く参加10ヵ国が対枢軸国経済断交を決議。ブラジル政府は29日、枢軸国と国交断絶。在リオ日本大使館・在サンパウロ総領事館等、在外公館が閉鎖されると共に日独伊3国人に対する取締り強化される。	
2－2	サンパウロ市内の日本人集中地域コンデ・デ・サルゼーダス街界隈から治安上の理由で**第1次立ち退き命令発令**される。	
2－11	敵性国資産に対する**資産凍結令発令**。枢軸国の資産は種々の束縛・制限が加えられることになった。屋外で枢軸国語の使用が禁じられる。	
2－15		シンガポール、日本軍によって陥落。
―――	この頃から第5列論が新聞に出はじめる。多くの日本人が『5列部隊』Quinta Coluna と呼ばれ、スパイ視される。	
2－26		ブラジルの船舶2隻がドイツ潜水艦に沈められたと新聞報道。
4－	笹谷・上野商会のはじめ Maquina Bandeirantes が北パラナ、バンテイランテス市に設立。	
4－18	米空軍によって日本初空襲される。移民同胞はこのことを禁止されている日本からの放送を聴取して知ったが、『不可能な現象』として信じなかった。	
6－3	スパイ嫌疑で警察に拘引される邦人が次第に多くなり、これらの人に対する救済対策として、渡辺マルガリーダ夫人を実行委員長とするサンパウロ・カトリック**日本人救済会が生まれる**。同会は1953年5月名称を『救済会』と改める。	
6－4		ミッドウェー海戦はじまる（日本敗戦の序曲）。
7－3	**日本政府代表引き揚げ。** 国外退去を命じられた石射猪太郎大使、原馨総領事等日本政府代表、その他北米から帰国する野村大使・栗栖特派大使など1,600名を乗せた交換船（中立国スウェーデン籍）「グリップスホルム（Gripsholm）」号リオ・デ・ジャネイロ港を出港。以後日本人の権益はスペイ	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	ン大使館（後にスウェーデン公使館）が代行処理。日本政府代表の引揚げにより取り残された移民の間には棄民意識が顕在化した。	
8－15		ブラジルの船舶がナタール沖で２～３日間に５隻もドイツ海軍に沈められたため、サンパウロ市プラッサ・ダ・セーでは反枢軸デモ演説会が開かれ、20 万人が参集。
8－18	ベレン沖でブラジル商船撃沈されるに及び、ベレン市民はその報復手段として、枢軸国民の家屋を破壊・放火。特に目立ちやすい日系人の被害甚大。政府はこれをきっかけに監視の目的を兼ね、枢軸人を「陸の孤島」日本移民移住地「アカラ植民地」（現トメアスー植民地）に隔離収容した。	
8－22		ブラジル対独伊宣戦布告。ブラジルの船舶、近海に於いてドイツ潜水艦に相次いで撃沈されるに及び、政府は独伊に対し、宣戦を布告。
9－6	サンパウロ市のコンデ街界隈の日本人家族に対し、10 日間の期限付きで**２度目の立退き命令発令**され、戦前から続いた日本人集中地コンデ街界隈は消滅。	
9－18	サンパウロ・スペイン総領事館内に日本人権益部が設けられ森田芳一（後に勝ち組による暗殺の対象の１人となる）その係となる。	
	死　亡　・5/8　古閑徳弥（1902 －）海南島沖で。元チエテー移住地支配人。 ・12/3　多羅間鉄輔（1879 －）リンス駅タラマ農場の自宅で。	
9－1	刊行物　★日本で『ブラジルに於ける日本人発展史』下巻完成。発行は1953 年 10 月５日。	
1943（昭和 18） －－－	この頃より警察へ拘引される者あとを断たず。移民の心理は動揺し、日本軍によるアジア占領地への再移住論が盛んに流布されるようになる。	マカパー、リオ・ブランコ、グワポレー、ポンタ・ポラン、イグァスーなどが連邦直轄領として独立した。
－－－	スポーツなどの集合は時には大目に見られ、時には厳しく取り締まられる。	
5－27	日系商社メンペル社（Comercio Representações Memper Ltda.）サンパウロ市に設置される。ハッカ、コーヒー、棉花の買付・精製各部門が州内各地に設けられる。	

年　号	移民史・日系社会史	関連事項
5－30	一方この頃よりハッカ、薄荷の生産はアメリカに輸出され軍需資材として利用されるものであり、従って日本人にしてこれらの生産に携わるものは利敵行為に繋がる非国民との宣伝が日本人間に密かに流布される。	アッツ島日本軍守備隊全滅のニュースあり、日本軍の初めての敗戦であったが大多数の移民同胞は無感動で過ごす。
7－8	**海岸地方在住者に立退き命令** ブラジル及びアメリカの貨物船5隻がサントス出港後まもなく、ドイツ潜水艦に撃沈されたところから、海岸地方在住枢軸人のスパイ行為による連絡の結果と見られ、同地方居住枢軸人に対し24時間の期限をもって立退き命令発令される。サンパウロ移民収容所に一旦収容されたこれら枢軸人は、親戚知人などを頼って各地に落ち延びた。	
7－	一方、この頃海岸地方からの立退きは日本政府の指令による戦略的なもの、又、**件子（くだんご＝人＋牛）が生まれ**、枢軸側の大勝利を予言して死んだなどの噂が移民同胞間に伝わる。くだんごは人頭牛身の生き物で、何か大きな事件の起こる前に生まれて予言するという言い伝えがあった。後の勝ち組の論理の芽生えが既にここにあった。	
8－9		イタリアのムッソリーニ・ファシスト政権連合軍に敗れ、イタリア降伏。
10－	日系資本の工場・商社・農場・銀行などで敵性資産として「清算」の処分になるもの続出。	
11－26		連合軍首脳によるテヘラン会談始まる。枢軸国敗戦後の処分につき協議される。
	死亡 ・2/16　青柳郁太郎（1865－）東京にて。イグアッペ植民地の創設者。海興支店長、同重役、同仁会初代理事長。 ・7/14　坂井田善吉（南舟）54才。南米新報発行者主筆。 ・8/　福原八郎（1874－）。南米拓殖株式会社社長、トメアスー植民地創設者。 ・9/22　山根寛一（1889－）。1913年若狭丸で渡伯。上塚植民地造成の協力者。	
1944（昭和19） 2－23	トラック島の戦いで日本軍が多大の犠牲を払ったと日本からのラジオ・ニュースが入る。また参謀本部首脳達の更迭が伝えられる。『決戦を前にしての戦略的処置だ』との説も流れ、移民同胞は皆強がりを言っていたが、何となく日本の前途に不安を感じ出した。	
4－	既成組織を失い、空白となった移民社会には閉鎖された不安な精神状況の中で種々なデマが発生流布される。その中でハッカ、薄荷生産は非愛国的敵性産業であるという流言飛語のも	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	とに、移民のハッカ精製工場・養蚕小屋の破壊・焼き打ち事件がこの頃より各地に発生。「天誅組」、「青年愛国運動」と称する秘密組織などがその実行団体と伝えられる。戦後のカチ、マケの相克は既にこの頃より始まった。	
6－22		日米海戦のニュースあり。新聞にはアメリカ軍大勝が報じられると共に、日本からのニュースは日本軍の勝利を大々的に伝える。事実は日本軍の大敗であった。
7－18		太平洋戦開戦時の東条内閣総辞職。小磯後継内閣成立。
7－21		ドイツではヒトラー暗殺未遂。
9－	多くの移民同胞が次々と警察に拘引される。	
	死亡　・2/23　大武和三郎（1872－）日本で。72歳。葡和・和葡辞典の著者。 ・-/　斉藤巍洋（1903－）フィリピンで。戦前ブラジル海軍の水泳コーチであった。	
1945（昭和20） 4－18		ブラジル政府は政治犯を特赦。民主化の動き盛んとなる。
5－2		ヒトラーの戦死或は自殺の報伝わる。ベルリン陥落を祝う花火が夜に響きわたる。
5－7		ナチス・ドイツ降伏。 ドイツの降伏により、この日より枢軸国民は旅行許可証（Salvo Conduto）の必要無しの旅行可となる。
6－6	**ブラジル政府、日本に宣戦布告** ヨーロッパには平和が戻り、ブラジル国内でも戦争気分は下火となったが、ブラジル政府は汎アメリカ諸国会議での大陸諸国間の共同防衛の連帯義務の再確認決定に基づき、日本に対	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	して宣戦を布告。然し、移民同胞はこれを全然知らずに過ごした。	
7－27		新聞はこぞってチャーチル英首相、トルーマン米大統領、蒋介石中国主席が日本政府に対し、前日ポツダムにおいて日本国の無条件降伏を勧告した旨を報じる。
8－6		夕刊にアメリカ軍による**ヒロシマへの原爆投下**のニュース。翌7日朝刊は一斉に原爆特集。日本からのラジオ・ニュースは「被害目下調査中、新型の爆弾ならん・・・」と報じたのみ。
8－9		ソ連が協定を破り日本に宣戦布告。
8－10		長崎へも原爆投下の報伝わる。
8－14	**日本降伏** 青天のへきれきの如く日本降伏の報、移民社会に伝わる。翌15日降伏文書はポ語各紙にも掲載されたが、移民同胞間にはこの日既に「降伏はデマ・ニュース。実は日本の大勝利」の報が流布される。以後日本戦勝のニュースは連日各地に伝わり、多くの移民同胞は日本勝利を信じるに至る。	
8－19	Diário de S. Paulo 紙が日本人商店及びホテルの探訪記事を出す。既に日本大勝利のデマが飛んでいるらしく、皆返事をそらしている。『日本の天皇陛下のおはじめになったことに誤りはありません』と断言するものもあった。	
8－22		タイム誌、日本降伏特集号を出す。表紙は日の丸の旗に大きな×印。
9－23	**カチ組団体活発化** 日本戦勝を信じる者ますます多くなり、各地に戦勝団体続々と結成される。中でも戦時中、既に秘密裡に組織を持ち、敵性産業撲滅に暗躍し、終戦直前の7月「臣道連盟」と改名した一団は、この月23日本部をサンパウロ市ジャバクワラ区パラカツ街98番に堂々と構え、地方に対しても積極的な組織作りに乗り出し、数ヵ月を出ずして家族数2万、総人員10万を	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	擁する一大組織を構成した。この月これらの戦勝を信じる者達は、日本から邦人慰問使節団・軍事使節団を乗せた軍艦がサントスに入港するとのニュースを信じ、歓迎の為各地から日の丸の旗を持って２千余名がサンパウロ市におしかけた。街頭を激しく往来する日本人の異様な動きに驚き、警察当局は治安を理由に、26 日、日本人同志でこの状態を鎮静するよう警告を発令するに至った。	
―――	アマゾン方面では、この年にジュートが6,882 トン生産され、又トメアスーでは胡椒が３万本となっていた。	
10－3	**時局認識運動動き出す** リオ在万国赤十字社ブラジル支部を通じ、日本より初めて正式に終戦の詔書及び海外同胞に対する外務大臣メッセージ到着。サンパウロ市在住邦人有力者により、10 日、地方から集まった300 名に対し終戦事情を説明。これを機会に時局認識運動を実施することとし、主要邦人集団地を訪ね直接詔書伝達と事情説明を行うこととしたが、時既に遅く地方はほとんどカチ組によって支配されており、これにより敗戦を認めようとする者は無かったばかりでなく、敗戦を口にする者を非愛国者として、その撲滅の為のテロ暗殺事件へとエスカレートしていくこととなった。	
11－22	**死　亡**　・1/15　野村徳七（1878 －）。パラナ州バンデイランテス在の野村農場主。元貴族院議員。野村財閥当主。 ・10/26　三浦鑿（1881 －）。元日伯新聞社長。日本で戦中投獄されており、終戦直後出獄を許されたが栄養失調の為。 ・10/31　堀口九万一（1865 －）。元ブラジル公使。 ・－/　市毛孝三（1894 －）フィリピンにて。月日不祥。元サンパウロ総領事。 ・－/　勝田正道（1890 －）。アリアンサ移住地。保健衛生担当医師。1938 年アラサツーバに移転。	レバノン独立。
1946（昭和21） 1－31		ゼツリオ独裁体勢の終焉。ドゥトラ将軍が大統領に就任。
3－7	**カチ組によるテロ暗殺遂に勃発。** 最初の犠牲者として、パストス産業組合専務理事溝部幾太が午後11 時頃、自宅にて暗殺される。	
3－16	サンパウロ在アメリカ総領事館の斡旋で認識運動有志のところへ日本の新聞70 部が届けられ直ちに各方面に配布。	
3－	トメアスー植民地活性化のため「アカラ農民同志会」が結成された。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－1	早暁、サンパウロ在住元日伯新聞編集長、元文教普及会事務長野村忠三郎、ジャバクワラの自宅で屋内に侵入したカチ組「臣道連盟」の一団によって射殺される。同日サンパウロ在住終戦事情伝達趣意書署名者の1人、元駐アルゼンチン公使古谷重綱もアクリマソンの自宅で同団の襲撃を受けたが危うく暗殺を免れた。続いて4～5月と地方に於いて敗戦認識運動に挺身していた者達が、各地で連続的に襲撃され重軽傷を負うか死亡する者が続出した。	
4－16	ジアリオ・ダ・ノイテ（サンパウロ市夕刊）紙上に臣道聯盟綱領なるものが発表される。	
4－	宮腰千葉太（終戦伝達趣意書署名者）を中心とした有志等「情報」を発行。（9月まで継続）。コチア産業組合より「週報」刊行（12月まで20号を発行）。これらは中絶している邦字新聞に替わる役目を果したもの。両者とも邦文タイプの印刷で1～3千部程度。尚、認識運動の為各地の個人又は団体の手で出されたパンフレット刊行物は20程あった。	
5－30	吉田茂外相の名で、日本政府から在伯同胞宛の終戦に関する電報と勅語がスエーデン公使館に届く。	
6－2	夜、終戦伝達趣意書の署名者の1人、元日伯産業組合中央会理事長兼バストス産業組合理事長の退役陸軍大佐脇山甚作、サンパウロ市ボスケ区の自宅で臣道聯盟特攻隊員4名によって殺害される。	
6－15	蜂谷専一宅でサンパウロ市在住文化人が集まって懇談会を催す。約20名集合。これが土曜会に発展し又機関誌「時代」も1947年1月から出版された。	
7－2		イタリア共和制宣言。
7－	終戦1年目を迎えようとするこの月、ノロエステ、パウリスタなどサンパウロ奥地の日系集団各地にカチ組による傷害・暗殺・爆破事件が疾風のように広がって行った。同月のみで襲撃・傷害64、殺害事件数は11件に達した。	
7－19	**カチ組への説得無効** テロ事件発生と同時にブラジルの新聞は連日「シンドー」による攻撃・殺害事件を大々的に取り上げて来たが、これを憂慮したマッセード・ソアーレス・サンパウロ州執政官は事態の平静化を計ろうと試み、州政庁に狂信的カチ組分子代表5～600名を各地から招き、各関係者立会いのもとに日本全面降伏の経過を説明。ブラジルの法を守り、秩序と平静をたもち、ブラジル発展の為に生産に励んでもらいたい旨を告げたが参集者はこれを聞き入れようとはしなかった。ブラジルの日刊紙は激昂しこれをきっかけに一般市民の排日気運は一層高まった。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－30	**オズヴァルド・クルース（サンパウロ州パウリスタ線）事件発生** 一日系人とブラジル人トラック運転手との口喧嘩から運転手が刺殺されるに及び、それまでに既に起こっていた臣道聯盟員によるマケ組に対する家屋爆破、放火事件に怒りを感じていた一般市民の感情はついに爆発し、「シンドーを殺せ、日本人をやっつけろ！」の叫びとなり、7月30日から8月2日の4日間に渡る騒擾事件となった。	
8－	終戦1年目。地方で波乱続き、臣道聯盟特攻隊、決死隊と称する者のマケ組に対するテロ攻撃事件続発。この月事件数は10件、内4人のマケ組の者、殺害される。	
8－27	**カチ組テロ事件、憲法審議会に反映。** ドゥートラが新大統領に選出されるとともに、新憲法制定議会も開催され審議が行われて来たが、時あたかもカチ組によるテロ事件と期を一にしたため反日本移民の空気は日毎に高まり、新憲法の1条に「年齢及び出身地の如何を問わず、日本移民の入国を一切禁止する。」の条項を盛り込む議案が提出されており、同日その可否について審議会本会議に於いて激しい論戦が展開された。長時間に渡る論議の上の票決結果は賛成99票、反対99票であった。議長は反対に1票を入れ同案は危うく否決された。	
9－18		**1946年のブラジル新憲法公布。**
10－12	**「サンパウロ新聞」創刊**－新憲法公布により外国語新聞の刊行可能となり、邦字新聞刊行の第1号となる。続いて年内に「南米時事」（12月23日）、「伯剌西爾時報」も復刊。	
11－3		**日本国新憲法公布。**
	死亡　・3/7　溝部幾多。（本欄参照） ・4/1　野村忠三郎。（　〃　） ・6/2　脇山甚作。（　〃　） ・10/27　平生釟三郎。（1866－）実業家、元文部大臣、枢密顧問官、訪伯経済使節団長。日南産業（ブラ拓）取締役社長。 刊行物　★『サンパウロ新聞』『南米時事』の刊行。 ★『伯剌西爾時報』復刊。 ★認識運動のパンフレットとして『降伏時の真相』（非売品「毎日新聞」より転載。）邇報同人編が刊行される。 ★W.プライス『大アマゾン旅行記』大陸書房。	
1947（昭和22） 1－1	時局認識を標榜して**「パウリスタ新聞」が刊行される。**	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－6	**最後のテロ暗殺事件。** 前年７～８月の事件多発をピークとして、各地とも治安当局の追求が厳しくなるとともに、マケ組認識運動者は警察と協力、自警団組織を作り警戒体制を整えて来た為、テロ行為は減少したが、同日サンパウロ市内アクリマソン区で鈴木正司が２人のテロに襲撃され、殺害された。鈴木は森田芳一（スウェーデン領事館日本人権益部員）の義弟で、森田と誤認、射殺されたものであった。 この鈴木殺害を最後にテロ事件は終結したが、この１年、カチ、マケをめぐって起こされた事件は100件を超え、内殺害による犠牲者数は23人、その殆どはカチ組によるマケ組認識運動者の暗殺事件であった。暗殺テロ団は臣道聯盟員であった者が多かったところから、これらの事件は一般に「臣道聯盟事件」と呼ばれる。	
1－19	戦後初めての州知事並びに州議会議員の選挙、聖市で日系２名が立候補、その１人はカトリック民主党の田村幸重（たむら・ゆきしげ）、他は伯国労働党の原田啓二。３月10日結果判明、田村は僅かの差で落選。原田は選挙裁判所に候補登録が無かったため失格。	
3－29	救援会誕生。有志18名。元海外興業株式会社支店長宮腰千葉太宅に集まって、母国戦災者の救援運動をはじめる為の組織を作ることになった。この会合によって決定したことは、ブラジル赤十字社の許可のもとにリオに本部を置き、サンパウロを支部とする団体「日本戦災同胞救援会」を作ること、この団体の活動によって集まった金で日本へ救援物資を送ることであった。 会のブラジル名は≪ Comite de Socorro da Vitima da Guerra do Japão ≫である。	
4－16	救援会活動開始。	
5－10	サンパウロ及びその付近に於ける日系農業者のジャガイモ生産量は州全体60％と伯国農村協会が発表。	
6－15	沖縄救援会　Sub-Comite de Socorro ao Japão － Seção Okinawa が生まれる。本部は R.Ceres, 21 S. Paulo.	
7－27	ウーゴ・ラッサール Hugo Lasalle 神父「戦後の日本」という題でサンパウロ市コレジオ・サン・ルイスの講堂で講演。法王庁の命で勝ち組・負け組の争いを調停する使命をおびて来伯。広島原爆の体験を語る。	
8－	森ジョージ個展リオで開催。ジョージは14才の少年である為、偽作説も出たので会場で自画像を書き、偽作説を覆す。	
8－1	フォーリャ・ダ・マニャン紙は伯国農村協会発表として在聖州日本移民の農業生産量をあ	サンパウロ市の電車賃が20

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	げているが、それによるとコーヒーはブラジル生産総高の20%、棉花は35%、米は26%である。	センターボから一足飛びに50センターボになり、バスは一区50センターボが1クルゼイロとなり、抗議の焼き打ち事件が起こる。電車が市営になっての直後である。
―――	アカラ産業組合をトメアスー組合と改称し、又植民地名もトメアスー植民地とした。この年から胡椒売上が急増してきた。	
11－13	**ブラジル棋院**　Associação Brasileira de Go **創立**。サンパウロ市に。	
1－28	**スポーツ**・パウリスタ球連誕生。	
3－30	**美　術**・戦後の聖美会（サンパウロ美術研究会）再開。毎月最終日曜日を集会日と決める。	
―――	**芸　能**・舞踊家若松慶子（本名大巻儀子）サンパウロ市立劇場で舞踊の初公演。	
6－23	**死　亡**・井上雅二（1876－）。元海外興業株式会社社長。	
1－ ―――	**刊行物**★サンパウロ市で同人雑誌『時代』創刊。 ★サンパウロ市で勝組の雑誌『光輝』が草野、乾、豊富発場等によって創刊。後『輝号』となって1949年草野等が続刊した。『輝号』は昭和24年3月15日認可登録済とあるから（第1巻9号は11月号となっている）1949年3月創刊である。サンパウロ市。	
―――	★『断』が岸本次男によって再刊される。勝組を読者とする雑誌だが日本の勝利を表面に出さなかった。サンパウロ市。	
1－1 6－	★パウリスタ新聞創刊。 ★『子供の友』創刊。	
1948（昭和23） 1－	2世の政界進出 田村幸重サンパウロ市（郡）会議員に補欠から繰上げ“就任”。	
1－	2世の杉本クララ、戦後日本からのブラジル帰国第1号となる。	
2－18	リオ市に山県建設会社創立（1954年に株式会社に変更）。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－	月刊雑誌「よみもの」創刊。パウリスタ新聞社系の「よみもの」社が創立され、同社から創刊号が出る。	
5－1	ジュケリー（サンパウロ州）入植35年祭挙行。	
8－15	サンパウロ中央市場（カンタレイラ時代）に働く人々によって“はづき（葉月）の友”の会が生まれる。相互の親睦、教育の向上、母国救援の活動をめざし、頼母子講を設ける。	
―――	トメアスー組合は約40トンの胡椒を出荷し、4500コントを売り上げた。	
3－	音楽　・丸山昌彦主催のオーケストラ“クリスタール・バンド”がリベルダーデ街セントロ・プロフェッソラード（もとの日本倶楽部）で第1回演奏会を催す。	
2－	美術　・サンパウロ市レプブリカ公園に面したドームス画廊で鈴木威絵画展。	
4－	・ドームス画廊で高岡由也絵画展。（サンパウロ市）	
4－	・グルーポ・キンゼ（Grupo15）の共同アトリエがオンゼ・デ・アゴスト街の2階に開かれる。（サンパウロ市）	
6－	・ドームス画廊（サンパウロ市）で半田知雄絵画展。	
6－	・リオ市文部省ホール上永井正絵画展。	
7－	スポーツ　・第1回全伯少年野球大会（1° Torneio Infantil de Base Ball）がサンパウロ市ビニェイロス区チグレス球場で挙行。サンパウロ、バストス、リンス、アララクワラ、ウライー、コペルコチアの6チーム参加。出場選手の年齢違反が発見され事実上この第1回は大会自体が抹消された。	
11－	・新球場生まれバジリア球場と称す。	
1－	刊行物　★短歌誌『椰子樹』再刊。	
3－	★『よみもの』創刊。（サンパウロ市）	
10－	★『木陰』（俳誌）創刊。（同上）	
11－	★『新世紀』創刊。（同上）。主幹は酒井繁一。1、2、3、号に鈴木南樹の星名謙一郎伝あり。	
	★勝組雑誌『至誠』創刊。	
	★『民草』マット・グロッソ州カンポ・グランデ市から出る。勝組の機関紙、主幹は朝日勲。（永続せず）	
	★ブラジル俳句集（200名集）。	
1949（昭和24） 1－1	**日伯毎日新聞創刊**（サンパウロ市）。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－13	サンパウロ州中央線タウバテーに日蓮宗寺院落成。	
1－15	リンス市で汎ノロエステ農談会開催。	
1－16	伯国柔道段位を日本講道館で公認を通告。	
1－22	ピラチニンガ写真同好会主催第１回写真展がコチア産組サロンで開催。	
1－24	イタケーラ（聖市近郊）初の桃祭り。	
2－20	第１回全伯短歌大会（サンパウロ市で）	
3－13	サンパウロ州新制郡（市）の郡議選挙に日系郡（市）議数名当選。	
3－15	勝組雑誌「輝号」認可登録済となる。この月第１巻第１号発行。発行所はピリツーバ街58番V.Mariana S.P.　４ヵ年位続く。	
3－26	サンパウロ学生会（後アルモニア寮を建設）発足。この日、木下正夫弁護士を招いて法人組織について検討。	
5－1	「大地」 Terra 創刊。農村を対象とした雑誌で創刊号は88p. 編集は古野菊生。出費者はブラ拓。R.Bueno de Andrade,91.S.Paulo. １年ほどで廃刊。	
5－20	日本貿易使節団着伯。	
5－22	第１回ノロエステ俳句大会。	
5－29	日本貿易使節団講演会、聴衆2,000名が参集した。	
6－2	日系画家15人展開く。サンパウロ市グァナバラ広場、福島近のアトリエ。（第２回よりブラジル人画家を含め、「グルーポ・グァナバラ」と呼称。）	
6－3	日伯貿易支払い協定成る。	
6－4	北パラナ愛土農会ロンドリーナに発足。	
6－8	戦後第１回訪日団出発。太田龍二、森田芳一等総勢８名。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－16	バストス（サンパウロ州）入植20周年祭挙行。	
7－1	**文化振興会発足** 「文化研究会」「文化研究所」など名称を考えていたが「コロニア文化振興会」と決まり活動開始。日本語夜学もやり出す。会場はイルマンシンプリシアーナ街（実はジョン・メンデス広場であるが）で元海興事務所のあったところ。2階（Sobrado）で「よみもの」社と隣り合わせた。夜学継続は1949年一杯。振興会員の集会は殆ど山本邸でおこなわれたが、蜂谷邸でやったこともある。メンバーは山本喜誉司、高岡専太郎。蜂谷専一、アンドウ・ゼンパチ、半田知雄、鈴木悌一（法律顧問）。この会は中央連絡機関設置運動からサンパウロ文化協会の設立が具体化するとともに発展的に解消した。	
7－3	第3回パウリスタ紙読者俳句大会をサンパウロ市で開催。	
7－31	エスペランサ婦人会発会（1973年の会員名簿による。）	
9－	クリチーバ（パラナ州）日本人会創立。	
9－	アカラ農民同志会が全ての業務をトメアスー組合に移管して解散した。	
9－18	クリチーバ学生連盟創立。	
9－18	聖母婦人会が結成される。会長渡辺マルガリーダ。副会長藤原咲子、佐藤初江。（サンパウロ市）	
9－	田中重人絵画展。	
10－1		中華人民共和国成立。
10－2	戦争中閉鎖されていたリンス青年会館還付の報あり。（リンス市）	
11－12	**第1回花卉展覧会**（サンパウロ市で開催）。	
11－18	臣連関係者百余名に国外追放令が出る。（但し実施されず）	
11－24	イタケーラ（聖市近郊）桃祭り。	
12－	大橋良介の遺作展がサンパウロ市立劇場のサロンで開かれた大橋エレーナ未亡人は神戸市長のメッセージと京人形を聖市市長に伝達。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
12－31		ガゼッタ紙主催サン・シルヴェストレ競走に世界各国の選手が参加国際競技大会となる。
1－16	スポーツ　・伯国柔道段位を日本講道館で公認。	
4－16	・北パラナ招待陸上競技で、パストスの中島選手走高に1.91mで邦人最高記録を出す。（ロンドリーナ）	
5－1	・全伯地方野球大会が4月29日から5月1日までの3日間サンパウロ市「連盟球場」でおこなわれる。	
7－24	・汎ジュキア陸上競技大会。	
4－3	音　楽　・サンパウロ音楽連盟発足（オーケストラ・クリスタールとコンチネンタル・ジャズ・バンドが主体となり楽団名をサンパウロ・シンフォニーという。）	
9－10	・10～11の両日シネ・サンパウロにおいて全伯（邦人）音楽コンクールを開催。サンパウロ女学院合唱団も出演。	
4－25	美　術　・上永井正サンパウロ市で絵画個展を開く。	
	死　亡　・12/7　藤原久人（1893－）。コロニア実業家。	
1－1	刊行物　★日伯毎日新聞創刊。	
3－15	★『輝号』第1号発行。	
5－1	★『大地』創刊。	
6－	★池田重二著『パラナ州邦人移民発展史』出版。菊倍版600p. 挿入写真1,000枚。	
7－	★『よみもの』第2巻第7号には“奥ソロ、プレジョン物語（山下定一筆）、お茶の話（坂本武夫筆）、北パラナ紀行（斉藤広志筆）及び“コロニア世相を語る新聞記者座談会”など移民史的記事が満載してある。	
11－30	★香山六郎編著『移民四十年史』刊行。	
―――	★昭和新聞発行、社長は川端三郎。	
―――	★ブラジル中外新聞発行（『戦後四半世紀の軌跡』15p. によると初代社長は東某、2代目が沖本磯満）。	
1950（昭和25）		
1－24	**全伯陸連クラブ発足。**	
2－26	ピラチニンガ・クラブ創立総会。（2世の文化体育クラブ）	
3－4	**日本の水泳チーム　トビ魚来伯** 古橋広之進一行の水上選手団着聖。遊佐正憲（監督）、村山修一（主将）、古橋広之進、橋爪四郎、浜口喜博（戦後日伯交流の先駆けとなったものである）。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－12	サンパウロ学生会第1回評議員会がルイス・ゴーエス街の村上真市郎邸で催される。午後は敷地で地鎮式があった。	
3－18	藤原農商株式会社サンパウロ市に創立。	
5－19	移民の父、水野龍帰伯。	
6－25	サクラ・クラブ発足。(サンパウロ市)	朝鮮戦争はじまる。
7－5		ブラジル国勢調査。
7－27	日本戦災同胞救援会解散。同時に連絡機関設置を決議。これが文協即ちサンパウロ日本文化協会の前身となる。	
―――	サンパウロ市で日本語の商業放送が現れる。	
8－17	リオに国際微生物会議が開かれ、日本から住木、田宮、緒方の3博士出席。(住木、田宮両博士はサンパウロ市及び州奥地邦人に日本近況を講演した。)	
9－18		南米最初のテレビ放送局がサンパウロ市にできる。経営主体はDiário Associado。
10－3	**ブラジル総選挙** 後日開票の結果、日系州議員候補キリスト教民主党所属から田村幸重がサンパウロ州議員に当選。	
11－7	トメアスー組合がサンパウロ事務所を開設。	
11－8	在伯日系人資産凍結解除が実現、法律第1224号によって公布され、即日効力を発生。	
11－16	東山総支配人山本喜誉司の博士論文が東大教授会をパス。主論文は、コーヒーのブロッカ虫の天敵としてのウガンダ蜂論である。	
11－20	この夜、サンパウロ州マリリア市警察は右翼テロ的組織を持つ**帰国サギ団"国民前衛隊"**首魁と一味50余名を逮捕。尚、26日はデモ一味数名をとらえた。	
12－	日本政府派遣の在外事務官5名リオ着。サンパウロ事務所長は野崎正勝。	
12－29	勝組をだまして金銭を巻き上げていた"国民前衛隊"の首魁山岸宏伯と副頭目矢島実を、	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	サンパウロ市特高課リベイラ捜査課長が訊問。	
1－24 3－4	スポーツ　・全伯陸連クラブ発足。 ・日本の水泳選手団トビ魚来伯。トビ魚一行出場の全伯水上選手権大会、パカエンブー・プールで開幕。古橋選手400m、自由型に南米新記録樹立。 トビ魚一行偉業を残し全伯水上選手権大会終わる。	
2－2	刊行物　★児玉正一著『ブラジル移民の父上塚周平』発行。 ★ジョゼー山城著『日本小史』Pequena História do Japão 初版出る。 ★中西周甫著『北パラナ国際植民地開拓十五周年史』サンパウロ市グラフィカ社にて印刷。	
	■1950年の刊行物の全てはパウリスタ年鑑1951年版153－154p.に総覧できる。 パウリスタ新聞（51年元日から）日刊、サンパウロ新聞週3回、ブラジル中外新聞週2回、昭和新聞週2回、アサイ新報（北パラナ・トレスバーラス）月1回。よみもの月刊。子供の友（サンパウロ新聞社）月刊、ニュース（月刊ニュース社）月刊、サンパウロ・マガジン月刊、大地（ブラ拓）月刊、養鶏生活月刊、木陰俳誌月刊、椰子樹短歌季刊、時代（土曜会）季刊、ピラチニンガ会報（写真研究）季刊、旷野の星（校友会機関誌）季刊、進路学生会機関誌月刊、暁の星（宗教）月刊、睦（生長の家）月刊、ブラジルの自然（Natura）季刊、童話絵本（児童雑誌）季刊、革新（聖西文化研究会機関誌）月刊。	
1951（昭和26） 1－1	パウリスタ新聞が週3回から日刊になる。 兼松江商進出。	
1－	**第1回芸能使節団** 日伯毎日新聞社招聘の第1回芸能使節団東海林太郎、小唄勝太郎、三味線豊吉、浪曲篠田実父子一行来伯。「コロニアに慰安を与え、非常な好結果を博した」。なお、3月3日はお別れ公演があった。（サンパウロ市、サンパウロ州奥地）	
2－1		ヴァルガスが選挙によって選出され大統領に就任。
2－26	東山銀行凍結解除の一番乗りとなる。	
2－27	**コロニア連絡機関創立**準備委員会を午後8時から市内サクラ・クラブで開催。参集した委員は20名（これが後に文化協会へと発展する。）	
2－28	**戦後初の日本船** 待ちに待った初の大阪商船神戸丸サントス入港。コロニアの気分沸く。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－3	辻小太郎はヴァルガス大統領と会談し、サンタレン製麻会社の設立を委任され、この折にジュート増産のために日本移民２万５千家族の導入許可を要請した。	
3－14	午後１時サンパウロ州議事堂Palácio 9 de Julhoで新議員証認式が行われる。**コロニア最初の日系州議田村幸重**の姿も見られた。	
3－	オランダ船チサダネ号で戦勝組170名サントス港を発って永久帰国の途に着く。帰国団長格は永野勘太郎。（彼は間もなく帰伯）	
4－1	日本商業会議所再開。在外事務所内（サンパウロ市）。 蜂谷輸入商会創立（蜂谷兄弟商会は1935年５月）本社サンパウロ市。	
4－	東山銀行再開（サンパウロ市）。	
4－21	多羅間（旧東久邇）俊彦サンパウロ市コンゴニアス空港着。	
6－	**密告によるマカーコ事件** 「中央公論」６月号に出た土曜会同人及び下元・山本の両人を加えた“現地座談会”は勝組一派の密告によって問題となり、“マカーコ（猿）事件”に発展する。９月頃、平田実、川端三郎の両名の告発により、「ブラジルの移民計画を妨害し、国の名誉を傷つけるもの」としてこの座談会記事は曲訳され、インタビューの形で先ずDiário Trabalhista（リオ）に発表され、ブラジル人の間に知られたものである。	
7－	（下旬）コチア産組主催の第１回青年講習会がモイーニョ・ヴェーリョ試験場で催される。女子20人、男子８人。	
9－3		サンフランシスコで対日講和条約に調印。
10－2		第１回サンパウロ・ビエナール展開幕。
11－3	ブロゾットール倉庫株式会社（南銀系）創立。本店サンパウロ市、支店サントス市、パラナグァー市。	
12－	米国務省の命令でスタンフォード大学ティグナー教授沖縄県人の生活及び活動状態の調査に来伯。山城ジョゼーの案内で奥地向け出発。	
12－	辻小太郎の申請していた日本移民２万５千家族導入計画に、5000家族が許可の通知を受けた。これを受けて農林省が移民募集を開始し、移住渡航船賃貸付けが制度化され、神戸移	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	住斡旋所が再開された。	
12－7	戦後初の総領事石黒四郎着任。	
2－ 4－29 6－25	**スポーツ**　・真木昌水泳コーチとしてニテロイ市に招かれる。 ・野球コーチ室井豊着伯。 ・サンパウロ野球連盟コロンビア大学チームを迎える。	
1－ 6－ 6－ －－－	**芸　能**　・第１回芸能使節団着聖。東海林太郎、勝太郎、豊吉、篠田実父子。 ・第２回芸能使節団、古賀正男一行及び虎造、市丸等来伯。 ・ブラジアン商事の招聘による天勝一座来伯。 ・三浦愛蕾堂松平晃を招く。	
5－4 6－29 8－14	**死　亡**　・坂元靖（1887－）。元海興リベイロン・プレット出張所主任、後移民部長。支店長代理も務める。 ・神谷忠雄（1880－）日本にて。東洋移民会社の代表としてブラジルに在り、移民導入の為に働く。 ・水野龍（1859－）。高知県人。皇国植民会社社長。ブラジル移民創始者。	
2－20 8－10 －－－ －－－	**刊行物**　★本間剛夫著「望郷」日本宝文館から出る。 ★香山六郎著「ツピー語単語集（ツピー・葡・和対訳）」 ★資料「よみもの」８月号の対談“バストス昔ばなし”語る人、織田糸音、聞く人、紀南子、“コロンビア大学野球団雑記”その他移民史的資料多。 ★古野菊生、鳥井稔夫、古田土光良共著、詩集「花粉」。	
1952（昭和27） 1－10	ブラジル野村貿易会社サンパウロ市に発足。Intercâmbio Comércio Nomura Ltda.	
2－7	ティグナー教授沖縄県人の生活状態についての調査結果発表を沖縄で行う。この結果、ボリビア向け沖縄人の移住が決定された。	
2－	作家三島由紀夫来聖。	
3－9	サンパウロ花卉園芸同好会コチア産組本部で創立総会。出席者39名。	
3－18	第１回日本商品見本市がリオ市で開かれる。	
4－18	19、20、21の４日間コチア産業組合創立25周年記念第４回農畜産品評会開催。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－12～13	松平晃審査委員長となり第1回全伯（邦人）のど自慢大会をオデオン座にて開催。	
4－28	対日講和条約が発効して以来、国交は実質的に回復したので、この日から**リオ在外事務所は大使館に、サンパウロは総領事館**にそれぞれ昇格。	
5－17	**ブラジル4H協会結成**され、サンパウロ市フロレンシオ・デ・アブレウ464番の破魔商会階上を事務所として発足。主体は力行会員。	
5－27	**ブラジル最初の柿祭り**が中央線モジ・ダス・クルーゼス市で開かれる。27、28の2日間。	
5－28	日伯産業振興会の招聘で鶴見祐輔来聖。各地で日本の現状について講演。	
5－31	聖美会（サンパウロ美術研究会）主催の**初めてのコロニア展**がサクラ・クラブで石黒総領事出席のもとに開かれる。6月11日まで。	
6－20		カンポス・ド・ジョルドンに35年ぶりの降雪あり。銀世界を現出。
6－23	**400年祭協力会発足** サンパウロ市創立400年祭祭典協力会第1回相談会がマッピン食堂で催される。石黒総領事の招集で集った有志10数名。	
6－26	祭典協力の件で7邦字紙及び1雑誌代表が総領事館邸に召集される。即ちパウリスタ新聞、伯刺西爾時報、南米時事、昭和新聞、サンパウロ新聞、ブラジル中外新聞、パラナ新聞、及び大衆雑誌サンパウロ・マガジン。これらマスコミの協力で日系社会一丸となる組織作りが目指され、12月8日に櫻クラブに於いて141名の主席のもとに四百年祭典日本人協力会が設立された。	
7－	マリリア方面の松原安太郎が個人的にゼツリオ大統領から日本移民4000家族導入許可を受けた。この受け入れと、マット・グロッソ州リオ・フェーロ20万haの開発を目的として、8月8日に松原はリオ・フェーロ植民会社を設立。	
8－1	マカーコ問題に終止符。 アルベルト・トーレス友の会はマカーコ問題の釈明文をリオ市のJornal do Brasilに発表。訳文は8月9日パウリスタ新聞に掲載される。1年余り勝組ジャーナリズム（昭和新聞、ブラジル中外新聞等）を賑わしたこの事件に終止符を打つ。	
8－	東本願寺法主大谷光暢及び裏方智子の全伯巡錫（じゅんしゃく）あり。これから**各地に寺院建立の気運高まる。**	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－9	画家高岡由也夫人同伴イタリア船でフランスへ発つ。	
9－12	日伯通商協定調印終わる。（総額6、910万ドル） 12日正午、イタマラチー宮において数ヵ月来懸案になっていた日伯通商協定がフォントウラ外相、原代理大使によって調印される。 （リオ・デ・ジャネイロ市）	
9－29	戦後初代大使君塚慎着任。	
10－	日系コロニア調査研究の為、東大助教授（当時）泉靖一来伯。	
10－25	26の両日第1回花・品評会。サンパウロ花・・園芸同好会の第1回品評会がこの2日間ピニェイロスのコチア産組会議室で開かれる。	
10－30	“国民前衛隊”帰国サギ団の残党をサンパウロ市で一斉逮捕。	
―――	米田栄（サンパウロ市）**日系最初の医学博士**となる。	
11－	日本映画「羅生門」市内8館で一斉上映、好評を博す。	
12－28	**戦後のアマゾン移民** 辻特許による第1回アマゾン移民17家族54名がジュート栽培のため“サントス丸”にて神戸出帆。（翌年2月着伯）	
12－	胡椒の価格が高騰し、トメアスー植民地が注目を浴びる。	
10－4	スポーツ　・4～5の両日聖市パカエンブーで柔道大会。	
	死亡　・2/7　東山農事株式会社社長坂本正治（1877－）日本にて。 ・2/8　渡辺儀平（1897－）。会計士「商工業者の友」社主。 ・11/23　岩波菊治（1898－）。歌人。（列伝による1953年11月23日とあるのは誤り。）	
―――	刊行物　★パウリスタ俳句集。 ★念腹句集。 ★神戸大学経済学研究所中南米研究会訳編『ブラジル経済の実態とその政策』発行。	
5－	★新潮5月号（第565号）に三島由紀夫『リオ・デ・ジャネイロ』発表。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1953（昭和28） 1－18	**戦後最初の移民到着** 戦後初めての呼び寄せで51名の独身青年移民がオランダ船チサダネ号でサントスに着く。	
―――	ベレンの領事館が再開された。初代領事古関富彌。	
1－	シカップ（コーヒー・ハッカ結晶輸出）株式会社創立。代表吉雄武。本社はサントス市、工場はサンパウロ州及びパラナ州に数ヵ所。	この年にアマゾン河は異常増水で各地に大洪水となった。
2－5	賀川豊彦来伯。（5月15日まで滞在の予定で）	
2－11	**アマゾン移民リオ着** ジュート作の戦後家族移民の第1着、アマゾン移民がリオに着く。17家族54名。尚、ベレン港到着は3月7日であった。この移民は2週間目に4家族が逃げ出し、ジュート移民はこの1回だけで中止となった。	
2－19	3月3日までサンパウロ市近代美術館で福沢一郎の絵画個展がある。	
3－5	ボーイ・スカウトの“カラムルー”隊創立。主唱者細江静男。	
4－	伏見直江、信子劇団の興行主山本貞悦の急逝で伏見一行サンパウロ市に立往生。	
5－	北パラナ・アラポンガスの信愛植民地に初入植者。	
5－16	「ウルチマ・オーラ」紙は“桜組挺身隊”を≪朝鮮派遣国連義勇軍≫として海外派遣をブラジル陸軍大臣に願い出た日本人の一団があったことを報じた。	
5－23	第2回コロニア美術展サンパウロ市に開催。リンスの間部学初出品。	
7－5		北パラナに大霜。
7－7	松原移民枠で**マット・グロッソ州ドウラードス植民地**へ入る22家族112名が、オランダ船ルイス号でサントスに着く。「戦後日本移民の渡来」はコロニアに新鮮な感動を与えた。（尚、マ州日伯文化協会会員名簿では「7月7日より8月下旬にかけて3次に渡ってサントス港に第一歩を印した」とある。総計は和歌山県人54家族、岡山県人10家族の64家族である。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－23	**日本映画館出現** サンパウロ市ガルボン・ブエノ街に日本映画館シネ・ニテロイ落成。夜8時から大映作品「源氏物語」を祝賀上映。	
8－	ブラジル移民審議会はパウリスタ養蚕協会に対して日本人移住者200家族導入を許可。これがサンパウロ州に認められた戦後最初の移民枠である。	
8－	戦後トメアスー移民第1回の25家族（129名）が「あめりか丸」で到着した。尚、当時のトメアスー組合は78名の組合員、胡椒は33万本で650トンを生産したが、キロ130クルゼイロと異常な価格であった。（当時1クルゼイロ＝約10円）	
9－10	泉靖一助教授（当時）のコロニア調査の結果についての講演会がサンパウロ市コチア産組講堂で催される。	
9－	アマゾナス州ベラ・ヴィスタ植民地に第1回移民25家族（139名）が到着。尚、ここには1956年までに125家族が入植したが、97家族は外に移転した。この年にはアマパーのマタピー植民地にも24家族、ファゼンジンニャに5家族が入り、翌年にも続いたが、ここも条件が悪くて殆どが他に移転した。	
9－20	**学生会のアルモニア学生寮落成式**を挙行。	
10－21	帰国サギ団“桜組挺身隊”のサンパウロ市街頭進出隊が逮捕され、又幹部が警察へ出頭を命じられる。	
10－5	**最初のバイア移民**38家族イリェウス港に上陸。	
11－	バイア州ウーナ移住地に入った日本移民（上記の）退去希望者14家族に対し、政府はミナス州ジャイバ連邦植民地への入植を許可。	
――	**日本企業の進出はじまる** 土井、アストリア両陶器工業を皮切りとして戦後の日本企業の進出がはじまる。	
	死亡　・1/14　根来良太郎日本にて。元ブラジル臣道連盟専務理事。退伯は1952年11月9日。 ・5/14　木村清八（1881－）。大工職。“コンデの村長さん”と呼ばれた顔役。上塚周平の同郷人で彼と親交があった。 ・7/29　龍江義信（1874－）。元海興専務取締役。社長井上雅二の補佐役。 ・12/13　明穂梅吉（1870－）。元海興移民部長。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－ 2－5 10－5 12－	刊行物　★Noções Gramaticais da Língua Japonesa Moderna por Kiyoshi Ando。 ★文芸春秋増刊『炉辺読本』32p。高木俊朗著『アマゾン日本帝国』。 ★『ブラジルに於ける日本人発展史』下巻発行。（外務省欧米局移民課、ブラジルに於ける日本人発展史刊行委員会）。 ★牛窪保『パイオニア』上巻（下巻は55年発行）。	
1954（昭和29） 1－9	“朝香宮”を名乗って巨額の金品を一部の勝組邦人から巻き上げていた加藤拓治が9日午前遂に収監された。（サンパウロ市）	
1－25	**サンパウロ創立400年祭** ゼツリオ大統領及びガルセース州知事臨席ものとに盛大に挙行される。 ＜式のプログラムを記すと＞ 午前8時－　国旗、州旗掲揚（各学校の式では校長の手でその広場に揚げる。）創立400年祝賀式（Patio do Colegio の聖市発祥の地） 8時30分－大統領がサンパウロ創立記念碑に花輪をささげる。 9時－－－　カテドラル落成式（Praça da Sé）。 11時－－－アニャンガバウー広場で陸海軍及びポルトガル海軍水兵の大分列行進。 17時－－－イビラプエラ祭典会場ビエナール国際美術展賞の授与（大統領出席）。 18時－－－パテオ・ド・コレージオで4百年祭ミサ。 20時－－－サンパウロ創立記念民間大行進（Vale de Anhangabaú）。	
1－	**日本で日本海外移住協会連合会（海協連）設立。**	
2－9	第1回国際映画祭に越路吹雪、新珠美千代来伯。日本出品の「妻」は2月17日サンパウロ市シネ・マロッコで上映。	
4－	千葉晧サンパウロ総領事着任。	
4－	パラナグワー（パラナ州南部）日伯文化協会創立。 （ここは1916年初めて第1回移民鹿児島県人永山吉佐エ門、店員として働く。）	
5－	西本願寺門主大谷光照及び裏方嬉子の全伯巡錫あり、これを機として各地に寺院建立の気運高まる。（東は1952年8月）	
5－	ジュケリー産組パラナ州首府クリチーバ市に出張所開設。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－30	イビラプエーラ日本館上棟式挙行。（サンパウロ市）	
5－31		**マリンガー駅開通** 最初の機関車（608号）北パラナー・マリンガー駅に到着。
7－1	株式会社竹中商会創立。	
7－	ブラジル政府と辻・松原特許人との間にいわゆる「7.1取極め」が行われ、日本大使館参事官これに副署。	
7－	**ブラジル向け養蚕移住者第1陣284名日本出発。**	
7－17	アマゾン産業研究所のアマゾン20周年記念祝賀会がアマゾナス州パリンチンスを中心に7月17日から3日間挙行される。	
7－	天理教真柱中山正善来聖。	
7－	北パラナ・グァイーラ Guaira に初入植者あり（1957年日本人会創立）。	
7－	北パラナ・バス会社 Expresso Maringa マリンガー市に創立。代表岡本パウロ。	
8－10	南米派遣議員団降旗団長一行6名着聖。	
8－13	午後7時、5新聞社共催で派遣議員団の講演会が催された。場所はサン・ジョアキン街125番の南米劇場である。5新聞社とはパウリスタ、サンパウロ、中外、南米時事、昭和新聞のこと。 出席代議士は降旗徳弥（自由党）、庄司一郎（自由党）、吉川久衛（改進党）、楠見省吾（改進党）、上林与一郎（社会党左派）、加藤勘十（社会党右派）。	
8－24		**ゼツリオ大統領自殺し、カフェー・フィーリョ副大統領が大統領となる。**
8－27	評論家大宅壮一及び中野好夫着聖。9月末まで滞在。アマゾンも視察し、トメアスーで「旧移民の下士官根性」について発言。	
8－31	イビラプエーラ日本館竣工。（1954年4月23日起工）	
9－6	午後4時15分、ガルセース知事を迎えて日本館（サンパウロ市）公式落成式が挙行される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－18	**“産組パレード”** (サンパウロ市創立400年祭典の一環としての催し) サンパウロ州産業組合主催、FARESP、州農務局産組奨励課、及び各産組協力の“産組パレード”は2百数十台の山車を連ねて華々しくサンパウロ市の大路をねりあるく。中でも日系産組は断然人気を集める。コチア産組の52台、バンデイランテ産組の8台、モジ産組6台、南伯中央会3台、産組中央会1台などそれぞれ農村生産状態や生産物を模した山車を連ねて、市民の歓呼を浴びる。	
9－22	胡椒ブーム最中にトメアスー入植25周年祭。この時点の胡椒44万本、生産量は800トンであった。この年に第2、3、4回移民が到着。又同年、現ロンドニアの「9月13日植民地」の29家族（180名）をはじめ、アマゾン各地に多数の移民が入植。	
10－3	**連邦初の日系議員** 全ブラジル各州知事、連邦議員、州議員選挙日。 (10月23日邦字紙結果を報道、P.S.D.,P.R. から出馬した田村幸重が党での13位に当選。日系初の連邦議員。)	
10－11	**戦後初の日航機** 日航機「京都号」サンパウロ市コンゴニアス空港に着く。戦後最初の日本航空機。	
10－13	岡崎勝男外務大臣を団長とする慶祝親善使節一行午前11時40分コンゴニアス空港（サンパウロ市）に着く。尚、慶祝使節団のメンバーは「サンパウロ四百年祭」に名簿がある。	
10－	日光植民地（北パラナ、ウムアラーマ）905ha．購入。（入植は1961年になる）	
	死　亡　・2/9 石射猪太郎（1887－）。元ブラジル大使。 ・3/1 矢崎節夫（1889－）。サンパウロ市で。笠戸丸移民。海興・ブラ拓等で移住地造成経営に従事。 ・4/3 田崎慎治（1872-）神戸大学教授。アマゾン移民唱導者。正三位勲一等。	
10－30 3－20 9－	刊行物　★泉靖一、斉藤広志共著『アマゾンの風土と日本人』古今書院発行。 ★横山春一『ブラジルの農業と生活』新約書房。 ★『ブラジルの移民問題』サンパウロ人文科学研究所。	
1955（昭和30） 1－4	**コチア青年移民導入特許契約** 連邦政府移民院との間に3ヵ年間に1,500名の青年を導入する特許契約書にコチア代表が調印。1962年10月発行「農業と協同」別冊参照。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－	ブラジル物産会社（三井物産系、後にはブラジル物産有限会社）創設。本店サンパウロ市、支店リオ及びベレン市。	
1－	**桜組の街頭デモ** 1953年5月16日Ultima Hora紙に報道されてコロニアを心配させた勝組集団桜組挺身隊は、サンパウロ市郊外サント・アンドレー市に本拠を構え、集団生活をはじめ、長期の構えでブラジル引揚げ運動をはじめる。1月11日、27日、28日、2月1日とパウリスタ新聞の三面に報道されたが遂に街頭デモ行進を行い、ブラジルの新聞を賑わすことになる。彼らの運動は3月、4月、5月と続き拘留された幹部8名に対して、5月14日サンパウロ地方裁判所に於て全員に禁固9ヵ月の判決があったのが9月15日付けで報道された後は平穏に帰したようである。 戦後丸10年、これで勝組の動きも静まった。但し勝利の信念に固まった人間がいなくなったのではない。	
2－9	訪日者激増、ブラジル丸で276人が2月15日頃、桜の日本へ向けサントスを出ることになっていると邦字紙が報じる。	
2－18	東山銀行が資本金を1万クルゼイロに増資して株式会社に改組、この日カーザ・バンカリアからバンコ（銀行）に昇格。	
―――	アマゾン開発庁が8000haのグゥマ河植民地を開設。57年から日本移民もここに入植。	
4－12	東洋紡はFiação Extra Fina de Algodão Ltda.（資本金4万クルゼイロ）を買収（事務所はサンパウロ市）。	
4－	加藤拓治のシチオ・キヨ（聖市郊外に日本引揚げをうたい、勝組を集めた農場）を脱出した3家族が総領館に出頭し、内情を暴露して残存者の救済方を請願。	
4－	聖市保安局はサント・アンドレーの勝組集団桜組200余名の協同生活を強制解散し、同市鉄道倉庫内に収容。	
8－15		**終戦10周年。**
9－	**コチア青年移民第1陣109名が移住** 註－以後16年間に2,508名が移住。	
9－23	入植地の取得、造成、分譲を目的とし、日本海外移住振興株式会社が日本で設立される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－19		軍部クーデターによりアルゼンチンのペロン大統領失脚。
10－6	（この日付による報道）**パストス日系市長第１号**、畑中唯雄（仙次郎長男）当選。（サンパウロ州）	
10－16	午後１時、聖市イビラプエラ日本館内で４百年祭協力会解散式が開かれる。	
11－8	泉靖一を団長とする日本学術調査団来伯。メンバーは島澄、塚本哲人、大野盛雄、蒲生正男。ブラジルからは斉藤広志、宮崎信江が加わる。	
11－	パラー州旧フォード社ゴム園のベルテーラ植民地（100家族）、フォードランジア植民地（22家族）にいた計125家族（785名）が、農務省の指示で退去させられ８ヵ所に離散されたが、中には遠くリオ・ブランコ（現ロライマ州）にも12家族（71名）が移された。	
11－	９月神戸出帆のぶらじる丸は戦後初の大量移民828名を乗せてサントス入港。	
11－23	日本貿易振興会（JETRO）聖市事務所開設。	
12－	カネボウ有限会社設立（「コロニア産業地図」事業紹介覧7p.「戦後四半世紀」55p。ここには1955年進出決定と報告されている。）事務所はサンパウロ市、工場はサン・ジョゼ・ドス・カンポス市。	
12－	パラー州アカラの郡議に沢田哲当選。	
12－17	サンパウロ４百年祭協力会を解散した後、ブラジル日系人の中央機関としてサンパウロ日本文化協会が設立された。初代会長山本喜誉司。（1968年９月ブラジル日本文化協会と改称）	
－－－	丸紅飯田ブラジル会社現地法人の輸出入会社として設立される。	
4－	スポーツ　・大河内６段より講道館へ申請中の伯人14名に対する昇段証書授与式がピニェイロスのスポーツ・クラブで挙行される。 死亡　・2/4　鮫島直哉（1885－）。第１回移民の建築請負師。２世教育、保健・衛生等に貢献。 ・7/18　斉藤政一（1879－）。日伯シネマ社主。 ・8/8　江越信胤（1885－）日本にて。元海興アニューマス農場支配人。総領事館勧業部主任。コチア組合創立に尽力。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	・9/5　山田正忠（1898 －）。貧民病人の世話で走りまわる“コンデの忠さん”。 ・12/2　岩崎久彌（1865 －）。ブラジルに東山農場をはじめ東山企業グループを設立。	
――	刊行物　★藤山洋児著 Nitida Paisagem 葡語詩集出版。 ★著者50余名『ブラジル自選川柳句集』発行。	
4－	★信濃海外協会の会誌『海の外』が矢崎節夫追悼特集号を出す。	
8－20	★サンパウロ新聞社編『在留邦人百人集』サンパウロ新聞社。	
10－25	★暁の星社編、聖市4百年祭『暁の星』特集号発行（ブラジルに於ける日本人カトリック教徒の歴史がわかる）。	
11－10	★水野昌之著『バストス廿五年史』。	
11－15	★吉村繁義『崎山比佐衛伝』NAOYOSHI　ISOBATA。	
12－15	★パウリスタ新聞社編『在伯日本人先駆者伝』発行。	
1956（昭和31） 1－1	**パウリスタ新聞創刊１０周年につき記念事業発表：** １．10周年記念号発行。　２．パウリスタ文学賞設定。 ３．パウリスタ農民賞設定。　４．パウリスタ・スポーツ賞設定。 ５．葡語論文募集。　６．ミス・コロニア紙上コンクール。 ７．10周年記念全伯少年野球大会。　８．10周年記念聖市俳句大会。 ９．10周年記念全伯短歌大会。 ◇文学賞は佳作２編で「イッペー」の小滝土香、「春来りなば」の原奈美子。 ◇農民賞は「合理的養蚕の実際」脇田俊、「サンパウロの渋柿栽培」乾昌平。 ◇ミスコンクールは12月19日リンスのノロエステ代表福田俊江に決定。 ◇全伯俳句大会は11月11日午前９時から開催。出席者150名、兼題、席題総合点１位は計54点で板倉けん六。 ◇全伯短歌大会11月４日午前９時から新聞社屋上サロンで開催。出席者60名。大会賞は吉本青夢に贈られる。 ◇全伯少年野球大会７月27日コオペルコチア球場で開かれる。 参加チームはピラッキ、サンパウロ、コチア、ア・マッシャード、スザーノ、アサイー、バストス、グアララペスの８チーム。サンパウロ軍３×２でアサイー軍を破り７年目の覇権。	
1－	鐘紡ブラジル創立（有限会社、11月９日株式会社に改組）。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－12	下元健郎日系初の州税務裁判所判事に任命される。	クビチェック大統領就任。
1－31		
2－1	伯国三菱商事会社創設。本店サンパウロ市、支店ベロ・オリゾンテ市。	
2－11	日本政府は戦後ブラジル移民再開の功労者松原安太郎に黄綬褒章を贈る。尚、彼は病気のため1955年7月から日本で療養生活を送っていた。	
4－1	パイロット・ペン伯国会社創立。（サンパウロ）	
4－	ベレン（パラー州）日本領事館が総領事館に昇格、福岡章初の総領事。	
4－26	東京銀行リオ支店開設（横浜正金銀行の後身、正金は1919年7月にリオに支店を出した）。	
6－9	産業開発青年隊第1陣着伯。	
7－6	日本海外移住振興会社の現地法人としてJAMIC移植民有限責任持分会社創立。リオ、サンパウロ、ベレン、ポルト・アレグレ、レシフェ各市。	
7－9	サンパウロ日本文化協会はリベルダーデ広場90番地6階を事務所とする。	
7－10	ブラジル豊和工業株式会社創立。本社サンパウロ市。工場モジ市郊外。	
7－	伯国冷蔵株式会社Ind. Bras. de Pescados e Frios S/Aレシーフェ市で創業開始。	
―――	ブラジル農務省の依頼により、日本の海洋調査船東光丸が、パラー、マラニオン、アマパー沿岸を調査。	
―――	ベレン近郊サンタ・イザベルにパラエンセ農協が設立される。	
7－	生長の家、副総裁谷口清超来聖。	
9－	ブラジル農工株式会社創立。本社サンパウロ市、工場オウリーニョス市。	
11－9	鐘紡ブラジルが株式会社に組織変更。本社サンパウロ市、工場サン・ジョゼー・ドス・カンポス、ピラスヌンガ、レーメ。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－7	全国農業拓殖協同組合連合会（全拓連）設立。（日本）	
11－30	渡辺マルガリーダ夫人へコロニア初の藍綬褒賞。	
12－18		日本国連加入。
7－27	スポーツ・　パウリスタ社主催全伯少年野球大会。	
	死　亡　・3/　森淳吉。文化植民地創設者の１人、牧師（共営者山田登幸の死は1958年）。 ・7/　千葉武男。サンパウロ・マガジン主幹。 ・8/1　君塚慎（1891－）。元東山総支配人。元駐伯大使、脳溢血の為午後７時サンパウロ市エスプラナーダ・ホテルで急死。 ・12/31　加藤友治（1898－）。パラー州トメアスーの胡椒栽培の先駆者の１人。	
8－15 10－ 12－	刊行物　★アンドウ・ゼンパチ著『ブラジル史』河出書房。 ★『会報』第１・２集合併号。サンパウロ日本文化協会。 ★パウリスタ新聞社編集・発行『コロニア戦後十年史』。	
1957（昭和32） 1－12	大洋漁業株式会社が２年間の特別操業許可を得て対伯進出。	
1－	三洋毛織ブラジル社創立。（サンパウロ市）	
1－20	**日伯文化普及会が正式に登録**される。	
1－	ブラジル日商有限会社創立。本社サンパウロ市、支店リオ市。	
2－1	パウリスタ新聞社「パウリスタニュース」としてラジオ放送開始。日曜除く毎朝７時４５分から８時までの15分間。	
2－8	この日付新聞報道、救済会が**老人ホーム「憩いの園」創立。**	
2－14	**“押すな押すなの企業進出”** この日付のパウリスタ新聞は最近益々活発化した日本各業界の対伯進出について“押すな押すなの企業進出“という見出しでその盛況を報じた。	クビチェック大統領は外資企業によるブラジル経済工業化を狙い積極的に誘致したので、この年から欧米

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
		企業の進出も激化した。主要自動車工業もこの時期に進出したものである。
2－28	ブラジル・ヤンマー株式会社創立。本社サンパウロ市、工場インダイアツーバ市。	
3－15	**南リオ・グランデ移民着伯** 南リオ・グランデ州アルゼンチン国境近くのサン・ペードロ耕地の米作移民33家族198名、あふりか丸でサントス港着。	
4－1	伊藤忠商事株式会社創立。本社サンパウロ市、支店リオ市。	
4－3	サンパウロ州カッポン・ボニート市創立100年祭。日系の草分けは前野豊、角田義夫など。	
4－11	沖縄から開発青年隊第1陣30名と、マット・グロッソ州アンドラーデ農場に入る10名の開発青年隊をはじめ208名の移住者を乗せたオランダ汽船ルイス号が午前8時サントス入港。	
―――	アマゾン開発庁の要請で、東大地質学者坂本峻雄教授がユネスコ派遣でアマゾン流域の鉱物資源調査のために来訪。	
―――	グァマ植民地の水田移民入植が本格化した。	
4－14	奥ソロカバナ（サンパウロ州）に柑橘類の大敵カンクロ・シトリコ発生の報あり。	
4－24	鐘紡サン・ジョゼ・ドス・カンポス工場落成。	
4－	伯国精機工業会社は1957年4月工場建設に着手。12月10日竣工、落成式挙行、サンパウロ市。	
4－27	コチア産業組合創立30周年を記念して内国農業展覧会開催。	
5－22	ブラジル海軍のソアーレス・ゾトラ号力行青年25名を乗せてベレン到着。	
5－	ブラガンサ・パウリスタ入植10周年祭を行う。	
6－3	日伯合弁の製鉄会社設立に関する協定書の調印を行う。（ウジ・ミナス製鉄所建設）	
6－23	**サントス漁業組合創立** サントス大西洋漁業組合が日伯人船主24名をもって創立される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－25	日本海外移住振興会社の現地法人金融投資部門としてJEMIS移住金融株式会社創立。リオ、サンパウロ、ベレン、ポルトアレグレ、レシフェ各市。	
7－8	開発青年隊受け入れ機関として7月7日協同組合組織の“サンパウロ農業拓殖協同組合(農拓協)”が発足。(後にパラナ州セーラ・ドス・ドウラードスに現地訓練所が出来る)	
8－3	ブラジル久保田鉄工有限会社創立。	
8－	サンパウロ・ビエナールの審査員として画家栗原信来伯。	
8－	パラナ州クリチーバ市に南米銀行支店開設。	
8－26	倉紡ブラジル株式会社創立。	
9－	東大の泉助教授、学術調査の為3度目の来伯。	
9－	サドキン電球工業株式会社創立。本社サンパウロ市、代表山本勝造。	
9－24	マット・グロッソ州**ヴァルゼァ・アレーグレ移住地**(36,363ha)購入。移住事業団経営。	
10－4		ソ連が人工衛星スプートニック号を打ち上げた。
11－15	**ブレジョン40周年祭** 16、17の3日間ブレジョン植民地(サンパウロ州アルヴァレス・マッシャード駅)入植40周年祭挙行。	
11－25	コチア産組では主任・評議員会合同会議の承認を得て**下元(健吉)奨学資金制度を設ける。**	
8－7	教育　・日語教育会議発足。発起人代表は安藤深。	
1－10	スポーツ・サンパウロ市ボンレチーロ市営野球場定礎式が行われる：関係者150人出席。	
7－14	・パウリスタ新聞社主催第10回全伯少年野球大会開催。21日大会終わる。アサイー(パラナー)優勝。	
―――	・トメアスー球場で第1回北伯野球大会が開催される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－19 10－27	・南米野球連盟誕生 ・第１回南米野球選手権大会開幕。ペルーの遅参と雨の為３度スケジュールの変更を余儀なくされたが、27、28の両日リーグ３試合が行われた結果、ブラジル・チームはアルゼンチン・チームに対して３ｘ０、ペルーに対して12ｘ４のスコアで２勝。第１回大会の覇権を握る。	
	死　亡　・3/15　田村省蔵（1878－）。元大阪商船会社社長。 ・6/　藤倉次郎。庭球界の名士。元デ杯選手。 ・7/5　長谷川武（1866－）東京外語スペイン語科出身。南パラナ・カカツ植民地創設。ながく海興に勤める。 ・9/25　下元健吉（1897－）。コチア産組創立者、専務理事。	
2－25 5－15 6－15 7－31 10－31	刊行物　★山本喜誉司『移り来て五十年－ブラジルの日系人－』ラテンアメリカ協会。 ★『サンパウロ四百年祭』聖市四百年祭典日本人協力会。 ★山本喜誉司・須田為世共著『ブラジル日系人人口推計』サンパウロ日本文化協会発行。 ★神谷信一『百姓の書いたブラジル動物記』文芸春秋新社。 ★多田文男編『アマゾンの自然と社会』東大出版会発行。	
1958（昭和33） 1－16	**コロニアの人口** コロニア実態調査本部予備調査終了によってコロニア人口中間発表。総人口40万4、630人（尚、本調査発表は1960年7月23日となるが、43万0、151人である）。またこれは6月18日現在の総数であって、1960年は45万と推定されると調査本部は発表している。 ○コロニア実態調査 コロニア実態調査は移民50年史の編纂として企画されたものであったが実際に着手してみると、基礎となる統計資料も無いことから、正確な数字に裏付けされた移民史は書くことが出来ないことに気付き、50年祭祭典委員会から独立して、「ブラジル日系人実態調査委員会」（鈴木悌一委員長）が組織された。 調査は1958年から開始され、最終的に出版するまで６年の歳月と延べ６千人の調査員が動員された。調査方法は悉皆調査であり、日系人の現状及び歴史的背景が411の図表により明らかにされている。この報告書は「ブラジルの日本移民」として記述編・図表編が２冊セットで東京大学出版会から日本語と英語で出版されている。	
1－23	トヨタ・ド・ブラジル創立（トヨタ自動車工業株式会社）。	
1－25	株式会社ミナス・ジェライス製鉄所発足（ウジミナス）。本社ベロ・オリゾンテ、事務所	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	リオ、サンパウロ、ヴィットーリア。	
1－31		アメリカ人工衛星１号打ち上げに成功。
3－29	東宝南米有限会社（サンパウロ市に）創立。配給先 Cine Jôia その他 Serrador 系封切館。	
4－10	日本文化センター建設予定地、サンパウロ市サン・ジョアキン街の大正小学校敷地の、2700 平方米の移譲に関する調印が 10 日に行われ、いよいよ文化センターの建設に取掛かる運びとなる。	
4－18	聖州農業拓殖協同組合中央会（農拓協）創立。登録日は1957 年 12 月 27 日。本日最初の相談会を開く。	
4－	農拓協セーラ・ドス・ドウラードスの**産業開発青年隊訓練所**が完成。この月隊員とともに落成式が行われる。1965 年閉鎖。	
4－25	**「憩いの園」（老人ホーム）開園式**。集会者３００ 人以上。入園者第１号は笠戸丸移民の与那嶺仁五郎（71 歳）である。この敷地は前年２月聖フランシスコ修道院から 10 アルケールの土地寄贈を受け建設中であったもの。	
5－2	全拓連（日本の全国農業拓殖協同組合連合会）はグァタパラー耕地の一部購入につき総額の 10％を手付け金とし売買契約を結ぶ。面積 3,017 アルケール。（５月 30 日購入、８月入植者到着。）	
5－18	倉紡ブラジル株式会社ポルト・アレグレ近郊サプカイア工場定礎式挙行（1959 年５月５日落成式挙行）。	
6－7	有限会社ユニチカ・ド・ブラジル創立。サンパウロ州アメリカーナ市。	
6－17	三笠宮御夫妻移民 50 年祭式典出席の為来聖。午前 10 時コンゴニヤス空港着。（リオ着は６月 11 日）	
6－18	山本喜誉司博士、ブラジル政府より南十字星章を授与される。	
6－18	**日本移民５０ 年祭** 午前中、三笠宮出席のミサ、文化センター定礎式。午後４時半、三笠宮臨席のもとに移住の功労者 12 人及びブラジル人功労者６人に対して勲章授与式が行われる。 ◎勲四等旭日章－農学博士山本喜誉司。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	◎勲五等旭日章－南米銀行専務宮坂国人。 ◎黄綬褒章－－－パリンチンス尾山良太、イガラパーバ八田一藤、ピンダモニャンガーバ安田良一、トレメンベー鐘ヶ江久之助。 ◎藍綬褒章－－－ベレン辻小太郎、リオ後藤武夫、サンパウロ高岡専太郎、堀清、トメアスー平賀練吉、アラサツーバ安瀬盛次。 ◎勲三等旭日中綬章－カルロス・デ・モライス・アンドラーデ（前下院議員、弁護士、移民問題についての功労者）、ルイース・デ・トレード・ピーザ・ソブリンニョ（サンパウロ州農政審議会副会長、前下院議員、弁護士、元農務長官、コーヒー院総裁、凍結令解除についての功労者）、アウレリアーノ・レイテ（前下院議員、弁護士、移民導入の功労者）、フランシスコ・アントニオ・デ・トレード・ピーザ（サンパウロ州農産組合連合会副会長、前移植民院総裁、移民導入の功労者）。 ◎勲四等旭日小綬章セレスチーノ・ボウロウル（サンパウロ総合大学名誉教授、衛生問題についての功労者）、ジョン・リーラ・シャーベス（前サントス港移民官、第1回笠戸丸移民船当時から移民官として約40年移民の為に功労があった）。 ■日本移民50年祭は初期移民の嘗めた辛酸、第2次大戦を挟んだ重苦しい排日の空気と不当な抑圧、戦後日系社会に起きた混乱に区切りを付け、以後の日系社会の方向を打ち出したところに大きな意義があった。 移住50年祭及びその後の文化センターの建設は当時の日系社会のリーダー山本喜誉司の個人的な理念を強く反映したものとなっている。この祭典の準備委員会はアマゾンから南リオ・グランデまでの全日系人の総力を結集して実施され、地方評議委員会数は422を数えた。 移民50年祭記念事業としては、コロニア実態調査、移民五十年史編纂、ジュケリー病棟建設、留学生日本派遣基金創設、文化センター建設開始、祝典・付帯行事計画があった。 又、この式典に際しては日本及びブラジル政府からの様々な協力もあった。 日本移民50年祭の記念祝賀会は6月19日、イビラプエラの会場工業会館に5万人の参列者を集めて盛大に実施された。又、ブラジル企業各社の山車行進がアニャンガバウ大通りで行われ、10万人の観衆が見物した。	
6－22	**コロニア功労者に木盃授賞。** この日第1次493名に対し、表彰状とともに木盃授与。第2次は506名。	
7－14	ノーベル賞受賞者湯川秀樹博士、スミ夫人同伴午後1時20分スイス・エアー機でコンゴニアス空港に着く。18日には午後8時からPalacio Mauáで武谷三男博士とともに講演を行った。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－	コチア産組クリチーバ倉庫建設。	
7－13	汎アマゾニア日伯協会がベレンで創立総会。初代会長辻小太郎。	
8－12	ピラチニンガ倶楽部マニフェスト。 （これを日本へおくることになった） 1．6月来伯した早大生の滞在中にとった傲慢な態度に対してコロニアで非難の声が挙がっていること。 2．島田団長はじめ団員達が各地訪問の際、紳士にあるまじき行動をとったこと。 3．州知事の招待や州体育関係者の接待に対し不可解なほど非社交的な不遜な態度で臨んだこと。 4．州大学運動連盟の公式招待の席上で非社交的な態度をとったこと。 5．ピラチニンガ倶楽部懇談会に際しても非礼な態度を示したこと。 6．せっかく高めて来た伯人のコロニアに対する親愛感を早大チーム来訪で却って傷付けたこと。 以上の理由でピラチニンガ倶楽部は次の宣言を決議する。 1．今度の早大チームを伝統ある日本学生の代表と認めない。 2．かかるチームを送った早大責任者に遺憾の意を表する。 3．早大生に対し反感を表明する。 4．コロニア体育会の責任者に対し今後かかる団体を招待しないよう望む。	
8－30	ブラジル富士フイルム有限会社創立。本社サンパウロ市、支店リオ市。	
9－22	南米銀行系南米保険株式会社創設。	
10－6	株式会社ブラジル住友銀行創立。	
10－	トメアスー組合が176組合員、胡椒82万本、生産量2300トンと発表。	
10－14	第2回コチア青年移民1,500人導入契約が移植民院で結ばれる。	
11－	アマゾナス州エフィジェニオ・デ・サーレス植民地に第1陣17家族（118名）が入植。	
12－13	リオ港内ポンタ・ド・カジューでブラジル石川島造船所の地鎮祭（定礎式）を挙行。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－18 6－22 11－10	**スポーツ**・早大チームの一行レアール機でコンゴニアス空港着。 ・早大・オール・サンパウロ野球戦がコペル・コチア球場で行われる。 ・プロレスの力道山、芳の里とともにパナイル機で来伯。	
	死　亡　・10/16 山田登幸（1889 －）。文化植民地創設者の１人。山梨県人。	
3－10 5－1 6－10 6－15 6－18 8－ 7－25 10－ －－－	**刊行物**　★岸本丘陽『蛮地の上に日輪めぐる』畝野社。 ★池田重二『ブラジル日本移民人国記』上・下巻。日伯文化社。 ★入江寅次著『ブラジル移民 50 年』東京、神田松沢書店発行。 ★『アラサツーバ五十年史』汎アラサツーバ日本人会。 ★日本移民 50 年祭委員会編『かさと丸』 ★日本移民 50 年祭委員会編、発行。『物故先駆者列伝』 ★杉山吉良著『裸族ガビオンーアマゾン奥地の原始生活』東京光文社発行。 ★パウリスタ新聞社編、発行『コロニア五十年の歩み』 ★牛窪襄著『宅地王・上利新吉』	
1959（昭和 34） 1－2	**ブラジル石川島造船所（リオ市）創立。**	
1－10	「五十年の歩み」の為の沖縄系実態調査完了する。その結果、沖縄系世帯は 5738 世帯、人口 41,735 人と判明。	
1－16	日伯文化普及会で２月２日より新事業としてポルトガル語講座開始。	
1－28	**日本移民援護協会（後のサンパウロ日伯援護協会）創設。** 会長に安瀬盛次就任。	
2－	芥川賞作家石原慎太郎、一橋大学自動車部の連中と海路着伯。短期滞在。	
2－16		キューバ革命が終わり、カストロが首相に就任。
3－	**ブラ拓解散**　30 年の歴史を持つ「ブラジル拓殖組合」は３月末で解散することになったとパウリスタ新聞は３月７日付けで報道。 ○<u>有限責任ブラジル拓殖組合（通称ブラ拓）</u> 1927 年３月 29 日、日本政府は海外移住組合法を公布し、各県に「海外移住組合」を設立させ、同年８月には「海外移住組合連合会」を発足させた。この海外移住組合の目的は日本の移民政策の転換を意味し、当初より「永住目的」の移住を推進することにあった。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	連合会の当初の目的は、毎年８海外移住組合の移住地を開設し、それぞれに200家族ずつを入植させ、県別の移住地を造成する計画であったが、後には県別移住地創設計画は放棄し、多数の入植者からなる移住地を造成することになった。この連合会のブラジルでの代行機関が「有限責任ブラジル拓殖組合」）で、Sociedade Colonizadora do Brasil Limitada という現地名、通称「ブラ拓」という。 ブラ拓はブラジルにバストス、アリアンサ（最初は長野・鳥取・富山県移住組合が創設、後にブラ拓に移管）、チエテ（以上サンパウロ州）、アサイ（パラナ州）に移住地を造成した。	
―――		ベレン＝ブラジリア国道の工事開始。
3－31	フォーリャ社主催の「1958年度ライネル賞近代美術展」に『ビトリオーゾ』を出品した間部学は第１位入賞する。	
4－	エフィジェニオ・デ・サーレス組合の前身マナウス農協が設立された。	
4－	ブラジル移民初めての集団花嫁12人が大阪商船のアフリカ丸で渡伯。コチア青年移民達に嫁ぐ人達である。	
4－	アクレ州キナリー植民地に第１回６家族（44名）が入植。第２回は６月に７家族（47名）。アマゾン流域最奥地の移住地である。	
4－8	モジ・ダス・クルーゼス市に日系副市長誕生。歯科医の森藤夫。	
4－10	皇太子（現天皇）と美智子様のご成婚を祝してサンパウロ総領事館主催で慶祝ミサ、そしてご成婚記念祝賀会が開催された。	
4－10	**実業のブラジル創刊。**	
5－5	倉紡工場落成式（南リオ・グランデ州ポルト・アレグレ近郊サプカイア）。	
5－10	日系のボーイ・スカウト・カラムルー隊、旧大正小学校裏庭で創立５年記念ジャンボリー開く。	
5－17	ノロエステ連合日本人会設立総会、リンス市青年会館で開催。傘下の会員約7,000家族。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－20	安田火災営業開始。（営業は南米銀行と姉妹関係の南米保険が担当）	
5－23	トヨタ・ド・ブラジル社の国産車「ランド・クルーザー」20台あまりが完成し市場に出た。	
6－	**マット・グロッソ州ヴァルゼア・アレグレ移住地へ初入植。**	
6－18	ジュケリー精神病院の病棟贈呈式。日本移民50年祭を記念してコロニアが贈ったもの。	
6－20	クリチーバ日伯文化協会設立総会[redacted]れる。	
6－27	「南米保険」（南米銀行グループ）が業務開始。	
7－4	シネ・ニッポン開館。	
7－5	上塚周平25回忌。プロミッソン文化日本人会主催で行われる。	
7－24	岸信介首相訪伯。この日リオ着。7月26日午後5時40分ブラジリアからサンパウロ市のコンゴニアス空港に着く。同月27日イビラプエーラ訪問。28日はサンパウロを発ってアルゼンチンへ向かう。	
7－31	サンパウロ州ジャカレイー移住地（移住振興会社経営）購入。	
8－1	ブラジル特殊陶業株式会社（NGK）創立。事務所サンパウロ市、リオ市、工場モジ・ダス・クルーゼス市。	
8－7	ブラジル松竹有限会社創立。サンパウロ市。直営館同市シネ・ニッポン。	
8－8	東京海上火災保険株式会社ブラジル支店開業。リオ、サンパウロ市。	
9－1	トメアスーがアカラ郡から独立、トメアスー郡となる。パラー州60番目のムニシピオ。	
9－	シネ・ニテロイ開館6周年に招かれてトンコ節の久保幸江来聖。	
9－	シネ・東京（南米劇場株式会社経営）消える。 ［あえない始末］、「シネ・東京コロニアにさようなら」、「残るは借金と看板だけ」などの報道がパ紙9月4日付でなされた。	
9－	第5回サンパウロ・ビエナール展、年末までイビラプエラ工業会館で開催される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－14	日本からは油絵52点、具象12点、版画37点、彫刻12点合計113点が出品される。	ソ連の宇宙ロケット月面到着。
9－27	南伯中央産組創立30年の祝典を催す。（組合員は2,695人、出張所は23ヵ所。）	
――	日本プラント協会（通産省所管）サンパウロ事務所開設。	
10－3	東山農業研修所は21名の第1回卒業生を送り出した。	
10-8・9・10	ガルボン・ブエノ乱闘事件発生。（新来移民青年と2世青年の抗争）	
11－	アマゾン入植30周年記念行事。トメアスーとベレン市で盛大に実施される。千葉三郎代議士を団長とする日本の慶祝使節団も参加した。日本では東京、神戸でアマゾン移住30周年記念祝賀会が開かれ、又東京にアマゾン会が誕生した。会長上塚司。 トメアスーに第2植民地建設構想が提案される。	
4－7 7－26 8－21 8－30 10－	人物往来　・帝国人絹（テイジン）株式会社社長大屋晋三郎夫妻来伯。 ・川崎秀二代議士、8／3石坂代議士、8／12三木武夫代議士。 ・日本商工会議所派遣の南米企業技術調査団（団長山田三郎太凸版印刷社長）。 ・久保幸江（トンコ節）、9／30料理研究家江上トミ。 ・兼高かおる（「世界飛び歩き」）。	
1－15 4－10 7－10 12－10 ―― 8－ 10－	刊行物　★生島重一著『アマゾン移住30年史』サンパウロ新聞社。 ★実業のブラジル創刊。 ★アンドウ・ゼンパチ著『コチア産業組合30年の歩み』。 ★サンパウロ新聞社編『ブラジル日本移民五十年記念≪輝ける人々≫』非売品、数百の先駆者小伝あり。よきコロニア資料。 ★田原春次『大アマゾン・移住と開発』。 ★進藤憲吉・山下寛人編『ブラジル邦人々名録』。 ★中村東民編『汎マリリア三十年史『豊原』』三十年史刊行会。	
1960（昭和35） 1－9	サン・ミゲール・パウリスタでパイロット・ペン工場完成。	
2－14	第1回南米柔道選手権大会、アルゼンチンのマル・デル・プラタ市で開催され、ブラジル代表が団体・個人ともに制する。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－3	アマゾナス州エフィジェニオ・デ・サーレス植民地の州立小学校に、ジュート栽培の父、尾山良太の名をとったESCOLA RURAL RIOTA OYAMA 完成。	
3－4	午後零時半、ポルトゲーザ慈善病院で、ボニファーシオ神父昇天。５日午前聖フランシスコ教会で「死者ミサ」実施される。日本語をよくし救済会の諸事業にも大きく貢献した人。４日付で勲四等旭日賞が日本政府より贈られる。	
3－15 4－21	シネ東京に閉館勧告。サンパウロ第14号民事裁判所は南米劇場株式会社（シネ東京）に対して破産宣告を言い渡した。	**首都ブラジリアに移転。**
4－24	マルキュー農業機械有限会社（久保田鉄工）操業開始。サンパウロ市郊外、ジアデーマ市、ピラポリンニョ区。	
4－29	ピエダーデで第１回農産展開く。（３日間）	
4－29	南リオ・グランデ州**ポルト・アレグレ市に日本国総領事館が開かれる。**この日市内、近郊の在住邦人を招いて開館祝いを催す。	
5－	**桜植民地入植開始**（ブラジル岐阜村、経営者は足立小平治、中央線モジ・ダス・クルーゼス）。	
5－7	大洋漁業、カーボ・フリオ基地で捕鯨開始。２年間の試験捕鯨。	
5－16	北パラナ・ノーバ・エスペランサ郡ノーバ・ビラッキ植民地で入植10周年記念式典行われる。	
5－22	サン・ベルナルド・ド・カンポ市みずほ植民地で25周年記念式典・運動会行われる。 カンポ・グランデ市農産組合創立25周年式典挙行。	
5－26	斉藤広志、神戸大学より経済学博士号取得。『移住者の移動と定着に関する研究』	
6－1	都筑紡績会社創立。本社スザーノ市、事務所サンパウロ市。	
7－5	レアル航空会社、日本乗り入れ１番機が午後５時半コンゴニアス空港から日本へ出発。	
7－上旬	マラニョン州ロザリオ市近郊のロザリオ連邦植民地に、第１陣19世帯（111名）の日本人家族が入植する。19アルケールの土地と11ヵ月間の生活費が付与される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	翌61年に更に10家族（52名）が付近のムルアイ植民地に入る。	
7－23	実態調査集計（中間報告）によるコロニア総人口は43万0,151人である。	
7－24	国際ペンクラブ大会がリオの新聞協会大サロンで開かれる。日本から代表として湯浅克衛（作家）、大和資雄（英米文学者）の両人、特別招待として川端康成、オブザーバーとして三浦朱門、曽野綾子、それに独文学者の植田敏郎など計6人が出席。閉会式は29日サンパウロの法科大学で行われる。	
―――	第2トメアスー植民地用として市役所が3万haの地権を譲渡。	
8－	日紡商工会社（大日本紡績株式会社）進出。12月8日アメリカーナ工場落成式。	
8－	VISÃO誌8月号が「アマゾンで活躍する日本移民」を紹介。	
8－10	スザノ市福博植民地が開拓30周年を迎える。それを記念して「三十年目の福博村」調査を実施。	
8－27	伯国三井物産有限会社創立。（サンパウロ市）	
8－	竹中儀助（サンパウロ市）に日本政府から紺綬褒章が贈られる。竹中は故郷の小学校の為多くの設備をなし、金銭を寄附しその上、竹中奨学金も創設。	
9－	Cortume Santo António創立。代表ブロミッソン間崎三三一。	
9－1	モジ市市制4百年祭始まる。管内に居住する日系人約2千家族。	
9－14	日伯移住協定、リオ市で交渉終了式。後11月14日午後4時15分からリオ市イタマラチー宮で調印式行われる。	
10－1	総領事館、管内在留邦人の国勢調査実施。	
10－7	日系女性初の博士誕生。サンパウロ文理大学理学部植物学助教授目黒万里子（26）『カンナ（砂糖キビ）の水分と糖分の関係』。	
10－8	文化センター建設委員会発足。委員長山本喜誉司以下270名の委員より構成される。	
10－19	創価学会の6幹部来伯。池田大作、北条浩その他、この日午前1時着。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	21日午後2時カンピーナス国際空港からニューヨーク向け出発。	
10－28	6家族の炭鉱移民来伯。青年協会伯国支部の呼び寄せ。福岡に炭鉱を持つ明治鉱業の炭鉱離職者（これとは別に三井鉱山の炭鉱離職者移住調査団が10月はじめに来伯した）。	
11－14	日伯移植民協定調印式がリオにおいて行われる。日本側全権安東大使、ブラジル側はオラシオ・ラフエル外相。（1963年10月29日発効）	
	人物往来 【芸　能】・2/15 カリブソ歌手浜村美智子、3/7日活女優筑波久子。 ・11/16 キングレコード大津美子。 【スポーツ】・3/5 プロレスの力道山・長沢日一、10/20世界バレーボール選手権大会出場のために男女代表チーム32名来伯。 【学　術】・4/9 東京工業大学長田純一教授（理論物理学）サンパウロ理論物理学研究所へ。 ・5/21 濱口東京外国語大学ポ語科助教授。 ・8/12 神戸大学経済経営研究所助手西向嘉明来聖。 ・12/1 明治薬科大学講師嶋澄、技術移民送り出しの資料収集の為に来伯。 【宗　教】・6/19 本派本願寺南米教団に市野フギ師が開教総長、伯国別院輪番として来伯。 ・7/16 PL教団御木徳近教主が来聖し、PL教団信徒大会に列席。	
	死　亡 ・3/4 ボニファシオ神父、Frei Bonifacio Dux（1904-）。 ・6/19 青木林蔵ブラガンサにて。産業組合（農協）設立の功績大。	
3－5 －－－ －－－ －－－ 4－10 8－ 11－	**刊行物** ★斉藤広志著『ブラジルの日本人』東京丸善から。 ★トレス・バーラス青年連盟編『トレス・バーラス移住地』帝国書院から。 ★サンパウロ新聞社編、発行『コロニア戦後十五年史』。 ★生島重一『アマゾンの自然・経済環境と営農法』。 ★岸本丘陽『移民の地平線』旷野社。 ★『トレスバラス教員会十周年誌』トレスバラス教員会。 ★有馬鉄之輔『ブラジル食養健康宝典』。	
1961（昭和36） 1－3		アメリカがキューバと国交断絶。
1－16	パンアメリカン航空日伯間を40時間で結ぶジェット定期航路開設。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－24	東京で日伯文化交流を促進する為の文化協定が調印される。調印式に出席したのは日本側は小坂善太郎外相、ブラジル側はデシオ・デ・モウラ駐日ブラジル大使。	
1－30	ブラジル石川島造船所建造第1号船 Volta Redonda 号進水式。	
1－31		ジャニオ大統領就任。
2－8	安田エドアルド、サンパウロ大学教授就任。（ピンダ在安田良一の次男）	
3－	アマゾニアの日系人1,336戸、7,203人（1958年の調査から見ると1,711人の増加）。	
3－1	ウジミナス製鉄所の高炉起工式挙行。	
3－4	パラー州グゥマ連邦植民地の邦人、パイス・カルバーリョへ集団移住。	
3－13	Sumoc204号発令され特別アジオが倍の200ミルに引き上げられ農家の打撃甚大。	
3－23	クレアズール南米信託株式会社創立（南米銀行系）。本店サンパウロ市。	
4－4	ビリグイ在住の佐藤新五郎に日本政府から紺綬褒章が贈られる。サンパウロ総領事館でこの日その伝達式挙行。	
4－12		ソ連有人衛星1号の打上げに成功。
4－15	日本語教科書委員会全八巻の編纂を終わり解散。	
6－	Unitika（総合繊維会社）サンパウロ州アメリカーナ市で操業開始（創立は1958年）。	
――	移住振興会社が第2トメアスーの造成工事を開始した。	ベレン＝ブラジリア国道開通により、ベレン方面の経済が大幅に変化を始めた。
――	パラエンセ組合が65組合員で戦後移住者70％。営農は胡椒12万本（600トン）、野菜100ha、果樹20ha、養鶏3000羽と発表。	
――	ベレンに初の日本食堂「長石」が開店。	
6－10	聖市マッケンジー大学で「日本文化講座」開講。	
7－1	ウジミナス製鉄所開所式が挙行される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－24	戦後３代目の日本駐伯大使田付景一大使着任。	
8－5	ブラジル・トヨタ（Toyota do Brasil）サン・ベルナルドの本社工場建設定礎式挙行。	
8－13	ブラジル初の本因坊を島山５段が獲得。サンパウロ市。	
8－25	サンパウロ州オウリーニョス移住地入植開始。	ジャニオ大統領辞任。
8－29		８月25日のジャニオ大統領突然の辞任を受けて、29日パリーでゴラール副大統領、大統領就任を表明する。
8－	最初のグァタパラー植民の先発隊到着。ジャカレイー移住地初入植者到着。	
9－7		副大統領ゴラール、大統領に就任する。
9－30	カサバーバ（サンパウロ州）製麻株式会社創立。代表者吉雄弘。	
10－11	サンパウロ商業会議所、「商工会議所」として再出発を準備。	
10－17	海協連の技術移民第１陣来伯する。	
11－3	エリザベス・サンダースホームの沢田美喜、孤児院設立調査にベレン・トメアスーを視察。	
11－7	作家・僧侶今東光来聖。（13日退聖） 島木史生第６回パウリスタ文学賞授賞。	
11－11	11～12の両日コチア産組で花の展覧会（絵画陳列室も設けられる）。	
11－25		サンパウロ市電廃止始まる。
11－28	生田博、日系はじめての農学博士。	
12－8	日紡商工会社サンパウロ州アメリカーナ工場落成式。	
12－	ブラジル行き雇用農業移住者（コチア産組、パウリスタ養蚕関係移住者を除く）の賃金	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	及びその他の待遇上の実をあげる為、「雇用農業移住者の労務に関する覚書」を作成。これに同意しない雇主のもとに赴く移住者に対しては渡航費を貸付けないようにする。	
	人物往来 【芸能・音楽】・1/27　宝田明、草笛光子着聖（東宝祭りのショーに出演）。10/30 江利チエミなど来聖。 ・11/9　ピアニスト・田中希代子。 【芸　術】　・6/14　女流画家・橋本花来聖。	
	死亡　・3/24 小林美登利（1895 －）。ブラジルで初めて日曜学校を開き聖州義塾を創立。教育界の功労者。独立長老教会の人。 ・4/12 黒石清作（1870 －）。伯刺西爾時報社社長。 ・4/16 遠藤常八郎（1898 －）。遠藤書店主。 ・6/7　安田良一（1885-）。ピンダモニャンガーバ市名誉市民。 ・12/5 松原安太郎（1892 －）郷里和歌山県にて。戦後移民導入の道を開いた。マット・グロッソ州リオ・フェーロにゴム林造成の植民地を開く。	
5－30 7－25 9－10 10－	刊行物　★佐藤常蔵『ブラジル風物記』帝国書院。 ★ハンス・スターデン・西原亨訳『蛮界抑留記』帝国書院。 ★酒井繁一著『民族の苦悩』春秋社発行（移民史的創作）。 ★アンドウ・ゼンパチ著ジョゼー・ヤマシロ葡訳『Pioneirismo e Cooperativismo』（コチア産業組合30年の歩み）Ed.Sociologia e Politica.	
1962（昭和37） 1－5	三井・井関農機株式会社工場がサンパウロ州インダイアツーバ市に完成。	
1－7	アチバイアに農協青年クラブ第1号が生まれる（サンパウロ州）。クラブ機関誌としてコチア組合から発行されているジュベンツーデは日伯両語によるものであるが、メンバーは2世が多く彼らの間では殆どポ語である。	
1－7	第10回全伯歌合戦、パラマウント劇場で開催される。	
1－10	グァタパラー移民第1陣（12家族71人）大阪商船（OSK）の「あるぜんちな丸」でこの日サントス入港。	
1－26	ブラジル活花協会サンパウロ市に発足。	
2－17/18	フェラース・デ・バスコンセーロス市の第1回ブドウ祭り開催される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－13	トヨタ・ド・ブラジルが国産ジープ「トヨタ・バンデイランテ」販売開始。	
3－22	ドミニカからの再移住者5家族29人着伯する。	
3－28	ペルナンブーコ州レシーフェ市に技術（訓練）センターを設けるべくリオ市で協定に日伯調印。	
3－29	目立つ2世の進学熱。大学試験に日系から90人合格。	
4－	聖都映画株式会社創立、代表水本浩九郎。	
4－24	東洋紡アメリカーナ工場（サンパウロ州アメリカーナ市）落成式。	
4－26	渡辺マルガリーダに市議会から“サンパウロ名誉市民“の称号が贈られる。	
5－11	**ブラジル政府の国賓として吉田茂元総理一行**10人が夜、リオのガレオン空港に着く。翌12日午前11時15分サンパウロ着。	
5－	初の日系判事誕生。渡辺和夫。	
6－15		アクレが連邦直轄領から州に昇格した。
6－23	コチア産業組合創立35周年記念祭挙行される。	
6－26	移住振興、ピニャールに新移住地購入を決定する。（聖州サン・ミゲル・アルカンジョ郡）	
7－	第1回全伯相撲大会がモジ・ダス・クルーゼス市で開催される。	
8－15	コチア青年移民大会開催。場所サンパウロ市コチア産組ジャグァレー倉庫内大食堂。出席者は来賓も含めて882名、その他傍聴者多数。	
―――	ロンドニア州にINCRA（内国植民農地改革院）がアリケメスとジーパラナ植民地を開設し、パラナ州から日系58家族（287名）が入植。	アマゾン流域一帯にマラリアが大発生。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－19	4Hクラブ創立10周年記念研究発表会実施される。	
9－	鶴我七蔵サンパウロ総領事着任。	
9－4	伯国相撲連盟結成決議される。	
9－9	パウルー市に天理教ブラジル新伝道庁完成する。	
9－14	第2トメアスーの第1陣25家族（114名）が到着。	プレジデンテ・プルデンテ市創立45周年記念式典挙行される。
9－15	サンパウロ州ピニャール移住地を移住振興会社が造成。同月入植開始。	
9－28	サンパウロ大学文理学部「日本語講座」を新設する。	
10－19	パラナ州から下院へ立候補していた宮本実当選。又、サンパウロ州でも下院議員に平田進、田村幸重当選。州議員には京野四郎、内山良文、森本アントニオ、野村丈吾当選する。	
10-20/23/25	第51回列国議会同盟会議、議会制度調査団、南米親善訪問議員団など衆参議員40数名が来伯する。この中には小坂善太郎前外相、清瀬一郎衆議院議長等が含まれる。	
10－26	ゴラール大統領及び田付景一大使をはじめ関係者多数出席のもとにウジミナス製鉄所第1溶鉱炉の火入れ式が行われる。	
11－4	Papelok S/A Ind. e Com.（パペロッキ）創立。代表田中義数。	
11－12	大サンパウロ圏・サン・ベルナルド市にトヨタ自動車新工場落成。	
11－16	勲三等瑞宝章が日本政府から細江静男医師に贈られる。 細江医師は1901年岐阜県生まれで、1930年、慶大医学部卒業後、外務省留学医として渡伯。サンパウロ州バストス移住地での医療活動実施後、1935年サンパウロ医大に入学。勉学の傍ら日系社会の保健医療機関「同仁会」で働き、後に日本病院の建設やサナトリオ・サンフランシスコ・シャピエル建設に奔走。戦後は日本移民援護協会専務理事などの要職にあった。	
12－	ブラジル初田工業株式会社（日本と技術・資本提携）サンパウロ市に創立。	
12－1/2	1～2日の両日大サンパウロ圏内スザノ市で第1回ピエナール農工商展開催。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
12－18	東山農産加工株式会社サンパウロ州カンピーナス郡カルロス・ゴーメスに創立。	
―――		1955年頃から日本企業のブラジル進出第1次ブームが起き、ゴラール大統領になって左翼的政策が始まり社会不安になると共に、そのブームは終わった。
	人物往来 【芸　能】・1/6　シネ・ニテロイ東宝祭。東千代之介と三田佳子来聖。 ・6/21 ペギー葉山来聖。	
1－15 3－13 4－20 9－30 10－ 11－3	**刊行物**　★永田稠『日本の外苑』文教書院。 ★橋本梧郎『ブラジル植物記』東京帝国書院から。 ★会報『ノロエステ』第1号出る。サンパウロ州、ロエステ連合日本人会発行。間崎三三一、輪湖俊午郎、香山毒露（六郎）、今田求等執筆。 ★宮城松成『サンパウロ、リオ・デ・ジャネイロ市日系名士録』。 ★『農業と協同』誌が別冊『コチア青年の七年』を発行。 ★ラッパ洗染業親睦会編集の『サンパウロ市在住日系人名簿録－ラッパ日本人十周年記念』。 ★『コロニア産業地図』パウリスタ新聞社が創刊十五周年記念出版として出す。 ★佐藤常蔵『愛土ブラジル』帝国書院。	
1963（昭和38） 1－7	文協主催第1回児童絵画教室開かれる。	
1－30	農村振興センター（農村青年の研究機関）発足。提唱者は産組中央会（サンパウロ市）。	
2－13		韓国釜山からの韓国移民19家族101人来伯。南聖地方ミラカツーに入植。
2－19	日冷が東北伯レシーフェからサンパウロ市へマグロ空輸計画。	
2－22	在伯沖縄協会創立10周年記念祝賀会挙行される。	
3－8	**モジ産組30周年**を祝う。（大サンパウロ圏モジ・ダス・クルーゼス市）	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－9	10、11日の3日間ゴラール大統領の特別招待を受けて笠戸丸移民一行は9日軍用機で首都ブラジリアを訪問。11日帰聖。一行は移民32人に報道関係者、団体代表、医師、看護婦など68人であった。	
3－21	日本政府はベレン市、戸田善雄医師に藍綬褒章を贈る。（パラー州） 日系2世大川潔（27）がアクレ州初代農務長官に任命される。大川はアマゾナス州イタコチアーラ郡出身。	
3－27	ツバン市に日系市長誕生。吉野利一郎（42）。前市長の病気により市議会議長の吉野が市長に昇格した。栃木県宇都宮市出身の1世。	
―――	トメアスー市長に日系の沢田脩が選出される。	
4－	南リオ・グランデ、パラナ両州産「ソバ」日本向大量輸出。62年は220トン。63年は4月までに771トンに達する。	
4－		ブラジル政府は**農村労働法を公布**し労働者の賃金とその他の待遇につき、厳格・詳細な規定を設ける。
5－5	ガルボン・ブエノ街にパチンコ店登場。	
5－11	ブラガンサ・パウリスタ市で第1回バタタ祭り挙行される。	
5－23	野田良治の日葡辞典第一巻完成。	
6－1	伯国汽缶重機製造株式会社 Comp. Brasileira de Caldeiras e Equipamentos Pesados（三菱重工業）サンパウロ市に創立、工場 Varginha－M.G. ミナス州ヴァルジーニャ。	
6－13	生長の家・谷口雅春総裁来聖。	
6－	（29日付け報道によると）サンパウロ市ジョン・メンデス広場に面したサン・ゴンサロ教会が武内重雄神父の管理にゆだねられる。	
6－29	聖公会ブラジル宣教40周年記念礼拝挙行する。	
7－12	パストス開拓35周年祭、第3回卵祭り。	
7－15	**海外移住事業団（海外移住振興株式会社の後身）、日本で発足。**	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－21	レジストロ市でイグアッペ入植50年を祝う。(サンパウロ州南部海岸地帯。1913年7月の項参照。レジストロは1944年11月30日法令14,334号によってイグアッペ郡から独立し、1945年1月1日から郡制実施)	
―――	沢田美喜のエリザベス・サンダース・ホーム（戦争孤児院）がトメアスーに聖ステパノ農場を取得。	
―――	高砂香料がトメアスーにアマゾン香料研究所を設置。	
―――	トメアスーに中学校が開校。	
8－27	中尾熊喜サンパウロ日本文化協会の新会長に選ばれる。(副会長であった為前山本会長の死後に就任)	
9－6～8	元ジュケリー、マイリポラン入植50年祭挙行される。	
10－	日本外務省派遣の文化使節、国際的ピアニスト松浦豊明のピアノ演奏がカトリック婦人連盟（L.S.C.）ホールで開かれる。ブラジル音楽評論家の評価は最高級であった。	
10－27	ジュキア線（サンパウロ州）アナ・ジアス入植50年祭を催す。	
10－28	サンパウロ市議選挙で、須貝アメリコ（PC)、小笹マリオ（PRT）が当選する。定員45名に対して立候補者177名、うち日系候補者は7名。	
10－29	1960年11月14日調印された日伯移住協定の批准書が日本外務省で大平外相とデシオ・デ・モウラ大使の間で交換される。	
12－8	パラナ州クリチーバ市に日伯文化協会創立。 人物往来 【文学】 4/3　俳人高野素十来聖。 【宗教】 6/13 生長の家谷口雅春総裁夫妻来伯。 2/8　天理教真柱中山正善来伯。ブラジル伝道庁落成式に出席の為。 【学術】 3/28 中屋健一東大教養学部教授来聖。 【叙勲】 3/2　戸田善雄医師（1927年渡伯以来、北伯アマゾンで医療活動）に対して藍綬褒章贈られる。 6/12 畑中仙次郎（75）に日本政府は勲五等瑞宝章贈る。 1912年渡伯、1923年バストス移住地支配人。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	死亡　・5/19 コロニアの保健衛生に献身した高岡専太郎医博（78）脳軟化症の為。 ・2/27 榛葉隆永日師（78）。高野山真言宗伯国別院総監。1928年渡伯。 ・7/31 山本喜誉司博士。　葬儀は8/1カンピーナス農場にて。サンパウロ日本文化協会会長。31日午前8時半、肺癌の為。 1892年東京生まれ。東大農学部卒業。1926年渡伯、東山農場経営。サンパウロ市四百年祭協力委員会会長として終戦後続いて来たコロニアの混乱状態を1本にまとめ、更にこれを強化する為、1955年12月ブラジル日本文化協会創設。勲四等瑞宝章、ブラジル南十字星章、サンパウロ法大オールデン・アカデミコ・デ・サン・フランシスコ章受賞。 ・9/29 間崎三三一氏（1887－）。上塚周平の協力者。ノロエステの重鎮。高知県出身。10/8日本より勲五等瑞宝章贈られる。 ・10/7 加藤好之（1888－）肝臓癌の為。チエテ、バストス移住地などの設立に尽力。南米銀行創設の1人、プロズットーレス倉庫社長。	
5－23 7－21 7－27 －－－ 8－1	刊行物　★野田良治著『日葡辞典』上巻A-Kがでる。（下巻J-Zは1966年6月） ★レジストロ郡現勢概覧（10頁のパンフレット）50年祭々典実行委員会発行。 ★日伯毎日新聞レジストロ（イグアッペ）特集号を出す。（3621号） ★神田錬蔵『アマゾン河』中公新書。 ★沖本磯満編『パイオニア』評論新聞社。	
1964（昭和39） 1－1	バストス市の新市長に日系2世座喜味パウロ（PSP）就任する。	
1－21	さくら丸で琉球古典音楽の「主」野村流池宮輝来伯。	
2－24	ブラジル農業技術研究会（ABETA）が「山本喜誉司賞」設定を決定。	
3－2	須貝アメリコ市議サンパウロ食糧配給局長に任命される。	
3－22	バンデイランテ産組創立25周年記念式典挙行。	
3－28	ブラジル外務省が伯国移住者受け入れに関する携行資金を最低5千ドルと定める。	
3－30	国際観光振興会事務所サンパウロ市に設立。	
3－31	東芝伯国代表有限会社（進出は1955年）サンパウロ市に創立。	軍部のクーデターによりゴラール政権倒れる。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－1	故山本喜誉司博士に日本政府から勲三等旭日章の追叙決定。伝達式は21日の文化センター落成式に行われる。	
4－1	大阪商船三井船舶事務所サンパウロ、リオその他に設置。	
4－15		カステーロ・ブランコ将軍大統領に就任。
4－20	セーラ・ドス・ドウラードスの産業開発青年隊訓練所閉所式をコチア産組モイーニョ・ヴェーリョ試験場で挙行。(1960年5月開設)	
4－21	**文化センター（サンパウロ市）落成式。**	
5－1・3	ABC文化協会（サント・アンドレ市）創立10周年記念式典挙行。	
5－7	**日語学校経営の実態**が教科書刊行委員会の調査によって明らかになったことが、この日パ紙に報道される。それによると日本人会の経営がトップの62.2％、次は個人経営の22.5％、宗教団体の4.8％、その他10.5％は父兄会とはいうものの日本人会と同質のもので日本人会と父兄会を合わせると72.7％になり、日本人会を抜きにしては日語教育は成り立たないという見解を調査者側は出している。	
5-17～18	北伯へブラジル商工会議所視察調査団（団長広川郁三）派遣。	
5－21	日系初の神学博士誕生。滝谷良一（32）静岡県出身。	
7－10	グァイラ入植10周年。	
7－20	**日系初の州長官**　森本アントニオ州議サンパウロ州労働長官に就任。	
8－1	サンパウロ洗染業協会創立15周年記念祝典挙行。メキシコからも参加し大盛況。	
8－1	「大毎移民団」の40周年記念祝賀会がこけし食堂で開かれる。大毎移民団とは1924年大阪毎日新聞社が昭和天皇のご成婚を記念して募った62家族200余人の移民団。	
8－	**日語普及会**（サンパウロ市に）発足。初代会長は宮坂国人。	
8－6	伯国豊田通商有限会社サンパウロ市に創立。	
8－19	小松公樹ロッケ（26）が日系初の連邦労裁判事に就任。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
―――	胡椒油製造のためのブラジル鐘紡化学トメアスー工場（鐘紡、高砂香料、トメアスー農協が出資）が落成。	
8－20	**総領事館による日系人口** 同日付報道でサンパウロ日本国領事館調査による日系人口は54万6,963人であり、サンパウロ州は41万5,000、サンパウロ市は約10万である。「コロニア25年の歩み」89P. には全伯各州の数が出ている。但し、「日系人」についての説明がない。	
9－3	サンパウロ州モジ郡コクエーラ部落 Cocuera で入植45周年を祝う。	
9－	ブラ拓（ブラジル拓殖組合）正式解散。	
9－6・7	アリアンサ移住地40周年祭挙行。	
9－28	日本政府から平田進連邦議員に勲三等瑞宝章が贈られ、この日文化センターで祝賀会開催。	
10－8	ブラジリアにおいて日伯文化協定批准書交換。	
10－10		第18回オリンピック大会東京で開催。
10－16		中国初の核実験。
10－28	日系初の工学博士誕生。上原幸啓（USP 工学部）「小渓谷の流水量変化についての研究」。	
11－3	3日付けで日本政府からコロニア50年祭実態調査委員長鈴木悌一に藍綬褒章が贈られる。	
11－8	11、12日の2日間「ピメンタ村」のトメアスーでアマゾン入植35周年祭を催し、又、汎アマゾニア日伯協会主催の祭典は、15、16日ベレン市で、共に意義深く盛大に行われた。「コロニア25年の歩み」87p. に出ている「ピメンタの里での入植祭」の記事をもとにしたものであるが、トメアスーの初入植は1929年であった。	ベレン＝ブラジリア国道が正式に開通。
12－31	サン・シルベストレ国際レースで円谷幸吉選手9位になる。	-/- ゴラール政権下に経済は停滞し、インフレが進行し63年には80%、64年には1～3月の率からみて軍部がクーデターでゴラールを追放しなければ150%を超したものと見られる。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	人物往来 【茶道】 6/19　茶道裏千家千宗興夫妻が来聖。 【宗教】 1/21　日本カトリック移住協議会専務理事佐々木鉄治神父来聖。 5/31　西本願寺門主大谷光照、嬬子裏方及び普賢大円師一行来聖。伯国別院本堂完成記念法要及び先没者追悼法要、ブラジリアに建設する西本願寺別院の鍬入れ式参列の為。 8/26　本門仏立宗第15世田中日晨講有来聖。 10/23　PL教団次期教主御木徳日止師来聖。PL南米本庁開設の為。 【学術】 9/16　米国精神衛生研究所の派遣で、フィリップ・スタニフォード夫妻が日本人移民研究に来伯。トメ・アスー植民地で調査に従事。 【芸能】 9/12　歌手中曽根美樹来聖。 【死亡】 3/19　翁長助成（79）。明治45年ペルーに渡航後、アマゾンを経てリオへ。その後サンパウロ市で日本新聞創刊。 5/8　八田一藤（77）。イガラパーバの重鎮。6/3　日本政府、勲五等瑞宝章贈る。 【叙勲】 8/3　平田進連邦下院議員に日本政府から勲三等瑞宝章贈られる。 8/25　北原地価造（70）に日本政府が黄綬褒章贈る。	
6－15 7－31 9－10 10－ －－－ －－－ －－－ －－－ －－－ －－－	刊行物 ★『パラナの素顔』サンパウロ新聞社。 ★北島府未子（文子）作品集が日系出版社から出る。 ★『ブラジルの日本移民』上下二巻がブラジル日系人実態調査委員会（委員長鈴木悌一）編集によって発刊。東大出版会発売。 ★『長野県ブラジル移住者名簿』在サンパウロ信友会。移住地年代史あり、一般にも便利。 ★『南国土佐を後にして－在伯高知県人発展史』サンパウロ市高知県人会。 ★飯山達雄・太田恒夫『世界写真集、ブラジル・アマゾン・移民・コーヒー』帝国書院。 ★『ブラジルに於ける日本語教育の重要性について』宮坂国人著。サンパウロ日本語普及会。 ★『ブラジルの経済とウジミナス』堀越禎三著。日伯中央協会。 ★『ラテン・アメリカの歴史』ラテン・アメリカ協会編。中央公論社。 ★『ラテン・アメリカ史』中屋健一著。中央公論社。	
1965（昭和40） 1－10	コロニアの詩人古野菊生にロンドン元帥章が贈られる。	
1－14	マナウス市に日本国領事館開設決定。初代領事に福島茂参事官。同領事の着任を持って開設予定。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－21	日本工作機械輸出振興会聖市支所（通産省所管）設置。	
1－25	第1回の高段者剣道大会。ピラチニンガ文化体育協会に於いて。村上勲練士五段優勝。	
1－30	洗染業協会創立10周年記念祝賀会文化センターで挙行される。出席者400名余り。	
2－1	天理教「よのもと会」ブラジル支部発足総会、ブラジル伝道庁にて開催される。	
2－6	アマゾン（ベレン）に移民援護協会（援協）発足。初代会長戸田子郎。 これが1974年6月にアマゾニア日伯援護協会に改組された。	
2－7		米軍北ベトナム爆撃開始。
3－11	日本政府派遣南米経済使節団（水上達三団長以下18人）リオ市に到着。	
3－16	**戦後初めて来伯した南米経済使節団**一行18名はカステーロ・ブランコ大統領との会議などでリオ市での日程を終え、この日サンパウロ空港着。	
3－18	三井・イハラ農薬株式会社、大サンパウロ圏内オザスコ市に設立。	
3－24	「踊る宗教」天照皇大神宮教、北村サヨ教祖初め5名の随員がリオに布教の為に到着。昨年11月台湾を皮切りに香港、インド、中近東、ヨーロッパを行脚して南米へやって来たもの。	
4－7	カンポス・ド・ジョルドンの日系結核診療所がサンタ・クルス病院（旧日本病院）から移民援護協会に無条件移管される。	
4－14	桜組挺進隊の残党2人が午前10時頃、日本総領事館へ殴り込みをかける。駆けつけた警官によりDOPS（社会政治警察）に連行され、取り調べを受ける。	
5－3	ウジミナス製鉄所薄板工場操業開始。年間24万トンの生産を予定。	
5－3	サンベルナルド市のみづほ村開拓30周年記念祭。	
5－4	外務省移住局はアメリカ局中南米課を包含して中南米移住局となる。初代局長は広田槙（しげる）前ハンブルグ総領事。	
5－6	ブラス棉商工KKと東洋棉花KKとの提携の綿実油、ピーナッツの製油工場（グァララペス市）の竣工式。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－9	サンパウロ市に在住するアリアンサ移住地出身者は文化センター大サロンで第1回アリアンサ出身者郷友親睦会を開催。200人が集まる。	
7－8	レシーフェ日本クラブ正式発足（6月19日に結成大会）。	
7－17	パウリスタ新聞の報道によると「2世対象に行われた意識調査の結果、混血結婚 Casamento inter-racial 賛成40%」となっている。	
7－25	ノロエステ線カフェランジア平野植民地開拓50周年記念式典開催。この当時で居住する日系人世帯数は17家族。	
7－27	パラー州グァマ植民地で入植10年祭挙行。	
7－31	山本喜誉司博士の功績に因んだ農業の功労者に対する**山本喜誉司賞第1回授与式**が行われた。受賞者は松本圭一、鐘ヶ江久之助、柿原義治、原本広の4名。	
8－26	サンパウロ市内タツアペー区のファベーラ（スラム）に日本人約40家族がいることが明るみに出る。	
8－29	日本の経済5団体－経済団体連合会、日本商工会議所、日本生産性本部、日本経営者団体連盟、経済同友会－派遣の米国及び中南米経済使節団一行19人（団長北川住電工KK社長）がサンパウロに到着する。	
8－31	日本海上自衛隊練習艦隊サントス入港。旗艦「あきづき」それにつづく「てるづき」、「ゆうだち」「むらさめ」4隻、隊員1,200名。 （9月4日はリオ入港、7日独立祭に参加した隊員はリオ市プレジデンテ・ヴァルガス大通りを行進。	
9－5	第1回南米日系人大会（サンパウロ新聞社主催）はペルー、アルゼンチン、パラグアイからの参加者50人を見て、文化センター大サロンで開催された。	
10－1	南米銀行創立25周年記念式典挙行される。	
10－14	第4回世界柔道選手権大会が14日から3日間リオ市で開催された。参加国は43、参加選手は154人に達した。	
10－25	コチア産組農産加工開発株式会社（CODAI）創立総会開催される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－27	**戦後移住者４万６千人** 13年間の移住白書（戦後の海外移住者中対伯関係46,401人）。	軍事政権により政党が廃止される。
11－3	東京都友会発足。初代会長に吉雄武就任。	
11－22	コロニア文学会結成。文化センター聖美会事務所で、初代会長鈴木悌一。	
11－24	アチバイア市制３百年祭。日系主体で第１回農産展開く。	軍事政権が政党は与党ARENAと野党MDBの２党とした。
12－1	東北伯サドキン電球工業株式会社レシーフェ市に創立。代表山本勝造。	
12－9	故輪湖俊午郎に勲五等瑞宝章が贈られる。	
12－10	南バイア拓殖農畜産協同組合設立。南バイア・ノーバ・ビリゾ郡に日本人48人で。	
―――	エリザベス・サンダース・ホーム出身の第１陣７青年が聖ステパノ農場に到着。	
12－17	サンパウロ文化協会創立10周年記念式典挙行。	
―――	日本輸出入銀行リオ東銀内に事務所設置。	
	死　亡 4/14　北島文子（コロニア女流作家・59歳）脳溢血の為、サンタ・ジュアナ病院で。代表作に「北島府未子作品集（1964）」がある。 9/8　輪湖俊午郎（76）ベレイラ・バレット。初の日本語新聞発行。後アリアンサ、チエテ移住地建設にかかわる。 10/14　大沢大作（海外移住事業団サンパウロ支部長・57歳）長野県生まれ。 11/4　大河内辰夫（大河内製薬KK社長）心不全で。73歳。 11/6　福川薩然（1890-）。戦前のモジアナ地方移民の世話役。後サンパウロ総領事館、また日本病院の事務をとる。 12/30　畑中仙次郎（1888-）。バストス移住地造成功労者。 **人物往来** 【宗教】 2/3　真言宗醍醐派北米開教総監岸田英山大僧正来聖。 4/1　道徳科学研究所加藤清社会教育講師等４人来聖。 4/2　日本キリスト伝道会平松篤来聖。 7/12　世界救世教藤枝茂管長等一行５人来聖。 8/19　天理教の真柱後継者中山善衛（たすけ委員長・青年会長）は海外伝道部長等とともに来聖。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	9/7　曹洞宗管長高階龍仙禅師来聖。ブラジル開教10周年とリオ四百年祭使節として。 12/2　黒住教６代目黒住宗晴氏夫妻来聖。 【音楽・芸能】 2/4　丹下セツ子来聖。 7/18　若原一郎（キング）来聖。 7/19　歌舞伎の中村歌歌右衛門、中村芝歌蔵、実川延若ら一行が来聖。 【学術】　5/24　岡村一郎熊本大学医学部教授「南米諸国の寄生虫分布調査と日本民族の体質変化」調査の為に来聖。 8/25　米国テキサス大学文化人類学教授ジョン・Ｂ・コーネル教授日系社会研究の為に２度目の来伯。 【文学・評論】 4/24　評論家石垣綾子来聖。 10/4　作家梶山季之来聖。 11/9　角田房子（評論家）毎日新聞特派員として日本人移住者取材に来る。 【叙勲】　9/22　故竹中儀助に勲五等瑞宝章。 10/19 秋の叙勲。蜂谷専一（75・愛知）と故大河内辰夫（73・東京）に勲五等瑞宝章贈られる。 11/20 故大沢大作に勲五等瑞宝章贈られる。 11/30 故輪湖俊午郎に勲五等瑞宝章贈られる。	
1－ 4－ －－－ －－－ －－－ －－－ －－－	刊行物　★サンパウロ学生会編『十年の歩み』を学生会が発行。非売品。 ★渡辺南仙子著『地の裏にて』句集、パウリスタ印刷所から。 ★池田重二著『アマゾン邦人発展史』。 ★長尾武雄著『拓けゆくアマゾン－その自然と生活』家の光。 ★吉永正義著『アマゾンの日本人－現地ルポ　汗と土と開拓』北九州。 ★宮城松成著『ブラジル日系紳士録』サンパウロ。 ★入江寅次著『ラテン・アメリカ諸国への日本人移住史』ラテン・アメリカ協会。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1966（昭和41） 1－9	正一位稲荷大明神（教主野々垣コチエ）が正式登録認可される。	
1－9	立正佼成会ブラジル支部創立総会サンパウロ市で開かれる。	
1－13	宮中歌会始の儀でパストスの信太千恵子の歌入選。	
1－16	田付景一大使を迎えサンパウロ学生会の新館上棟式挙行。	
1－29	パウリスタ新聞創刊20周年記念パーテイー文化センターで挙行される。	
1－30	田付景一駐伯大使にカンポス・ド・ジョルドン市が名誉市民号を贈る。	
2－8	マット・グロッソ州ドウラードス管内松原植民地で日本人一家９人が使用人によって殺害される。	
2－24	パウリスタ新聞「今日の話題」で最近、お墓参り帰国が急増しているとし、コロニアの経済力が高くなっている証拠とする記事を載せている。	
3－12	創価学会の池田大作一行が第２回創価学会南米文化祭と支部会館購入の為に来聖。	
3－14		ジャグァレーのCEASAがサンパウロ市の中央市場として活動開始。
3－31	日本外務省派遣中南米自由貿易連合（LAFTA）調査団７人がリオ経由来聖。	
4－	移住者渡航費は全額日本政府支給となる。	
4－8	近藤四郎サンパウロ総領事着任。	
4－12	県人会連合会初代会長に中尾熊喜が選ばれる。	
4－20	サンパウロ市近郊モジ市コクエーラ植民地に州立中学校誕生。20日に開校式を行う。	
4－26	三井肥料株式会社リベイロン・プレット市に創立。営業所をサンパウロ市に設置。	
5－4	ポンカン栽培の恩人桑原竹次郎（83）この日聖州農務局から表彰される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－5	ジャグァレー倉庫での臨時総会でコチア産業組合は「コチア産業組合中央会」として発足決定。中央会の中枢の25人の理事会は7月末の通常総会で選出される予定。	
5－7	サンパウロ学生会館落成。	
5－9	プラスチコ・サンスイ S/A. Ind. e Com. 創立。	
5－13	日系プロ歌手第1号誕生。三宅ローザ（21）。 「ひとりぼっちがさびしいの」「恋のバイバイ」をレコーディング。	
5－14/15	ブラガンサ・パウリスタ市で第2回バタタ祭りが開催される。	
6－1	日本語普及会の調査「日系2世の結婚観」では、日本語学習経験者ほど混血結婚を否定する度合が高まると指摘（パウリスタ新聞）。	
6－3	勲章伝達式。春の叙勲で勲五等瑞宝章を贈られた9人は、氏原彦馬（ロンドリーナ）、仲尾権四郎（マ州カンポ・グランデ市）、前田常左エ門（イツベラーバ）、後藤武夫（サンパウロ）、鐘ヶ江久之助（トレメンベー）、岡本寅蔵（レジストロ）、小淵友市（サントス）、戸田善雄（パラー州ベレン市）。	
6－17	INDA（ブラジル農村開発院）が移民会社令と植民会社令を発表。	
6－18	シネ・ニテロイで弓場バレー団公演（4年前に小原明子を中心に弓場農場に発足したバレー団）。	
6－21	ABETA（ブラジル農業技術研究会）の山本賞第2回目は阿部望、酒井章三、沢辺作蔵の3名に決定（授賞式は7月30日文化センターで行われる）。	
6－23	第15回パウリスタ近代美術展で日系2世大竹・マサシ・ルイが特賞と大銀賞を獲得。	
6－24	**外国語でのラジオ放送禁止。** 外国語でのラジオ放送は一切禁止となる。日本語もレコード音楽以外は一語も許されない（衝撃なし）。	
7－6	**農薬問題** 水銀剤 Neantina をめぐって60万箱のトマトが出荷停止処分にあって、問題となる。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－	日語教育問題（サンパウロ日本文化協会懸賞募集２等入選論文）が「コロニア」59号6－7月号に発表される。筆者は田中啓吾（1等は該当者なし）。	
7－13	グァラサイ市の新生農場で創立10周年記念式典実施。	
7－13	サンパウロ州プレジデンテ・プルデンテ石橋渉市長サンパウロ州局長から優秀市長として表彰される。	
―――	マナウス管内邦人（日系人）1,855人と同地領事館発表。	
7－25	サンパウロ総合大学（USP）で日本シンポジウムを３日間にわたり開催。UNESCOの後援。	
7－24/25	第２アリアンサ移住地で創設40周年記念祭が行われる。	
7－31		サンパウロ市のBonde（電車）がサント・アマーロ線を残し、他は殆ど消える。
8－1	ヤクルト商工株式会社創立、本社サンパウロ市。	
8－25	３年前から着手して来た「ブラジル力行会四十年史」完成。	
8－26	サンパウロ東京銀行支店第１号メルクーリョ大通りに開店。	
9－1	第10回コロニア美術展開く。大金賞は該当者無く小金賞を白井久雄へ。	
9－6	ブラジル野球50周年・球連創立20周年を記念して文化センターで盛大なカクテル・パーテイを催したがその後で、ブラジル球界の創始者として岩瀬彪夫、杉野正喜、里見茂義、川上末弘、竹内秀一、穂積倉次、田口実、山本仁三郎、明穂実、長谷川末記、梅田久吉、横溝一男、アマデウ・リッピ、ペドロ・サラチーニの14人に球連から感謝状と記念品が贈られた。	
―――	トメアスー文化会館落成式。	
―――	事業団が北伯雇用青年制度を始める。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－7	球場では決勝戦に先立って、前夜の功労者を紹介。更にブラジル野球の功労者としてオリンピオ前球連会長、弓場勇、進藤憲吉、田中重夫、石原桂三、竹内秀一並びに邦字紙３社即ち日伯毎日、サンパウロ、パウリスタ、ポ語３社、ア・ガゼッタ・エスポルチーバ、オ・エスタード、フォーリャに感謝状と記念品が贈られた。	
9－28	ブラジル政府は日本移民援護協会（中沢源一郎会長）を連邦社会福祉団体として正式に認可。	
9－28	ブラジル政府の招待で訪伯の椎名悦三郎外相夫妻一行リオ着。30日サンパウロ訪問、10月1日リオへ戻る。	
10－9	第20回全伯俳句記念大会（パウリスタ新聞社主催）文化センター大サロンで230人の参加で開催される。	
10-15/16	ノロエステ線リンス市の日本人入植50年祭がリンス連合日本人会の主催で実施。	
10－24	半田知雄の「今なお旅路にあり－或る移民の随想」を日本で出版。文化センターで出版記念パーテイを催す。	
10－24	横田喜三郎前最高裁判所長官、夫人同伴来聖。	
10－25	グアナバラ政府主催第１回国際ポピュラー音楽祭に作曲家中村八大、歌手江利チエミ、作詞家永六輔が来伯。	
10－26	創価学会を「日蓮正宗」と改称する。	
11－2	東映フライヤーズチームはブラジルで初めて行われた日本、アメリカ、パナマ三国のプロ野球国際試合に参加する為に来聖。	
11－2	秋の叙勲に８名。安瀬盛次、作磨宗一、吉雄武保、松本圭一、矢野桝治（ますじ）、平井格次、中野益男、尾山良太ともに勲五等瑞宝章が贈られる。	
11－11	日本留学中の宮崎信江（32）東大から博士号受ける。	
11－15	３月革命以来初めての上院、下院、州議の直接選挙があったが、日系からの当選者９名、即ち連邦下院にはサンパウロから田村幸重（４選）、平田進（再選）、パラナからは宮本実（再選）、上野アントニオ（新）の４人、州議ではサンパウロから野村丈吾、森本アントニオ、仲村渠パウロ、京野四郎（何れも再選）の４人及びパラナでは初当選の佐藤ジョルジ。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
12－	大正小学校閉校（1915年開校）。	
12－21	サンパウロ大学日本語科主任教授に鈴木悌一を迎える。	
12－28	安田エドワルド良明がサンパウロ州次期公共事業長官に就任決定。 人物往来 【芸能・音楽】 1/7　松尾和子（ビクター専属歌手）来伯。 1/15　桑野みゆき（女優）。 5/8　N響ブラジル初公演の為に来伯。指揮者は岩城宏之と外山雄三。 4/21　宮城まり子（女優）。　5/12 森山加代子（歌手）。 6/2　小林旭（俳優・歌手）。 8/10　松竹歌劇団36人。8/15 アイ・ジョージ（歌手）。 9/2　里見浩太郎と緑魔子第２回東映祭り参加の為に来聖。 12/29　東海林太郎・神戸一郎がシネ・日活でのショーの為来聖。 【宗教】6/15　生長の家本部理事徳久克己医学博士来伯。 6/23　日本自由メソジスト教団理事・伝道局長高野鑑信牧師来聖。 8/3　東本願寺の大谷光暢法主及び智子裏方一行14年ぶりの来聖。「南米本願寺入仏落成法要」と「宗祖聖人七百回忌」の実施の為。 【学術】5/7　山口大学山本晃紹教授、宗教事情及び思想研究の為来伯。 6/8　アジ研小坂允雄研究員、リオのGV経済研究所で『工業化と外国資本』研究。 7/2　米国コーネル大学からロバート・スミス教授夫妻が　日系人調査の為来聖。 8/16　伊藤道機早大教授・柔道部長、ブラジル柔道事情視察の為来聖。 9/22　アジ研中南米研究室室長大原美範ブラジルの経済事情調査に来聖。 12/6　日高孝次博士（東大・海洋学）来伯。 死　亡 5/20　金壽柞（日本名、青木伊三郎）、胃癌の為。韓国移民導入に功績。享年60歳。 -/-　菊地英二（1890－）。伯国剣道総師範。 12/28　ホリネス教会久保徹牧師（82）。 12/31　城間善吉（68）脳溢血の為。沖縄県国頭郡出身。1918年移住。沖縄文化教済会や沖縄海外協会長を歴任する。 刊行物 ★『幾山河』伯国日語学校連合会。 ★大槻洋志郎、本間久靖共著『アデウス・ニッポン』東京、本田書房から出る。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
――	★ブラジル力行会編『ブラジル力行会40年史』。	
――	★半田知雄『今なお旅路にあり』サンパウロ市太陽堂書店。	
7－1	★農業拓殖協会編『アマゾンに注いだ先人の情熱－アカラ植民地の創建－』。 ★農業拓殖協会編『イグアペ植民地－南米ブラジルの一角に聳えたつ日本人植民地第一号－』	
11－	★『実業図鑑』（産業年鑑１）ブラジル文化出版社。	
1967（昭和42） 1－1		税制改革で１月１日から商品流通税、工業製品税などが実施となる。
1－5	東芝・イルネ株式会社成立。	
1－15	グアタパラ事業団移住地入植５周年記念祭挙行。	
1－24		軍事政権が新憲法（67年憲法）を公布。（3/15より実施）
1－28	安田エドアルドUSP教授、サンパウロ州公共事業長官に決定。	
1－31		アブレウ・ソドレー聖州知事就任。
1－		コスタ・エ・シルバ次期大統領訪日。
2－8		通貨が1,000分の１のデノミで「新クルゼイロ」となる。
2－28	在伯県人会連合会、日本の海外移住連合会の斡旋による第１回笠戸丸訪日団（移民９人、付添い６人）の一行が28日サントス港から「ブラジル丸」でおよそ２千人に上る関係者の見送りを受けて母国訪問に出かける。今回の訪問者は金城盛吉（74）、島袋カマ（76）、沖縄県。永田一（76）、永田ノキ（81）、湯ノ口袈裟一（78）以上鹿児島。山口トモ（62・熊本）、中村たかの（74・愛媛）、林岩松（71・山口）、渡辺七之助（81・福島）。	
3－15		アルツール・ダ・コスタ・エ・シルバ大統領就任。
3－18	北伯開発懇談会発足。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－26	ソドレー聖州知事は農村・組合代表と会談、流通税を野菜、果物、牛乳などに対して免除することを決定。	この頃、イペー・ローショが癌に効くというので大騒ぎ。
5－7	サンパウロ学生寮新館落成式を田付大使出席のもとに挙行。	
5－22	皇太子御夫妻ブラジリア着。同22日大使館ブラジリア事務所が木杯授与者140人（第1回）を発表。	
―――	ジュート尾山種の尾山良太がアマゾナス州名誉州民権を贈られる。	
5－24	午後3時30分、皇太子夫妻サンパウロ市コンゴニアス空港着。出迎え人およそ1万人と言われる。	
5－25	パカエンブー競技場に8万人の日系人を集めて皇太子夫妻の歓迎大会が挙行される。	
5－26	午後2時皇太子一行リオへ向かう。	
5－28	午前10時半皇太子一行離伯。	
6－5	福島県からカンピーナス市に野口英世博士の胸像が贈られ、除幕式。	
6－5	田付景一大使、イタリア大使就任の為に帰国命令（7/6帰国）。	
6－9	2世のネルソン・吉村（19、ヤンマー・ド・ブラジル勤務）日本のヤンマーチームへ招待。	
6－22	北パラナのコルネリオ・プロコピオに“Iguaçu Café Solúvel”KKを日伯合弁で創立。社長宮本邦弘。1971年工場落成。	
6－30	故古谷重綱（6月13日死）に日本政府が勲二等旭日重光章授与。	
7－12	第3回山本喜誉司賞が尾山良太（ジュート）、岡本寅蔵（茶）、林茂夫（農村青少年指導）、の3人へ贈られることに決定。授与式は7月29日。	
7－27	聖市ピニェイロス区のピラチニンガ文化体育協会会館で、ペルー、アルゼンチン、ブラジルの日系2世代表約150名が参加して第1回南米2世大会開催される。	
8－2	全日本サッカーチーム来聖。パルメイラスチームらと4戦し全敗。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－8	日系初の薬学博士誕生。宮田幸信（33）（USP 薬学部）。	
8－16	日本棋院から岩本九段来聖。	
9－7	松下電器のブラジル進出決定。	
9－7	赤間学院（サンパウロ市）で創立35周年を祝う。赤間学院創立当時、日系社会は花嫁学校が花盛りで、1931年には佐藤初江が「サンタ・セシリア割烹学校」を、1932年には郷原重登夫妻が「日伯実科女学校」（裁縫女学校）を創立している。	
9－19	第11回コロニア美術展を開く。	
9－20	千葉晧日本大使リオに着任。	
9－23	早川萬労相来聖。	
9－25	故今雪真一（香川県人、75歳）に勲五等瑞宝章が贈られる。	
9－29	宇佐美日銀総裁来聖。記者会見で日伯経済提携を強調。 なお、この年に来訪した財界人は石田輸銀総裁、足立日商会頭、柳田開銀総裁等であり、その他小林移動大使がある。	
10－1	文化協会・日語普及会主催、第1回合唱祭開かれる。	
10－8	松岡琉球政府主席来聖。沖縄県出身者の慰問と移住の現状及び将来の研究が目的。	
10－29	救済会25周年を祝う。	
11－12	インダイアツーバ入植20周年祭挙行。	
11－22	第20回ベロ・オリゾンテ市展で楠野友繁（絵画）が最高賞、小原久雄も彫刻部門で第1位獲得。	
―――		マナウスが自由貿易港となる。
11－22	パウリスタ文学賞に高野耕声の「井戸」が入選。授賞式は1968年1月27日。	
―――	日本放送協会（NHK）リオ支局設置。	Nilo Ramos（日伯文化普及会副会長）、Rui Mesquita（Jornal da Tarde 紙社長）を

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
		団長、副団長とする総勢120名（国会議員6名、サンパウロ地方司法官7名、報道人4名、実業家20名、農業関係者6名、文化関係者28名）のブラジル文化使節団が訪日。ブラジルからの文化使節団として空前絶後。
12－6	サンパウロ人文科学研究所（中尾熊喜会長）6日付けで公益法人として認可される。	
	人物往来 【芸能・音楽】 2/2　守屋浩・本間千代子来聖。 5/21　倍賞千恵子（松竹）来聖。 9/7　西郷輝彦来聖。 11/25　2代目松旭斉天勝一行が公演のため来聖。 【芸術】8/19　岡本太郎（画家・文化評論家）来聖。 【宗教】9/6　本門仏立宗小山日幹管長等一行来聖。 11/12　南米高野山高野寺、山本栄信尼（高野山真言宗北米大陸・カナダ両開区総督名代）を迎えて同寺の第1期工事完成法要実施。 【政治・経済】 2/8　松下電器産業KKの高橋荒太郎副社長と大西栄作海外事業本部長来聖。 5/20　第2トメ・アスー聖ステパノ農場に滞在後、沢田美喜女史来聖。 10/6　小渕恵三代議士（29）来聖。 10/17　足立正日商会頭夫妻来聖。 10/26　小林中（外務省顧問）移動大使として来聖。 **スポーツ** 11/15　東洋の魔女ニチボーバレーチーム来聖。 **死亡** 3/8　下元亮太郎（1890－）。健吉の兄、コチア産組創立者の一人。 6/13　古谷重綱（91）元アルゼンチン公使。明治9年生まれ、老衰の為。1929年にブラジル移住。勲2等旭日重光章を贈られる。	
5－1 11－30 －－－ －－－	**刊行物**　★岸本丘陽『南米の秘境踏破記』旷野社。 ★輪湖俊午郎追憶記刊行委員会編集『日々新たなりき－ある拓人の生涯』。サンパウロ市帝国書院印刷。 ★『ブラジル大分県人発展史』ブラジル大分県人会。 ★佳山良正『ブラジルの日系農家』神戸・兵庫農科大学。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
―――	★ブラジル広島県人会『ブラジル広島県人発展史並びに県人名簿』サンパウロ。	
―――	★古関富弥『わが国ブラジル移民のあしあと』農業拓殖協会。	
―――	★鈴木貞次郎『ブラジル移民の草分け』サンパウロ。	
―――	★角田房子『ブラジルの日系人－新天地に生きる血と汗の記録－』潮出版。	
1968（昭和43） 1－14	21日までブラジル４Ｈクラブ、グァタパラー（聖州）で農村青年リーダー講習会を催す。	
2－	ブラジル松下電器有限会社創立。本社サンパウロ市。	
2－8		ブラジル国名が República dos Estados Unidos do Brasil から República Federativa do Brasil に改まる。
2－9	ブラジル丸、移住者68人を乗せてサントス入港。	
3－1	事業団サンパウロ支部第１回雇用農懇談会を開く。	
3－2・3	サンパウロ蘭愛好会主催第１回蘭展示会開催。	
―――	辻小太郎、戸田義雄、中内義正の３名にパリンチンス名誉市民権が贈られる。	
3－22	日本政府派遣の農村青少年指導専門家、湯浅甲子着聖。	
3－27		電車が今日限りサンパウロ市（最後のサント・アマーロ線）から消える。
5－8	俳人星野立子来聖。	
5－19	イタケーラ（聖市近郊）で第２回小農大会を開く。会場はコロニアの会館。農村労働法をめぐって雇用主と使用人に関する問題を討議。労働省サンパウロ支所長も出席。	
5－24	香山六郎叙勲を正式に辞退。	
5－27	外務・文部両省の招きで来伯した画家浦上正則、文化センターで個展を開く。	
5－31	南米初の心臓移植手術に２世の続正剛医師と野島多鶴子（29）が立ちあう。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－9	プロミッソン市で入植50年祭盛大に実施される。	
6－10	第1回コロニア文学賞（文協設定）は川原奈美の「移植」に決定。なお、授賞式は18日午後5時30分文化センターで行われる。筆者の本名は河島静野。	
6－18	日本移民60年祭挙行。 □祭典プログラム 1．物故先駆者慰霊ミサ（午前8時セー・カテドラル） 2．先駆者招待映画祭（午前9時シネ・ニテロイ） 3．先亡者追悼仏式大法要（午後1時半文化センター大サロン） 4．皇太子殿下来伯記念大講堂定礎式（午後3時半文化センター裏庭） 5．フォード自動車会社から移民援護協会への診療車贈呈式 6．皇太子殿下御夫妻来伯記念大講堂設立委員会発会式 7．コロニア60年祭祝賀レセプション（午後6時文化センター大サロン）。なお、マガリャンエス外相から宮坂国人に南十字星章 Ordem Nacional de Cruzeiro do Sul が贈られる。 8．ブラジル及びサンパウロ州の日本移民に関するシンポジウム発会式（午後8時イビラプエラ公園内軍人クラブ）	
6－26	バリグ航空日本乗り入れ。	
6－27	故山中弘（農拓協職員コチア青年移民の世話役）に総領事館を通じて勲五等瑞宝章が贈られる。	
6－29	沖縄移住センター定礎式。	
7－2	日系人の地位向上や移住に功労のあった渡辺マルガリーダ夫人等生存者14名へ日本政府から勲五等瑞宝章が贈られ、この日総領事館邸で伝達式がある。	
7－13	香川県高松司教区田中英吉司教、移住地視察の為来聖。	
7－19	バストス（サンパウロ州）開植40年祭挙行。	
7－26	笠戸丸及び同船以前移住者の生存者57人に勲六等瑞宝章が午前10時から総領事公邸で伝達される。	
7－30	ブラジル前川製作所創設、工場はジアデーマ市（聖市近郊）。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－2	ガルポン・ブエノ日本人街の名物シネ・ニテロイが8月いっぱいで取り壊しのため閉館と発表。アベニーダ・リベルダーデへの移転は10月12日に開始。	
8－2	草月流いけ花ブラジル支部発足記念花展。	
8－4	訪日中の竹中正、スポーツ功労章の「秩父宮章」を受ける。	
8－10	第4回山本喜誉司賞が岡野建、谷口章、故上野成美の3名にこの日授与される。（決定の発表は7月22日）	
8－22	農村青少年指導協議会の第1回リーダー養成研修会がコチア、南伯、バンデイランテス及び産組中央会協力のもとに開かれる。（サンパウロ市）	
9－7	**文協改名。**文協ことサンパウロ日本文化協会13年目の総会でブラジル日本文化協会と改名。	
9－8		明治と改元してから100年目。この年日本では各種100年記念行事が開催される。
9－10	コロニア美術展開く。（大竹とみえに大金賞が与えられる）	
9－18	福井国体派遣選手団、峯定美監督以下6選手ビラコッポス空港から訪日の途につく。	
9－22	サンパウロ学生会アルモニア学生寮創立15周年を祝う。	
9－27	いけ花協会の合同展がサンパウロ市ガレリア・プレステス・マイアで開かれる。	
9－28	**組合異変。**第30回定期総会で再建策出ずじまいのバンデイランテス産組、火の車をいかに乗り切るか前途多難。	
10－6	リオ・グランデ・ド・スール州の政府直轄移住地へ植民導入を引き受けた事業団、満植策に苦しむ。現地入植の線を深める。	
10－27	第22回全伯俳句大会。	
10－31	ブラジル水産Sui-San株式会社創立。	
11－3	日本政府、秋の生存者叙勲で山川宗仁、具志堅允宏の両人に移住先駆者として勲六等瑞宝	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	章が贈られる。	
11－9	第13回パウリスタ文学賞が作家醍醐麻沙夫の「一年ののち」に決まる。	
11－26	ブラジル日本電気有限会社が創立。本社サンパウロ市、工場ゾットラ街道km18。	
11－28	**大量の日系市長・副市長が誕生** この日付邦字紙報道によると「地方選挙に大量の日系市長。副市長」が当選。 地方自治体の選挙が11月15日全伯各地で行われ、任期向こう4ヵ年の新しい市長・副市長・市会議員が誕生した。 松原雅春（32）　バストス4代目市長 宮平修平ペードロ（38）　スザノ市長 吉良賢二（36）　コチア市長 田港朝安（41）　イタリリー市長 丸林光雄（36）　パラグアスー・パウリスタ市長 横溝貞雄（43）　アラポンガス市長 今村実（43）　カフェランジア副市長 小篠マリオ（再）　サンパウロ市議 野田次平　サンパウロ市議 （以上11月19日付報道） 稲田ガストン　バジー・バジット市長 前橋ジュリオ　コロンビア市長 曲尾フロリアーノ　セッテ・バーラス市長 川村ヒデミ　サンターナ・ド・パルナイーバ市長 川野益幸　ツパン副市長 竹田敏行　ウライー副市長 原田忠文　マイリポラン副市長 山田　ピケロビー副市長 浅沼一夫　レジストロ副市長 藤井四郎　フロリダ・パウリスタ副市長 西村孝　ポンペイア副市長 作野勲　キンターナ副市長 佐藤トシオ　タピライー副市長 更に後日判明したところでは、 竹田光次　タポン・ダ・セーラ副市長 荒川　潤　パラナ州サン・セバチオン・ダ・モレイラ副市長 以上11月28日付報道。なお、日伯毎日新聞1969年新年特別号によると市長11名、副市長20名、市議67名となっている。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
12－22	南米開発会社（在東京那須晧社長）マット・グロッソ州とイグアスー（パラグアイ）に大牧場を購入、スタートを切る。	
12－31	第44回サン・シルベストレ国際レースで日本の沢木啓祐選手第２位。	
	人物往来 【宗教】1/13　ブラジル真言宗醍醐派スザノ大師堂主に西岡真山が任命さる。 4/14　PL教団の三木徳近教主一行10人が来聖。布教活動とアルジャ・ゴルフクラブ開設の為。 【芸能・音楽】 1/6　村田英雄（歌手）来聖。 2/18　浜口庫之助（作曲家）来聖。 4/4　加山雄三（東宝）来聖。 7/10　田端義夫（歌手）着聖。 10/6　リオで開かれた「第３回国際ポピュラー音楽祭」で日本代表の坂本九の「さようなら」は第７位となる。	
	スポーツ　2/16　全伯選抜ジュベニール野球大会開幕。(18日セントラル軍２度目の優勝) 9/5　全伯野球選手権大会開幕。セントラル・チームの豊和が逆転勝ち。５年振りで２度目の優勝、バストス無念の涙を呑む。 10/3　ブラジル陸上選手団峯定美監督に秩父宮章。	
	死亡　3/8　Padre Guido del Torro（1879－）ベレン市にて。日本人カトリック教化事業の第一人者。 4/10　高橋麟太郎（1897－）。汎ノロエステ連合日本人会長。 4/12　高畠清（58）帰化人弁護士第１号。スザノ市の自宅で脳溢血で。 4/13　山中弘（1904－）狭心症の為。コチア青年移民の世話役。農拓協勤務中。勲五等瑞宝章。 4/29　下元健郎（55）1936年サンパウロ法科大学卒業の日系弁護士第１号。 5/13　上野成美（1901－）。コチア産組モイーニョ・ヴェーリョ試験場長。 6/23　野田良治（1875－）日本の自宅で老衰のため。元代理大使、領事、日葡辞典編纂者。 12/21　宮崎八郎（1894－）サンパウロの自宅で。元ピリグイ植民地日本人部代表。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
―――	刊行物 ★『目でみるコロニア60年』パウリスタ新聞社。新聞付録として発行。	
―――	★アルヴァレス・マッシャード開拓50周年記念誌（宮下良太郎編）『拓魂』ア・マッシャード日本人会。	
―――	★昭和43年までの戦後の『移住統計及び移住地概況』が『百年の進み』資料編1p.～181p.にみられる。	
―――	★千葉三郎『パラガイとアマゾン紀行』アジアの灯台の会。	
―――	★日伯中央協会『ブラジルに於ける日本の企業』。	
3－	★コチア産業組合中央会『40年の歩みと現状』。	
1969（昭和44） 1－15	サンパウロ大学日本語学科（主任教授鈴木悌一）へ日本の経団連から援助金の送金通知と、野元菊雄教授の派遣の報あり。	
1－22	間部学、連邦政府よりリオ・ブランコ章を受ける。	
1－22	**ネクタリーナ市場に出る。** サンタ・カタリーナ州政府直轄植民地ラーモスColonia Ramosから油桃ネクタリーナNectarinaがサンパウロ市場へ本格的に出荷。	
1－29	サントス市議会は小淵友一（74、広島県出身）に名誉市民権を贈る。（日毎には1月12日とある）	
2－1	バストス市で松原雅夫市長と信太茂副市長の就任式。（サンパウロ州）	
2－5	イタケーラ（聖市近郊）在住の松本圭一（72）は11年間の研究で栗の改良に成功。	
2－10	ぶらじる丸、家族もの36人、単身40人計76人の移住者、留守家族会慰問団21人（中西弥太郎団長）らを乗せサントス入港。	
2－13	マット・グロッソ州農務長官に初めて日系の只野正夫（文児長男・29歳）就任。	
3－1	蘭展開催。サンパウロ蘭愛好会・文協共催で文化センターで開催。	
3－2	サンパウロ大学東洋語学科客員教授として国立国語研究所の野元菊雄教授着任。	
3－4	サンパウロ大学文理学部の仏教史講座の招聘教授として宮坂宥勝博士着聖。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－	援護協会10周年を迎える。保護総数7万6千人余り。	
4－3	サンパウロ大学日本語学科附属日本文化研究所がマリオ・アマラール街71番に開設。	
4－9	作家の田宮虎彦来聖。	
4－9	安田ファビオ、聖市食糧配給局長に就任。	
4－9	バンディランテス産組理事会総辞職、政府の直接管理下に入る。	
4－29	日本政府、春の定例叙勲者発表。ブラジル関係では、勲三等瑞宝章に中尾熊喜（69、県連会長）、勲五等旭日章に上野米蔵（74、県連副会長）、勲五等瑞宝章に蛭田徳弥（69、パウリスタ新聞社主）。	
5－	移住者渡航費（約60億円）全額免除となる。（翌70年渡航費回収金は現地の移住者「援護協会」の基金として返還されることに決定。	
―――	トメアスーの胡椒に病害が蔓延してきて、農業者の新地帯への流出が盛んとなってきた。	
―――	日本冷蔵がベレンに現地法人設立を決定。	
5－1	アジア経済研究所が山田睦郎をゼツリオ・ヴァルガス経済研究所に派遣。	
5－20	巡航見本市船「さくら丸」午前7時サントス入港。	
5－23	大阪万博（Expo'70）代表者会議に出席の為ブラジル代表の安田ファビオ訪日。	
6－1	ミランドポリス（聖州ノロエステ線）産組発足、理事長は村井利一。	
6－3	日伯文化普及会から独立した日本語普及会は3日創立総会を開き、宮坂国人を会長に選ぶ。	
6－10	全拓連の招きで訪日した花嫁相談員、古関のり子帰聖。	
6－18	**肝臓移植の土肥隆三医学博士（38）**にブラジル医学界の最高栄誉であるコスタ・アルヴァレンガ賞が贈られる。日系では初めて。	
6－20	**サンパウロ大学日本文化研究所開所式。**同大学のブサイド総長、千葉皓大使ら出席。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－1	第5回山本喜誉司賞は平賀練吉（トメアスー）、堀清（サンパウロ）、酒井栄造、臼井晋の4名。	
8－16	大口信夫サンパウロ総領事着任。	
8－28	**南伯（スール・ブラジル）組合創立40周年**を祝う。	
8－28	日本の高校野球選抜チーム来伯、17試合消化。	
8－31		コスタ・エ・シルバ大統領、病気のため辞任。
9－1	**モジ・ダス・クルーゼス市の日本人入植50年祭**がコクエーラ日本人会館で開催される。	
9－14		1967年頃から軍部による左翼・右翼グループ弾圧が厳しくなり、これに対してのテロが激化したが、1969年9月4日にテログループは駐伯アメリカ大使を誘拐し、後多数の外交官が誘拐されることとなった。
10－7	第13回コロニア美術展、文化センターにおいてソドレー知事夫人を迎えて開幕。	
10－20	ノロエステ線（サンパウロ州）アリアンサ移住地に中学を含む総合学校が完成 Centro Educacional Dona Idalina Sodre と命名。この日開校式挙行。	
10－26	パウリスタ新聞社主催第23回俳句大会、参加者220人。	
10－27	サンパウロ市と大阪市との姉妹都市調印式は27日午後4時から市会議事堂で行われる。	
10－30	**安田ファビオ良治商工大臣就任。**日系人で初めて大臣就任。	エミリオ・ガラスタズ・メジシ将軍が大統領に就任。
11－2	大石小作（80）アマゾナス州マウエス農場経営者に日本政府が勲五等瑞宝章を贈る。	
11－2	「カトリック農業研修センター」発足。会長平田進、副会長井上忠志。（サンパウロ市）	
11－9	鹿児島県知事、金丸三郎夫妻来伯。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－12	アリアンサ移住地（サンパウロ州ノロエステ線）の功労者故北原地価造に勲五等瑞宝章が贈られる。（日毎には12月2日遺族へ伝達とある）	
11－14	**アマゾニア日系人入植40周年記念式典**がベレン市の日伯会館で挙行。この日アマゾニア日伯援護協会の病院の落成式も行った。	
11－16	リオの女医マリア・シルヴァ女史（63）曹洞宗南米別院佛心寺で得度。ブラジル人初の尼僧誕生。	
11－19		ペレー選手1000点ゴール達成。
11－23	初の日系女性判事に加藤シェルマ（29）が任命される。	
12－	ブラジル協栄保険会社がイグアッスー保険会社を買収。翌70年より営業開始。	
5－1	スポーツ　・日伯毎日・北パ運連共催の第21回全伯選抜野球大会は北パラナ、マリンガー市のアセマ球場で開幕。3日全伯の栄冠はセントラルに。2連勝へ宿望達す。	
2－26	死亡　・隈部三郎未亡人五百（102歳）リベイロン・ピーレスの自宅で。	
8－7	・伊藤八十二（1888－）。聖公会牧師。	
8－24	・後藤武夫（1887－）。（サント・アンドレー）。交通事故の為。勲五等瑞宝章。	
9－21	・北原地価造（1894－）。1917年タコマ丸渡伯、終始アリアンサ移住地にあって植民者を指導した。勲五等瑞宝章。	
2－18	刊行物　★『ブラジル移住60年－ブラジル日系社会の研究』東京ラテンアメリカ協会発行。	
4－	★サンパウロ産業組合中央会発行『中央会35年の歩み』。	
6－18	★在伯県人会連合会編『かさと丸より60年』文協後援で発行。	
7－	★『・土の守り』北パラナ教育連合会。	
11－30	★鈴木貞次郎著『埋れ行く拓人の足跡』改訂再版パウリスタ美術印刷から出る。	
12－15	★中村東民編『パライバ平野邦人発展録－富流原』パウリスタ新報社。	
―――	★野村隆輔著『思い出の記』（草分け時代のレジストロ植民地）ガリ版刷りの個人出版。	
―――	★山根舜一著『ブラジル百科事典』ブラジル公論社。	
5－20	★大野盛雄編『ラテン的日本人－ブラジル2世の発言－』日本放送協会。	
―――	★日本ウジミナス株式会社編『日本ウジミナス株式会社10年史』。	
―――	★千葉三郎著『四十五年の今昔』。	
―――	★角田房子『海外の猛烈日本人』ペリカン社。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1970（昭和45） 1－5	ラジオ・アポロ（サンパウロ市）開局（代表奥原康栄）放送開始。	
1－6	30年の歴史を持つコチア球場売却。	
1－11	第1回国内洗染業者会議開催。	
1－19	ビニャール植民地（サンパウロ州）に電化実現。	
1－20	精薄児収容施設「希望の家」が社会福祉団体として公認、希望の家福祉協会として発足。（サンパウロ市）	
2－2	野田次平、サンパウロ市市議会議員となる。	
2－15	2人目の伯人尼僧誕生（曹洞宗）。	
2－20	第1回全伯児童絵画展が文協・日語普及会共催で文化センターで行われる。（サンパウロ市）	
2－23	**安田ファビオ商工大臣辞任。**	
3－11	**大口総領事拉致事件** 大口信夫サンパウロ総領事公邸近くで機関銃やピストルで武装した5人組に誘拐される。	左翼グループの外交官誘拐が相次ぎ、1970年だけでもドイツ大使、スイス大使、モンテビデオのブラジル領事などが誘拐された。
3－15	ブラジル政府は大口総領事を拉致したテロ団（VPR、人民革命前衛隊）と交渉、日系を含む5人の政治犯の釈放を認め、彼らをメキシコに運んだ時点で大口総領事は解放され公邸に帰った。	
3－22	タウバテー（聖州）医大の副学長に安田ネルソン（安田ファビオ前商工大臣の実弟）が就任。	
3－31		日本赤軍派学生9人、日航機をハイジャックし北朝鮮へ。
4－1	バウルー（聖州）の歯科大副学長に玉置正教授（47）就任。	
5－31		ペルー北部で大地震。死者6万人、被災者80万人。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－6	「御所いけ花」の別名で知られる嵯峨流華道総司所の野口青楓司所長、辻井博舟理事来聖。	
6－26	サント・アンドレー（聖州）経済大学の学長に保久原正喜（35）が就任。	
6－26	田中重人絵画作品個展を開く。	
6－31	VPR（人民革命前衛隊）主要メンバー吉永マサフミ（21）政治社会警察に自首しテロの正体を曝露。	
7－14	茶道裏千家ブラジル支部創設15周年記念祭がサンパウロ近代美術館で千宗室家元夫妻出席のもとに挙行される。	
7－15	コチア産組が丸紅・飯田ブラジルKKと日本の山本山の合弁でタピライー（サンパウロ州）に緑茶加工販売会社（グリーン・ティ農工会社）を創立。	
7－19	日学連（日語学校連盟）主催全伯児童作品発表会が聖市文化センターで開かれる。	
7－20	事業団より渡航費返済金2,356,050円、伯貨30.007,00クルゼイロが日本移民援護協会の基金として払い戻される。	
―――	天理教布教師白木原明が来伯途中に、ハワイ大学農学部でハワイのパパイヤの種子を入手し、胡椒の病害で苦しむパラー州の日系農家に持参。これがブラジルでのパパイヤ・ブームのもととなった。	
8－1	金井元彦兵庫県知事来伯。	
8－8～10	美空ひばりショー、サンパウロ市イビラプエラ体育館で開催。入場者３万人。	
8－14	第６回山本喜誉司賞は中川勇蔵（68）、平松薫（64）、松岡春寿（57）、吉岡太一（50）の４人に決定。授賞式は９月４日。	
8－23	日本カントリー・クラブ（会長山本勝造）創立10周年を祝う。 （サンパウロ市郊外アルジャー市）	
8－27	工芸作家協会と文協の共催で「工芸展」がサンパウロ市文化センターで開かれる。	
8－30	サン・ベルナルド・ド・カンポ市（大サンパウロ都市圏）に日本庭園落成式挙行。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－3	皇太子来伯記念講堂落成式。（サンパウロ市、日本文化センター内）	
9－3	田中龍夫代議士（海外移住家族会連合会会長）に南十字星章が贈られる。	
9－6	日本棋院から岩本九段来聖。	
9－10	第14回コロニア美術展が文化センターで開かれる。（聖美会主催の最終展）	
9－12	文協主催でユバ・バレー団公演。	
9－22	愛知揆一外相来伯。日伯技術協力協定に調印。愛知外相は26日まで滞在。メジシ大統領などブラジル政府要人と会談した他、24日はサンパウロの文化センターでコロニア代表と懇談。	
9－24		大統領にアジェンデが当選し、チリーに人民連合政権が成立。
9－29	華道香月流の藤原香雨師範にコウト・デ・マガリャンエス章が贈られる。	
10－4	パウリスタ新聞社主催第24回俳句大会が文化センターで催される。230人集合。	
10－7	第5回スザノ農工商ビエナール展開催。	アマゾニア横断道路、メジシ大統領を迎えて公式起工式。
10－24	グァタパラー移住地の電化工事完成し、その落成式と入植8周年記念祭が開かれる。	
11－3	秋の叙勲で山田義一（72、パラー州第2トメアスー移住地建設実行委員）に勲五等瑞宝章が贈られる。	
11－7	大竹とみえ、ブラジル現代美術展で1位入賞。	
―――	**ブラジリア邦人入植の歴史** 1957年3月5日首都建設局から日系疏菜栽培者の入植要請にもとづいて、サイオン元上院議員（ゴイヤス州選出）がゴイヤス植民会社を通じて20家族分の農地を分譲したのがブラジリアにおける日系植民地の始まりである。 1957年5月27日、日系最初の入植者として池田楠春（故人）が入植。同年5月30日木村徳蔵がイッペ耕地に入植、31日には求石強、鐘ヶ江忠一、小川庫一、大藤常監、大藤由成、佐藤正治が入植。	ブラジリア首都移転10年。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	7月15日に水野喜代治らの入植があって1958年ブラジリアのシダーデ・リーブレ（自由市）に産業組合が創立され、初代理事長鐘ヶ江忠一、専務理事大藤一三、専務理事森徳蔵らが就任。 また、ブラジル訪問の三笠宮殿下歓迎の為有志間に準備委員会が結成され、それが日本人会創立の契機となり、初代会長に水野喜代治、副会長に鐘ヶ江保太郎、渉外部長に甲斐清人、大藤一三らが選ばれる。	
11－15	下院選挙、州議員選挙に日系候補大量出馬。下議３名、州議５名が当選。	
11－25		作家、三島由紀夫衝撃の死。
	芸能・音楽	
8－1	・世界的ハーピスト篠崎史子（24）ソシエダーデ・フィラルモニカの招きで来聖。	
8－13	・文協主催第１回コンサートが開かれ、出演者はテナーの森パウロ、ピアノの本間きよみ、坂田芳枝、バイオリンの福田百合子。	
9－27	・第４回コロニア合唱祭。	
1－18	**スポーツ**・全伯ジュベニール選抜野球大会。セントラル２度目の優勝。	
1－24	・第14回パウリスタ・スポーツ賞、戸井田富寿（剣道）、北沢大和（卓球）、小田秀喜（庭球）、酒井常吉（相撲）、内藤克寛（柔道）、良永光比古（野球）、表アンナ（陸上）、佐藤スエリ（水上）の８名に授与される。	
3－15	・第４回全伯邦人水泳大会でピラチニンガ２連覇。	
6－13	・パウリスタ新聞社主催第１回全伯日系ゴルフ大会がアルジャー・ゴルフ・クラブで開かれ、小野勲がスクラッチ・プレーで優勝。	
6－27	・日伯親善アマ・ボクシング大会がイビラプエラ体育館で開かれ、４ｘ４で引き分け。	
7－12	・ジュベニール野球で「豊和」７連覇。	
1－5	**死　亡**・仲真美登利（1898－）。書店二世社主人。元「南米時事」 新聞社長。	
2－14	・須貝アメリコ（1922－）。２世、弁護士、市議、市配給局長。	
7－7	・小笠原尚衛（1870－）。アルジャーの自宅で老衰の為。プレジョン植民地創設者の１人。（星名謙一郎の財的援助者）	
8－3	・田中重人（1910－）直腸癌の為。画家、聖美会創立者の１人。1931年渡伯。	
8－28	・吉雄武保（1884－）。1918年渡伯。プレジョン入植、尚衛の義兄、CICAP創立者の１人。	
9－8	・鈴木貞次郎（1879－）。移民の先駆者、歌人南樹。	
10－7	・今田求（1901－）。医師、勲四等瑞宝章。	
10－25	・進藤憲吉（1900－）。永年野球コーチとして活躍。1939年には雑誌「植民」を出す。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－15 11－25	・石原桂造（1891－）。愛称トキワのパパイ。 ・辻小太郎、アマゾン移住導入の功労者。事業家、汎アマゾニア日伯協会初代会長。	
2－16 5－16 6－5 8－12 9－21 9－25 －－－ －－－ －－－	**刊行物**　★斉藤広志著『バルガス以後－ブラジルの政治と社会』東京ラテン・アメリカ協会。 ★松本清張の『点と線』ポ訳の市販開始。 ★佐藤常蔵著『ブラジル移民史』帝国書院。 ★高木俊朗著『狂信』朝日新聞社。 ★半田知雄著『移民の生活の歴史』（6月20日発行）この日ブラジル着。 ★サンパウロ植物研究所編『ブラジル動植物分類表』刊行。 ★『在伯山形県人移住六十二年』在伯山形県同郷会。 ★飯沼山魂遺句集『魔燻婆』同素体発行。 ★湯浅愛橘随筆集『老斑』個人出版。	
	叙勲　勲五等瑞宝章 ・大城武盛（カンポ・グランデ市在住）・山下亀一（サンパウロ市） ・粟津幾太郎（サンパウロ市）・高村正寿（ベレン市） ・山田義一（ベレン市）　・吉雄武保（プ・プルデンテ） ・勲四等瑞宝章　今田求（医師、リンス市）	
1971（昭和46） 1－4	第1回サンパウロ（新聞）文学賞授賞式。醍醐麻沙夫の「聖人たちの湾」。同賞は第1回のみで終わる。	
1－9	中村茂大使リオ・デ・ジャネイロに着任。	
1－21	全拓連と州教育局の提携により日本の高卒者をブラジル農業高校に入学させる協定が出来る。	
2－1	**日本大使館リオからブラジリアに移転開始。**リオに総領事館が新設、初代総領事に荒木外喜三。	
2－10	ポルト・アレグレ市のカトリック大学老人病教室の初代主任教授に森口幸雄博士就任。	
2－17	「あゆみの箱」のチャリティ・ショーは8月21－22日の両日イビラプエラ体育館で催すことに決定。（予定通り実現）	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
2－25	横田パウロ、中央銀行農村金融担当理事に任命される。	
2－28	全伯（日系人）弁論大会サンパウロ文協で開かれ、北パラナ1位。	
3－3	吉川英治賞にトメアスー（パラー州）植民地の平賀練吉（68）が選ばれる。	
3－5	第4回のラン展サンパウロ市の文協サロンで開かれる。	
3－15		ラウド・ナテル新知事就任（サンパウロ州）。
3－17		フィゲレード・フェラース新市長就任。（サンパウロ市）
3－25	日伯文化普及会会長にオズヴァルド・バラリン再選（サンパウロ市）。	
3－27	第2回児童絵画展が文協・日語普及会共催で開かれる。	
3－31	JETRO（サンパウロ・ジャパン・トレード・センター）の初代所長安達本夫着任。	
4－3	ブラジル日本文化協会第4代会長に延満三五郎が選ばれる。	
4－13	サンパウロ総領事管内の邦人調査まとまり、管内邦人は59,438家族、13万2,026人と発表される。	
4－16	シキネ石油化学、日伯合弁でバイア州サルヴァドール市に創立。	
4-20～21		日本戦後最大の交通スト。
4－21	モジ・ダス・クルーゼス郡（サンパウロ州中央線）コクエーラ高校がセンタロー・タカオカ（高岡専太郎）と命名され、その式が行われる。	
4－29	サンパウロ市議会、天皇誕生日を祝って初の“日の丸”掲揚。	
5－15	ジャカレイー移住地で10周年記念入植祭を挙行。（サンパウロ州中央線）	
5－26	70年度コロニア文学賞が半田知雄著「移民の生活の歴史」に決定。6月18日移民の日にイビラプエラ日本館で授与式。。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－12	松竹映画の山田洋次監督来聖。	
6－17		**沖縄返還調印** 沖縄26年振り復帰確定。
6－18	画家金子謙一着伯10周年記念個展。（サンパウロ市）	
6－21		英のEC（欧州共同体）加盟本決まり。
6－22	尾関イネース（興之助息女）（27才）フランスのエクス・マルセーユ大学の大学教授の資格を取得。	
6－29	サンパウロ州日語教師研修団日本向け出発。	
7－4	王子、十条製紙など紙パルプ・メーカー11社と伊藤忠が「日伯パルプ資源調査会社」設立。	
7－6	大阪・サンパウロ姉妹都市記念「大阪橋」命名除幕式。	
7－11	天理教ブラジル伝道20周年記念祭典。日本から中山善衛・真柱夫妻参列。	
7－17	イグアスー・デ・カフェー・ソルーヴェル社（副社長宮本邦弘）の工場落成式が北パラナのコルネリオ・プロコピオ市で行われる。	
7－21	サンパウロ総合大学（USP）構内に**日本文化研究所建設用地の無償提供が認可。**	
8－10	サンパウロ州議会、日系議員5人目に仲宗根ペドロ繰上当選。	
8-15～20		**ドルショック**、株式市場大混乱。**変動相場制に移行。**
8-21～22	俳優、伴淳三郎肝入の「あゆみの箱」運動のチャリテイ・ショー、イビラプエラ体育館で2日にわたり開催、大成功。純益は各慈善団体に寄附された。	
8－26	工芸協会主催第4回工芸展、サンパウロ市文化センターで開かれる。	
8－26	コクシジュームの世界的権威角田清博士来聖。	
8－28	仏教画家佐々木英夫、身延山久遠寺南米別院の壁画を描く為来聖。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－29	浄土宗日伯寺本堂の上棟式挙行。	
9－4	第7回山本喜誉司賞授賞式がサンパウロ市文協で行われる。前田常左衛門、石橋初雄及び古田土芳次の3名。	
9－		第11回サンパウロ・ビエンナール展開幕。
9－5	PL教団の御木徳近教主来聖。	
9－7	ビラシカーバ日本人会創立45周年記念祭挙行。	
9－9	岡山月香初の絵画個展を開く。（サンパウロ市文協で）	
9－12	ムンド・ノーボ（サンパウロ州オウリーニョス郡）移住地入植10周年挙行。	
9－15	28日まで田中重人遺作絵画展をサンパウロ市パンプローナ街「ノ・ソブラード」（No Sobrado）画廊で開く。	
9－26	第23回椰子樹社主催パ紙後援で短歌大会を開く。（サンパウロ市。）	
9－26	第5回合唱祭をサンパウロ市文協で開く。	
9－27	9/27～10/17ヤシカ女子バレーボールチーム来伯。16戦全勝。	天皇、皇后両陛下ヨーロッパ訪問。（～10/14）
10－1	故宮尾厚の勲五等瑞宝章授章が遺族に伝達される。	
10－1	「ブラジル豊和」米国のノース・アメリカン・ロックウェール社と資本、技術提携の契約交わす。	
10－4	南米銀行本店ビル落成式。	
10－5		高度経済成長が始まる。1970～73年のGNP（国内総生産）の平均成長率は12.4%。
10－16	本派本願寺南米教団設立20周年、伯国別院創立15周年記念慶讃法要が行われる。（サンパウロ市）	
10－18		サンパウロ地下鉄（南北線）工事の内、都心部3区の工事着手。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10-24～30	黒潮国体（和歌山県）に日系ブラジル選手団参加。	
10－25		中国の国連加盟。
10－30	ブラジルいけ花協会創立10周年を祝ってサンパウロ市で13流派の合同展を開く。	
11－4	岩重隆治海外日系人協会理事長来伯。	
11-4～15	国際観光振興会主催の全日本観光展開催。入場者10万人。	
11－7	第25回パウリスタ新聞社主催全伯俳句大会、265人会集。	
11－12	サンパウロ切手趣味同好会・文協共催で「日本切手百年祭記念切手展」を開く。	
11－21	高野山真言宗南米別院高野寺の本堂落成と南米別院昇格記念法要の式典が行われる。	
11－23	画家高岡由也サロン・パウリスタで政府最高賞獲得。	
11－25	華道家元45世池坊専永夫妻来聖。	
11－29	モジ管内（サンパウロ州モジ・ダス・クルーゼス郡）コクエーラ植民地で第1回桃祭り挙行。	
12－6	日本外務省派遣“リベイラ川開発調査団”（団長住吉勇三農林技官）一行4名来伯。	
12－7	サンパウロ穀物取引所役員選挙が行われ、第2副会頭に小笠原友久、理事に小野勲再選、補充監事に原沢和夫が初当選。	
12－12	リンス（聖州）市議会、熊坂悌助に名誉市民権を贈る。	
12－15	リカルド・ゴンサルヴェス（30）サンパウロ総合大学文学部東洋歴史学科講師「親鸞思想の研究」で博士号獲得。	
12－28	宮内庁新春「歌会始」で入選に遠山実（64、サンパウロ州マリリア）、堀田栄（65、北パラナ、ノーバ・エスペランサ）が佳作に選ばれる。	
―――	ブラジル内事業団直営移住地の土地分譲代金が円建てからブラジル通貨だてとなる。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	【叙　勲】　勲四等瑞宝章　・武田義信（医師、サンパウロ市）。 勲五等瑞宝章　・信太平治（バストス市）。 ・大平清実（サンパウロ市）・亀井紹雄（－） ・和田周一郎（サンパウロ市） 勲三等旭日中綬章・辻小太郎（ベレン市） 勲四等旭日章　・江村良造（ベレン市） 吉川英治賞　・平賀練吉（トメアスー郡）	
1－10 3－25 6－6 7－24 11－14	死　亡　・揮旗深志（1891－）。元「農業のブラジル」社主。モジで桃作りを始めてやり、茶の栽培もやる。長崎県出身、農学士。 ・安瀬盛次（1892－）。南銀重役。アラサツーバの実業家。 ・柞磨宗一（1894－）。ロンドリーナ（北パラナ）の実業家。 ・大平清実（1898－）元コチア産組理事、勲五等瑞宝章。 ・福川為然（1892－）。アルタ・モジアナの重鎮、薩然の弟、山口県出身、晩年はモジ・ダス・クルーゼス（サンパウロ郊外）に在住。	
1－15 3－ 3－ －－－ －－－ －－－	刊行物　★『わが国民の海外発展－移住百年の歩み』上編、下資料編、外務省領事移住部発行。 ★『日本移民がブラジル南部の農業開発に及ぼした影響に関する研究』外務省大臣官房領事移住部発行。 ★モジ五十年祭典委員会編－『拓魂永遠に輝く』（サンパウロ市近郊モジ・ダス・クルーゼス郡） ★『在伯邦人開拓伝道者の生涯－ブラジル聖公会大執事伊藤八十二氏追憶－』聖ヨハネ教会発行。 ★『北伯開発懇談会調査報告書』（アマゾニア総合開発を目指した調査報告書）ブラジル日本商工会議所発行。 ★『ブラジルにおける日系村落社会の構造とその展開過程』ジャンジーラ藤村（海外移住事業団発行『移住研究』第２号）。	
1972（昭和47） 1－1	第47回サン・シルベストレ・ロード・レースで日本の宇佐見彰朗選手６位入賞。１月２日の１万メートルでは２位。	
1－7	日学連（日本語学校連合会）解散を表明。	
1－10	南米投資銀行設立。（サンパウロ市）	
1－12	聖州農務局統合研究局長に小山イリネウ（勇子息）が就任。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－13	日本から招聘された調査団によるリベイラ河沿岸開発調査報告書が提出される。	
1－14	大口信夫総領事帰国。	
1－19	日系の過激テロ分子島越ヒロアキ、サンパウロ市内で警官に抵抗、射殺される。	
1－24		グァム島で太平洋戦争の生き残り、横井庄一元軍曹が発見される。
1－30	日学連総会、解散をめぐり紛糾。	
2－3		第11回札幌冬季オリンピック大会開幕。
2－6	サンパウロ市郊外アルジャーにPLゴルフ場開場。	
2－15	レシーフェ総領事に上野毅夫（63）。	
2－16	作曲家古賀政男来聖。	
2－17	沖縄協会から沖縄文化センターが分離。委員長花城清安。	
2-19～23		日本で左翼学生連合赤軍による、あさま山荘事件起こる。
2－26	南伯日系コロニア援護教会がポルト・アレグレに日系人学生の寄宿舎新設。	
3－		連合赤軍、同志15人を“血の粛清”。
3－10		Pioneer10木星へ向けて打ち上げられる。（1973年12月3日太陽の最短距離に近づく。
3－11	リオ・デ・ジャネイロに日本人会誕生。	
3－24	宮坂国人、南米銀行副頭取引退。同時に日系諸団体のすべての役職から身を引く。5月8日、日本へ帰国。	
3－25	在サンパウロ日本国総領事伊藤政雄着任。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－29	ジャカレイー（聖州中央線）移住地電化。日本語学校も完成。（祝祭は10月7日挙行）	
4－9	臨済宗の山田無文・花園大学学長来聖。	
4－10	第3回移民訪日団出発。（神奈川丸、厳島丸の生存者、ジャグアレー肥料会社が費用負担）一行は尾身倍一団長他16人。	
4－11	大阪から長田義一市会議長夫妻等姉妹都市サンパウロとの友好を深める為に来聖。	
4－13	人文科学研究所はコロニア歴史資料保存の為の費用獲得の絵画展（資金カンパ展）を文化センターで催す。	
4－14	**ブラジル独立150年祭日系協力委員会発足。**会長は延満三五郎文協会長。	
4－16		ノーベル賞作家、川端康成ガス自殺。
4－24	コロニア（日・韓）囲碁大会行われ韓国チーム勝つ。サンパウロ市。	
5－13	日光植民地（北パラナ・ウムアラーマ）10周年祭。	
5－14	ブラジル棋院、航空大学に囲碁講座開く。	
5－15		**沖縄本土復帰。**
5－20	沖縄祖国復帰記念式典及び芸能祭がサンパウロ文協講堂で開催。	
5－28	ノロエステ連合文化協会（日本人会）にアラサツーバの佐藤忠四郎が会長に就任。	
5－30		日本赤軍テルアビブ空港でテロ。26人死ぬ。
6－10	松下電器サン・ジョゼー・ドス・カンポス市（聖州中央線）に工場完成、落成式挙行。	
6－19	ブラジル東京銀行発足。初代頭取加美山節。	
6－19	在伯県人会連合会会長に和田周一郎が選ばれる。	
6－21	**日本移民援護協会（援協）が名称を変更、サンパウロ日伯援護協会**となる。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－22	ブラジル日本商工会議所≪ブラジル現地企業・会社≫も会員として加入させることに定款改正。	
6－30	高野山真言宗の中川善教大僧来聖。	
7－3	コロニアと親しんだ島田友昭領事に帰朝命令。	
7－15	**グァタパラー（サンパウロ州）移住地10周年祭挙行。**	
8－12	PL教団ブラジル開教15周年記念式典開催。	
8－19	19～20日の両日文化センター大サロンでブラジル棋院主催大25回全伯囲碁大会が開かれた。出場者213人。最高年齢85歳。	
8－19	第8回山本喜誉司賞の授与式が文化センターで催される。受賞者は今川嘉寿太、橋詰太一郎、遠藤喜代治の3名。	
8－25	ミュンヘン・オリンピックでブラジルの石井千秋（五段）が柔道軽重量級で銅メダル。	ミュンヘン（西ドイツ）オリンピック開幕。
8－28	画家上永井正、パリーより来聖。	
8－	8月～9月日本海上自衛隊練習艦隊「かとり」「もちづき」がブラジル訪問。	
9－5		アラブゲリラ、選手村に乱入、イスラエル選手等10人を射殺。
9－6		サンパウロ地下鉄（南北線）開通。
9－6		皇帝ドン・ペドロ一世の遺骨をイピランガ独立記念塔地下の廟に移した。
9－25	文協理事会ではこの日、日本移民史資料の収集の為、資料保存委員会（設置）について討議し各地の日系団体に資料収集協力を依頼することに決定。	
9－26	**老い行く戦前1世移民。**　老人週間始まる。文協に集まった日本人老人1，200人の内1/3は70歳以上。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－27	森幹郎老人福祉専門官（19日来聖）と200人の老人が援協で懇談会を催す。自主的なクラブ作りも話題に上る。	
9－29	共栄生命ビル建設着工。	
9－29		日中国交回復樹立。
9－29		メジシ大統領アマゾニカ横断道路Transamazonica第1区1250km開通式に出席。
―――	アマゾニカ横断道路沿いのアルタミーラに入植する日系農家が増加。	
10－5	「住友」85mの高層ビル建築を発表。	
10－6	純ブラジル企業4社がブラジル日本商工会議所に加入。	
10－10	援協、県連、文協が日本厚生大臣に宛て“日本並みに老人保護”をと陳情。	
10－14	第17回パウリスタ文学賞は長田美千代が受賞。	
10－29	ピニェイロス（サンパウロ市）洗染業者親睦会が創立25周年を記念して市に大時計を贈る。	
11－3	経団連、植村ミッション（植村甲午郎会長）一行24人リオ着。 10日、日系企業・進出企業代表と懇談。	
11－4	4－5の両日パラー州トメアスー第2植民地入植10周年挙行。	
11－15	2世の政界進出急。 11月15日の統一地方選挙で日系人市長13名、副市長14名、市会議員137名となる。	
11－19	国旗の日に画家浦上正則、ブラジリアでMedalha do Pacificadorをオルランド・ガイゼル陸軍大臣から授けられる。	
11－23	ブラジル独立150年記念、文協美術、（新コロニア展）工芸展開く。	
11－29	「農業と協同」誌（コチア産組経営）は12月発行の第258号をもって廃刊と発表。この雑誌は20年6ヵ月続いた。	ブラジル人口1億となる。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
12－1	八百半デパート、サンパウロ市ピニェイロス区に開店。	
12－2・3	（11月25、26日から続いて4日間）第2回モジ・ダス・クルーゼス桃祭りがコクエーラで行われる。市役所主催、中央日本人会執行。	
12－5	渡辺和夫判事、控訴審裁判所判事に昇進。	
12－6	アポロ計画の月面探査の為（ブラジリア時間午後11時35分）アポロ17号が打ち上げられる。参観にブラジルから1、2世少女が招かれて行く。19日（ブラジリア時間午後4時24分）アポロ17号無事到着。	
12－10	マイリンケ第7回桃祭り（11月25日開始）期間中17万人の人出だった。（サンパウロ州Mairinque。）	
12－10	聖西日語教育連盟創立総会（昭和学院内で）開催。参加校9、未定2。	
12－19	パウリスタ新聞社説“進出組とコロニアの親睦”の必要を説く。	
12－29		**「ライフ」廃刊**（テレビに広告を奪われ経営難となる）。
――		ブラジルにカラーTVの放送が始まる。
3－3	【芸能・音楽】・電子オルガン奏者沖浩一着聖。7日文協で演奏。	
3－7	・歌手小柳ルミ子来聖。	
4－8	・日本コロンビアで歌手、禁し乃チャリティショーが文化センター講堂で。	
4－14	・沖縄の渡嘉敷舞踊団来聖。	
9－6	・ブラジル独立150年を記念してアラサツーバ（サンパウロ州）で24団体合同の「ノロエステ盆踊り大会」が催され、6,000人が会場を埋める。	
9－29	・児玉邦夫・幸子夫妻文化センターでピアノ連弾。	
10－15	・第5回全伯（日本）民謡コンクール大会。伯国日本民謡協会主催、文協、県連、援護協会後援のもとに文協新講堂で催される。ブラジル独立150年祭、沖縄本土復帰を記念して。	
12－16	・午後7時から10時までガルボン・ブエノの大阪橋を中心に盆踊りが催される。主催はリベルダーデ商工会。サンパウロ観光局、福島県人会、3邦字新聞後援。（サンパウロ市）	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
12－17	・午後２時から夜の10時までサウーデ区文協で敬老の為の演芸大会あり、夜の８時頃からは前山隆作「トマテとコンピューター」の上演あり、600人を超す観客で満員。75歳以上の老人が表彰される。	
12－19	・文協大講堂で第３回文協コンサートが催されて好評。ただしこのクラシック・コンサートに聴衆は多くはなかった。	
6－24	スポーツ・パウリスタ新聞社主催全伯日系ゴルフ選手権大会がアルジャー・ゴルフ・クラブで行われ、平松幸夫がチャンピオンになる。	
7－21	・パウリスタ新聞社主催全伯少年野球大会がボン・レチーロ球場で開幕。23日最終日、プルデンテ（奥ソロ）とアサイー（北パ）が対抗、プルデンテ初優勝。	
1－24	死亡　・Jose Santana do Carmo（1906－）。日伯文化普及会日語教師、公証翻訳人。	
5－5	・宮腰千葉太（1829－）。元アルゼンチン公使、海興支店長。勲三等瑞宝章。	
5－12	・蛭田徳弥（1902－）。パウリスタ新聞社社長、勲五等瑞宝章。	
5－15	・尾山良太（1882－）。アマゾナス州パリンチンス。ジュート尾山種発見者。勲五等瑞宝章。	
8－20	・氏原彦馬（1883－）。北パラナ土地会社日本人総代理人、勲五等瑞宝章。	
9－16	・木村義臣（1903－）。パウリスタ新聞編集顧問。	
12－18	・八重野松男（1886－）日本にて。1913～27年在伯。服部教一とともに日本植民学校創立。著書に「今日のブラジル」 あり。	
1－1	出版　★山本勝造著『コロニアに四十年』非売品。	
4－1	★『アリアンサ移住地の父－北原地価造追憶集』北原地価造追憶集刊行会発行、非売品。	
7－10	★『在伯熊本県人発展史』サンパウロ新聞社印刷。	
	【叙　勲】・山田義雄（ベレン市）－－－－－－－－－－勲四等旭日章。 ・堀清（サンパウロ市）－－－－－－－－－－勲四等瑞宝章。 ・山城興昌　－－－－－－－－－－－－－－－勲五等瑞宝章。 ・飯田彦光（サンパウロ市）－－－－－－－－勲五等瑞宝章。 ・木村義臣（パウリスタ新聞元編集局長）－勲五等瑞宝章。	
1973（昭和48） 1－7	1954年以来19年間に52航海、約１万６千人の移民を運んだ、ぶらじる丸（10,217トン）が最後の航海で245人を乗せ、サントスに入港し23日に帰国の途に着く。	
1－7	札幌大学からサッカー留学生を求めて南北アメリカ・サッカー事情視察団が到着。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－7	ヤクルト社員菊池孝（34才）がロンドリーナ市郊外でゴルフ練習中にボールを拾った5人の子供達に発砲し、1人が死亡、1人が負傷。	
1－11		日本と中国の国交が成立し、北京に日本大使館が開かれる。
1－12	レシーフェ（ペルナンブーコ州）に南米銀行支店開く。	
1－16	日本外務省はクリチーバ市にサンパウロ総領事館出張所を設置。	
1－18	サンパウロの富士・フィルム社に6人組の拳銃強盗が侵入。この種の凶悪犯が増加してきて、日系商店の被害も多くなっている。	
1－19	72年12月22日のニカラグアの首都マナグアの大地震に、サンパウロ野球連盟は直ちに救援物資と義援金募集を始め多大の物資を送り、5万クルゼイロをニカラグア総領事に手渡した。サンパウロ選手団は地震直前の11月にマナグアで開かれた世界アマ選手権大会に参加し、約1ヵ月滞在。	
1－23	ブラデスコと三和銀行の資金提携を記念するカクテル・パーティが午後7時半開催（ブラデスコ投資銀行の株式10％を獲得－額面1Cr$の株式を5Cr$で買収）。	
1－26	ブラジル富士フィルムは先に完成したカラー現像所、市内Av.Nações Unidas, 6799の落成式を挙行。	
1－27		停戦協定がアメリカ、北ベトナム政府間に調印され、ベトナムに平和が戻る。
1－30	巡航見本市船『新さくら丸』が3600トンの展示品を積み、初めてサントスに入港。	
2－2	中島逸平がブラジルで最初の本格的アニメーションを完成させる。	
2－7		73年度の日本の移住関係予算が30億5000万円と決まる。前年比13％アップ。
2－10	サンパウロ市内の宝石店でブラジル人と組んだ日本人のニセ刑事桑茂丸（38才）が逮捕される。	
2－10	大阪商工会議所の経済ミッション（団長：市川忍丸紅会長）がサンパウロに到着。	
2－13	太陽堂本店が拳銃強盗に襲撃される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
2－13	バレジスタ保険と東京海上火災が合併してアメリカ・ラチーナ保険会社が発足。	
2－14	日系の軍警が暴力を振るって逮捕される。	
2－15	サンパウロ州の農業高校に学ぶ制度の青年移民の第3回15名が到着。それぞれの学校に分れて入学。	
2－16	刑務所に服役中の日本人青年野沢泰雄（31歳）が国外追放処分となる。	
2－17	水産庁からブラジルの水産資源調査団来訪。	
2－19	森本アントニオ州議陸軍予備将校連盟会議で会長に再選される。	
2－19	コチア産組の農業雑誌『農業と協同』がコチア、南伯、産組中央会3組合の共同経営となり、『農業のブラジル』と名前を改めて発行される。創刊号は6000部である。	
2－19	サンパウロ州政府の経済ミッションが訪日。	
2－21	「現地援護を第一に」移住事業団柏村理事長が移住政策方針を説明。	
2－22	サンパウロ市隣接バルエリーの日系タンボレー植民地（設立50年）が強制立退き。	
2－24	**沖縄協会創立20周年を迎える。**	
2－24	南リオ・グランデのイボチー（Ivoti）植民地からブドウ「巨峰」の第1便サンパウロ市場に到着。	
2－25	長く日系社会の医療面に貢献してきた**同仁会の解散が決定。**その業務は日伯援護協会が引継ぐ。	
2－27	南米銀行ベロ・オリゾンテ市に進出、午後5時から開店式。（ミナス・ジェライス州）	
3－1	日本企業の進出が続きサンパウロ州政府はバンディランテス宮に日本企業進出相談の窓口を開設。	
3－2	グァルーリョス市に“グァルーリョス文化体育連盟”発足。（大サンパウロ圏内）	
3－2	南米銀行ニテロイ支店開く。（リオ州）	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－10	移住事業団が援護協会に医療設備を贈与。	
3－11	聖公会日系教会宣教50年記念感謝礼拝をピニェイロス聖ヨハネ教会で催す。（サンパウロ市）	
3－12		IBGE（地理統計院）が1972年の国別入国移民数で、1位は韓国、日本は609名で4位と発表。
3－14	マイリポラン（大サンパウロ都市圏旧ジュケリー）で入植60年祭を挙行。	
3－15	外間盛康を含むALNのテロ・グループ3人がペニャ街で軍警と打ち合い射殺される。	
3－15	第4回移民19名も中尾熊喜ジャグワレー肥料会社社長の好意により訪日。なお、中尾社長は74年には第5回移民も訪日してもらうと発表。	
3－16	サンパウロの治安が悪化し、日系人のスーパー店、その他が相次いで強盗に襲われ、死亡犠牲者も出るようになってきた。	
―――	ベレン＝トメアスー間の道路が開通。	
3－27	『協調による発展』をテーマとした『日本産業見本市』がアニェンビーで開催され、これには藤山愛一郎特派大使も参加。会期中に延べ35,500人が入場。4月8日まで。	
3－27	285名の移民と46名の一般乗客を乗せた最後の移民船“にっぽん丸”がサントス入港。サントス下船者135名。これで笠戸丸以来の船での移住が終わり、以後、移住は飛行機となる。1960年代の日本の経済復興により、移民数は激減。	
3－31	沖縄県知事屋良朝苗来伯。	
4－3	芥川賞作家大城立裕がブラジルを訪問。	
4－11	72年度県費留学生の団長山田昌樹が、『日本の物価は上がっているのに奨学金は据置』と批判。	
4－15	リオ市に日本映画専門館の『シネ・オーサカ』が開館。	
4－16	援護協会の太田パウロ医師が「69年から3年間にサンパウロ市内だけでも700名の日本人1世が精神病院に入院」と発表。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－20	**日本の財界**、サンパウロ大学構内に建設予定の日本文化研究所に１億２千万円の補助を決定。	
4－24		パラグワイ大統領来伯し、メジシ大統領とイタイプー発電所建設協定に署名。
4－25	コロニア資料保存資金カンパの為絵画展を開く。	
5－5	南米銀行４件目の買収 BCP 銀行との間で調印。	
5－15	東山銀行「ブラジル三菱銀行」と改称。	
5－16	専売公社から技術者８名来訪し、ブラジルから葉タバコ輸入を検討。	
5－17	北パラナで菊池由二がイタリアぶどう年２回作に成功。	
5－18	73年度ミス・コロニア選出（パウリスタ紙主催）でマリリア青年会推薦の福川ローザ・マリアが当選。	
5-21・22	サンパウロ市イビラプエラ体育館で行われた国際体操フェスティバルにオリンピック金メダリストの中山、塚原、本間（以上男子）、羽生（女子）が参加。	
5－22	「少女科学者」青山美智子ブラジリアでロジャース米国務長官から“月の石”を受け取りこれをメジシ大統領に渡す。	
5－26	コチア市（大サンパウロ都市圏）で第１回菊祭り挙行。	
5－27	**「憩の園」で救済会創立３０周年、「憩の園」１５周年記念祝典挙行。**	
6－5	ミス２世松延佳子コンクールで当選。（日系テレビ、イマージェン・ド・ジャポン主催）	
6－8	大阪の奥田米仏門が２億円を投じてラポーゾ・タバーレス13Km にゴルフ練習場の建設を開始。	
6－9	桜植民地10周年記念祝典挙行。（サンパウロ州ジャカレイ市） （1963年２月、４月及び８月の３回に分れて北海道芦別炭鉱から16家族入植したところ）	
6－9	宮城県が県人会への助成金の名目で77才以上の老人に『養老年金』支給を決める。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－11	コロニア文学賞は前山隆作「トマテとコンピューター」に決まる。(授与式は18日の第65回移民祭に行われる)	
6－12	移民史料館建設委員会発足。(サンパウロ市)	
6－16	グァム島の生き残り日本兵横井庄一夫妻が来訪。	
6－19	山梨県がミナス州と姉妹関係を提携。姉妹都市は多いが県単位の姉妹関係は珍しい。	
―――		73年のブラジル大豆生産量は430万トンに増え、価格が高騰してブーム作物となり、日系農家にも栽培が増加。丸紅が南マット・グロッソに2万ヘクタールの土地を買い、南パラナの日系農家13家族に分譲して大豆生産団地を造成。
―――		桐がブームで栽培が増加している。
6－18		メジシ大統領は次期大統領としてペトロブラス総裁のエルネスト・ガイゼル将軍を推薦。
6－20		アルゼンチンで5月にペロン派のカンポラ氏が大統領に就任し、ペロン夫妻が亡命生活から帰国。
6－21	谷口雅春生長の家総裁来伯。	
6－26	第8回コロニア芸能祭。(聖市文協大サロン) 開かれる。	
7－5	**空路移住始まる。**	
7－6	航空機による移住者35人ブラジル着。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	移住も空からの時代となり、飛行機による移住第1陣35名（4家族13名と単身22名）が元気で到着。なお、14日には第2陣も到着。	
7－7	コンセレイロ・フルタード街の陸橋が『上塚周平橋』と命名される。	
7－9		為替レート改正で、1ドルが売り6.13、買い6.09クルゼイイロとなる。
7－15	北パラナ、**カルロポリスの“コチア青年村”**10周年を迎える。	
7－21	来伯した平野三郎岐阜県知事が『日本国内は労働力不足で、移民は積極的に出さない。むしろ移住者が日本に帰って欲しいくらいだ。』と発言。	
7－25	農村青年指導者湯浅甲子5年振りで来伯。	
7－26	第9回山本喜誉司賞は池田虎之助（カンピーナス）、清水一郎（ミランドポリス）、国沢寿春（リオ州）。	
7－29	ピニャール移住地10周年記念祭挙行。（サンパウロ州）	
7－30	ペルーの日系人18名がコーペル・コチア・クラブでブラジルの日系人達とテニスの親善試合を行う。	
8－6	宇山厚大使ブラジリアに着任。	
8－11	進出企業がサンパウロ市カンポリンポの「日本人学校」（日本の文部省公認）に建設維持費として6億円を寄附。	
8－16	北パラナの運動連盟、文協連合がローランジアに農事試験場設立を決定。	
8－17～19	チャリティショー『あゆみの箱』の第2回公演がイビラプエラ体育館で行われ、約4万人が入場し収益41万クルゼイロが各福祉団体に贈られる。今回来伯した芸能人は長谷川一夫、京マチ子、伴淳三郎、淡島千景、森繁久弥、千昌夫、川田姉妹など17名。	
8－25	全伯囲碁大会開く。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－2	モジ・ダス・クルーゼスで最初のビワ祭り。	
9－8	「木陰」300号出版記念祭挙行。（サンパウロ市）	
9－9	全伯俳句大会（パ社主催）開く。	
9－11	空路移住者第3回目着く。（サンパウロ空港）	チリーでピノチェート将軍を首班とする軍部クーデターが起こり、人民連合のアジェンデ政権を打倒。
9－13	ミナス州のセラード地帯に日系農業者の関心が高まる。ミランドポリスからコーヒー栽培に移る者があり、コチア組合もサン・ゴタルドに進出を決定。	
9－15	**レジストロ入植60周年祭挙行。**	
9－25	第4回老人週間開く。25～26日の2日間で約1,000人が出席。会場は聖市文協サロン。	
9－26	故白土貫治（リオ市）に勲五等旭日章が贈られる。	
9－28	リベルダーデ商工会調査結果に、現時点の同地区の日系ポアッテは29店と判明。	
10－1	**在伯日系人口** 日系人54万0,590人（日本国籍12万7,400人）長期滞在者1,830人と総領事館発表。	
10－2	日本政府、移民高齢者を対象にした“米寿叙勲”（勲6等瑞宝章）でブラジルでは5人が受章。	
10－4	遅れていた国援法適用申請者達9家族29名の日本帰国が決定。	
10－5	第12回サンパウロ・ビエナール展で日本の下谷千尋氏が国際優秀賞を受ける。	
10－6	ブラジリアで本派（西）本願寺落成法会挙行。	
10－8	日系の味噌、醤油製造業11社が集まって業者協会を発足させる。	
10－10	学生寮増築のサンパウロ学生会に日本から4万3千ドルの寄附が寄せられる。	
10－15	福岡県が在伯30年以上の70才以上の移民を、母県に招待する制度を作る。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－16		OPECが原油価格70％の値上げを発表。アラブ諸国の生産制限も発表されて第1次石油ショックが始まる。
10－17	経済ゼミ開催。人文研、商工会議所、移住懇談会共催、場所は聖市南銀本店講堂。	
10－19	沖縄文化センターの講堂ジアデーマ（大サンパウロ都市圏）に完成。	
10－22	拡大移転を迫られていた『希望の家』に久万浩夫妻がイタカケセツーバの土地２アルケールを贈与。	
10－23	日本製YS－11機、リオで離陸失敗、海中へ。新日鉄社員２人死亡。	
10－24	サント・アンドレー（大サンパウロ都市圏）に老人クラブ“白寿会”発足。会員80名。	
10－30	サロン文協開幕。大金賞は森エミ子へ。	
11－5		ウォーターゲート事件により北米にニクソン大統領辞任要求が高まる。
11－6	ブラジリアで日伯合同美術展。	
11－7	三重県がサンパウロ州と姉妹関係を提携。	
11－8	グローリア街の陸橋が『三重県橋』と命名される。	
11－9	経団連に日伯民間経済合同委員会が発足。ブラジル経済高度成長期で日本からの各種視察団が相次ぎ、企業進出も多く、73年には80社以上に達したと見られる。	
11－15	最後の勝組の帰国。南聖ジュキア線ペードロ・デ・トレードに鎖国村を作り、戦後28年に渡って外部と接触を絶ってきていた報国同志会の浜比嘉良喜（81歳）等３家族の14人が国援法の適用を受けて日本に帰る。	
11－20	ブラジルの台湾桐買付の為に、日本婚礼家具協会がブラジルに仕入れ会社を設立。	
―――	福永一臣団長他16名の国会議員団がアマゾン方面を訪問。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－21	日伯移住混合委員会が、74年度の移住者枠514名を決定。	
11-24～26	三笠宮宣仁殿下来伯。	
11－24	第5期ブラジル本因坊に島山久夫五段。 奈良薬師寺長老橋本凝胤来聖。	
11－29	山川健一、中出良一、石身綱の3人による音楽作品発表会。	
11－29	高瀬茂一（72）勲五等瑞宝章を自宅で伊藤総領事から受ける。同人はベレンで熱帯魚飼育を業とする。	
12－1	“天皇陛下万歳！”勝組日本着の報を2頁に渡ってパ紙発表。	
12－6	沖縄に帰った勝組についてまたも2頁の報道。	
12－8	三井肥料kkがミナス州ポッソ・デ・カルダス・ヨーリン工場に第3号電炉完成、8日火入式が行われる。（第1炉は1969年12月5日完成。）	
12－10	南米銀行ポルト・アレグレに80番目の支店開店。（南大河州）	
12－12	宮城県の「敬老金」交付は今年51人と決定。その第1号は佐藤伝之助（84）、サン・ミゲール・パウリスタ（サンパウロ市）、金額はCr$434。	
12－15	午後7時から“盆踊り、花笠踊り”ガルボン・ブエノ街で福島・山形県人の競演で賑わう。（サンパウロ市）	
12－13	～28日、ガレリア・ポンテで近藤敏絵画個展。	1968年から始まって『ブラジルの奇跡』と言われた高度成長期の最後の年であり、73年の経済成長率は14％。中でも工業分野は15％に達したとされている。ただこの後は石油ショックと政府の乱脈の為に経済は混乱し、ハイパー・インフレとなって行った。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－27	芸能・音楽・アルゼンチン日系タンゴ歌手大坪千代子（23）来聖。	
5－17	・ビオラ奏者今井信子の演奏会、文協サロンで開かれる。	
6－26	・第８回コロニア芸能祭、聖市文協サロンで開かれる。	
8－17	・あゆみの箱第２回大会（チャリティ・ショー）イビラプエラ体育館で開かれる。17、18、19の３日間。	
11－29	・音楽作品発表会－山川健一、中出良一、石身綱の３名による。	
12－23	・第１回サンパウロ歌謡コンクール文協サロンで行われる。アンジェラ・マリア日本語で歌い第２位入賞。	
1－27	スポーツ　（野球）・～２月５日、第９回南米野球選手権大会ブエノス・アイレスに開く。１位はベネズエラで４戦全勝。２位はブラジルで２勝２敗。	
4－29	・～５月１日、地方対抗選抜。第25回全伯選抜野球大会がプレジデンテ・プルデンテ（聖州）球場で催される。決勝セントラル３、ソロカバナ０。	
9－6	・～９日、伯国選手権大会ボン・レチーロ（聖市）球場で開催。決勝ホーワ６、南伯１。豊和は３年連続優勝。	
10－12	・～21日、ジュベニール世界選手権大会。（メキシコ）１位はキューバの５戦全勝。ブラジルは初出場で２勝３敗、４位。	
7－28	（陸上）・～29日、第37回全伯邦人陸上競技大会オザスコ（大サンパウロ都市圏）ロッシャダレ総合運動場で開催。	
7－26	（テニス）・～29日、第27回邦人庭球大会コオペルコチア・クラブコートにて開催。	
5－19	（柔道）・～20日、第８回世界柔道選手権選考・全伯大会（DEFE体育館）。	
6－17	・第２回インテリオール柔道大会（サンチスタ・ポート・クラブ体育館）開催。（サントス市）	
6－30	・～１日、第16回聖州柔道選手権大会サン・ベルナルド・ド・カンポ（大聖市圏）フォルクス・ワーゲン・クラブ体育館で開催。	
9－29	・～30日、第５回ベネナリトス柔道選手権大会を聖市パカエンブー競技場体育館で開催。	
11－9～29	・第20回伯国柔道選手権大会南大河州ポルト・アレグレ市で開催。	
7－27	（相撲）・～28日、第12回伯国相撲選手権大会をサンパウロ市で開催。	
7－7～8	（剣道）・第15回全伯剣道選手権大会開催。聖市、ピラチニンガ文化体育館。	
1－24	死亡・渡辺至剛（1909－）。農拓協専務理事、鳥取県人会会長。	
3－13	・上野米蔵（1895－）。在伯県連副会長。福岡県人、勲五等旭日章。	
9－	・大堀義信。イシブラス副社長。	
12－	・吉浦秀次郎。パウルーのパイナップル王。	
12－5	・山城興昌（1885－）。カンポ・グランデ市、埋葬は聖市ゲッセマニ墓地。勲五等瑞宝章。	
12－8	・松山慎次郎（1918－）。西パラナ・グァイーラ文協会長。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
12－11	・ 坂本律造（1887－）。プロミッソン、パラマンサの開拓者。（サンパウロ市にて）	
―――	・ 山田義雄。山田商会社長。ベレン市の日本人商店の草分け。	
10－	刊行物 ★ 殿村エルタ著『ポルトゲース・パラ・ドナス・デ・カーザ＝奥様用のポルトガル語ヨチヨチ会話』。	
10－20	★ 堀部洋生著『ブラジル・コーヒーの歴史』。	
―――	★ C. ワグレイ、小野功、野口俶宏訳『アマゾンの町』新世界社。	
―――	★ C. ワグレイ、山本正三郎訳『ブラジル』二宮書店。	
	【叙勲】・ 平賀練吉（トメアスー）勲三等旭日章。 ・ 片山日吉（カンポ・グランデ市）勲五等瑞宝章。 ・ 佐藤初江（サンパウロ市）勲五等瑞宝章。 ・ 谷口章（バストス市）勲五等瑞宝章。 ・ 高瀬茂一（ベレン市）勲五等瑞宝章。 ・ 信重時春（ベレン市）勲六等旭日単光章。 ・ 伊藤達馬（ロンドリーナ市）勲五等瑞宝章。 ・ 佐藤貫一（サンパウロ市）勲五等瑞宝章。	
1974（昭和49） 1－1	サンシルベストレ競走に参加した日本の小沢欣一選手は18位に止まる。	
1－3	日本ゴルフ振興株式会社が進出してきてゴルフ場造営を開始。	
1－6	南米保険と安田火災海上保険とが合弁して南米安田保険としてスタート。	
1－10	リオ・神戸姉妹都市友好展がリオ空港ロビーで開催。	
1－10	ロンドリーナの瀬古義信（60才）の応募した歌が、『歌会始』で佳作に入選。	
1－15	ジャグワレー肥料中尾社長の好意によって第5回移民19人も訪日が決まったが、18日になってこの初期移民の訪日は今年から日本政府が10人分だけ負担することが決定。	
1－16	移住事業団がバルゼア・アレグレ（南マット・グロッソ州）の土地を独立する単身移住者に分譲する構想を発表。	
1－21	イシブラスがアメリカ大陸最大の40万トンドックを完成させ、合わせて進出15周年を祝う。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－23	クリチーバ市で『第1回パラナ州・兵庫県友好展』が開かれる。	
1－23	ガルボン・ブエノ街に赤塗りの大鳥居が建てられる。	
1－28	タウバテー市と米沢市（山形県）が姉妹都市提携。	
1－31	ブラジル女性4人を日本に送り、広島で売春させていた槙本伸博（27才）が逮捕される。	
2－1	サンパウロ市ジョエルマ・ビルの火災で190名の犠牲者の内8名が日系人。	
2－6	ベレン市内で日本人老夫婦がピストルで無理心中。	
2－8	ブラジル日本商工会議所が『ブラジルにおける経済行動の具体的指針』を完成、発表。	
2－12	コロニア文学会の第1回新人賞に主婦の藤木洋子（24才）の『軽蔑』が入選。	
2－15	73年暮れ以来セントラル線方面で日系のタクシー運転手が3人殺されたが、その犯人としてモジの井手シューキ（21才）が逮捕される。	
2－21	ガイゼル政権の鉱山動力大臣に日系の植木茂彬が選ばれる。日系で2人目の大臣で、3月15日に正式就任。	
3－		リオ・ニテロイを結ぶ14キロの橋梁が完成。
3－4	移住事業団と大蔵省がサントス市の『移民の家』を援護協会に無償交付することを決定。	
3－5	サントス市に水産高校を設立する為の日本政府調査団が現地を視察。	
3－8	クリチーバ市に領事館設置が決定。国内8番目の日本公館。	
―――	パラー州カスタニャール方面にハワイからの種子のパパイヤがブームとなる。この年はアマゾン方面は大雨で、胡椒の病害は更に蔓延。	ベレン＝ブラジリア間の国道が舗装される。
―――	第2トメアスーにアマゾニア農業組合試験場が開設される。	
3－9	フランキー堺がサンパウロに来て、シネ・ニッポンの舞台でドラマの実演。	
3－9	宮坂国人（84歳）が永住の為に帰国。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－14	イタリア・ブドウの普及で知られる臼井晋（62歳）が新種『パトリシア』育成に成功。	
3－15		ガイゼル大統領就任。
3－17	パラナ州ローランジア市に日系北パラナ諸団体によって作られた農業センターが完成。	
3－20	サンベルナルド・ド・カンポ市と山口県徳山市との姉妹都市提携。	
3－23	男子バレー・ボールの新日鉄チームが来伯して5都市で親善試合を行い、全試合に圧勝。	
3－23		サンパウロの地下鉄南北線の試運転開始。
3－29	女子バレーボールの鐘紡チームが来聖し、サンパウロ選抜チームと親善試合で圧勝。	
―――		3月中旬からブラジル南部は大水害となる。
4－1	『農業高校移住』の1期生5人が高校を卒業したが、内4人が農大に進学し、1名は医大に進学。	
4－2	岐阜県が先駆者移民5名を母県に招待。	
4－4	第5回移民訪日団19名が出発、ただ、内2名は訪日中に死亡。	
4－5	南部の大水害に日系の諸団体は寄附や救援物資を集めたが、生長の家慈善部がいち早く5万クルゼイロの物資を送る。後にサンパウロ慈善芸能協会、世界救世教、その他多くの団体もこれに続く。	
4－10	熊本県大津町がサレゾポリス市と姉妹提携。	
4－14	長崎市がサンパウロ州高校サッカー大会に優勝旗を贈る。	
4－15	約700名の訪日観光客の旅費、銀行融資返済金など60万クルゼイロを着服していた東洋文化協会の伊藤三郎会長、中野隆司副会長、城戸金彦会計が逮捕される。	
4－30	第17回畜産展示会でプレジデンテ・プルデンテ市の吉雄弘のネローレ種種牛が最高得点となる。	
―――	コチア組合の最初のセラード計画であるミナス州サンゴタルドに、この4月から1次の24家族が入植して開拓を開始。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－2	ブラジルPL植物研究所がアルジャー市に設立される。	
5－7	パーキンス社工場にある南米銀行サンベルナルド・ド・カンポ支店の出張所を自動小銃などで武装した7人組強盗が襲い、80万クルゼイロを奪う。中の5人は3日後に逮捕されたが、その中には日系人沼トシオ（33歳）がいた。	
5－11	パラナ州の公式経済使節団（団長・上野アントニオ議員）が訪日。	
5－13	県連では無縁仏の調査を開始していたが、これまでに391体が判明したと発表。	
5－15	日系家族ばかりを襲っていたピストル強盗坂本カズシゲ（25才）が逮捕される。	
5－16	大蔵省の相沢英之事務次官（夫人は元女優司葉子）夫妻が来聖。	
5－17	サンパウロ州農業・経済使節団が訪日。	
5－22	日本航空がブラジルに週3便乗り入れを決定。	
5－29		サンパウロ州環境局が、『ナマ野菜に農薬残量が多い』と発表し、野菜の消費量が激減。
5－		全ブラジル的にセラード農業が注目を浴びるようになる。
6－2	サントス沿岸の魚が水銀汚染と発表されて、魚の消費が激減。	
6－19	アルゼンチン拓殖協同組合の池田信雄理事長がブラジルの日系農業を視察に来訪。	
6－24	1930年から4年間バストス第一小学校の校長だった後藤千代喜（現大分県町村教育長）夫妻が、教え子達の招待で40年振りに来伯。	
6－28	海外旅行の融資がストップされ、日本向け旅行者が激減。	
6－29	移住事業団がサントスの移民の家を援協に正式に譲渡。	

年号	移民史・日系社会史	関連事項
6－29	パラナ州でイグアスー・コーヒーの工場が火災、約700万クルゼイロの損害。	
7－1		アルゼンチンのペロン大統領が死亡し、イザベリッタ夫人が世界最初の女性大統領に就任。
7－16	ペレイラ・バレット市でジャスコ・ド・ブラジル社長榎本啓行（49歳）のセスナー機が墜落し、榎本ほか相川渉（伊藤ハム）、月森洋（ジャスコ）、パイロットが死亡。	
7－19	カネボウ・テキスタイル社がアニャンゲーラ街道に新工場を完成。	
7－21	160名の会員でマリリア市に老人クラブが誕生。	
7－25	千葉県の小櫃小・中学校から児童4人のブラジル訪問使節団が来伯。	
7－28	モジ市に聖母幼稚園が完成。	
8－1	立体農業の藤崎盛一夫妻が来伯。	
8－6	ウィーン少年合唱団が文協講堂で公演。	
8－7	米沢市とタウバテー市が姉妹都市となる。	
8－8	パウリスタ大通りに日系最初の協栄グループのビル完成。	
8－9	サッカー選手の上田ジュリオが日本のヤンマー・チームに招聘される。	
8－9		ウォーター・ゲート事件に関してニクソン大統領が辞任し、フォード副大統領が大統領となる。
8－9	レジストロの農村旧家屋を愛知県に新設の「明治村」に寄贈することに決定。	
8－14	参議院議員で落語家の立川談志が来伯し、文協講堂で2時間にわたる古典落語独演会を開き、純益1万クルゼイロを文協に寄附。	
8－15	ヤシカ女子バレー・ボールチームの前監督船山浩が同社の初代駐在員として来伯。	
8－15		ブラジルが中国と国交樹立。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－17	第10回山本喜誉司賞は藤原満寿門（ブドウ改良）、滋野甚市（種鶏）、吉雄　弘（肉牛改良）の諸氏が受賞。	
8－17	コチア組合員農家がサンタ・カタリーナ州サン・ジョアキンに進出してリンゴ団地を開設。	
8－21	リオ市で開かれた日伯民間経済合同委員会に日本から平井富三郎（新日鉄社長）以下51名が参加し、これを迎えてサンパウロにおいてはブラジル日本商工会議所主催で懇談会が開かれる。	
8－27	パウリスタ大通りに住友ビルが完成。	
8－		リベルダーデ界隈にトロンバ（ひったくり）が急増。
9－1	来年度県費留学生は長野県は定員の6倍の希望者だが、希望者皆無の県も5県あり、関係者を心配させる。	
9－1	全伯短歌大会に85名が参加。	
9－3	日系の岡島サダハル（34歳）が自動車泥棒として逮捕される。	
9－6	サント・アンドレー市では日系農家による第1回花祭り。	
9－7	スザノ文協が工費400万クルゼイロで総合スポーツ・センターを計画。	
9－8	サンパウロ市とブラジル日蓮正宗が協力してパカエンブー競技場において独立記念祝典を行い、青年部5000名によってブラジル最初の見事な人文字を紹介。	
9－9	世界救世教の岡田斉教主が来伯。	
9－10	立正佼成会の庭野日敬会長来伯。	
9－11	日本人来訪の多いこと、他方に犯罪の激増していることから、サンパウロ中央警察に日本語部門が設置される。	
9－12	サンタ・クルース慈善協会が、カンポス療養所の土地を援協に無償譲渡することを決定。	
9－14	エスペランサ婦人会の創立25周年記念。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－16	田中角栄総理大臣がブラジリアに到着してガイゼル大統領と会談。後リオ、サンパウロを回って21日に帰国の途に着く。この時の話し合いにより、日本政府がセラード開発に協力するようになる。	
9－17～27	世界救世教の熱海美術館所蔵の歌麿、北斎、広重、写楽などの肉筆浮世絵の展示会がイビラプエラ公園内の日本館において行われる。	
9－21	文協主催民族舞踊大会に10ヵ国のコロニアが参加。	
9－27	社会人野球の東芝チームが来伯。11試合で10勝1敗の成績を残す。	
9－30	醍醐麻沙夫の小説『銀座と南十字星』が『オール読物・新人賞』を受ける。	
10－1	日本の衆議員議員ブラジル視察団到着。	
10－3	海外技術者研修協会がブラジルから毎年10名の研修生を引き受けることを決定。	
10－6	75名を集めて第2回老人クラブ指導者研修会が文化センターで開催。	
10－7	日本ブラジル議員連盟が発足。	
10－14	先駆者移民の日本招待を、75年度からは日本政府が20人分を負担すると決定。	
10－14	強盗容疑の橋本ヒデオ（26歳）が、サンパウロ市内で軍警と撃ち合って射殺される。	
10－16	富山県から『青年の船』で87名が来伯。	
10－16	フィリピンのルバング島で1人抗戦していた小野田寛郎元陸軍少尉は、74年3月に救助されたが、ブラジルにいる兄格郎を訪ねて来訪。	
10－20	サンパウロ文化センターに日本から贈られた皇太子夫妻の肖像画奉掲。	
10－21	巡航見本市船『新さくら丸』がリオ市に入港し、見本市を開催。	
10－23	援協会長の中沢源一郎にサンパウロ名誉市民権が贈られる。	
10－23	ラニフィシオ・クラシキ・ド・ブラジルが進出先のサプカイア・ド・スール市（南リオグランデ州）に体育館を寄贈。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－25	サンパウロ市議会が渡辺マルガーダ救済会会長の功績に対してアンシェッタ章を贈る。	
10－26	富山県がブラジルの県人会に育英資金として６万クルゼイロを贈る。	
10－26	ウジミナス製鉄所が地元のイパチンガ市に体育館を寄贈。	
11－8	11月15日のブラジルの統一選挙の為地元遊説中だった平田ジョン進下院議員（59歳）が交通事故の為死亡。	
11－11	サンパウロ総領事館がパウリスタ大通り475番の協栄ビルに移転。	
11－12	住友銀行が本店移転の披露を簡素化して浮かせた30万クルゼイロを文協基金にと寄附。	
11－14	日本人移民の無縁仏を探して全国を廻った藤川辰雄（移住留守家族会専務）が『北伯に無縁仏が多い』と発表。	
11－19	サンパウロ大学構内に建設される日本文化研究所の定礎式が宇山大使、オルランド学長、その他の関係者を集めて行われる。	
11－22	サンパウロ市議会がブラジル日本商工会議所の広川郁三会頭にアンシェッタ章を贈る。	
11－26		田中角栄が首相と自民党総裁を辞任。
11－27	ブラジル最大のタンカー『ドセポロ号』（総トン数13万1千トン）がイシブラス・イナウマ造船所で進水。	
11－	15日の統一選挙の結果、サンパウロ州では野村丈吾、森本アントニオ（以上はARENA）、牧仁郷靖憲（MDB）が当選。パラナ州ではARENAの上野アントニオ、宮本実が下院議員に、佐藤ジョルジが州議員に当選。	
―――		石油ショックの影響で73年には２億ドルの黒字だった貿易収支は51億ドルの赤字となり、経済成長率は前年の14％が９％に落ち、対外債務は178億ドルに達した。又、日本側の石油ショックの影響で企業進出は大幅に減少。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	死亡　・1/7　小渕友市・サントス三笠旅館主。 ・3/5　アンジェロ・ザニーニ・南伯組合中央会理事長。 ・7/4　鐘ヶ江久之助・水田農場主。 ・7/16　榎本啓行・牧場主。 ・8/9　松谷勝三・汎モジ文協理事長、全伯相撲連盟理事長。 ・8/29　阿部弥門。ブラ拓チエテ移住地支配人として地域産業開発に貢献。 ・10/12　河野寛・パウリスタ美術印刷社長。 ・11/8　平田ジョン進・下院議員。 刊行物　★長谷川洋四編『ブラジルの企業金融』アジア経済研究所。 ★ブラジル日本商工会議所編『ブラジル経済・経営辞典、1974年』ダイヤモンド社。	
1975（昭和50） 1－1	サンパウロ文化センターで催された新年祝賀会に、折から滞在中だった女優高峰三枝子も出席。	
―――		オ・エスタード・デ・サンパウロ新聞が創立百周年。
1－8	故平田進下院議員に勲二等瑞宝章が贈られる。	
1－9	コロニア文学会が創立10周年を記念して『コロニア小説選集』の発刊を決定。	
1－10	日本政府が初期移民の訪日費用10人分を新たに予算に計上。	
1－13	プ・プルデンテ市の中矢秀一が、日本から持参した鈴虫3000匹を愛好者に無料配布。	
1－13	創価学会池田大作会長が寄贈した図書2000冊をブラジル日蓮正宗がサンパウロ大学に寄贈。	
1－14	ブラジル久保田鉄工が『憩の園』に耕運機を寄贈。	
1－15	航空大学（ITA）の定員70名のところに日系16名が合格。	
1－16	サンパウロ市役所主催の74年末街頭装飾コンクールでリベルダーデ区に特別賞。	
1－21	南リオグランデ州のイボチ植民地からブドウ『巨峰』が初出荷。	
1－24	トメアスーにきた胡椒病害調査団が、『ネコブセンチュウの寄生率が高い』と発表。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－29		総面積370万ヘクタールに及ぶセラード開発を目指した『ポロセントロ』計画が発足。
2－1	グワルーリョス市議会議長に坂本盛男、初の日系議長となる。 2月3日サンパウロ市議会で小笹マリオが食糧配給局委員長に、松田セルソが都市計画委員長に、羽藤マリオが保険衛生委員長に就任。	
2－5	小切手詐欺の日系3人組が逮捕される。	
2－9	日本の漫画家10名がカーニバル見物に来訪。一行は近藤日出造、横山隆一、富永一朗、杉浦幸雄、小島功、久里洋二、馬場のぼる、牧野圭一、クロイワ・カズオ、鈴木義司。	
2－11	74年日本一となったヤンマー・サッカーチームが来伯。パルメイラス、キンゼ・デ・ノベンブロ・チームと親善試合。なお、ヤンマー・チームにはブラジルの日系人が4名参加している。	
2－12	ブエノス・アイレス市で第6回南米日系陸上競技大会があり、その後に『南米日系人体育連盟』が結成され、竹中正が初代会長となる。	
2－15	マット・グロッソ州農務長官に日系の只野正雄が就任。	
2－17	地下鉄南北線がリベルダーデまで開通。	
2－20	日本政府のセラード調査団がサンパウロに到着。	
2－25	サンパウロ大学日本文化研究所の建設費募金、目標200万クルゼイロ。	
2－26	『憩の園』が150万クルゼイロの予算で病棟建設を決める。	
2－27	73年に札幌大学に『サッカー留学』していた学生2名が帰国し、新たに3名が留学。	
2－27	ブラジル三豊の駐在員がピストル事故で死亡。	
2－28	ジョン・メンデス広場に歩道橋を寄贈した川崎製鉄にサンパウロ市議会がアンシェッタ章を贈る。	
3－2	ブラジル大和紡績のウベルランジア工場完成。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－4	2世の藤田エジムンド進（24歳）が外交官養成所のリオ・ブランコ学院を首席で卒業。	
3－7	チェリスト上田真二がレシーフェで演奏会。	
3－10	23名から成る『対ブラジル貿易促進使節団』（団長は山下英明・前通産次官）が来訪。	
3－10	リベイラ河流域農業開発計画の技術協力が、サンパウロ州政府と国際協力事業団との間で調印される。	
3－11	サンタ・カタリーナ州ラーモス植民地から日本のリンゴ『陸奥』を初出荷。	
3－11	文協、商工会議所、援協3団体による『ナテル知事感謝昼食会』。	
3－11		マット・グロッソ州の2分案が成立。
3－12	日本語の公証翻訳人だった故サンターナ・デ・カルモのマリア未亡人が、日本文化研究所に日本語の図書250冊を寄贈。	
3－13	労働者不当解雇で進出企業『山九』が告訴される。	
3－14	パカエンブー市のパカエンブー製油会社の工場が火事。	
3－15		全国で新州知事が就任、サンパウロ州はパウロ・エジィディオ・マルチンス知事。
4－2	バイア州クビチェック植民地から帰日した松野美代子一家が国際協力事業団に勝訴。福岡地裁が事業団に『263万円を支払え』と判決。	
4－2	日本からサッカー少年水島武蔵（10歳）が移住。	
4－2	74年度男子バレーボール日本一の日本鋼管チームが来伯し、3・4の2日に亘りサンパウロ選抜チームと対戦して圧勝。	
4－4	エストラーダ・アルバレンガの小学校が『ススム・ヒラタ』と命名される。	
4－5	第6回先駆者移民訪日団の34名が出発。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－10	サンパウロ美術館で２週間に亘り『宮田雅之切り絵・版画展』と『間部学回顧展』が開催される。	
4－12	ブラジル日本文化協会の新会長に中沢源一郎が就任。	
4－12	ルバング島から30年振りに日本に生還し、74年に一度ブラジルを訪問した小野田寛郎がマット・グロッソ州に移住。	
4－12	沖縄歌舞伎がサンパウロ美術館で公演。	
4－16	竹中正が援協の会長に就任。	
4－16	小笹マリオ市議がサンパウロ州食糧配給局長に就任。	
4－18	愛知県佐織町の小、中学生から子供の園に学用品が贈られる。	
4－18	家の光協会の足立良平会長が来伯。	
4－24	サンパウロ市観光局主催の生け花展がサンパウロ市議会で開催。	
4－25	イビウナ市に農村病院が完成。費用の90％を管内の日系農家が醵出。	
4－25	USP 日本文化研究所の建設費寄附第１号は平田代議士未亡人で３万クルゼイロ。	
4－28	県人会連合会が公認団体となる。	
5－2	宮田雅之画伯が売上金１万7,550クルゼイロを領事館に委託。	
5－2		初代中国大使がブラジリアに着任。
5－	サンパウロ・ジョッキー・クラブに招かれた安田伊佐夫騎手が競馬レースに出場。	
5－5	30年近くペドロ・デ・トレードの山中で孤独に過ごしていた遠藤広治（75歳）が救出されて援協のサントス厚生ホームに入る。	
5－8	アテアビスタ会（日系陸上競技選手OB会）が政府公認団体となる。	
5－14	竹中商会が創立20周年を記念して福祉団体に10万クルゼイロを寄附。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5-15～25	サンベルナルド・ド・カンポ市役所主催で『第1回日伯工業見本市』が開催される。	
5－20	ゴイアニア市在の永石強（63）が、『墓場にはもって行けぬ』と援協、救済会に20万クルゼイロ分の土地を贈る。	
5－25	日語普及会が第1回全伯日本語力ためし大会。	
5－28	日本のピアニスト高野羅子が来訪し、サンパウロ美術館で独奏会。	
5－28	プナウ植民地からの帰国移民黒崎亨（63）と宮崎太郎（72）が国際協力事業団を相手に訴訟を起こしたが東京地裁が却下。	
5－28	内山吉蔵の遺族に勲五等瑞宝章が伝達される。	
6－3	日伯現代美術展が始まる。	
6－3	社会政治警察が発表した凶悪犯罪者13名の中に日系キクチ・ヤスユキの名前がある。	
6－4	国際生け花の大野典子女史が文協でデモンストレーション。	
6－6	九重織の家元・九重年支子女史が援協と救済会に織機8台を寄贈。	
6－6	サンパウロ新聞社主催の現代講演会に、石原慎太郎、久保継成、二子山勝治が来伯。	
6－13	サクラ・フィルムがリオ州レゼンデ市に工場を完成。	
6－13	ベロオリゾンテ＝ポルタ・レドンダ間の鉄道工事の調査団が来伯。	
6－16	スザノ市の農村部で老日本人農業者が強盗に撃たれて死亡。	
6－18	倉石忠雄元農相がセラード視察の為に来訪。	
6－20	商工会議所が広川会頭を6選。	
6－21	第10回コロニア芸能祭に3000人が集まる。	
6－23	サンパウロ日本人学校の村山真由美教諭が自殺。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－25	バストス市に移民博物館建設の計画。	
6－26	春の叙勲のブラジル関係者は５名。	
6－27		ブラジルと西独政府が核技術開発の協定。
7－	フランカ市の製靴業者組合が『東洋ソーダと住友商事の人造皮革製造の計画を認可するな』と政府に要望。	
7－5	文協で『第１回高齢者趣味の創作品即売展、並びに家庭実用品バザー』が開かれる。	
7－10		ベルナンブーコ海岸地帯が大洪水。
7－11	サンパウロ市役所が都市再開発の為に古くから日本人の多かったコンデ街、タバチンゲーラ街に面した5200平方メートルの接収を決める。	
7－14	兵庫県の自民党県議団（高松清太郎団長）がパラナ州を訪問。	
7－16	サンパウロの国際音楽フェスティバルに『ジュニア・フィルハーモニック・オーケストラ東京』の塚原哲夫が参加してサンパウロ交響楽団を指揮。	
7－16		サンパウロと周辺都市の大気汚染で警報。
7－17		南パラナ地方にも雪が積もる記録的な大寒波が襲来。これでパラナ州のコーヒーが壊滅。
7－21	兼松江商がタツイー市に工業団地造成を発表。	
7－23	岐阜県青少年海外派遣団が来伯。	
7－25	東洋街民芸市の正式認可がおりる。	
7－26	サンパウロ市イタケーラで入植50年祭。	
7－27	福島県人会が文協で盆踊り競演大会を催す。	
7－29	コロンビアでの第２回世界水泳選手権大会に日本チームの役員として参加した古橋広之進が、帰途26年振りにサンパウロを訪問。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－30	PL 教団がノルデステ（ブラジル北東地方）の水害地に見舞金２万クルゼイロを贈る。	
8－1	ブラジル協栄保険が援協に医療器具を寄贈。	
8－2	南伯組合が週休２日制を実施。	
8－5	田中治男（アリアンサ移住地）遺族に勲五等瑞宝章が贈られる。	
8－6	コロニア文学会がコロニア小説集第一巻を発行。	
8－7	日本の在外企業協会が進出企業の行動調査団を送る。	
8－7		銀行強盗が特に給料日に激しいのでサンパウロ軍警は、空から監視するペリカン作戦を開始。
8－8	ブラジル日系老人クラブ連合会が設立され、初代会長に田中丑子が就任。	
8－9	聖調会の料理祭りに日本料理研究会から三宅実子理事長等４名が来訪。	
8－10	コチア青年移住20周年大会。	
8－11	ノルデステ水害に生長の家が５万クルゼイロを贈る。	
8－11	全日本剣道連盟からブラジルの剣道状況視察に小沢会長等４名が来伯。	
8－12	ブラジル人への指導を目的として岩本薫９段等３名の囲碁使節団が来伯。	
8－12	パルケ・ノーボ・ムンドのファベーラ（スラム）の火事で日系人も１家族在住していたことが判明。	
8－13	サンパウロ美術館で現代書道ブラジル展を開く。	
8－16	サンパウロ市役所主催の『第１回民族舞踊祭り』に花笠踊りが出場。	
8－18	竹下登衆議（元官房長官）が来伯。	
8－18	日本青年会議所の一行47名が来伯。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－20	ブラジル政府の招聘で福田赳夫副総理夫妻がブラジルを訪問。8月20日に到着し、リオ、サンパウロ、ブラジリアを回り27日に離伯。	
8－21	日系外交官第1号（藤田エジムンド進）が誕生。	
8－22		歴史の新しい韓国コロニアで弁護士第1号が誕生。
8－30	第11回山本喜誉司賞が田村武馬（馬鈴薯）、余湖清（丁子）、平井喜見三郎（メロン）に贈られる。	
8－31	文協に300人の俳人を集めて第29回全伯俳句大会が開かれる。	
9－4	田中元総理の約束した医療器械が援協に届く。	
9－5	援協が日本政府に200万クルゼイロの援助を要請。	
9－6・7	文協で第13回ラン展。益々盛会で1300点が出品される。	
9－8		燃料節約の為に自動車の最高スピードを80キロに制限。
9－10	日本、ウルグワイ、韓国、ブラジルの4ヵ国親善女子バレー・ボール大会で日本のサンヨー・チームが完勝。	
9－10	日本看護婦協会からブラジルの実情を見る為に16名の使節団。	
9－13	文協主催の第4回国際民族舞踊大会。	
9－14	リベルダーデ広場の『東洋民芸市』の第1回、約5000名の人出。	
9－15	サンパウロ総領事館にいたずらの爆破予告。	
9－15	レストラン・サントリーがサンパウロ市に開店。	
9－16	文協がパラグワイ日本人連合会会館建設費として6万200クルゼイロを贈る。	
9－18～	日本、ブラジル、韓国、アルゼンチン4ヵ国の親善男子バレー・ボール大会で日本が全勝。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－19	海外子女教育振興財団の水野富士夫事務局長がサンパウロ日本人学校を視察し『地元との融合がない。派遣者と現地採用教師の待遇の差異がひどい』と指摘。	
9－19	ヤマハがグワルーリョス市にオートバイ組立工場を完成。	
9－20	三井肥料がポッソス・デ・カルダス市に日本庭園を寄贈。	
9－21	東京銀行がパウリスタ大通りに新本店を完成。	
9－24～		韓国の民族バレー団『ザ・リトル・エンジェルス』が24日から3日間サンパウロ市立劇場で公演して大好評。
9－26	サンパウロ日本人学校が地元のレオナルド・ビラス・ボアス校と初のスポーツ交流。	
9－26		サンパウロの地下鉄南北線の全線が開通。
9－26		サンパウロのイタリア移民百年祭。
9－27	国際協力事業団がジャカレイーに『ブラジル農業移住者訓練センター』を開設。	
9－29	ブラジル三菱商事にいたずらの爆破予告電話。	
9－		ドルのヤミ相場の高騰が続く。
10－1	国際交流基金から初の駐在員久保和朗（27）が着任。	
10-4・5		サンタ・カタリーナ州で未曾有の水害。
10－5	南米銀行創立35年。	
10－7	アチバイア方面に降雹で農家の被害甚大。	
10－8	住友銀行にいたずらの爆破予告電話。	
10－9	サンパウロ市カフェー広場の体育館『リュウゾウ・オガワ』と命名。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－11	昭栄ブラタク絹糸がサン・ジョゼー・ド・リオ・プレット市に新工場。	
10－15	サントリーが国産ウイスキー『クラウン』を発売。	
10－15	広島市折り鶴の会からヒロシマ中学に千羽鶴が届く。	
10－15	作家本田靖春が取材の為ブラジルに。	
10－17	サンパウロ・ビエナールで日本の山口勝弘の『テレビとカメラによる作品』がヴィラーレス賞を獲得。	
10－18	ブラジル日本商工会議所からパラグワイに80名の経済調査団。	
10－19	東京浅草の浅草寺から「子供の園」に鯉のぼりが贈られる。	
10－23	中矢醸造が創立35年のパーティを止め、その費用3万5千万クルゼイロを日系5団体に寄附。	
10-26～	三重国体にコロニアの陸上選手団7名が参加し、2名が入賞。	
―――	パラー州相撲連盟が結成され、第1回大会を開催。	
10－27	モジ、スザノ、ビリチーバ・ミリンに農村電話がつく。	
10－30	東洋紡績が社長交代のパーティを止め、日系文化・福祉団体に7万クルゼイロを贈る。	
11－3	日本政府が秋の生存者叙勲を発表。ブラジル関係は14名。	
11－7	益々増加するトロンバ（ひったくり・強盗）にリベルダーデでは商店がポスターで通行人に注意を促す。	
11－8	PL教団がアルジャー市に奨学基金を設置。	
11－11	三重国体のブラジル・チームのマネージャー石井賢治（43）が多量の宝石を持ち込んだ疑いで、国体が終了したところで書類送検される。	
11－11	大西紀久江（34）が援協でボランティアの児童福祉カウンセラーとして働く。進出企業の夫人としては初めてのこと。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－12	社会学者清水幾太郎博士がブラジルにおけるオーギュスト・コントの影響の調査に来伯。	
11－14	兵庫県からパラナ州に生け花使節団。	
11－14		ガソリン代用のアルコール燃料を目指す『プロアルコール』計画が開始される。
11－16	セー広場に面した28階のメンデス・カルデイラ・ビルが日系の高橋譲二、勇剛兄弟の手によってダイナマイトを使い4秒で完全に解体される。	
11－18	ペルー2世の久保田アルツール画伯が文協で個展。	
11－20		スペインの独裁者フランコが83歳で死亡。
11-21～27	プロ野球読売ジャイアンツのトレーナーで合気道師範の住田芳寿が、援協で無料の整骨奉仕。	
11－27	清水市市長が日本語普及会と日学連に教科書4000冊を寄贈。	
11－30	京都大学のゲバ学生が旅券を没収されて日本へ強制送還される。	
―――	マナウスの自由貿易地区に日本企業の進出が相次ぐ。	この年はインフレはまだ年率30％台に止まったが、石油ショックの影響で貿易赤字が増加し、外債は前年度比30％ほどの増加で225億ドルを超え、経済成長率は5,2％に下落。分野別では特に降霜、干ばつなどの異常天候により農畜産の被害大。
	死　亡　・1/10 吉浦恒喜・バウルーのパイナップル王。 ・3/10 岩重隆治・海外日系人協会理事長。 ・3/20 河村富雄・ポンタ・グロッサの養農、自家用機墜落。 ・6/28 中尾熊喜・元文協会長、県連初代会長、サンパウロ人文研創立者。 ・8/28 細江静男・医師で同仁会理事、援協理事など歴任、ボーイ・スカウトも育成。 ・10/4 仲村渠パウロ・元サンパウロ州議員。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	刊行物　★日本ブラジル中央協会編『日本におけるブラジル研究　文献目録』。 ★ジョズエー・デ・カストロ著大沢邦雄訳『飢餓社会の構造ー飢えの地理学』みき書房。 ★山田睦男編『現代ブラジルの社会変動』アジア経済研究所。 ★桑村温章著『ブラジルー変貌する経済と社会』時事通信社。 ★田宮虎彦著『ブラジルの日本人』朝日新聞社。 ★飯山達雄著『アマゾンと裸族』講談社。	
1976（昭和51） 1－6	大角領事に帰国命令が出たことで文協、援協、県連が揃って平野総領事に『帰国命令を延期してくれ』と異例の陳情を行う。	
1－8	日本から養蜂視察団が来伯。	
1－11	北パラナで日語学校職員講習会。日本語を外国語とし、日語教師は語学専門家として位置付ける。	
1－12	豊和工業の藤平社長が20周年記念に工業技術学校建設の計画を発表。	
1－12	農村青年指導者として５名の派遣団が来伯。	
1-13～15	リオ総領事館主催の生け花展がリオ国立美術館で行われる。	
1－14	中矢秀一が再び鈴虫を愛好者に配布。	
1－14		パラグワイ新報の奥畑社長が種谷清三大使を誹謗してパラグワイ当局に逮捕される。
1－15	琉球大学の久場政彦教授が移民の調査に来伯。	
1－17	山菜料理・果実酒を研究する丸山富美子が来伯。	
1－19	新潟から児童画が届き文協で展示される。二科展新潟支部が毎年送ってくるもの。	
1－21	ルイス・ゴエス街の薬局主、友谷千蔵が強盗に撃たれて即死。サンパウロ市内の強盗、泥棒、トロンバは益々増加し、文協ビルも数度泥棒に見舞われ、又22日には襲われて所持金が少ないと暴行された日本人も出る。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－22	日語普及会が日本語中級講座を設置。	
1－24	移民史料館建設委員会が発足。委員長は中沢源一郎文協会長。	
1－25	植木シゲアキ鉱山動力相が日本からの投資を要請する為に政府使節団として訪日。	
1－27	コロニア文学新人賞に『カジューの汚点』海野牛子（主婦・66）が決定。	
2－3	援協顧問で同診療所に働く木原暢医師が、日伯毎日新聞に寄稿した随筆の中に不当な箇所があるとして援協常任理事会が木原医師に辞職勧告。これによって木原医師は辞表を出したが、その後木原医師が会長に詫び状を送付し18日に無事解決。	
2－3	広島県が研修制度を拡張。	
2－4		グワテマラ市を中心に大地震で２万５千人の死者。
2－4	群馬県の国用生糸組合の黒岩理事等がブラジルの養蚕視察に来伯。	
2－6	ホンダが初田工業と提携してのオートバイ部品生産計画を白紙に戻す。	
2－6	ブラジル日本文化協会は１月５日から２月６日まで、県費その他で留学する学生を対象とした『留学生講習会』を行う。	
2－10	総領事による日本語教師の表彰制度を復活。	
2－10	バストス市に会員資格70歳以上の『明老会』が発足。	
2－11	サンパウロ市イビラプエラ公園内にある日本館庭園の樹齢30年のギンナンの木に初めて実がつく。	
2－11	船舶振興会の笹川会長がサンパウロ市内の300小学校に500万クルゼイロ分の教材を贈る。	
2－17	日語のバルガス学園の生徒が中心となって、大地震のグワテマラ救済資金を集めて贈る。	
2－19	吉田健三大使が着任。	
2－20	国際協力事業団サンパウロ支部が文協ビル増築分の購入を決定。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
2－21	裏千家から茶道指導に永井家元代行、川治企画・渉外部長が来伯し文協ビル増築部分にブラジル支部の部屋を購入。またサンパウロ大学日本文化研究所に茶室寄贈を正式発表。	
2－24	セラード開発協力の為に国際協力事業団の久宗副総裁を団長とする14名の使節団が来伯。	
2－26	帝人の大屋晋三社長、新日鉄の平井富三郎社長、協栄生命保険の川井三郎会長にブラジル政府が南十字勲章を贈る。	
2－26	国際協力事業団が調査した結果は『技術移住者の平均給与は5768クルゼイロ』と発表。	
2－27	サンタ・カタリーナ州のラーモス移住地がリンゴの本格的出荷を開始。	
3－1	池田厚子（昭和天皇第四皇女）がリオ市のカーニバル観光に来伯。	
3－2	市役所主催で花笠踊りがカーニバルのサン・ジョン大通りに登場。	
3－4	文協奨学金がなくなり、国際協力事業団が76年度から大学生向け奨学金制度。	
3－4	農高生移民11名がサンパウロ各地の農業高校に入学。	
3－6	世界救世教から『国際友好親善使節団』が来伯。	
3－8	榊原舞踊団が慈善公演の利益20万クルゼイロを文化・福祉団体に寄附。	
3－13	ジャカレイー市の農業移住センターで第1回『独立前研修会』を開く。	
3－19	ホンダがサッカーの黒岩エニージオ、新垣フェルナンドを日本に送る。この頃から、日本チームのブラジルのサッカー選手招聘が増える。	
3－20	「憩の園」の増築分の棟上げ式。	
3－21	ドラセーナ市で日系の幼児（5歳）が誘拐され、ブラジル、パラグワイ両国警察の協力によって20日ぶりに無事解決。	
3－24	リベルダーデ地区にロータリー・クラブが発足。	政情不安だったアルゼンチンに軍部のクーデターが起き、通称イザベリッタ大統領（ペロン未亡人）の政権が倒れて軍事政権となる。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－1	募集していたサンパウロ援協の基金は３月末で300万クルゼイロを超える。	
4－1	サンパウロ総領事館職員の中村茂は、現地採用から正式外務事務官となる。	
4－2	国際協力事業団の中南米責任者・新志正夫理事が来伯。	
4－4	東洋街で花祭りの稚児行列。	
4－6	パラナでも移民史料館建設を決定。	
4－7	愛知県海部郡佐織町の堀田町長から子供の園、希望の家、救済会などに現金230万円と衣類、学用品などを寄贈。	
4－8	事業団サンパウロ支部に農業情報センターを新設。	
4－10	『サンパウロ市空手道連盟』が正式発足し、第１回選抜大会を開催。	
4－10	トメアスー植民地で山根ノブトシがカマラーダ（雇用労働者）２名に山刀で殺される。	
4－14	事業団が土地や農業機械類購入の融資額は800万円までと発表。	
4－17	サンパウロ市内シダーデ・レオノールのスーパー店に５人組強盗。売上げを強奪した上に経営者の渕上ファビオを射殺。	
4－20	ブラジル外務省からコチア組合中央会の井上忠志会長にリオ・ブランコ章。	
4－23	アンシェッタ宮でサンパウロ市観光局主催の14流派合同生け花展示会。	
4－25	パン・アメリカン柔道大会で小川八郎が重量級で優勝。	
4－29	日本の春の叙勲で、ブラジルは勲四等から勲六等まで９名が受章。	
5－5	青木建設がシーザーパーク・ホテルをサンパウロ市に完成させる。	
5－5	援協がパラナ州アサイ市で行った日系高齢者調査の結果が『生活は安定している。住宅所有者が多く、また金婚組が18％、孤老は１％』と発表。	
5－8	兵庫県加古川市の使節団が姉妹都市のマリンガーを訪問。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－9	パラナ州の経済使節団（上野アントニオ団長）が訪日。	
5－12	サンパウロ市主催フェイラ・デ・ボンダーデ（慈善バザー）に日本も参加し、収益5万クルゼイロを寄附。	
5－13	東京でブラジルからの代表も交えて500人が集まり、海外日系人大会。	
5－14	サン・ベルナルド・ド・カンポ市で第2回日伯商工展示会が始まる。	
5－14	SESC（商業労働者の社会福祉サービス・センター）のセントロ・カンペストレで日本週間を催す。	
5－15	アニャンゲーラ日系クラブが、クラブ内『仲良しの碑』で武者小路実篤の追悼法要を行う。なおこの碑は前年設置され碑文武者小路氏の書。	
5－20	文協が初めてビデオ・コンサートを行う。	
5－20	援協が大都市における高齢者調査の結果に『子供とも別居が多く、隣人との交際が無くて孤立する傾向が強い』と発表。	
5－20	スズキ自動車工業が『初田工業と組んで77年2月までにオートバイ1号を発売』と発表。	国産のアルコール車第1号が出現。
5－21	ブラジル国際農友会がパラグワイから実習生第1号を受け入れ。	
5－21	岩手県では岩手日報社の創業百年を記念して、『在南米岩手県人との交流と市場調査の為のグループ』を作り、その31人が来伯。	
5－22	サンパウロ州グワタパラでは移住地に設置された墓地に、旧グワタパラ耕地の墓地にあった日本人の遺骨を移す。移住地15周年の77年にそこに開拓先没者の慰霊碑を建てる予定。	シデルブラス（ブラジル製鉄公社）のシルバ総裁が訪日し、ツバロン製鉄建設の協定を結ぶ。
5－25	ヨーロッパ各地で公演した長門美保歌劇団17名がサンパウロに到着し、6月1日にはサンパウロ大学でサロン・コンサートを行う。	
5－27	文協で半田知雄画伯の40年の画業を記念しての回顧展が開かれる。	
5－30	パラナ州マリンガー市で養老施設『和順会ホーム』の一期工事が終わって開所。	
5－30	文協で県連の創立10周年記念式典が行われ、全県人会長が出演しての『仮名手本忠臣蔵』の余興が好評を博す。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－2	桜植民地で狂った母親がわが子を惨殺。	
6－3	海外美術交流協会、国際交流基金の主催で現代日本美術展がサンパウロ美術館で開かれ、代表的画家60名の作品が展示される。	
6－3	新日鉄はイタキ製鉄所計画に不参加を決定。	
6－4		大統領令で海外旅行者には1万2千クルゼイロの強制預託金が義務となる。
6－5	ラテン・アメリカ技術交流センターの高橋幸司理事長が、帰国した研修生の追跡調査の為に来伯。	
6－	カンピーナス日伯文化協会では、この1月に完成した新会館で創立25周年の記念式典を挙行。	
6－11	サンタ・カタリーナ州のポルト・ウニオン植民地入植希望者が現地視察旅行に出発。	
6－12	第5回ブラジル宝石見本市に招聘された山梨県使節団が到着。	
6－15	パラー州の第3トメアスー植民地造成委員代表が訪日し、事業団に援助を要請。	
6－16	移民の日に先立ち、サンパウロ市議会が日系コロニアに敬意を表して文協、援協など6団体にアンシェッタ章を贈る。	
6－18	吉田健三大使を迎えてサンパウロ市で文協が日本移民68周年を祝う。	
6－18	サンパウロ総領事が日語教師28名を表彰。	
6－19	第11回コロニア芸能祭。	
6－21		台湾人多数が不法入国として逮捕される。
6－22	サンパウロ大学日本文化研究所にソニーがLL装置を寄贈。	
6－23	富士通からサッカー選手を求めて監督が来伯し、7月に3人の2世選手を契約。	
6－24	霊友会の久保継成会長が来伯。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－28		サンパウローサントス港をつなぐ新高速道路イミグランテ（移民）街道が完成。
7－4	日伯間の経済協力を検討する為に河本敏夫通産相が来伯。	
7－4	国際協力事業団の法眼晋作総裁が来伯。	
7－8	ベルイーベ市に日系人が増えて日本人会が結成される。	
7－11	多くの花嫁を送った国際女子研修センター小南みよ子常務理事が来訪。	
7－11	パラー州ベレン市に学生寮が完成。	
7－12	サンパウロ市で75年に一番活躍した局長として小篠マリオ食糧配給局長が選ばれる。	
7－15	生け花協会がサンパウロ市議会に常時、生け花を展示するようになる。	
7－15	全日本剣道道場連盟から坪内八郎、羽賀忠利両８段が使節として来訪。	
7－18	海外日系人協会会長の岩動道行参議夫妻が来伯。	
7－20	海上自衛隊練習艦隊『かとり』と『ながつき』がレシーフェ入港。	
7－21	日本相撲協会から君が浜親方、力士豊山、行司の木村庄二が到着し、サント・アンドレ市で行われた全伯相撲大会で指導を行う。日本移民を記念してサント・アンドレー市は、市内の街路を『カサトマル街』と命名。	
7－25	第１回若狭丸による移民が渡伯して50年振りに旧移民収容所で同航会を開き、16人が集まる。	
7－27	ブラジルNHK同好者の招きでNHKラジオ日本の宇田川アナウンサーが来伯。	
7－28	東京農大校友会の70名がブラジルの同窓生を訪ねて来訪。	
7－29	サンパウロ大学日本文化研究所が落成式。	
8－3	サンパウロ市内エスタード大通りにある広場がウンベイ・ヒラノ広場と命名され、そこに故平野運平の胸像が建てられ、その除幕式がセツバル市長参列のもとに行われる。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－6	サンパウロ市議会が辻マリオ医師に名誉市民権を贈る。	
8－6	三條会理事長酒井滋玄広島文教女子大教授が老人福祉視察に来訪。	
8－10	東山酒造が新製品『東麒麟・金ラベル』を発売。	日本と20年間に3億トンの鉄鉱石輸出が決まる。
8－10	交通遺児育英会が第2回海外研修生30名を派遣し、ブラジルの高校生と交歓。	
8－10	事業団の76年度懸賞作文特選の高校生2名が来伯。	
8－10	力行会の沖野喜資理事長が来伯。	
8－12	7月26日にリオに入港した日本の練習艦隊がサントスに入港、14日には文協でコロニア歓迎大会が開かれる。	
8－15	生長の家ブラジリア別院が竣工。	
8－18	コチア小学校の一部を移民史料館の史料収納庫とする。	
8－22	サン・ベルナルド・ド・カンポ市議会がアルモニア学生寮の二木秀人寮長、トヨタ自動車の酒巻和男社長の2人に功労賞を贈る。	
8－22	アプカラーナ市で入植40年祭。	
8－22	コチア青年夫人大会が開かれる。	
9－3	サンパウロ市役所主催の移民オリンピックが開幕。日系は参加した30ヵ国の中で総合2位の成績。	
9－4	76年度山本喜誉司賞は中尾家憲（ラン）、斎藤弘（イタリアぶどう）、渡辺曠（トマト）に贈られ、特別感謝状がリンゴの後沢憲志博士に贈られる。	
9－4	サンパウロ大学日本文化研究所で学習院大学の土井教授が『本の文化』のテーマで講演。	
9－4	援協がグァルーリョス市に建築中の『やすらぎホーム』の棟上式を挙行。	
9－9	森ジョルジ画伯がフランスのトゥール・ビエナールで絵画の部1位となる。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－13	文協内に移民史料館運営基金の設定が定められる。	
9－14	南リオグランデ州イボチ植民地で火事があり、子供３人が焼死。	
9－15	ガイゼル大統領夫妻一行がブラジルの元首として初めて日本訪問し、６日間の滞在。	
9－17	欧米各地とは３月から始まっていた直通国際電話が日本とも開通。	
9－18	サンパウロ大学日本文化研究所建設委員会が105万クルゼイロの余剰金を残して解散。	
9－19	日本老壮福祉協会の木村健一常務理事（『老壮の友』編集長）がコロニアの老人問題調査に３年振りの来伯。	
9－22	コチア組合の井上忠志会長にサンパウロ市名誉市民権が贈られる。	
9－23	岐阜県人会が、台風の被害を受けた母県に義援金を送る運動を開始。	
9－24	パラグワイの日本人入植40年祭がラ・コルメナ植民地で行われ、ブラジルからは宮坂国人、平出学（事業団サンパウロ支部職員）の２人が功労者として表彰される。	
9－24	馬肉が対日貿易のダークホースとなる。	
9－25	文協講堂で第７回老人週間が開かれる。	
9－26	カンポス・ド・ジョルドン市で桜祭り。	
9－26	南伯組合定期総会で、販売量は前年比40％のアップと発表される。	
9－27	総理府派遣の海外研修青年９名が来伯。	
9－27	ピラール・ド・スール市の日本人会が会館を新築。	
10－1	アルゼンチン２世のタンゴ歌手上原千代子がサンパウロで公演。	
10－3	第30回全伯俳句大会に380人が集まる。	
10－4	援協、老ク連、救済会、パウリスタ児童療護会、パラナ和順会で『老人福祉協会』設立の動き。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－6	文協でグループ・リベラード12名の初の美術展が開かれる。	
10－7	ラテン・アメリカ協会の藤本正雄理事長が来伯。	
10－8	東京農大・北村愛夫助教授がブラジルの製糸産業調査に来伯。	
10－10	援協のカンポス・ド・ジョルドン結核療養所が創立40年を祝う。	
10－11	陸の孤島だったトメアスー植民地に道路が完成。	
10－14	三重県津市がオザスコ市と姉妹都市関係を結ぶ。	
10－16	吉田大使を迎えてリンス市が日本人入植60年を記念。	
10－17	野村農場が創設50年を祝う。	
10－19	17名の第7回初期移民訪日団が出発。	
10－20	サンパウロ市で開かれる世界医師会総会に出席の為に、日本医師会の武見太郎会長等150名の日本医師団が来伯。	
10－21	第5回サロン文協展開催。	
10－22	アチバイア市で第2回花祭り。	
10－30	全日本初生雛鑑別大会に参加するブラジル代表団が出発。	
11－	日本政府の76年秋の叙勲でブラジル関係は7名と発表される。	
11－5	商工会議所の広川郁三会頭にサンパウロ市名誉市民権。	
11－7	サン・ベルナルド・ド・カンポ市のみずほ村で日系の故人4名の名前が街路につけられる。	
11－8	リオ総領事館主催で、メスブラ・ビルでリオ工芸展が開かれる。	
11－10	南米開発の田付景一社長（元ブラジル大使）が来伯。	
11－11	サントス厚生ホームでは『生活に潤いを』の趣旨で楽団とコーラス部が誕生。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－15	市長、副市長、市会議員の選挙が全国一斉に行われ、サンパウロ州、パラナ州だけでも15名の日系市長が当選。 副市長は11名、市会議員では82名に達し、最も激戦のサンパウロ市では21名の市議定員の中で田村幸重、羽藤マリオ、松田セルソの３名が当選。	
11－16	多くの移民を送っている神奈川県秦野高校の鈴木コウ校長が来伯。	
11－17	日本文化研究所の運営委員会が発足。委員長は藤井素介。	
11－17	サンパウロ人文研が『香山六郎回想録』を発刊。	
11－23	文協の調査で笠戸丸以前の渡航者に２人の生存者が判明。野上（旧姓隈部）暁子と高橋栄子。	
11－24	『グループ・ジャカランダー』が第１回バザーを開く。	
11－25	投石聖、渡辺幸一はノルデステ海岸の海草利用による寒天製造を開始。	
11－27	ブラジルでは日本梅に実がつかず、日本人は梅干し入手に苦労したが67年に台湾から移民した「孫」が持参した台湾梅が増え、国産梅干が出回る。	
12－10	リオ市に育英協議会が発足して奨学生を募集。	
12－11	リベルダーデ商工会主催の『東洋祭り』は観客３万が集り盛会。	
12-11～12	スザノ市の『第８回ビエナール展』と『第９回花祭り』。	
12－11	アラウカリア市で第３回『卵と桃祭り』を開催。	
12－13	岐阜県の小坂町がサレゾーポリス市と姉妹都市関係を結ぶ。	
12－15	ヤクルト社の年次大会には4000名の『ヤクルトおばさん』達が集合。	
12－20	年末助け合い運動は極めて活発。各宗教団体、フェイランテ協会などが福祉団体に続々と寄附。	
―――	日伯合弁でアマゾン・アルミ社が設立される。	

年号	移民史・日系社会史	関連事項
12－21	日本政府がイシブラス社長オルランド・バルボーザに勲三等旭日章を贈る。	
12－21	中出良一が自作曲集のレコードを出す。	
12－26	第52回サンシルベストレ国際レースに出場の喜多秀喜選手が到着。	
12－	死亡 ・3/22 石川芳園（82歳）・俳人。 ・4/6 香山六郎（90歳）・元聖州新報社長、笠戸丸で渡航。 ・6/24 信田兵治（81歳）・バストスの信田グループ創立者。 ・7/－ 沢田節蔵（於東京）・元ブラジル大使。 ・12/ 弓場 勇・独特な共同生活のユバ農場創立者。 刊行物 ★半田知雄著『ブラジル日本移民史年表』サンパウロ人文科学研究所。 ★香山六郎著『香山六郎回想録』サンパウロ人文科学研究所。 ★斉藤広志著『ブラジルの政治－新しい大国への道』サイマル出版会。 ★山路舜一編『ブラジル百科事典第1巻』サンパウロ、ブラジル公論社。 ★セルジオ・B・デ・オランダ著、マウリッシオ・クレスポ訳『ブラジル人とは何か－ブラジル国民性の研究』新世界社。 ★フランシスコ・ジュリアン著、西川大二郎訳『重いくびきのしたで－ブラジル農民解放斗争』岩波書店。 ★向一陽著『奥アマゾン探検記上・下』中央公論社。	この年の経済成長率は9.8％と前年を大きく上回ったものの、政府財政の破綻はしだいに明確になり、インフレは50％に達し、何よりも経済困難から犯罪の増加が激しくなる。
1977（昭和52） 1－5	ピアジャンテクラブが創立30周年を記念しての新年宴会。	
1－6	日伯水泳界の交流をはかるために日本スイミング協会の波多野勲理事が来伯し、まずピニェイロス・クラブの選手24名の招待を決める。	
1－11	東京ロータリー・クラブから文協に図書1万4千冊を寄贈。	
1－14	ミナス州のパスコアル・ブッシェ（20歳）が日本の大相撲君ヶ浜部屋に弟子入りの為に出発。尚、シコ名は“伯山”と決まる。	
1－15	東洋繊維がロンドリーナにラミーの試験場を完成。	
1－17	進出企業、日本鉄塔が撤退を決定。	
1－18	熊本県人会が沢田県知事を迎えて会館の落成式。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－20		アメリカでジェームス・カーター大統領が就任。
1－24	国際交流基金がダーク・ダックスをブラジルに派遣し、24日のリオ公演の後に28日（市立劇場）、29日（文協）でサンパウロ公演。	
1－27	広島県の養老院『三條園』が孤老の仲信夫と橋本統男の引取りを決め、外務省が国援法による日本帰国を認可。	
2－1	秋田県松寿会養護老人ホームの佐々木雄太郎園長が来伯し、『県単位の孤老調査』を開始。	
2－1	軍警の増田稔大尉が繰り上げて連邦下院議員となる。	
2－4	バルゼア・アレグレ移住地の婦人会がジャカレイ移住地を訪問して婦人会と交流。	
2－7	クリチーバ老人クラブの調査で『小遣いは自分で稼ぐ』が50％を占める。	
2－7	パラグワイから青年農業実習生19名が来伯し、各地の日系農家を見学。	
2－9	県連が県別の過去帳の作成を開始。イビラプエラの先殁移民慰霊碑に奉納する為。	
2－10	ブラジル日本移民史料館建設委員会の招聘で、国立民族博物館の梅棹忠夫館長と、丹青社の佐々木朝登役員がサンパウロに到着。	
2－13	サンパウロ学生会の新会長に春原武毅が就任。	
2－13	愛知学院大学の世良琢磨教授がローマ字普及の為に来伯。	
2－13	『日伯柳壇』が1000回達成記念祝賀会を行う。	
2－14	サンパウロ州農業高校移民の15名が各地の高校に入学。	
2－15	NHKの鈴木健二アナウンサーが来伯。事業団が75年から始めた学識経験者による国際移住視察の第3回目。	
2－16	エスペランサ婦人会に『二世部』が発足。	
2－17	事業団サンパウロ支部がサンパウロ州カッポン・ボニート方面にアウリベルデ移住地建設を発表。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
2－25	長野県からサンタ・カタリーナ州のリンゴ視察団が到着。	
2－25	ブラジル観光公社の招待で作家の五味康祐、映画監督の谷口千吉、マンガ家のサトウ・サンペイら6名がサンパウロに到着。	
2－26	沖縄協会が沖縄県人会と改称し、屋比久孟清会長を14選。	
2－28	1969年に破綻したバンデイランテ組合の本部土地、建物の競売告知が出る。	
3－1	弘中千賀子が歌集『小さき詩型』を自費出版。	
3－1	マリンガーで日系人同士の口論で2人を射殺、本人も自殺。	
3－3	故唐沢実雄（元大正小学校校長）に勲六等旭日章が贈られる。	
3－3	サンパウロ総領事館がとかく問題の進出企業25社に注意勧告、これから進出する企業に対する警鐘とするもの。	
3－5	第16回ラン展が文協で開催され、約1500種のランが展示される。	
3－8	商工会議所が定期総会に於いて広川郁三会頭を7選。	
3－11	サンパウロ市で日系人経営のスーパー店を強盗が襲い、経営者の当間シゲミら2人を射殺。又、同日にはサンパウロ市内で森田文夫の射殺死体も発見される。	
3－12	第2回老人クラブ全伯大会が文協で開かれる。	
3－13	作家の北杜夫がカメラマンの藤森秀郎と中米からアマゾン、リオを経てサンパウロに到着。	
3－14	牛尼貴国（バストス在、日大獣医学部卒業）が、サンパウロ大学の認可を得てブラジルの獣医資格を獲得。	
3－15	コチア組合がパウリネリ農相を迎えて本部建物の落成式を行う。	
3－15	南米銀行のリオ支店が強盗に襲われる。	
3－16	公文式数学研究所がブラジル進出。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－17	上野アントニオ下議が下院の南部地方開発委員会委員長に選出される。	
3－19	精神科患者の社会復帰を目的とした、日系最初のリハビリ・センター『やすらぎホーム』がグワルーリョス管内に完成。	
3－19	外務省の中南米文化交流調査団がサンパウロに到着。	
3－21	日系の長老宮坂国人（87歳）が死亡。	
3－21	日本相撲協会からブラジル相撲連盟に優勝杯が贈られる。	
3－28	日本がウジミナスに600億円の信用供与。	
3－29	兵庫県とパラナ州との友好協定に基づき、クリチーバ市に『工業技術センター』設立を決定。	
3－31	日本工作機械輸出振興会サンパウロ事務所（1963年に開設）が閉鎖。	
4－1	サンタ・カタリーナ州のポルト・ウニオン植民地の計画が中止となり、事業団は振り替え入植地の計画を検討。	
4－2	沖縄から音楽と舞踊の名手40名の芸能団が来伯し、文協において『ふるさとの歌と踊り』大会を行う。	
4－2	サンタ・カタリーナ州ラーモス植民地で第1回リンゴ祭りが行われる。	
4－2	仏教連合会、釈尊賛仰会、文協共催、リベルダーデ商工会後援の花祭り。甘茶サービスが大阪橋の上で行われる。	
4－4	全国農業協同組合中央会の藤田三郎会長が来伯し、セラード開発についてブラジル側と話し合い。	
4－6	日語普及会の調査で、日本語教師の給与は3000クルゼイロ以下が80％と判明。	
4－6	進出企業八百半デパートの経営危機が表面化。	
4－13	コロニア小説選集第二巻が完成刊行される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－16	サンパウロ市内アルメイダ・ジュニオール地区にパルケ・オリエンタルが完成。	
4－16	２日からサントスで開催された青年のテニス大会第８回バナナ・ボールに日本から２人の高校生が初参加したが成績は問題にならず。	
4－19	移民70年祭企画委員会が発足し、委員長には中沢源一郎文協会長が決定。	
4－23	大阪の身体障害者で冒険写真家の橋本善元と河野正敏の２人が、アマゾン河をゴムボートで水源から河口までを２ヵ月半で下る。	
4－24	サンパウロ滞在中のウィーン少年合唱団と日系のエコー少年少女合唱団との交歓会がプロ・アルテ・ブラジルで行われ、約150名が集まる。	
4－25	東山農場が創立50周年記念にコロニア７団体に９万クルゼイロを寄附。	
4－29	春の叙勲のブラジル関係は、勲五等の笹谷新市以下10名に決定。	
5－3	木多繁美が繰上げ当選でサンパウロ市会議員に就任。	
5－4	『５人の画家グループ』が文協で初めての作品展。	
5－5	上永井正画伯の個展が開かれる。	
5－6	県人会創立15周年の式典に出席の為に、秋田県の小畑勇二郎知事夫妻80余名の一行がサンパウロに到着。尚、小畑知事は全国知事会からの移民史料館に建設資金としての100万クルゼイロを届ける。	
5－6	自転車で世界一周中の岡田光平（28歳）がサンパウロに来る。	
5－9	第３回日伯現代美術展開催の為に世界救世教の岡田斉教主が来伯。	
5－11	西宮市の奥伍一市長がロンドリーナ市と友好協定に調印。	
5－15	77年度最初の移民44名がコンゴニアス空港に到着。	
5－15	イーリア・ベーラで磯釣りの日本人３名が高波にさらわれて死亡。	
5－16	尾崎天理市長一行が姉妹都市のバウルー市を訪問。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－17	味の素インテルナショナルのリメイラ新工場が完成。	
5－19	平野早苗総領事夫人ら主婦の５人展が南銀サロンで開催。	
5－25	コチア組合がパウリネリ農相を迎えて創立50周年記念式典を行う。	
5－26	サンベルナルド・ド・カンポ市において第３回日伯商工見本市が開かれる。	
5－28	ピラチニンガ文化体育協会、アテアピスタ会共催の第７回米州日系人陸上大会がイピラプエラ競技場で開催され、ブラジルが圧勝。	
5－28	県連総会で和田周一郎会長の留任を決定。	
―――	パラー州カスタニャールのメロン、マモン栽培の日系農家24家族がアマゾニカ農協を設立。	
6－1	日本語普及会と文化普及会とが合併を推進する委員会を設置し、委員長には岡本淳文化普及会長が就任。尚、日本語普及会の調査によれば、現在日本語学校の生徒の圧倒的多数は３世。	
6－6	沖縄県移民の実態調査に、沖縄国際大学の棚原健次教授が来伯。	
6－8	サンタ・クルース病院（旧日本病院）でボイラーが爆発し、看護婦２名が即死、他医師、看護婦等10名が負傷。	
6－8	古河電工がクリチーバに新工場を完成。	
6－16		連邦議会において離婚法が可決される。
6－17	ジャルジン・N・S・カルモ文化体育協会が市のカルモ公園に300本の桜を植樹。移民69年祭を記念する為。	
6－18	移民69年記念行事。セー広場のカテドラルのミサには笠戸丸移民の田中ツタも出席。	
6－21	大阪府の黒田了一知事が姉妹州のサンパウロを訪問。公害問題解決に協力申し入れ。	
6－22	『ネズミ講』天下一家からの大型寄附を援協が断る。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－25	グワタパラ移住地で慰霊碑の除幕式。	
6－25	文協で第12回コロニア芸能祭。	
6－26	山本竜雄がリベロン・プレット医大の教授となる。	
6－27	国際協力事業団が文協ビル6階に移転。	
7－2	綿紡のオーミ・ジロー・ローレンゼッテの工場（レンソイス・パウリスタ市）が焼ける。	
7－2	パラナ州ロンドリーナ市に学生寮が完成。	
7－12	コロニア文学会が雑誌『コロニア文学』の廃刊を決める。	
7－14	PL植物研究所が政府のEMBRAPA（ブラジル農業試験公社）に馬鈴薯の無菌種イモを寄贈。	
7-15～17	バストス移住地が開拓49周年記念祭。	
7－18	ブラジリア日会連合会でブラジリア入植20年を祝う。	
7－21	全伯相撲大会に日本相撲連盟がアマ横綱の長岡末弘、ほか役員を送る。	
7－22	生長の家副総裁の谷口清超夫妻が来伯。	
7－24	クリチーバ学生会が北パラナに医科学生奉仕団を送る。	
7－25	沖縄開発青年隊のブラジル移住20周年記念式典に出席し、後各地の活動状態視察のために同青年隊育ての親の瑞慶覧長仁・沖縄産業開発青年協会理事長が来伯。	
7－26	ヤクルトが『まぼろしの甘味料』ステビアの栽培試験に成功したと発表。	
7－26	裏千家寄贈のサンパウロ大学日本文化研究所内茶室が完成して釜開き。	
7－26	ブラジリアで在伯7公館長会議。	
7－26	ボーイ・スカウト日本連盟の渡辺昭総長が来伯。	
8－1	滋賀県からブラジル派遣研修生19名が来伯。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－1	日本語普及会主催で全伯日本語実力テストが行われ、1500名が参加。	
8－2	朝日新聞から日比野和幸論説委員が来伯。	
8－6	ブラジル剣道連盟と交歓の為に日本の中心会から20名の剣道使節団。一行には落語家の柳家小さん師匠も参加。	
8－6	手相鑑定の門脇尚平がサンパウロで講演を行う。	
8－6	佐賀県から47名の肉親慰問団が到着。	
8－9	作家の開高健が釣り取材の為来伯。	
8－10	レシーフェ市で開催された第1回グワララッペス国際ロード・レースに日本勢の北中純一（日体大4年）らが1～3位を独占。	
8－10	野田卯一衆議員が来伯。	
8－12	大阪商船三井船舶が移民史料館に戦前のブラジル丸の模型を寄贈。	
8-13～21	サンパウロ市体育局主催の第2回移民オリンピック開幕。	
8－13	西宮市が姉妹関係のロンドリーナ大学に医療器具を寄贈。	
8－17	パリから里帰りの森ジョルジ画伯がアンドレー画廊で個展。	
8－17	凶悪強盗主犯の西岡重信（53才）がサント・アンドレー市で逮捕される。	
8－19	ガイゼル大統領が日本移民70年祭の祭典委員会名誉総裁を受諾。	
8－21	福岡県人会が亀井光知事を迎えて『福岡県人発展史』の発刊記念式典。	
8－23	高橋時中（元ウジミナス役員）にミナス州の名誉州民章が贈られる。	
8－27	第13回山本喜誉司賞が下桐梅一（馬鈴薯種芋）、伊藤泰三（アバカテ）、福士堪二郎（イチゴ）に贈られ、コーヒー栽培に貢献したアルシーデス・カルバーリョ博士に感謝状が贈られる。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－27	サンパウロ市内サウーデ区の文協が会館完成と創立10周年を祝う。	
8－27	ブラジル棋院が創立30周年の記念式典。	
8－28	旧リンス学園校舎がリンス市役所からリンス日本人会に35年振りに返還される。	
9－2	第17回ラン展が文協で開催。	
9－2	サンタ・カタリーナ州のポルト・ウニオン植民地計画は資金難で破算となる。	
9－4	県から16社がブラジルに進出している愛知県の仲谷義明知事夫妻一行が、企業の活動状態を視察に来伯。	
9－5	日本航空の朝田静夫社長が『移民70年祭にあわせて日航の定期便開設』の計画を発表。	
9-5～16	第1回世界ジュニア・バレーボール大会が開催され、日本は女子チーム3位、男子チーム6位。	
9－7	第8回初期移民（団員23名、付添い8名）が訪日に出発。	
9－8	第2回極真会空手選手権大会に出席の為に大山倍達館長と俳優の千葉真一がサンパウロに到着。	
9－8	日本棋院から梶原武雄九段が来伯。	
9－10	岸信介元総理を団長とする28名の『国際人口問題、家族計画調査ミッション』が到着。尚、岸元総理は18年振りの来伯。	
9－10	文協主催の第6回国際民族舞踊祭に10ヵ国のコロニアから参加。	
9－11	作家の北杜夫が移民小説の取材の為に来伯。	
9－11	アニャンゲーラ日系クラブが本部会館の落成式。	
9－24	第8回老人週間。森口幸雄リオグランデ大学教授が老人病について講演。	
9－26	日本移民70年祭祭典委員会が正式に発足。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－26	文協主催のコロニア文学賞が清谷益次の『遠い日々のこと』と人文研刊の『香山六郎回想録』に贈られる。	
9－27	プレジデンテ・ヴェンセスラウ市と高知県安芸市との姉妹都市提携がまとまる。	
9－30	サンパウロ日伯援護協会・救済会共催『老人クラブ指導者研修会』に100名が参加。	
10－1	カンポス・ド・ジョルドン援協サナトリオで故細江静男医師の胸像除幕式。	
10－1		軍警がサンパウロ市内では1日平均30件の武装強盗事件発生と発表。
10－3	ブラジル豊和工業が資本の内国化を発表。内国株式が53％になる。	
10－6	サンパウロ新聞と水本社長に第25回菊池寛賞が決定。	
10－7	大分県の立木勝知事が118名の南米訪問団とともに来伯。9日の県人会創立25周年記念式典に参加の為。尚、8日には山口県の平井竜知事も9日の県人会創立50周年祭典に参加の為に来伯。10月には、他に栃木県の福山正道副知事、石川県の杉山栄太郎副知事もそれぞれ県人会の20年（16日）、40年創立記念祭典（23日）に参加の為に来伯。	
10－14	イタリアぶどうの臼井晋（66才）がフェラース・バスコンセーロス市の名誉市民に選ばれる。	
10－14	ボン・レチーロ球場でブラジル野球での初のナイター。サンスイが優勝。	
10－18	外務省からサンパウロ総領事館に赤軍派に警戒せよとの通達。	
10－18	リメイラ在の味の素インテルアメリカーナの工場が、河川汚染の容疑で操業停止となる。	
10－20	サロン文協が始まる。	
10－22	第23回全伯OB野球大会が開幕。	
10－23	北海道から32名のブラジル経済視察団（団長は今井道雄札幌商工会議所会頭）。	
10－25	サンパウロ日本人学校が札幌東橋小学校と姉妹校となる。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－26	通産省から経済協力貢献者として橘富士雄南銀専務が表彰される。	
10－27	サントス市内の大通りが『ナガサキ』と命名される。	
10－29	文協で全伯日本民謡コンクールが催され、250名が参加。	
11－3	日本政府、秋の叙勲でブラジルからは半田知雄（勲五等瑞宝章）他11名と発表される。	
11－4	ミラカツーの松川利昌（65歳）とウシ（55歳）の夫妻は6男10女、計16名の子供を産んで元気に育て、日系一と見られる。	
11－5	ブラジル日本人形師範会、ブラジル日本人形学院共催で文協において初の日伯人形美術展が開かれる。	
11－6	『留学生のパパイ』と慕われている宮城県鳴子町の高橋裕幸が留学生を訪ねて来伯。	
11－6	日本医師会常任理事の結城栄一医師が援協にレントゲン機器一式を寄贈。	
11－9	岩佐静男が短歌と散文の本『山伐日記』を自費出版。	
11－11	サンパウロ日本人学校（生徒数701名）が創立10周年を祝う。	
11－11	8月の有珠山噴火による被害者救済の目的で北海道人会が義援金を集める。	
11－12	日伯慈善協会（ABENIBRA）がレジストロ市で4回目の医療奉仕活動。	
11－13	日本企業の海外活動の実情把握に『海外投資活動調査団』16名が来伯。	
11－13	日伯寺の開基20周年記念と子安地蔵の開眼法要が行われる。	
11－14	ラーモス移住地のニンニク優良種『長南種』を政府農務省が全国に配布。	
11－15	事業団がカッポン・ボニートにアウリ・ベルデ直営移住地の造成を開始。	
11－15	日系のもぐり医者岩井パウロ・カズトヨが警察に逮捕される。	
11－16	鍼灸物理療法の鬼木学院の鬼木市次郎校長が鍼灸の正しい普及の為に来伯。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11-18～25	第20回全伯教職員講習会が文協講堂で開かれる。	
11－20	西本願寺会館の竣工式。	
11－22	オールデン・ドス・ムジコスから福田芳為に最優秀音楽教師賞が贈られる。	
11－29	強盗の日系主犯・杉山パウロ四郎（23歳）が他の２人とともに逮捕される。	
11－	短歌誌『椰子樹』が150号を発行。	
12－		インフレは前年を少し下回り40％強に止まったが、経済成長率は4.6％に落ち、中でも工業分野が3.9％と低かった。外債は300億ドルを上回る。
2－3	刊行物　★河井美津子、日本で翻訳『母なる奥地』を出版。 ★ハーンドン著、泉靖一訳『アマゾン探検記』河出書房新社。 ★角田房子『約束の大地』新潮社。 ★増田義郎編『ラテンアメリカのナショナリズム』アジア経済研究所。 ★特派員グループ『ブラジルの解剖－動き出した巨像』サイマル出版会。	
6－3～4	スポーツ・イビラプエラ体育館で国際体操祭りが開催され、日本から塚原光男、加藤沢男、広中ミユキ３選手が出場。	
6－18	・パウリスタ陸上選手権大会で、中矢勝彦選手が200メートルに21秒0のサンパウロ州新記録を樹立。	
9－15	・青森国体に参加する選手団が出発。尚、中矢勝彦選手は成人B200メートルで優勝。	
	死　亡　・1/10　朝枝栄登（73歳）。元リオグランデ・ド・スール文協会長。 ・1/18　橋詰太一郎（71歳）。カエテ葡萄酒造社長。 ・3/21　宮坂国人（87歳）。南銀名誉頭取、文協名誉会長。（1889～） ・5/3　谷垣正巳（71歳）。野球、庭球普及の功労者。 ・6/11　高橋吉左衛門。画家。 ・8/3　藤原絹子（50歳）。ブラジル生け花協会会長。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1978（昭和53） 1－4	バンデイランテス司法判事は松原綿花の和議申請を承認。	
1－9	事業団がアウリベルデ移住地の土地分譲を開始。	
1－10	故山本喜誉司の遺族が、先に日本政府から贈られた勲三等旭日章など全ての勲章、勲記を移民史料館に寄附。理由は『山本個人が得たものでなく、コロニアが得たものである、史料館に置くのが適当』というもの。	
1－12	歌手の橋幸夫が来伯し、サンパウロで２日間の公演を行う。	
1－12	日本移民史料館に東郷青児画伯が壁画を寄贈する申し出に対し、コロニア画家に反対署名運動があり、署名は100名を超える。	
1－12	日伯文化普及会とブラジル日本語普及会が合同して日本語名称を「日伯文化連盟」と改称。	
1－28	ブラジルから日本の名古屋の明治村に移民資料47点が贈られる。	
1－	トメアスーに十字路病院が完成。	
2－1	南銀が預金総額51億クルゼイロを超え、国内民間銀行のベスト10に含まれる。	
2－2	三木武夫前首相の睦子夫人を団長とする、国際婦人問題研究の『むつみ会』一行の15人がサンパウロに到着。	
2－3	フェラース・デ・バスコンセーロスの井口吉三郎（70歳）が、個人で老人ホームを建設。	
2－4	移民70年祭のシンボル・マークが決定。太田英夫のデザイン。	
2－9	日本の千葉三郎元代議士（国際食飼料開発協会会長）がマンジオカ芋からアルコールを作る計画をパウリネリ農相に進言。予定地はアマパー政府直轄領とされる。	
2－10	『希望の家』に日本政府の助成金150万円が決定。	
2－10	東郷青児画伯が移民史料館の壁画制作下見のために来伯。尚、東郷青児にはサンパウロ市議会からアンシェッタ章と感謝状が贈られる。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
2－13	若手画家らの代表6名が東郷画伯壁画反対の署名を中沢会長に手交。	
2－15	全国喫茶店同業者組合からコーヒー事情の調査団が来伯。	
2－16	味の素工場廃液のジャグワリー川汚染で、アメリカーナ地方検事が重役2名、工場支配人、技術担当者を告訴。	
2－19	汎スザノ文協の総合スポーツ・センター第一期工事が完了。	
2－20	富士銀行の松沢卓二頭取がブラジル経済視察の為に来訪。	
2－20	日本船舶振興会（笹川良一会長）から援協に1億円の資金協力が行われる。	
2－23	ジョゼー・ヤマシロの『日本、その過去と現在』（ポ語）が出版される。	
3－2	浅井澄（元産組中央会の畜産部長）がブラジルの獣医免許を取得。	
3－4	文協で春のラン展。	
3－6	只野正雄マット・グロッソ州農務長官が日本外務省の招待で訪日。	
3－	ボーイ・スカウト・カラムルー隊創立25周年記念。	
3－6	みずほ村創立30年祭。これに平野総領事夫人他6人の領事夫人達が出席。	
3－7	本省の勧告でサンパウロ総領事館が防弾ガラスなどをはじめ防禦設備を施す。	
3－10	日語普及会が臨時総会で正式に解散し、日伯文化連盟（アリアンサ）に合併することを承認。	
3-11～13	第3回全伯老人クラブ大会に、全国から1200名の代表が集まる。	
3－18	岩手県人会は前年から内紛が大きくなり、日系政治家達が仲裁に入ったものの今年の定期総会でも収拾つかず。	
3－19	パウリスタ児童療護会の新理事長に6期務めた木原暢医師に代わって、峰定実（マウアー組合理事長）が選ばれる。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－19	77年12月に全焼したパラナ州ロンドリーナ市の誉学園が関係者の努力で短期間に再建される。	
3－20	上野アントニオ下議が大統領に臣道連盟生き残り約80名の日本人の特赦を要請。彼らは当時、定期的に保安局に出頭が義務付けられていたが元来は平和な市民であり、それに既に高齢となっている為。	
3－30	やすらぎホームが入園者の運動と実益をかねて薬草栽培を開始。	
4－1	日本の万博協会から移民史料館に2000万円の補助が決定。	
4－4	野村證券の瀬川美能留会長が来伯し、ブラジル政府とセラード開発研究について話し合う。	
4－7	コロニア文学会が『コロニア文学』32号の発行を最後に活動を停止。	
4－7	笠戸丸の模型が完成し、明治村から移民史料館に贈られる。	
4－12	国際協力事業団（JICA）の中南米支部長会議が文協で開催される。	
4－15	希望の家がイタカケセツーバ市の新寮棟の棟上げ式を行う。	
4－15	日本青年団協議会の後援により、ユバ・バレー団が東京の日本都市センターで公演し、あと5月7日まで日本各地で公演。	
4-20～23	森進一、園まりがサンパウロで公演、また憩の園、希望の家を見舞う。	
4－24	移民史料館の壁画制作中の東郷青児画伯が熊本で死亡し、壁画の完成が心配される。	
4－25	サンパウロ市内のフェイラ（青空市）でパステス（食品）販売が禁止されていたのが解禁となった。その大多数（約800軒）は日系人。	
4－29	日本移民70周年記念叙勲者107名の氏名が発表される。	
4－29	県連（都道府県人会連合会）総会で藤井卓治（岡山）が新会長となり、和田周一郎前会長は名誉会長となる。又笹川良一を開拓先没者慰霊碑保存委員会の名誉会長に推戴。	
4－30	徳島県人会創立20周年には、武市恭信知事他母県からの参加も多数。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－2	移民70周年の特別叙勲者が多く、稲村国務大臣が来伯し、日系人で対象となった58人に文協において勲章伝達式が行われる。	
5－4	ブラジル・トヨタ協力による読売新聞石橋記者ら7人のアマゾン探検隊着伯。	
5－7	エスペランサ婦人会がバザーを行う。	
5－7	アルモニア学生寮が設立25周年を祝い、各界に活躍する元寮生が集まり、二木秀人寮長にマレシャル・ロンドン章が贈られる。	
5－13	内紛の岩手県人会が新会長に吉田栄を選出して紛争は収拾方向に向かう。	
5－16	ブラジリアの下院に於いて日本移民シンポジウムが開催される。	
5－16	移民史料を求めて芥川賞作家の大城立裕が来伯。	
5－19	藤井素介にサンパウロ名誉市民権が贈られる。	
5－21	憩の園が創立20年を迎えて記念式典とバザーを行う。	
5－23	橋富士雄専務が南銀の新社長に就任。	
5－26	サントリーの佐治敬三社長が来伯し、援協に救急車1台を寄附。	
5－31	ブラジル・バレーボール協会は日本から全日本女子チームを招いて親善試合を行ったが、その純益を70年祭典委員会に寄附。	
6－2	サンパウロ市第5警察署長に日系の中村登が就任。	
6－4	ジャクト農機が創立30周年を祝う。	
6－7	『日本移民70年・祝典序曲』の作曲を完成した服部公一が、中沢源一郎祭典委員長に贈呈。	
6－8～10	毎日新聞主催の『日伯新時代と国際交流』シンポジウム。	
6－11	裏千家ブラジル支部が文協ビル内に茶室を完成披露。	
6－12～13	第5回海外日系新聞協会年次総会がサンパウロで行われる。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－15	滝内正都城市長が来訪してブラジル（フェラース・デ・バスコンセーロス市）にいる父親、官吾と65年振りに対面。	
6－16	皇太子御夫妻（現天皇、皇后陛下）がブラジリアに到着。ブラジル移民70年祭にあわせ、パラグワイとブラジルを訪問されたもの。	
6－18	皇太子御夫妻、ガイゼル大統領を迎えて日本移民史料館の落成式が行われる。	
6－18	日本移民70年祭記念式典は、パカエンブー競技場に８万の日系人を集め、皇太子御夫妻、ガイゼル大統領夫妻等を迎えて挙行される。なお、皇太子御夫妻はこの後、北パラナ、サルバドール、ベレン、マナウスを回り、25日にマナウスから帰日の途につかれる。	
6－18	サンパウロ東洋街のラルゴ・ダ・ポルボラに日本庭園が完成し、上塚周平の銅像が建てられる。	
6－20	日航のサンパウロ・東京定期便が始まる。	
6－22	ブラジリアでリオ・ドーセ社と日本のアルミ・メーカ・グループの間で『アルブラス』社設立の協定調印が行われる。	
6-24～25	本派本願寺主催の第６回世界仏教婦人大会が開催、世界からの出席者3500名。	
7－3	パラグワイから日系の看護婦３名が研修の為にサンパウロに。	
7－7	ベレン沖合いで日本漁船３艘が領海侵入でブラジル海軍に拿捕される。	
7－12	日本から少年剣士まで含めた36名の剣道使節団（団長は森下泰仁丹社長）が来訪。	
7－13	池坊展示会の為に池坊専永家元夫妻他70名の使節団が来訪。	
7－19	大分県から初めてのブラジル農業研修生が到着。	
7－20	全伯相撲選手権大会に参加の為に、日本から14名の高校相撲選手団が到着。	
7－20	明治大学野球部一行35名が到着し各地で親善試合を行う。	
7－20	サンパウロ総領事館は12名の日本語教育功労者を表彰。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－20	文藝春秋社と日航が共催の『文化講演』が文協講堂で行われる。講師は曽野綾子、水上勉。	
7－	『インナートリップ文化講演会』の講師として久保継成霊友会長、安西愛子議員、細川護熙議員などが来伯。	
7－23	イタカケセツーバ市（聖市近郊）に希望の家が完成。	
7－23	埼玉県人会の創立20年、岐阜県人会の創立40周年に、それぞれの県知事夫妻が参加。	
7－24	岐阜県から農業高校生８名がブラジルの農業研修に到着。	
7－30	保利茂衆議員議長を団長とする各政党代表からなる国会の移民70周年慶祝使節団が到着。	
8－1	滋賀県から第２回農業研修生26名が到着。	
8－3	第14回山本喜誉司賞は日野薫（サボテン）、柳瀬三千年（ワタ）、五十嵐正雄（コーヒー）、伊藤元治（種鶏）に決定。	
8－3	平林鴻三鳥取県知事が県人慰問に来伯。	
8－4	参議院の政治経済事業調査団として菅野儀作、最上進、村田秀三の３参議が来訪。	
8－5	日本書道美術館から55名の書道使節が来訪。	
8－7	全中（全国農業協同組合中央会）から落合幸文理事等が「新コチア青年」の打合わせに来訪。只、予想外に希望者が居ない。	
8－7	日本棋院の招待でミゲル・グスターボ・フルセル初段が訪日。	
8－8	パウリスタ・フットボール協会の招聘で清水市サッカー・チーム40名が到着し、各地で親善試合を行う。	
8－9	アルゼンチンからブラジルの花卉園芸視察に日系農家36名が来訪。	
8－10	文協貴賓室において愛野興一郎政務次官により、移民70年祭記念外務大臣表彰による木杯授与が行われる。なお、サンパウロ総領事館によればその総数2233名である。	
8－10	サンパウロ市主催の第３回移民オリンピックには37ヵ国のコロニアが参加。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－17	明治大学野球チームの島岡吉郎監督が東京新聞にサンパウロ球連、西会長を誹謗する発言を行い、サンパウロ球連が激昂。	
8－18	日本学生移住連盟が児童図書1万5千冊を寄贈、配布。	
8－22	建設大学校中央訓練所長の長沢亮太が来伯。	
8－23	国際協力事業団の創立記念日に海外では初めて原本広が表彰される。	
8－29	静岡県議会南米訪問団16名がサンパウロ州議会を訪問し、将来の提携を約束。	
9－3	ブラジル鹿児島県人会は鎌田要人知事夫妻を迎え創立65周年を祝う。	
9－5	聖市内イタケーラ地区の21の日系団体は77年以来、桜植樹の委員会をつくってカルモ公園内に桜の苗を植えて来ていたが、600本に達したので吉田大使、セツバル・サンパウロ市長等を迎え、桜庭園の完成式と記念碑除幕式を行う。	
9－9	桜内義雄建設大臣を迎えて南米開発青年隊協会大会が開かれる。	
9－10	サンパウロに錦鯉愛好会が発足。	
9－11	日本からソロバン使節が来訪。	
9－12	島根県人会が県人会として初めて老人の無料健康診断を開始。	
9－17	チャリティショーのために田端義夫が来訪。	
9－19	中沢委員長等、移民70年祭の役員がガイゼル大統領を訪問して協力に感謝。	
9－19	ヒロシマ・ナガサキの原爆写真展がはじまる。	
9－23	老人週間に日本の全国老人クラブ連合会の磯村光男事務局長が講演を行う。	
9－24	赤間学院が法人改組20周年を祝う。	
10－1	州知事も出席して北パラナ運動連盟が創立30周年を祝う。	
10－2	リベルダーデ商工会が同名広場で朝のラジオ体操を始める。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－3	日本画家後藤和信の日本画展『美しい日本』が文協で。	
10－5	アリアンサ（日伯文化連盟）主催の全伯児童絵画展がビエンナール館で開かれる。	
10－8	富山県人会に内紛が続き、役員を一新して光岡伝一郎を新会長とする。	
10－11	藤井素介（ブラジル三菱銀行相談役、アリアンサ副会長）夫妻が日本に帰国。	
10－11	カメラのヤシカが正式に進出。	
10-12～13	サンパウロ人文科学研究所主催の移民70年祭記念『ブラジル社会における日系人の適応と社会参加』シンポジウムがサンパウロ大学日本文化研究所で開催される。	
10－13	日伯民謡文化交流協会、フジオ企画、サンパウロ新聞共催の『民謡の祭典』が文協で行われる。尚、この祭典はモジ、ロンドリーナ、マリンガーでも催される。	
10－15	第33回長野国体にコロニア選手団も参加。	
10－15	福島県浪江町から石井潔町長等が親善使節として来訪。	
10－19	第7回サロン文協が開幕、最優秀賞に小原久男。	
10－21	愛知県がサンパウロ市に商工斡旋所を開設。	
10－21	全国に55支部、3600会員の沖縄県人会が沖縄会館を完成させ、郷里から屋部博副知事、市町村長団、沖縄歌舞伎の一座を迎え、あわせて県人会創立25周年を祝う。	
10－22	岩手県人会が杉山副知事を迎えて創立20周年を祝う。	
10－29	サンパウロ相撲愛好会が聖市内モッカ地区のスポーツセンター内に常設土俵を完成。	
11－1	リオ市で第5回世界学生柔道選手権大会が開催。	
11－3	日本の秋の叙勲でブラジル関係は勲三等の藤井素介他11名と発表される。	
11－4	サンパウロ市立劇場で宝塚歌劇団が公演。	
11－5	東京都議団がサンパウロの公害視察に来訪。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－7	三重県は田川亮三知事夫妻他142名の使節団を送り、バンデイランテス宮でサンパウロ州＝三重県の姉妹提携５周年を祝う。	
11－7	歌手のディック・ミネ、並木路子、美山まり子、作曲家の猪又公章が来訪。	
11－7	読売新聞がリオに特派員事務所を開設。	
11－9	セラード開発を推進する日伯合弁資本の農業開発会社CPAの基本協定調印がミナス州ベロオリゾンテ市において行われ、日本からは久宗国際協力事業団副総裁が出席。	
11－11	日本航空は４月から週１回のサンパウロ定期便を始めたが、その南米線就航を祝った招待飛行で土光敏夫経団連会長や朝田静夫日航社長等50名が来伯。尚、朝田社長は13日にサンパウロ市議会から名誉市民権を贈られる。	
11－11	南米産業開発青年隊の実習生８名が来訪。	
11－12	国際女子研修センターの小南みよ子理事長が事業団派遣で来伯。	
11－15	静岡から山本敬三郎知事、堀江静雄県会議長らが来訪し、静岡県議会はサンパウロ州議会と友好親善の宣言を調印。	
11－15		連邦議員、州議員の統一選挙が行われる。
11－16	東芝野球チームが来伯し、各地で親善試合を行う。	
11－21	国際協力事業団が日文連と日学連に教材を寄贈。	
11－	今回の選挙で日系からは下院議員に羽藤マリオ、野村ジョーゴ、森本アントニオ（以上はサンパウロ州）、上野アントニオ（パラナ州）、州議員には森永セルジオ（サンパウロ州）、仲里オジロン（南マット・グロッソ州）が当選。	
11－22	サンパウロ州警察本部に『友情の庭』と呼ばれる日本庭園が完成。	
11－22	武蔵大学社会学研究室の横山定雄教授が移民の心理研究のために来伯。	
11－23	山口県徳山市から山口県人会に古代の『大賀ハス』の種子が送られる。	
11－25	モジ市のコクエーラ地区で第８回桃祭りと第４回養鶏祭りが行われる。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
12－4	サッカー親善試合の為、サンパウロ州が25名の青年チームを日本に派遣。	
12－6	ブラジル女子バレーボールの新人村沢ルイザ（18歳）が日本からスカウトされる。	
12－7	秦野学校出身者の活動状態の追跡調査に、細屋良雄教師が来伯。	
12－8	東京でブラジル移住70年の記念シンポジウムが開かれる。	
12－9	今年の東洋まつりには青森県の『ねぶた』が参加して華麗なパレード。尚、この準備に青森からは9名の先発隊が11月22日から来て準備。	
12－9	フロンティア協会が中心となって『ふるさとの詩・日本の四季』の写真展が文協で行われる。	
12－19	アルモニア学生寮で寮費値上げに学生達が反対行動。	
12－21	パラナ州クリチーバ市の学生会では今年はアサイ方面に医療奉仕、農事指導の為に140名の学生が参加。	
12－22	南マット・グロッソ州ドラードス市の農場主只野文児が強盗に殺害される。	
12－24	移住留守家族連合会から近親慰問団141名が到着。	
12－26	リオの教師、園尾ローザが『ブラジル人のための日本語会話入門』を出版。	
12－		ガイゼル大統領の任期の最後の年は、インフレも経済成長率も前年並だったが、ただ天候不順の為に農業はマイナス成長を記録している。政府財政が大きく破綻し、対外債務は300億ドルを大きく上回った。
8－23 －－－	刊行物　★中村東民編『ブラジル日本相撲史』がパウリスタ情報社より発刊。 ★汎アラサツーバ日本人会編『アラサツーバ五十年史』。 ★佐藤常蔵著『ブラジル歴史の旅』サンパウロ宮本書店。 ★斉藤広志・中川文雄著『ラテンアメリカ現代史Ⅰ総説ブラジル』山川出版社。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	★斉藤広志、駒井洋、中川文雄著『ブラジル社会と日本人』日本国際問題研究所。 ★熱帯農業研究センター『ブラジルの果実』農林統計協会。 ★斉藤広志著『外国人になった日本人－ブラジル移民の生き方変り方』サイマル出版会。 ★開高健・高橋昇著『オーパ！』集英社。	
	死亡　・1/2　江見清鷹（81歳）。元新聞記者。 ・3/10　栗津幾太郎（80歳）。インテブラ時計工業創立者、援協など多くの福祉団体役員。 ・4/16　辻本昇（70歳）。土木技師、元ブラジル仏教徒協議会会長。 ・8/11　高岡由也（70歳）画家。 ・〃　成松広（73歳）。サンパウロ第6警察署長。 ・〃　岩下与一（58歳）。カストロ市の農業草分け（カストロ名誉市民）。 ・10/6　吉田寛敏ロベルト（67歳）アルビオン金属社長、アニャンゲーラ・クラブ初代会長。 ・〃　上塚司（88歳）。アマゾン高拓移民の創始者（東京の自宅で）。 ・-/-　峯定美（64歳）。マウアー組合理事長、日系陸上スポーツの功労者。	
1979（昭和54） 1－1		米中が国交を樹立。
1－3	徳山市から贈られた古代ハス『大賀ハス』の種子がみずほ村、松本竜一の丹精で発芽。	
1－5	アルモニア学生寮値上げ紛争が寮生OBの斡旋で解決。	
1－8	援協診療所が夜間診療を始める。	
1－10	山本勝造（サドキン社長）、榛葉隆一（ブラジル東銀常務）の2人が通産大臣表彰を受ける。	
1－11	閣議で外務省に中南米局の新設が決定。	
1－14	福岡から2ヵ月の農業実習生10名が来伯。	
1－16	サンパウロ市役所が移民史料館に20万クルゼイロを寄贈。	
1－17	歌手の春日八郎が来訪。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－18	高知県からママさんバレーボール・チームが到着。各地で日系女子チームと親善試合を行う。	
1－22	サンビセンテ市（伊波興祐市長）では新設の市立幼稚園に姉妹都市の名前を付け『那覇幼稚園』と命名し、那覇市からはそこに児童画を贈る。	
1－22	太宰治『斜陽』が野尻アントニオによってポ語に翻訳、出版される。	
1－24	日伯語の公証翻訳人試験に日系から154人が参加し、19人がパス。	
1－26	ガイゼル大統領がミナスのコチア組合サンゴタルド開拓地（セラード農業開発のさきがけ）を視察。	
1－30	国際協力事業団（JICA）が援協に地方巡回診療車を寄贈。	
1－31	千葉県袖ヶ浦町とサンタ・カタリーナ州イタジャイー市の姉妹都市提携。	
2－3	コロニア文学会編『コロニア小説選集第三巻』が完成。	
2－4	日系3世の女性映画監督山崎チズカが映画『ガイジン』の制作を決定。日本から河原崎長一郎、塚本恭子が出演。	
2－9	移民史料館の資料室が完成。	
2－11	モジ文化体育農事協会が新しい会館の落成式を行う。	
2－11	新潟県人会が会館を新築。	
2－13	コロニア芸能祭に『日本舞踊は4団体だけ』と文協が発表し、これに日本舞踊団体が反発し、一月以上にわたって紛争。	
2－17	ブラジル天理教がサンパウロ市内に学術書2万3千冊の天理文庫を完成。	
2－17	クリチーバ日伯文化援護協会が、会館を兼ねた学生寮を完成させた。	
2－21	サンパウロのリベルダーデ・ロータリー・クラブが神奈川県南湯河原ロータリー・クラブと姉妹提携。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
2－	サンタ・カタリーナで6年に渡ってリンゴ栽培を指導して帰国した後沢憲志博士が、長野県果樹調査団とともに来伯。	
3－3	秋のラン展。	
3－5	15日に成立する新政権に、横田パウロはINCRA（国立植民・農地改革院）総裁に、池田アキヒロは農相補佐官と決定。	
3－9	パウリネリ農相がセラード開発に日系農家の協力を呼びかける。	
3－10	ピニャール植民地内の公立小学校が老朽化したのを、事業団（JICA）の資金で新築。	
3－12	映画『ガイジン』出演の塚本恭子が到着。	
3－13	ブラジリアでのフィゲレード大統領就任式に日本政府の特使三木武夫元首相夫妻らが来伯。	
3－15		ジョン・バチスタ・フィゲレード大統領が就任、同日に全国の新知事も就任しサンパウロ州はパウロ・サリン・マルフ知事となる。
3－15		軍政下で労組は行動を制限されていたが、あいつづく経済困難からサンパウロABC地区の金属労組が15日にわたるストに突入。27日に職場復帰したが、軍政の弱体化が見えて来る。
3－17	サンパウロ州サレゾポリス市が岐阜県小坂町と姉妹都市提携。	
3－18	裏千家ブラジル支部はピニェイロス・スポーツクラブで、ブラジル人対象の『見る茶の湯』のデモンストレーションを行う。	
4－1	サンパウロ人文科学研究所が『下元健吉－人と足跡』を刊行。	
4－4	援協の役員会で竹中正会長を3選、また厚生ホーム改築を決定。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－6	歌手の三橋美智也がブラジル公演に来訪。	
4－7	文協の第6代会長に相場真一を選出。	
4－9	三豊精密機器製作所の沼田恵範会長が仏教典をポ語訳し、ブラジル・ホテル協会に寄贈。これでホテルの部屋に聖書とともに仏教典が常置されるようになる。	
4－9	エコー児童合唱団が79年度の芸術評論家協会賞を受ける。	
4－11	アメリカ・ラチーナ保険が新社屋落成式。	
4－16	日本外務省が、愛知県で発生した保険金目的の連続殺人事件の犯人長崎正恭と小谷直樹は南米に逃亡したと発表。サンパウロ警察の調査で彼らがサンパウロ市内の日本人ホテルを転々としていたことがわかり、23日からDOPS（政治・社会警察）が公開捜査に踏み切る。	
4－18	松竹映画の篠田正浩監督が映画『夜叉ヶ池』のためにイグワスー・ロケを行う。	
4－18	ロンドリーナに学生寮は出来たが、希望者が少なくて問題となる。	
4－19	パイロット・ペンがブラジル進出25周年記念にコロニア福祉団体に寄附。	
4－29	春の叙勲でブラジル関係は勲三等旭日章の中沢源一郎等5名が発表される。	
4－	パラグワイとの国境の町ポンタ・ポランに、大本教南米支部長の佐野武が本格的茶室『万葉居』を落成させる。	
4－		進展するインフレに政府はスーパー店の物価の60日間凍結を決定。
5－1	角田房子「アマゾンの歌」のドラマ作成のため、仲代達矢、田中邦衛等俳優24名、スタッフ17名がトメアスーに於いて1ヵ月の現地ロケを行う。	
5－2	保険金連続殺人の犯人長崎と小谷の2人は、辺境のパラー州コンセイソン・ド・アラグワイアに潜伏中をサンパウロDOPS捜査員に発見されて自殺。尚、ベレンの法医院では自殺でないと判定。	
5－5	加古川から姉妹都市マリンガーに4名の親善使節。	
5－6	PL教団が南米教祖祭を開催。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－12	パルゼア・アレグレ植民地が入植20周年を祝う。	
5－15	スザノで18歳の2世の娘が両親を射殺し、弟に重傷を負わせる事件が発生。	
5－16	東京で第20回海外日系人大会が開かれる。	
5－18	駐ブラジル大使に大口信夫元サンパウロ総領事が決定。	
5－19	イタケーラで花・展示会が開かれる。	
5－21	公認翻訳人試験に水本エミら19名が合格。	
5-25～6/10	日伯親善児童画展がサンパウロ市議事堂で開催。	
5－27	広島県人会、香川県人会は創立25周年、また群馬県人会は会館落成に、それぞれ母県から知事夫妻を迎えて式典を行う。	
5－30	日本政府の資金協力によるセラード開発に参加するために、日系コロニアはセラード農産出資株式会社（山本勝造社長）を設立。	
6－1	生長の家の松田己代志ラテン・アメリカ教化総長にサンパウロ名誉市民権。	
6－2	東洋街の七夕まつりが盛大に催され、これには宮城県の山本壮一郎知事夫妻も参加。なお翌3日には宮城県人会創立25周年を祝う。	
6－5	国際協力事業団の法眼晋作総裁が来伯。	
6－5	パラナ州食料配給局長に大城義明が就任。	
6－7	川田礼子姉妹の沖縄舞踊団が来伯し、サンパウロでは9日に公演。	
6－10	社会復帰成人寮も完成した『子供の園』が創立20周年を祝う。	
6－14	予定されていた外務省中南米局新設が、国会の異常幕切れで見送りとなる。	
6－18	日本移民の日にオラボ・セツバル市長が日本移民史料館を見学。	
6－18	総領事館が日本語教師9名を表彰。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6 -23～24	第14回コロニア芸能祭が超満員の入り。	
6－28	ブラジル人力士伯山桃太郎が幕下50枚目に昇進。	OPECが原油価格大幅値上げ。第2次石油ショック。
6－30	サンパウロ州最大のカランジルー刑務所に現在日系の囚人は56名と発表される。	
7－2	山崎昇参議（北海道）が、両親の墓参にはるばるマリリアを訪れ、兄弟達とも初めて会見。	
7－4	6月にSUNAB（食料配給監督局）がフェーラの果樹・野菜の目方の計り売りを指示したが業者が猛反対して、政府もそれを了承。	
7－4	三宅正一衆議院副議長を団長とする国会議員9名の南米政治・経済視察団が来訪。	
7－6	6月1日の大霜で膨大な被害を受けたモジ方面の農家が、窮状打開を検討するため農務省から高官を招いて大会を開く。	
7－7～8	カンポスの沖縄桜が満開で『桜祭り』に約2000名が詰め掛ける。	
7－9	一人芝居『土佐源氏』の出演者坂本長利一行4名がサンパウロに到着。	
7－10	総領事館に『爆弾』のいたずら電話が有り、協栄ビルでは総退避を行う。	
7－11	ブラデスコ財団がソロバン教室を開く。	
7－13	バストスで入植51周年記念祭が始まる。	
7－17	駐ブラジルの大口信夫大使が着任。	
7 -22～23	全伯相撲大会。これには日本から伊勢ヶ濱親方、また高知県の7名の選手も参加。	
7－23	国際交流基金が4名の柔道使節を送り、各方面でデモンストレーションや指導を行う。	
7－28	25名の滋賀県の農業青年ブラジル研修団が到着。	
7－29	全伯珠算選手権大会が開かれる。	
8－1	生け花竹風会の太田竹風理事長等が生け花普及に来伯。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－3	裏千家ブラジル支部が青年部を発足させる。	
8－4	日本から子供達９名の珠算の親善使節が到着。	
8－11	沖縄文化センター内に沖縄資料館が完成し、西銘順治知事一行を迎えて落成式を行う。同行していた平良那覇市長は姉妹都市のサン・ヴィセンテ市役所を訪問して交流を深めた。	
8－11	第15回山本喜誉司賞は吉岡 省（モモ）、小川真一（ゴヤバ）、広岡 優（ブドウ）のほか、特別賞がオルランド・リジターノ博士に贈られる。	
8－12	北海道協会40周年、道人のブラジル移住60年の記念祭に、三上顕一郎副知事、民謡使節などが参加。	
8－14	北海道使節団に、戦前コロニア陸上スポーツを指導した南部忠平が同行しており、アテアピスタ会、ベテラーノ会が歓迎会を行う。	
8－15	援協が高齢者の無料健康診断を決定。	
8－16	第２回日伯閣僚会議がブラジリアで開かれ、日本からは園田直外相、江崎真澄通産相、森山欽司運輸相、渡辺美智雄農林水産相が参加。尚、閣僚会議の前後を利用し、渡辺農相はセラード開発の現場、アマゾン方面を視察し、また、江崎通産相は子供の園と愛知県のひかり学園（通産相が学園長）の姉妹提携の調印を行った。	
8－19		リマにおいてペルーの日本移民80周年記念式典が行われる。
8－21	19日にリーマでペルー日本移民80周年記念式典が催されたが、鹿児島の山口秀治副知事や山口の松永常一副知事などと、それに参加した人達の多くが帰途にブラジルも訪問。	
8－22	エスペランサ婦人会が創立30年の記念祝典。	
8－22	醍醐麻沙夫が小説集『森の夢』を出版。	
8－25	岡山県人会が創立25周年に会館を建て、母県からは池田隆政夫妻（夫人は厚子内親王）や備中神楽のグループが参加。	
8－26	ポアで花卉展。	
8－31	日本の蘭愛好者達が20名の団体でブラジル蘭の視察に来伯。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－1	第21回ラン展が文化センターで開催。	
9－2	第31回全伯短歌大会。	
9－2	生長の家グループがサンパウロ州議会前で平和祈願。	
9－2	モジのコクエーラ地区で入植60年祭。	
9－5	大阪大学伊藤利根太郎教授が救ライ事業のウマニタス慈善協会（佐々木治夫神父主宰）に協力の為来伯。	
9－7	独立記念日のサンパウロ市のパレードに、国際民族舞踊の一つとして日系チームは200名で七夕踊りを紹介。	
9－10	ブラジル商工会議所内に中小企業委員会が設置される。	
9－10	サンパウロ大学日本文化研究所で茶道を正課目に採用する。	
9－12	ブラガンサの和田登志男、サンパウロの赤嶺マリオが伊勢ヶ濱部屋に入門が決まる。	
9－13	日本女子バレーボール選手団が到着、各地でブラジル・チームと親善試合を行う。	
9－14	兵庫県の招待でクリチーバから訪日使節団が出発。	
9－14	移民は激減傾向で、今年の上半期の入国数は44名だけと事業団（JICA）が発表。	
9－16	モジ郊外カッペーラ地区で入植50年祭が挙行される。	
9－18	日本の陸連が女子国際マラソンにブラジルのエリアーナ・デ・メンドンサを招聘。	
9－21	援協、救済会、老ク連共催の老人週間に日本老年社会科学会の村田松男評議員、事業団の鳥井雅晴職員、盲人エレクトーン奏者大島彰などが参加。尚、大島はさらにサンパウロの盲人教育機関といろいろ交流した。	
9－22	バンデイランテス杯陸上大会で中矢勝彦選手は100メートル10秒1の大会新記録、南米タイ記録を樹立。	
9－24	スザノ近郊のキンタ敷島植民地は会員が減少して日本人会を解散、剰余金を福祉団体に寄附。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－24	ホリプロの堀威夫社長が歌手の卵を求めて来訪。	
9－25	移民史料館が『家宝展』を行う。	
9－25	インフレが昂進し始め、日系人の間には安易な資金調達方法として『頼母子』が流行して来た。	
10－1	高知県須崎市がパラー州カスタニャールと姉妹都市となる。	
―――	東京水産大学の練習船「耕洋丸」がブラジル政府の要請でアマゾン河口の漁業調査を行う。	
10－3	文協が日本民芸品、絵画の競売会を開催。	
10－5	ブラタク製糸の天野賢治社長が旅行中に東京で死亡。	
10－6	50年代に日系社会を騒がせた偽宮の加藤拓治が日本から来訪。	
10－14	玉川大学の岡田文学部長ら4名の海外日語教育調査団が到着。	
10－17	南伯組合中央会が創立50周年記念祭をアニェンビー国際会議場で挙行。	
10－28	青森県人会の会館落成式典に北村正哉知事一行が参加。尚、知事一行はその後姉妹提携関係のサンタ・カタリーナ州知事を訪問。	
10－31	2世女性の加藤シェルマが南マット・グロッソ州控訴審裁判所の判事に就任。	
11－1	東京農大がサンパウロに会館を開設。	
11－2	ポルト・アレグレ市に南伯日系コロニア援護協会の診療所が完成。	
11－3	日本政府が秋の叙勲を発表。ブラジル関係は勲五等瑞宝章の永田泰三、小松盛孝ら10名。	
11－4	アマゾン流域の日本移民50周年記念式典がベレン（5日）、マナウス（11日）で挙行され、日本から日伯中央協会の田付景一理事長を団長として約200名の慶祝使節団が来訪。団長は千葉三郎だったが、来訪途中のメキシコで病死。	
11－5	アマゾン日本移民50周年祭典に参加した千葉県川上紀一知事、鎌形俊夫県会議長等とパ	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	ラー州政府との間に友好関係が締結される。	
11－7	トロンバ（ひったくり、窃盗）の跳梁が甚だしい為、リベルダーデ商工会ではサンパウロ州保安局に善処方を要望。	
11－8	富山市がモジ市長等6名を迎えてモジと姉妹都市関係を締結。	
11－8	柳家小せん、三遊亭歌乃、松鶴家千とせ、笹一平、八平達による日航名人会が文協講堂で行われ1200名が参集。	
11－8	全日本大学軟式野球チームが到着。約2週間に渡り各地を回って親善試合を重ねる。	
11－9	日本武道のデモンストレーションの為に、国士館大学の柴田梵夫総長を団長とする36名の使節団が来訪。	
11－10	開拓先没者慰霊碑の前で、初めての県連主催慰霊祭挙行。	
11－11	ABC文化協会、創立25周年に合わせて会館落成の式典を行う。	
11－12	会長の茅誠司（元東大学長）夫妻を始めとする東京沖縄協会一行が来伯。	
11－14	公演の為に畠山みどりが来訪。	
11－15	長野県人会が吉村副知事、金井県会議長等を迎えて創立20周年を祝う。	
―――	パラー州サンタ・イザベルでは胡椒園の跡に油ヤシの栽培を始める。	
11－15	サンベルナルド・ド・カンポで日伯商工展開催。	
11－17	第1アリアンサ移住地入植55周年を祝う。	
11－27		ボリビアに日系女性の大臣が誕生。 大原エルバ厚生相（50歳）で、日系2人目の大臣。女性では最初。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－28	文協が初めて日系４名の研究者に学術研究費補助２万クルゼイロずつを助成。	
12－5	琉球大学から沖縄移民調査団が到着。	
12－6	ブラジリアで開催されていた中南米大使会議終了。	
12－7	岡山県も農業実習生制度を開始し、第１回生が到着。	
12－15	秦野会の父兄30名が到着。なお、ブラジルの秦野会グループは、昔お世話になったお礼にと、秦野訓練所で炊事係をしていた相原ミヨを一緒にブラジルに招いた。	
12－20	イッペー合同学園から８名の訪日団が出発。日本では山梨県の増穂中学と姉妹提携。なお、同日に松伯学園の13名の訪日団も出発。	
12－21	外務省中南米局が、大鷹正初代局長で発足。	
12－23	コチア青年連絡協議会が152名からなる第１回の『コチア青年二世訪日団』を送る。	
12－24	ロンドリーナでゴルフ途中に少年を射殺したヤクルト商工の菊池孝に８年の刑宣告。	
12－27	秋田とサンパウロの動物園が『パッカ』と『やまどり』の動物交流を決定。	
12－27	今年のサンシルベストレ出場の水久保美千男選手が到着。なお、成績は13位にとどまる。	
12－30	野村証券の瀬川美能留元会長の斡旋で、元巨人軍の監督で現在はNHKの野球解説者の川上哲治が元巨人軍のエース藤田元司とともに来伯、サンパウロ、バストス、ロンドリーナなどで少年野球の指導。	
	死亡　・1/3　久万浩（68）測量技師、北パラナ運動連盟設立、産業開発青年の育成に貢献。 ・1/4　玉木勇治（62）画家、聖美会の創立会員。 ・1/4　山下亀一（85）コチア組合創立組合員で理事長もつとめる。 ・1/4　田中義数（72）パペロッキ商工社長、リベルダーデ商工名誉会長。 ・4/27　青柳三郎（84）元料亭『青柳』の創立・経営者。 ・6/6　粟津金六（86）実業家、南銀相談役。 ・6/18　伊藤群平（89）農家、みずほ村創立者の一人。 ・8/21　石井喬（70）於東京。元サンパウロ総領事、元パラグワイ大使。 ・10/5　天野賢治（73）ブラタク製糸社長。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	・10/20 古田土芳次（73）号・白雲堂、養鶏家。ブラジル養鶏の先駆者の一人。 ・10/22 佐藤念腹（81）俳人、ブラジルに俳句を発展させた一人者。 ・11/6 加来晋一（80）元ブラスピア旅行社社長、切手同好会会長。 ・11/29 千葉三郎（85）日本海外協会会長、元自民党代議士。アマゾン入植50周年記念祭に来訪の途中で脳血栓を発病しメキシコで入院、死亡。 刊行物 ★シルベルト・フレイレ著、松本幹雄訳『熱帯の新世界－ブラジル文化論の発見』新世界社。 ★ルイス・カルロス・ブレッセル・ペレイラ著松本幹雄訳『ブラジル経営者の研究』新世界社。 ★H・マルセル著、小川伸訳『アマゾンのアトランチス』大陸書房。 ★大給近達監修『世界の民族6　アマゾニア・パンパス』平凡社。 ★中沢源一郎『農協とともに四十年』南伯農協中央会。	
1980（昭和55） 1－1	昨年12月にブラジリアで開催された第13回日伯移住混合委員会で、ブラジル側から事業団のブラジル現地法人であるジャミック（JAMIC－移植民担当）とジェミス（JEMIS－金融関係）2社の閉鎖が要求され、驚いた事業団では年頭からこの対策を練る。	フィゲレード大統領、連邦歳入の管理と実行を可能とするため、デルフィンネット企画大臣に絶対的な権限付与。
1－8	毎日新聞主催の『海外日系学校に図書を送る運動』から児童図書2000冊が事業団サンパウロ事務所に到着。	
1－9	サンパウロ総領事館が前年度比で在留邦人は1920名の減少と発表。	
1－10	ブラジル生け花協会総会で初の男性会長田村ワルテルを選出。	
1－11	ホンダが100％アルコール燃料のオートバイ・エンジンの様式の承認を得る。	
1－11	レシーフェ総領事館がテロ一味から電話で脅迫されたと発表。	
1－14	日文連と事業団共催で『第1回日本語教師養成研修会』が始まる。	
1－17	日文連が各県に地方史の寄贈を要請。	
1－17	国際協力事業団に有田新総裁が就任。	
1－19	千葉県人会を皮切りに県人会の総会の季節となる。	

年号	移民史・日系社会史	関連事項
1－20	裏千家サンパウロ支部が初釜を催す。	
1－21	文協の創立記念日式典に三越の岡田茂社長が協力を約束。	
1－23	イビウナで12才の日系少女が農薬を飲んで自殺。	
1－27	伯蘭会が第81回例会。	
1－30	イビラプエラ公園内日本館の池にブラジル錦鯉愛好会が錦鯉を寄贈。	
1－31	イビウナ奨学舎の児童62名が日本人学校を訪問して交流。	
2－2	アニャンゲーラ日系クラブで日本語教室を開く。	
2－2	2000年前の古代ハス（大賀ハス）がサン・ベルナルド・ド・カンポのみずほ村で開花。	
2－10	リンスでは返還を受けた日本語学校敷地に連合文化協会会館を建設。	
2－11	日系3世山崎チズカ監督が初期日本移民を取り上げた映画『ガイジン』を完成、サンパウロ近代美術館で特別試写会が行われた。	
2－14	石川県が先輩移民達に『里帰り助成金』制度を創設。	
2－20	東京保谷市の『東京老人ホーム』からお年玉を贈られ、サントス厚生ホームが返礼にコーヒーを送る。	
2－20	琉球大学地理学教室スタッフが沖縄移民の調査を終了。	
2－22	姉妹州・県関係の交流を深める為に三重県副知事がサンパウロ州政府を訪問。	
2－		PT（労働者党）設立。
3－1	リオ・グランデ・ド・スール州のサンタ・マリアにも日語学校開設。	
3－6	パラナ州商工局主催でパラナで初の『日伯経済交流シンポジウム』が開催され、ガルベアス蔵相も出席。	
3－7	スザノ文化体育農事協会の体育館が完成。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－8	第10回南米野球大会ブエノス・アイレスで開催。	
3－8	日本にブラジル移住推進協議会が発足。	
3－12	金沢の兼六公園のカキツバタがポッソス・デ・カルダスの日本公園『友好公園』に移植される。カキツバタのブラジル移植はこれが最初と見られる。	
3－12	評論家の村上兵衛が来伯。	
3－18	サンパウロ市のフェイラのパステス業者組合設立。	
3－21	コロニア語研究に筑波大学の比嘉正範教授が来伯。	
3－26	NTV（日本テレビ）がサンパウロに中南米支局を開設。	
3－27	日伯経済技術協力協定にもとづき、サンパウロ州林業研究プロジェクト始る。	
3－28	経団連の土光敏夫会長が23回目の来伯、大統領と日伯の補完関係を話し合う。	
3－28	映画『ガイジン』がサンタ・カタリーナの国内映画祭で優秀映画賞など5賞を獲得。	
3－29	外務省は事業団のブラジルからの撤退を決定、大島弘輔移住課長がこれをブラジル外務省に伝達。	
4－1	都市部だけでなく農村にも強盗事件が続発、モジ周辺の日系植民地では自衛策を検討。	
4－3	アルモニア学生寮が珠算教室を開設。	
4－4	ロンドリーナ学生寮にパラナ州政府がバスを寄贈。	
4－7	国際協力事業団の荒勝巌副総裁が事業団撤退後の対策検討の為に来伯。	
4－9	アサイに相撲愛好会が発足。	
4－9	北海道放送がサンパウロに支局を開設。	
4－10	イビラプエラ公園日本館で『現代日本版画展』が開催される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－10	唐十郎の『状況劇場』一座が来訪。出し物は『女シラノ』でサンパウロ、ロンドリーナなどで21日まで公演。	
4－14	移民史料館を視察した増田義郎東大教授、ペルーの移民史料館にも協力方を依頼。	
4－15	農業専門誌『ブラジルの農業』廃刊を決定。	
4－16	サンパウロ市議会が6月18日を公式に『日本移民の日』と認め、記念行事も行うものとする。	
4－18	三菱銀行ジャグワレー支店に5人組強盗。被害74万クルゼイロ。	
4－20	和歌山県人会創立25周年の式典に仮谷志良知事夫妻らが出席。	
4－24	サンパウロの第2回国際ジャズ・フェスティバルに日本からは『ネイチブ・ソン』クインテットが参加して好評。このグループは28日には文協でも演奏。	
4－24	歌人・水本すみ子が『ロデイラ・明日また』を出版。	
4－25	日文連がピニェイロス・スポーツ・クラブで『日本舞踊の夕べ』を催す。	
4－29	春の叙勲でサンパウロ管内の受章者は7人と発表。	
4－30	佐藤初江（料理学校経営者）が救済会に5700㎡の土地を寄贈。	
4－		サンパウロABC地区などで長期スト。
5－1	天理教信者がヒノキシンでサンパウロの街頭清掃。	
5－3	山口県徳山市で『日伯親善ブラジル画家展覧会』が開催される。	
5－5	ポルト・アレグレにおいてリオ・グランデ・ド・スール州と滋賀県との姉妹関係が提携され、滋賀県側は竹村正義知事が調印。	
5－7	サンベルナルド・ド・カンポみずほ村入植45年祭。	
5－10	日本石油連盟がブラジルのアルコール燃料の実情調査団を派遣。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－15	サンパウロ市内イタケーラ地区コロニア区の22の街路に日本人の氏名が命名される。	
5－23	2世の渋谷敏雄が内国信用組合銀行（BNCC）総裁に任命される。	
5－23	事業団の奨学生制度で応募者が定員を下回る。	
5－24	日本館の池で大阪から寄贈された60匹の錦鯉の放流式。	
5－27	『ガイジン』がカンヌ国際映画祭で審査員特別賞を受ける。	
5－30	ボツカツーに日伯親善公園を造営。	
6－7	第2回サンパウロ七夕祭りが始まる。飾り付け1位は留学生会。	
6－11	同人誌『コロニア詩文学』が誕生。	
6－18	サンパウロ総領事が7名の日語普及功労者を表彰。	
6－19	北米ロスのリトル東京から代表が来伯、サンパウロ東洋街と姉妹関係を結ぶ話し合いが行われる。	
6－19	徳山市からサン・ベルナルド・ド・カンポ市に児童画200枚が届く。	
6－19	日本語学校連合会が少年少女24名の訪日使節を送る。日本8都市で『ブラジル児童画展』を行う。	
6－21	サントス厚生ホームの改修工事が完了。なお、厚生ホームは市役所から公益団体として認可。	
6－23	日本の川崎製鉄がブラジル、イタリアと提携してのツバロン製鉄所の起工式が行われる。	
6－26	カルモ公園桜の園で移民祭が行われる。	
7－1	北海道他4県から福祉援護助成金、援協に寄贈。	
7－1	一杉利保ら5人組がオートバイで世界一周の途中、4万5千キロ走ったところでサンパウロに到着。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－2	世界少年野球友好協会派遣の『日伯少年野球親善使節団』一行25名がサンパウロに到着。	
7－4	中沢源一郎南伯組合理事長がサンパウロ州農務局で農協功労賞を受ける。	
7－5	日本厚生省が本年度から医師の長期派遣を行い、また在外邦人に対して保険・医療対策も総合的に推進すると発表。	
7－5	沖縄民謡の名手我如古より子が来伯。	
7－6	援協のカンポス・サナトリオで第2回沖縄桜祭り。	
7－7	文協が地方巡回婦人講習会を開始。	
7－10	文協の駐車場が完成、営業を開始。	
7－10	リオの伊草昇画伯が文協貴賓室で個展。	
7－10	イタリア国際陶芸展で中谷哲昇の作品がイタリア大統領賞を獲得。	
7－15	移民史料館が『郷土玩具・人形展』を開く。	
7－16	パストスの卵祭りに姉妹都市熊野市から親善使節5名が参加。	
7－18	日伯親善と相撲強化指導に大学相撲使節団12名が来伯。	
7－18	埼玉県が毎年老夫婦1組を母県に招聘することを決定。	
7－20	伊藤忠社長戸崎誠喜を団長とする129名の日伯貿易促進ミッションが来伯。	
7－25	海上自衛隊の練習艦隊がリオに入港。	
7－25	貿易促進ミッションが、79年に来伯した江崎元通産大臣から委託された甲冑ほか地蔵菩薩、観世音菩薩像を日本館に贈呈。	
7－27	ブラジル東京農大会が正式に発足、同校卒業生移民の先没者慰霊祭を催す。	
7－29	130名を集めて第1回コチア組合婦人・青年大会が開かれた。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－30	リベルダーデ商工会がリトル東京など海外の日本人街の視察に出掛ける。	
7－31	宮城県招聘の高齢者移民の最初の訪日団14名が出発。	
7－		多くの県から夏休みを利用して農業高校生のブラジル農業視察団が来訪するようになった。
8－3	佐賀県人会が香月熊雄知事を迎えて創立25周年記念祭りと会館定礎式を行う。	
8－3	女性歯科医32名の南米親善使節団が来訪。	
8－4	岐阜県中津川市の小池市長がレジストロ市長と姉妹都市関係の調印。	
8－5	環境汚染で起訴された味の素が、完全整備した年産1万2千トンの新工場の操業を開始。	
8－5	公私立学校校長23名の教育視察団がサンパウロに到着。	
8－5		改正外国人法が下院を自動通過。
8－7	青森県十和田市で開催される高校相撲大会にブラジルの選手団8名が参加。	
8－7	酒井喜重のサンパウロ考古学研究が日本でも高く評価される。	
8－7	千葉県君津袖ヶ浦町から中学生を含む11名の使節団が姉妹都市イタジャイーを訪問。	
8－9	東洋街の東洋祭りに岩手県から中村直知事夫妻をはじめ16名が来訪し、盛岡八幡の山車が練り歩く。	
8－9	移民の入国制限が厳しくなり工業移住の申請14件が却下される。	
8－10	セラード開発が盛んとなってきた最中に、フォーリャ・デ・サンパウロ紙が大統領府発表として『日本人1000万人がセラードに来る』とセンセーショナルな記事を載せる。尚、フォーリャ系のサントスの夕刊紙『シダーデ・デ・サントス』は『日本の侵略』との見出しを使った記事を掲載。これについてブラジル外務省は12日にニュースを否定。	
8－10	旧チエテ移住地に先没者の霊を慰める万霊塔が完成。	

年号	移民史・日系社会史	関連事項
8－11	歌手の春日八郎が公演の為に来伯。	
8－12	神奈川県市長会から６名の市長が都市問題調査団として来訪。	
8－13	バルゼア・アレグレ移住地、設立21年目で電化成る。	
8－14	海上自衛隊の練習艦隊『かとり』、『あきぐも』がサントスに入港。16～17日にはサンパウロで乗組員の歓迎会開催。	
8－19	建設大学校から８名のブラジル研修生が到着。	
8－19	日本の劇団『アミーゴ』が文協で公演。	
8－19	1978年から始まった『ブラジル農業研究協力』の第１次チーム団員泉山陽一教授が、帰国の際に２万ドルを『セラード農業の研究』にと地元農家に寄附した。	
8－23	修養団捧誠会から青少年指導者４名が到着。	
8－24	スザノ大和日本語学校が改修工事終了。	
8－24	『憩の園』の慈善バザーに１万５千人が集まり記録的な売上げとなる。	
8－25	群馬県がサンパウロ州と姉妹関係を締結、バンデイランテス宮でマルフ知事、清水一郎知事が調印。なお、清水知事は県人会35周年式典にも参加。	旅行手続の簡略化で出国査証が不要となる。
8－26	コチア組合が移民史料館に寄附したトラクターの返還を要求。	
8－27	『日本移民70年史』が完成。	
8－27	プエルト・リコで開催された第１回パン・アメリカ陸上ベテラン大会に菊池、原源造がブラジル代表に選ばれて出場、２人で計６個のメダルを獲得。	
8－28	75年に浄土宗がマリンガーに創立した老人ホーム『和順ホーム』に医務室と病室が増築される。	
8－30	県費留学生募集で、沖縄県人会には132名の希望者が殺到した。他方に希望者ゼロのところが４県あることが判明。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－30	広島女子大の岸田教授が、『調査の結果では日系人の食生活はバランスがとれていて良好』と発表。	
9－1	愛知県議会から中南米行政視察団11名が来訪。	
9－2	リベルダーデ商工会はメキシコ・シティー、ロス、サンフランシスコなどの日本人町と姉妹関係を結ぶ。	
9－3	ペルーのリマに移民史料館建設を指導している増田義郎東大教授が来訪。	
9－4	日本文部省がベロ・オリゾンテに日本人学校新設を発表。	
9－5	大分県からアジア・ポートの構想でブラジル貿易・経済視察団の36名が来伯。	
9－8	モジでICM（商品流通税）反対農民大会が開かれた後、サンパウロでも伯国相互協会が文協で小農に対するICM復活阻止大会を開催。	
9－10	日本政府招待の第13回海外日系人大会出席者20名が決定。	
9－10	児童絵画指導にユネスコ派遣の土屋仁夫講師が到着。	
9－11	歌人矢島健介が小説『左代の周辺』を出版。	
9－12	サンパウロ総領事館の旅券発給量が世界一と発表される。	
9－13	サンパウロ大学日本文化研究所が茶道講座第1回目を開始。	
9－14	文協で日文連が恒例の合唱祭を催す。	
9－16	中南米政治経済視察団の堀内俊夫議員らが来伯。	
9－17	ブラジル珠算連盟が統一検定試験を年に4回実施することを決める。	
9－17	『アトリエ17』から山本寛子ら2名が派遣されて2人展を開催。	
9－20	文協主催の第9回民族舞踊祭が開かれる。	
9－20	国援法による帰国申請が急増。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－26	三角ミナス、ゴヤス南部の司教グループが日本資金によるセラード開発を憂慮している態度を表明。	
9－27	関、富山市が姉妹都市関係にあるモジ市に交流使節を送る。	
9－27	アチバイアの日系花卉生産者58名がアルゼンチンのエスコバール花祭り視察に出発。	
10－1	増田義郎東大教授らが中心となって日本にラテン・アメリカ学会が発足。	
10－1	KDDがブラジルにおいてもデーターやファクシミリ電送の取扱開始。	
10－2	日本政府が資金協力してパラナ州に工業技術センター設置が決まり、その協定調印式が行われた。	
10－3	未整理資料3万点をもつ移民史料館が、予算不足で資料分類作業がストップ。	
10－4	南米銀行が創立40年を祝う。	
10－6	野村下院議員の仲介で大サンパウロ都市圏農村協会の代表がデルフィン企画相に面接し、『ICM（商品流通税）免除は絶対に変更しない』の確約を得た。	
10－7	ポルト・アレグレ総領事館主催で、生け花合同展がヒジパ会館で行われる。	
10－9	サンパウロ総領事館主催で日系音楽家演奏会がサンパウロ近代美術館で開催。	
10－10	農業、中でも養鶏はドン底状態、借金を苦にしたモジの養鶏家が自殺。	
10－10	南銀の橘富士雄社長にサンパウロ名誉市民権が贈られる。	
10－14	リオ、ブラジリア、サンパウロで開かれる第2回日伯科学技術シンポジウムに日本の科学者23名が参加。	
10－14	福田百合子がSESIポンペイア劇場（サンパウロ市）でバイオリン演奏会を行う。	
10－14	ガン撲滅婦人会が第8回手芸バザーを行う。	
10－14	司教グループが重ねて日本のセラード計画を非難。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－15	サンパウロ大学と東京大学が科学協力の為の協定を締結。	
10－16	新外国人法公布により、不法滞在中の日本人家族が恐喝される事件が増加。	
10－17	日本生産性本部からのラテン・アメリカ経済調査団11名が来訪。	
10－18	スザノの『花と農工ビエナル展』がパウロ・ポルテラ体育館で開催。	
10－19	鹿児島県人会が鎌田兼人知事ら51名を母県から迎えて創立67年祭と、会館落成式を行う。	
10－19	秋田県人会が佐々木知事を迎えて創立20周年を祝う。	
10－22	友好協定10周年を記念して坂井兵庫県知事一行65名がクリチーバを訪問、日伯工業技術センターの定礎式にも出席。	
10－23	サンタ・カタリーナ州から副知事一行が訪日、青森県と姉妹関係の調印。	
10－28	デルフィン・ネット企画相が日本政府の招待で訪日、鈴木善幸首相と会見。	
10－30	福井県人会創立25周年式典に中川平太夫知事等が出席し、あわせてビニャール福井村18周年記念式典。	
10－		「大カラジャス計画」が発足し、バーレ・ド・リオドッセ社がカラジャス鉄鉱山（推定埋蔵量180億トン）の開発権を獲得。
11－3	日本政府が秋の叙勲者を発表。ブラジル関係は12人。	
11－4	10年振りに帰日したリオの浦上正則画伯が日本で個展を開く。	
11－6	ブラジリアで開催された『日本文化の夕べ』に勅使河原利風が来訪。	
11－9	福井県人会は日本から知事一行を迎えて創立25周年、県人のブラジル移住67年を祝い、あわせて『県人発展史』を刊行。	
11－11	アマゾン流域のマンジオカ原料アルコール計画視察の為に、岸信介元首相（国際マンジオカ・エネルギー協会会長）が来伯。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－11	モジ近郊ジュンジャペーバ地区の日系農家に初めて電気が入る。	
11－12	サンパウロ市の日系ロータリアンが6月1日を『日系ロータリアンの日』とすることを決定。	
11－13	日本から若木唯一、前川博信両ギタリストが来訪、文協で演奏会。	
11－14	サンパウロ日本人学校PTAが日文連と日本語学校連合会に605冊ずつの教科書を寄附。	
11－15	サントス海岸で『第2回えびす祭り』。	
11－16	宮城県ではブラジル在住の70才以上の高齢者に6000クルゼイロずつの見舞金を贈る。	
11－17	静岡県が83名の南米農業視察団を派遣。	
11－17	リオで開催の『第2回ビラ・ロボス国際ギターコンクール』に、日本からは若木、前川が参加。	
11－20	第44回サロン・パウリスタで中島岩雄の『綿畑』がグラン・プリ獲得。グラン・プリは日系では故高岡由也に次ぐ2人目。	
11－20	ゴルフの中村寅吉、松井功両プロが指導の為に来伯。	
11－21	三重県熊野市がバストスとの姉妹関係8年の記念に『ブラジル展』を開催。	
11－21	パウリスタ洗染業者協会の要請で領収書発行、帳簿記載を義務づけた市条令が撤回された。サンパウロ市内約2000軒の90%が日系と見られている。	
11－21	奥原プロが創立10周年を祝い『女たちの忠臣蔵』をTV放映。	
11－22	園田天光光夫人がヴァリグ航空の招待で来訪し日系婦人達と交流した。	
11－25	初代大使の『田付日記』が田付景一元大使から移民史料館に寄贈された。	
11－25	ブラジル政府から中沢源一郎南伯組合理事長に南十字勲章授与。	
11－29	シネ・ニッポンがシネ・ジョイアに移って『シネ松竹』として新発足。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
12 －	事業団サンパウロ支部の調べでは1980年の移民数172名、内工業関係（家族を含む）が61名、農業関係が71名、近親呼び寄せ33名、その他の移住7名。	
12 －		1980年の経済成長率は79年を上回ったが内情は苦しく、フォルクス・ワーゲン社は進出27年で初めての赤字決算となり、インフレもブラジル史上初めて100%を上回り、外債は約550億ドルに達した。失業者が増加して凶悪犯罪が極めて増加してきた。ストライキも増え、軍政のほころびが見られた。なお、今年行われた国勢調査の結果に、ブラジルの人口は1億1779万人と発表された。
12 －	死亡　・2/12　滝谷虎太郎（72歳）。ピンダモニャンガーバ市。 ・3/16　片山利宣。南マット・グロッソ州ドラードスの草分け。 ・4/26　加藤弘（72歳）。汎ノロエステ文化協会会長・リンス市。 ・4/29　小笠原一二三（64歳）。コチア組合理事、セラード進出に先鞭をつけた。 ・5/13　沢田美喜・エリザベス・サンダースホーム園長、旅行中のヨーロッパで。 ・7/9　上野毅夫（71歳）。元サンパウロ総領事館主席領事、東京において。 ・11/13 椎野豊（86歳）。戦前に同盟通信リオ支局長、戦後は東京で『ブラジル新聞』を発行、東京において。 刊行物　★フレデリック・モーロ著、金七紀男・富野幹雄訳『ブラジル史』白水社。 ★『ブラジル日本移民70年史』ブラジル日本文化協会。 ★中川文雄編『現代ラテンアメリカの対アジア・アフリカ関係』アジア経済研究所。 ★前山隆著『非相続者の精神史－ある日系ブラジル人の遍歴』お茶の水書房。 ★山根一眞著『アマゾンで日本人はガランチードと呼ばれた』内田老鶴圃。 ★金木良三著『ブラジル日系農場の成立と発展・東京農大卒業生の農場経営』明文書房。 ★醍醐麻沙夫著『森の夢』サンパウロ新聞社。	対外債務の対GDP比18.9%に上昇（1970年は9.8%）。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1981（昭和56） 1－10	クリチーバ領事館が総領事館に昇格。	
1－16	南米における沖縄県人の動向を取材に琉球放送から取材班が到着。	
1－17	ブラジル珠算連盟主催の『第1回ブラジルそろばん名人戦』で、南伯組合の土肥文男が優勝。	
1－18	裏千家ブラジル支部の『初釜茶会』に250名が参加。	
1－19	マルフ知事が移民史料館を視察し50万クルゼイロの補助を約束。	
1－23	うずもれた移民史の発掘に『語り部の会』が結成される。	
2－4	日本の国会図書館から日本移民の記録、資料収集の為に三塚館員が来伯。	
2－10	移民史料館が月報の発行を開始。	
2－13	国際協力事業団の武田副総裁が来訪。	
2－14	東洋紡やジェトロ事務所のあるパウリスタ大通りのビルが全焼。	
2－21	ヨーロッパで活躍する日本人ピアニスト深沢亮子がUSPで演奏会。	
3－6	ヴィラ・コッポス空港で小林住宅の駐在員が9万ドルを腹巻きに巻き付けているのが発見され、為替法違反容疑で逮捕される。	
3－7	オザスコ市で日系の里見バス運転手が強盗に射殺される。	
3－9	3人組強盗が南銀セアザ支店を襲って200万クルゼイロを強奪。	
3－10	都市近郊の農園に泥棒が急増したため、その対策に日系農家が柵の針金に電気を通しておいたところ、近所の8才のブラジル人幼女が感電死。	
3－13	山口県人会がマラニョン州に経済視察団を送る。	
3－16	楡木久一が収集していた移民史史料を国会図書館が3万ドルで購入。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－17	コチア組合にコチア青年出身の理事の第1号が出現。	
3－17	サント・アマーロ文協が野球場を完成。	
3－19	三菱銀行ラッパ支店を機関銃強盗が襲撃。	
3－20	神田外語学院の学生劇団10人が日系社会慰問公演に来伯。憩の園から始めて25日の間に主要な集団地をほとんど巡回し、もらった『花代』は福祉4団体に寄附して4月16日に帰国。	
3－21	ガルボン・ブエノ街のモリミナス宝石店が3人組強盗に襲われ、損害約800万クルゼイロ。	
3－22	事業団が援協やすらぎホーム増築工事に600万クルゼイロを助成。	
3-23～26	サンパウロ州政府招聘の日本の指揮者小原全が、サンパウロ交響楽団を指揮して好評。なお、小原はさきのリオで行われた指揮者コンクールで2位に入賞。	
3－28	ブラジリア大学が日本語講座を開設。	
3－29	群馬県が交流の為にサンパウロに少年サッカー・チームを送る。	
3－30	日伯青少年交流協会の第1回研修生13名が到着。	
4－2	コチア組合がINCRA（国立植民農地改革院）の要請で北部マット・グロッソのカルリンダ開発計画に参加。	
4－6	チリーで開かれた第1回南米ジュニオール野球大会にブラジルが優勝。	
4－7	北パラナのローランジアに日系を首領とする強盗団が出没。	
4－11	外務省の大島移住課長がJAMIC、JEMIS解散の後は、移住者導入は農拓協（溝口茂夫理事長）、農業融資は南米銀行に肩がわりしてもらうと発表。	
4－13	山形県から15名の県議団がブラジル視察に来訪。	
4－14	コロニア万葉集刊行委員会が330ページの『コロニア万葉集』を刊行。	
4－16	佐賀県の諸富町がリメイラ市と姉妹都市関係を結ぶ。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－18	加古川市から姉妹都市マリンガーに26名の親善使節団が来訪。	
4－19	山口県がマラニヨン州知事を招待。	
4－21	日墨学院副理事長がサンパウロに到着し、日文連と話し合う。	
4－23	沖縄市郷友会が6年後の沖縄国体会場用にブラジルの花木の種子多数を送る。	
4－24	鳥取県が県政百年祭に高齢者招待を決定。	
4－25	春の叙勲にブラジルからは11名が決定。	
5－1	母県から24名の親善使節を迎え、新潟県人会が創立25年を祝う。	
5－2	福井県の県政百年祭に高齢者を招待。	
5－4	老人クラブ連合会が老人センター建設を日本政府に要請。	
5－6	サンタ・カタリーナ州カッサドール移住地の入植者募集始まる。	
5－11	川合輝明世界救世教総長がブラジリア訪問。	
5－12	日伯学院の建設企画委員会が発足。	
5－13	南米国際ガン学会に日本から木本哲夫教授等が出席し丸山ワクチンについても説明。	
―――	故千葉三郎未亡人が故人のトメアスーにある墓に分骨のために娘同伴にて来訪。	
5－13	宮城県柴田町がパラナ州のアシス・シャトブリアン市と姉妹都市関係を結ぶ。	
5－15	3人組の日系ピストル強盗が桑原時計店を襲い、被害約400万クルゼイロ。	
5－18	岩手県、高齢者を母県に招待。	
5－19	『憩の園』、『やすらぎホーム』周辺に武装したポッセイロ（不法侵入者）が集結して土地を不法占拠していたが、動きが不穏で州警察が出動。	
5－20	サンパウロ市役所が日本移民の日を記念しての作文募集。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－21	デザイナー山本寛斉が来訪。	
5－26	文協は先駆者移民表彰で第２回船旅順丸渡航者（909名）を調査していたが、37名の生存者が判明。	
5－29	銀行強盗４件の首領の日系人が逮捕される。	
5－	81年度国際ロータリー年次大会がサンパウロ市のアニェンビー会議場で31日から３日間開かれ、日本だけからでも約1000名のロータリアンが参加し、岩村昇医博には『国際理解賞』が贈られた。なお、日本のロータリアンは文協図書館に2000冊の図書寄贈。	
6－1	子供の園に日本の『愛の手会』から70万円が送られる。	
6－4	パラナ州セルタネージャ市で土地係争が起こり、同地の日系農家14家族が心配されている。	
6－11	池之坊専永家元が来訪し、池坊南米支部創立25年を記念しての大花展が行われる。	
6－13	日航主催で瀬戸内晴美、早乙女貢、高橋三千綱の文化講演会。	
6－18	サンパウロ市が募集の『日本移民作文コンクール』で日系のセツコ・財間が１位に入選。	
6－20	文協が旅順丸移民生存者37名を表彰。	
6－20	コロニア芸能祭に5000人が参集。	
6－24	三井不動産がサンパウロ都心に28階のアパートを建設。	
6－24	80年の暮れに佐藤正夫３男進（19歳）を誘拐し殺した鈴木良夫と共犯のロドリーゲスは懲役22年の刑。	
6－30	加納講道館館長の決定により、今後ブラジル柔道の５段以下の認定権は全伯講道館有段者会に任される。	
7－1	国際協力事業団の大野移住計画課長が来伯し、今後の事業団活動は総領事館の分室として行う方針を発表。	
7－1	千葉の袖ヶ浦からイタジャイの海にワカメ養殖が試みられる。	

年号	移民史・日系社会史	関連事項
7－		政府系企業の整理統合、民間払い下げに関する政令成立。
7－2	『日本人海外不適応』を書いた稲村博士がブラジル事情視察の為に来訪。	
7－4	渡部和夫判事が日系で最初のサンパウロ高等裁判所判事に任命される。	
7－5	ジュディ・オングがアニェンビーでリサイタルを開催。	
7－7	ソロカバナ線サント・アントニオ・デ・パラナパネマでマルフ知事が参列してヒノ・サンタ州立小学校の落成式挙行。	
7－9	ブラジリアにブラジル日本文化交流協会が設立される。	
7－10	青森県の福祉団体からサンタ・カタリーナ州の福祉施設に20万クルゼイロ贈与。	
7－10	アグア・フンダの州立動物園がイビラプエラ日本館につがいの黒鳥（白鳥と同属）を贈与。	
7－12	天理教のパウルー伝道庁開設30年を記念し、1万5千人参集。	
7－14	文協コロニア文学賞が『コロニア文芸賞』と改められる。	
7－16	サンタ・カタリーナ州ラーモス移住地の文協会館が完成。	
7－16	マルフ州知事一行を迎えてバストスが第51回入植祭を挙行。	
7－16	第17回山本喜誉司賞は西森多光（リンゴ）、上佐義雄（ニンジン）、杉本正（ジャガイモの連作技術）と、農業技術普及のエジソン・コンソルマーノ技師に功労賞が決まる。	
7－18	大本教から日本古典芸能紹介の為に8人の使節団が来訪。	
7－18	第4回相撲使節団が来伯。	
7－20	河野潤（モダン・ダンス）がポルト・アレグレで公演し、後サンパウロでも公演したがサンパウロのフォーリャ紙はこれを酷評。	
7－22	今年も岐阜、愛知、滋賀、香川県などの農業高校研修生が相次ぐ。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7 -25～26	第1回から50年目の全伯日系陸上競技大会が開催される。	
7－26	田中龍夫通産大臣が来伯。	
7－29	淑徳学園から、関係ある子供の園、和順会などの視察団6名が来訪。	
7－29	歌手の五木ひろしが来訪。	
8－1	日本棋院の岩本薫9段が来訪し、全伯囲碁大会に出席。	統一労働者同盟（CUT）成立。
8－3	南銀ビラ・マリアーナ支店が強盗に襲われ、600万クルゼイロを奪われる。	
8－4	園田外相が来訪してブラジル政府と会談。	
8－5	日伯文化連盟はUSP日本文化研究所で第2回日本語シンポジウムを開催。	
8－9	オザスコの日本人会が入植60年を祝う。	
8－9	7月末に来訪した日本少年野球団は10戦10勝の成績を残して帰国。	
―――	アマゾン日系実態調査の結果は、1700家族（8000人）となった。	
8－10	北伯アマゾニア病院の健康保険制度が始まる。	
8－13	3年連続全国制覇の天理高校柔道部10名がブラジル柔道使節として到着。	
8－13	旧チエテ移住地が入植53周年を祝う。	
8－14	『アリの町のマリア』のポルトガル語版が出版される。	
8－15	修養団捧誠会のブラジル支部が設立される。	
8－17	プレジデンテ・ヴェンセスラウ市内の州立校がシゲトシ・ヨシハラ校と改称。	
8－20	全日本女子バレー・ボール選抜チームの20名が来訪し、オール・ブラジル・チームと3戦3勝。	
8－20	USP日本文化研究所に芥川賞作家の岡松和夫客員教授が着任。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－22	堂垣内尚弘知事を迎えて在伯北海道協会が会館の落成式を行う。	
8－23	姉妹都市関係のサンビセンテ市と那覇市が『幼稚園教師の交換制度』を約定。	
8－24	茨城県人会創立20年祭典に母県から慶祝使節で来た平和太郎が、約1ヵ月に渡って日系集団地を慰問した。	
8－28	子供対象の竹風会生け花の太田理事長が、ミナス州のイパチンガで『子供生け花展』を開く。	
9－3	宮崎県の松形祐堯知事が県人会を訪問。	
9－4	USPの日本文化研究所に玉井乾介教授が着任。	
9－9	サンパウロに新任の藪総領事が着任。	
9－15	日本経済新聞、ガゼッタ・メルカンチル共催の日伯経済シンポジウム『80年代のブラジルと日本』が開催される。	
9－19	スザノの福博植民地が入植50年を祝う。	
9－21	老人週間に盲目のエレクトーン奏者大島彰が再び来伯。	
9－22	ヴァリグのコマーシャル撮影の為に三船敏郎夫妻が来訪。	
9－25	増田恒河著『エメボイ実習場史』（発行者実習場史刊行委員会）が出版。	
9－30	四半世紀に渡り移民業務を担当したJAMICとJEMISが撤退。	
10－2	サント・アンドレー市長一行が訪日して高崎市と姉妹都市関係を締結。	
10－3	81年度サンパウロ州最優秀教師に日系の中岡ヨシエが選ばれる。中岡は身体障害者の教育一筋に30年を過ごして来た。	
10－3	レジストロに姉妹都市の岐阜中津川市から親善使節団。	
10－4	リンスで入植65周年の記念祭が行われる。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－5	ブラジル新聞・椎野豊社長のそよ子未亡人を迎えて『ブラジル椎野会』が歓迎会。	
10－6	移住者に対する融資業務の引き継ぎでJEMISと南銀の間で同意書に調印。	
10－6	日伯学園設立の雰囲気が高まり、83年に先ず幼稚部を始める方針となった。	
10－7	コロニアの民謡歌手石川論が日本クラウンからレコード『お立ち酒』を発売。	
10－7	マリリアで日系赤ちゃん誘拐事件、だが1週間で解決。	
10－8	コチア組合がマット・グロッソ州カルリンダ入植者の募集を開始。	
10－18	三重県の田川知事がサンパウロ州との親善交流に来訪。また、三重の津市岡村市長とともに、津市が姉妹都市関係のオザスコ市役所も訪問。	
10－18	姉妹関係のサンタ・カタリーナ州との親善のために青森の山内副知事が来訪。	
10－	アマゾナス州バレンチンスで高拓生入植50年記念祭が19～24日に渡って行われた。	
10－24	ブラジルからの留学生の世話をすることで知られる宮城県鳴子市の高橋祐幸が、留学生OBの状態を見に来訪。	
10－25	日系人が鶏泥棒を射殺して問題となる。	
10－26	リベルダーデ商工会が、今年はペルー、アルゼンチン、チリー、パラグワイの日本人町と姉妹調印をして帰国。	
10－31	マリリアで日系の女子小学生が2人組に誘拐され、50時間後に救助される。	
11－3	秋の叙勲でサンパウロ管内は16人と発表された。なお、今回からは外国人でも定期叙勲の対象となり、16名の内で4名はブラジル人。	
11－4	コロニア文芸賞を同人誌『亜熱帯』が辞退。	
11－4	山本勝造にサンパウロ名誉市民章が贈られる。	
11－5	マルフ知事一行160名が特別機で訪日。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－6	ポルト・アレグレ日本総領事館の雑役婦が総領事館を労裁に告訴。	
11－8	スザノで日本人入植60年を祝う。	
11－9	ユニチカが創立20周年を記念して日系団体に100万クルゼイロを寄附。	
11－13	コロニア文芸賞は『コロニア万葉集』と梶山北民の『ブラジル季寄せ』と決定。	
11－19	角田房子が『宮坂国人伝』の取材に来伯。	
11－22	生長の家がブラジル伝道30周年を祝う。	
11－25	南米でIATA（国際空輸協会）に加盟する380社のなかで、今年度上半期の販売実績では日系のツニブラ社が1位と発表される。	
11－26	徳山市の小川亮市長夫妻ら7名が姉妹都市サンベルナルド・ド・カンポ市を訪問し、みずほ村には徳山公園を作る。	
11－30	酒井喜重の『サンパウロ州考古学誌』ポルトガル語版が出版される。	
12－1	コチア組合の元従業員達がコチアOB会を発足させる。	
12－2	北パラナの農家古守嘉次郎（75才）が文協奨学資金に350万クルゼイロ大型寄附を行う。	
12－5	文化放送が募集していた『ブラジルの日本語学校の愛唱歌』歌詞コンクールに、サンタ・カタリーナ州ラーモス植民地の本田清香（14才）の作品が選ばれる。	
12－23	140名の第2回コチア青年2世研修訪日団が出発。	
12－		この年のインフレは前年並みの100％の線だったが、経済は冷え込んで4.4％のマイナス成長となり、外債は前年の642億ドルが739億ドルにと増加、そのためストライキ、凶悪犯罪が急増した。日系の被害で新聞記事となったものだけでも殺

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	刊行物　★『コロニア万葉集』コロニア万葉集刊行委員会。 ★増田恒河著『エメボイ実習場史』同刊行委員会。 ★ピエール・モンベーク著山本正二・手塚章訳『ブラジル』白水社。 ★『昭和55年度・散在移住者実態調査』国際協力事業団。 ★梶本北民選『ブラジル季寄せ』自費出版。	人10件、強盗6件を数えた。また、政府はそれまで連邦直轄だったロンドニアを州として独立させた。日系にはこの頃からセラード農業とカラオケがブームとなってきた。
1982年（昭和57） 1－3	日本館の錦鯉250匹が悪質ないたずらのために全滅。	
1－3	カンポス・ド・ジョルドン市で日系人2人が誘拐され1名が殺害される。	
1－4	日学連が第2回少年少女交歓使節団45名を日本に送る。	
1－7	総領事館がサンパウロ管内の日本人は10万240名と発表。	
1－9	日系人も自動車事故での死亡が続く。この3日間で4名が死亡。	
1－10	日本のボーカル・グループ『ロス・インジオスとシルビア』が奥原プロ主催でサンパウロ公演。	
1－12	コチア青年連絡協議会が日本語の農業雑誌『アグロナセンテ』を刊行。	
1－12	福岡県から第4次ブラジル農業実習生10名が来伯。	
1－13	俳誌『雪』の選者村松紅花らがブラジルの俳人との交流に来訪。	
1－15	ポンペイア市の西村俊治が西村農業高校を設立。	
1－16	島根県から片山昌福が島根県移住史編纂の為に来伯。	
1－18	ブラジル日本文化協会の総合スポーツ用地購入資金に充当のため、相場会長が10万平方メートルの土地を提供。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－18	日本に中南米子女教育振興財団が設立される。	
1－19	セッテ・ケーダスの吊り橋事故で50数人が死亡したが、日系人新井の家族４人もこの事故に巻き込まれて死亡。	
1－20	ウニベルツール旅行社が117万クルゼイロを日系福祉４団体に寄附。	
1－21	半田知雄著『移民の生活の歴史』第３版が刊行される。	
1－22	オザスコ文化体育協会は市役所から２万8000平方メートルの土地を贈られる。	
1－25	サンパウロ市制記念日に、サンパウロ州政府が211名にイピランガ章を贈ったが、うち16名は日系人。	
1－27	日本通産省が11名を経済協力で大臣表彰した中に、ブラジル関係では宇佐美錬、藤平正義、若林輝男の３名が含まれている。	
2－4	県連の和田周一郎会長が日系ではじめて労働功労賞を受ける。	
2－9	近畿大学の大森弘教授が南銀で経済講演会を開く。	
2－14	タボン・ダ・セーラ市に富士フィルムがアジサイの苗5000本を寄贈してアジサイ公園を造成。	
2－15	世界食糧政策会議に出席の為に元外相の大来佐武郎が来訪。	
2－19	作家の村松友視が来訪。	
2－21	サンパウロのカーニバルでエスコーラ・デ・サンバ『バロッカ・ゾーナ・スール』に日系青年50名が参加して注目を浴びる。	
2－22	岐阜市がカンピーナス市と姉妹都市関係を結ぶ。	
2－24	ブラジル卓球連盟の招待で日本大学卓球部の７名が来伯。	
2－25	テレビ朝日の取材で俳優武田鉄也が来訪し、余暇に憩の園を訪問。	
2－26	カンポ・グランデ市に学生寮が完成。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－2	工芸作家協会がアマゾン地方で展示会を開催。	
3－3	東京港南ロータリアンから子供の園に70万円が贈られる。	
3－3	オートバイ泥棒の常習犯平田ヨシオが逮捕される。	
3－3	笹川良一がオ・エスタード紙に『母へのメッセージ』半ページ広告。	
3－5	自転車で世界一周の後藤勇治（30歳）がサンパウロに到着。	
3－6	『亜熱帯』同人がスザノ市図書館で日伯詩展を開催。	
3－6	初の実業野球リーグ戦がボン・レチーロ球場で開かれる。	
3－8	世界救世教がサンパウロ教会を完成させる。	
3－9	人文研発表では、82年のサンパウロ州立大学7748名の合格者の内、日系は13%の978名であった。	
3－11	『子供の園に愛の手をさしのべる会』（東京）の菅野事務局長が来訪。	
3－12	日系の田中アウグストが他２名の共犯者と２人を殺し、２人の少女を暴行。	
3－14	歌手小柳ルミ子がサンパウロで公演。	
3－14	２年の歳月と日伯双方の募金により、パウリスタ児童療護会の子供の園本館完成。	
3－14	前科10数犯の詐欺師前田守が再び逮捕される。	
3－15	日本の援助によりクーニャのサンパウロ州植林地に水文観測所が完成。	
3－16	老人問題調査のために日本社会事業大学の垣内芳子教授が来訪。	
3－22	サンパウロのブラジル日本文化協会が総合スポーツ・センター建設を目標に定款を改正。	
3－24	日系青木ジャイメを含む４人組強盗がフェラース・デ・バスコンセーロスの病院から500万クルゼイロを強奪したが逮捕される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－26	82歳の安藤スギがアパートから飛び降り自殺。今月だけでサンパウロ市内で2人目の日本人老人自殺。	
3－26	作曲家の服部公一が来訪。	
3－27	北海道協会が人間形成を目的にボーイスカウト隊を組織。	
3－28	イビウーナ文協が会館を完成。	
3－28	ゲレイロ外相が日本でセラード開発の資金協力を交渉。	
3－30	サンパウロ交響楽団の招聘で指揮者小泉和裕が来訪。	
3－30	国際交流基金派遣で柔道の辻原謙太郎五段が来訪。	
4－2		アルゼンチン軍事政権がフォークランドを占領し、イギリスと交戦状態となる。
4－5	佐藤メッキの佐藤角寿が日系福祉団体に80万クルゼイロを寄附。	
4－5	南銀の現金輸送車が強盗団に襲われ290万クルゼイロを強奪される。	
4－7	国際協力事業団（JICA）がサンパウロ総領事館分室として業務開始。	
4－8	南伯組合が援協とタイアップした組合員及び職員の医療補助と災害見舞金制度を発足させる。	
4－12	サンパウロ市内でスーパーを経営する比嘉某が強盗に172万クルゼイロを強奪される。	
4－12	佐賀県諸富市から姉妹都市リメイラ市に親善使節団。	
4－13	演歌の金田たつえが公演の為に来訪。	
4－13	ブラジル青少年交流協会の第2期生13名が到着。	
4－13	サンパウロ市内ビラ・ジャルジン地区の新設小学校がナガサキケン小学校と命名される。	
4－14	74歳の帰化人山中昌時がミナス大学薬剤師資格試験に合格。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－15	チリーのサンチャゴで開催された第1回南米陸上ベテラン大会で、ブラジル日系が11種目に優勝。	
4－19	順天堂大学の石井昌三教授の斡旋でブラジル日系脳神経アカデミーが発足。	
4－19	中沢源一郎南伯組合理事長に国家農業功労賞が贈られる。	
4－23	1959年に日本から進出した料亭『赤坂』が閉店を発表。	
4－24	沖縄からの南米芸能使節団が沖縄会館で公演。	
4－25	竹内藤男知事一行10人を迎えて茨城県人会が会館落成式を行う。	
4－26	竹中正援協会長がサンパウロ名誉市民権を贈られる。	
4－29	日本政府の春の叙勲で、ブラジル関係はブラジル人5名、日系人14名。	
4－		凶悪犯罪が増え、日系人の被害も増加するが日系の犯罪者も増加。娯楽では新しいものとしてカラオケ、ゲート・ボールが盛んとなってきた。
5－1	援協が人間ドック検査を開始。	
5－5	綿作の前田グループが和議申請。外国融資がインフレで支払い不可能となったため。	
5－6	救済会が『明日を考える会』を発足させる。	
5－7	6年前に発足した老人クラブ連盟は傘下に100組織、会員7000名の日系最大の団体に成長。	
5－11	駒沢大学の小笠原隆元教授が禅の講演に来訪。	
5－11	スザノ市の内谷忠雄（74歳）夫妻が、老年で養鶏をやめ、土地の一部2.5アルケール（時価2000万クルゼイロ）を援協に寄附。	
5－14	アイ・ジョージがユニセフとの契約で世界20数ヵ国公演途中でサンパウロに立寄り、2度目の公演。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－14	日系でただ一人の外交官藤田エドモンド進２等書記官が東京の大使館勤務となる。	
5－15	グワタパラ移住地が入植20年と公民館の落成式を祝う。	
5－22	戦前、南リオグランデ州の西端にあった『サンタ・ローザ植民地』の日本人移民について、元ポルト・アレグレ事業団に勤務した杉谷茂一が調査結果を発表。	
5－25	秋田県人会が『県人２世、３世の動向アンケート』調査結果を発表。	
5－25	第１回室内サッカー国際大会に参加の日本チームが到着。	
5－27	ウニベルツール旅行社が日伯学術交流に資金協力の制度をつくる。	
5－28	那覇市の幼稚園教師松田すみ子、上里るり子の２人が、姉妹都市サンビセンテ市で研修の為に来訪。	
5－29	クリチーバ市郊外の学校に通学の途中に中平エリザベッテ（12歳）、セシリア（11歳）の２人が惨殺される。	
6－4	アルジャーで初の花卉の展示会が開かれる。	
6－6	演歌歌手の小林君子が来訪、約２ヵ月に渡り日系集団地で公演。	
6－8	移民オリンピックで日系チームが金から銅までのメダル36個を獲得。	
6－12	鈴木善幸首相、田沢良郎農水相、田中竜夫自民党総務会長ら約90名のミッションが来訪し、首相はブラジリアでフィゲレード大統領と会談、田沢農相はセラード農業地帯を視察。	
6－19	文協（ブラジル日本文化協会）が神奈川丸、厳島丸の移民生存者129名を表彰。	
6－19	砂漠の緑化研究で著名な鳥取大学の遠山柾雄教授がノルデステ地方調査に来訪。	
6－20	工業移住者協会が工業移住20年を祝う。	
6－20	サンパウロ市に本門仏立宗の中央寺院が完成。	
6－20	本島等長崎市長等が来訪して長崎・サントス姉妹都市提携10年を祝う。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－21	日本ブラジル中央協会が創立50周年を祝う。	
6－22	歌手の千昌夫夫妻が公演の為に来訪。	
6－23	ブラジル日本文協図書館に国際図書協力センターから１万８千冊の寄贈図書が到着。	
6－29	ブラジル日本文化協会の相場真一会長にサンパウロ名誉市民権が贈られる。	
7－3	留学生が『訪日留学の意味は何か』のシンポジウムを開催。	
7－4	ピニャール移住地で入植20年祭と会館完成を祝う。	
7－8	日本人庭師岡本徹（40歳）が18歳の日系女学生と同家の女中を虐殺。	
7－8	サンパウロ日本人学校父兄会が日系福祉団体に古着2000点を寄附。	
7－9	サンパウロ護憲革命50周年の老兵行進に、日系の義勇兵速応操も参加。	
7－10	日語学校連合会主催の全伯児童お話大会に159名が参加。	
7－12	日伯実科女学校が創立50周年を祝う。	
7－15	サンパウロ市教育局がソロバンの教師を募集。	
7－18	高田勇知事一行を迎えて長崎県人会が創立20年を祝い凧あげ大会を開催。	
7－21	サンパウロにゲート・ボール協会が設立される。	
7－22	国際交流協会派遣の空手使節団が各地で模範試合を行う。	
7－25	国士館大学がサン・ロッケ市に本格的な武道体育館を落成。	
7－30	リベルダーデ大通りで日系女子赤ん坊の捨て子が見つかる。	
7－31	神田外語学校の劇団が公演の為ブラジルに２度目の来訪。	
7－	凶悪犯罪はますます増加の一途で、この月だけで日系人８人が殺される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－	日本が夏休みで、大学生だけでなく高校生や中学生の日本人旅行者が増加。	
8－1	ブラジルで第５回世界剣道大会を開催。	
8－4	岐阜市から蒔田浩市長等の親善使節が姉妹都市のカンピーナス市を訪問。	
8－5	岩本薫九段がブラジル棋院35周年記念大会に出席の為に来伯。	
8－6	広島原爆の日にサンパウロ市のセー広場で約1000名の反核デモが行われ、イタケーラ地区のヒロシマ中学では仏式で平和祈願が行われる。	
8－8	沖縄産業開発青年隊のブラジル移住25年が祝われる。	
8－9	東芝メジカルが援協と救済会に心電計を贈る。	
8－12	サンパウロ・カトリック大学に日本語講座が新設される。	
8－15	山本喜誉司賞が市村之（ラミー）、木村忠雄（ジャガイモ）の２人に、また功労賞が蔬菜技術のサリン・シモン技師に贈られる。	
8－15	沼田武知事を迎えて千葉県人会が創立25周年を祝う。	
8－15	第３代駐伯公使杉村濬公使の孫、専修大学・福島新吾教授が学会で来伯し、鈴木南樹氏の『埋もれていく拓人の足跡』の内容に家族が迷惑していると語る。	
8－16	スザノ市の都築紡績所有の空地が2000名の不法侵入者に占拠され、９月末になり裁判所が解決にのりだす。	
8－17	ジョゼー山城がポ語で『侍の歴史』(História dos Samurais) を出版。	
8－17	プレジデンテ・ベンセスラウ市の剥製業者坂井豊が移民史料館に17点の動物の剥製を寄贈。	
8－19	サンパウロ警察に日系の賭博常連の３人が逮捕される。	
8－19	作家藤島泰輔が文協で講演。	
8－22	長野士郎知事や歌手の青山真知子を迎えて岡山県人会が創立30周年。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－26	ブラジル政府は笹川良一に南十字星勲章を贈る。	
8 -28～29	サンパウロ新聞主催の第４回民謡祭りは250万クルゼイロの純益。これを日系福祉団体に寄附。	
9－2	サンパウロ大学（USP）の課外講座に生け花が決定し、新宮清子師範の担当となる。	
9－4	高崎市から姉妹都市のサント・アンドレー市に15名の親善使節が来訪。	
9－5	ブラジル講道館有段者会が嘉納行光館長を迎えてサンパウロ市で講道館柔道百周年記念大会を行う。	
9－7	日系フェイランテ（青空市場商人）を主に襲っていたピストル強盗６人組が逮捕されたが、首領は日系の坂本和義（30歳）。	
9－11	集中豪雨で水害の被害が大きかった長崎に、長崎県人会が140万クルゼイロの見舞金を送る。	
9－12	文協の国際民族舞踊大会には14ヵ国のコロニアが参加。	
9－16	日伯文化連盟には来年３月を目安に日伯学院を開校する方針。	
9－18	国際協力事業団（JICA）の協力でペロ・オリゾンテ職業訓練センターに電子工業教室が完成。	
9－27	日系花卉生産者達が『サンパウロ花卉生産者協会』を設立。	
9－29	ブラジル仏教連合会が開拓前線への巡回布教を開始。	
10－1	サンパウロ郊外の大信田農園を500名の貧民が占拠。	
10－2	平松守彦知事を交え大分県人会が東洋街で鶴崎踊りを披露、翌日県人会創立30周年を祝う。	
10－4	浩宮徳仁親王がリオに到着、後12日間に亘りブラジル各地を回り15日にマナウスからメキシコに向けて出発。	
10－10	松本澄男（26歳）が来伯３年で獣医の資格を取得。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－17	岩崎清県会議長一行を迎えて山口県人会が創立55周年を祝う。	
10－24	東京から都市行政調査団が来訪。	
10－24	日文連主催の第２回サンパウロ日本語弁論大会で非日系の女性が優勝。	
10－29	世界救世教（MOA）がブラジル本部を落成させ、記念に浮世絵展示会を行う。	
10－30	演歌の三沢あけみが来訪。	
10－30	旧トレスバラス移住地（現アサイ）が入植50年史を刊行。	
10－31	宗像善俊副知事を迎えて大阪なにわ会が会館落成式。	
10－31	松平勇雄知事一行を迎え福島県人会が創立65周年記念式典。尚、一行はベレン方面も視察。	
11－2	大口信夫大使が帰国し伊達邦美大使が着任。	
11－2	浪曲家の東家菊燕が来訪し、サンパウロ、パラナを巡回公演。	
11－3	徳島県の三木重喜知事がブラジル訪問。	
11－3	日本政府の秋の叙勲発表でブラジル関係は18名。	
11－6	三井・吉岡農産加工のカフェー・ブラジレイロがパリのコンクールで金賞を受ける。	
11－6	サンパウロ市内の時計商梅田和弥が甥とともに強盗に射殺される。	
11－9	コチア組合幹部の給料はあまりにも高額との内部告発が有り、組合広報部は大企業や進出企業の給与水準と比較して高くないと弁明。	
11－13	日伯慈善協会の医者達がピニェイロス老人クラブのメンバーを診察し、美食、飽食と運動不足が問題となっていると発表。	
11－15		全国で総選挙。
11－20	国際交流基金の派遣で大山康晴名人が将棋指導に来伯。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－22	鈴木善幸首相が約束した医療機器が援協に到着。	
11－25	15日の選挙の結果が判明。日系の当選者はサンパウロ州が連邦下院に野村ジョウゴ(PDS)、羽藤マリオ（PMDB)、州議には下元八郎（PDS)、小林パウロ、伊波興祐（以上PMDB)、サンパウロ市会には松田セルソ（PDS)、羽藤ジョルジ、花城ゼツリオ（以上PMDB)、野田マリオ（PTB)。パラナ州では上野アントニオが5回目の下院議員当選を果たす。	
11－	今月は山田智彦、船戸与一など作家の取材旅行が多かった。	
12－1	文協に盗難事件頻発の為に、受付で身分証明書の提示を義務付ける。	
12－2	著名TV司会者フラビオ・カバルカンチが放映中に日系を非難して問題となる。数日後に公式に陳謝し、TV局も遺憾の意を表明。	
12-7～12	総領事館、JETRO（日本貿易振興会)、国際交流基金、国際観光振興会と政府の4組織が共同で、SESCにおいて『日本週間』を開き、約3万5千人が入場。	
12-7～19	州と市の文化局にMOA、日航、サンパウロ新聞が協力しての第3回サロン・ブラジレイロ・デ・アルテがMOA本部会館で開かれる。	
12－10	カラオケがブームでサンパウロ市内には38店のカラオケ・バーが営業。	
12－20	日本オリンピック委員等とともに日本水泳連盟副会長の古橋広之進が来訪。	
12－		インフレは100%程度に留めたが政府の経費増大は著しく、5月には総ての経済活動から0.5%を徴収するフンド・ソシアル（社会投資基金）を設置したがそれでは追い付かず、8月には外債が880億ドルを超え、メキシコを抜いて世界一の外債国となる。内債も260億ドルほどとなり、経済成長率は1%と発表されたが農工業はマイナス成長となった。 政府の経費増大は公社や

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	・1/13　飯塚　清（72歳）、伯国相互協会会長。 ・4/19　安芸正人（63歳）、画家。 ・4/26　山根悦子（67歳）、エスペランサ婦人会会長。 ・6/4　蜂谷専一（92歳）、蜂谷商会、サンパウロ東京銀行頭取などのほかサンパウロ商業会議所を創立し、長く会頭を務め、またサンパウロ人文研の第2代会長。 ・6/14　上永井正（83歳）、画家でパリーに在住していた。リオ市にも第2次大戦の戦中・戦後10年あまり滞在。 ・6/27　前田常左衛門（97歳）、ブラジル最大の綿作農家。 ・7/24　松原常人（35歳）、サッカーのマツバラクラブの設立者。 ・10/12　アポロニオ・ジョルジ・デ・ファリア・サーレス（80歳）、上院議員、農務大臣などを務めた政治家。ながく南米銀行名誉会長、頭取も勤めた。 ・10/19　原源造（70歳）、陸上競技の選手、晩年はイビラプエラ陸上ベテラーノ会会長だった。 ★S. マイオール著、富野幹雄編『世界の教科書・歴史・ブラジル』ほるぷ出版。 ★ジョゼ・H・ロドリゲース著、富野幹雄・住田育法訳『ブラジルの軌跡－発展途上国の民族の願望』新世界社。 ★前山隆『移民の日本回帰運動』日本放送出版協会。 ★ジョゼー・ヤマシロ『侍の歴史』（ポ語）。	政府企業の放漫経営が原因だと大統領が指摘。
1983（昭和58） 1－4	伊達邦美新駐伯大使、ブラジリア赴任の途次サンパウロに立寄り、総領事公邸で邦字新聞記者団と会見。	
1－5	日本政府の行政改革のあおりで、国際協力事業団（JICA）の「海外移住関係業務廃止」の決定が伝えられ、コロニアに衝撃。日系主要団体代表の会議を6日に開き、廃止案撤回要請の電報を関係筋へ送ることを決定。	
1－8	モジ・ダス・クルーゼス市コクエーラ植民地入植60年記念カラー映画「実りのコクエーラ」を完成。	
1－11	日本全国社会福祉協議会が「こどもの園」へ東芝の医療機械CTスキャナー135A一式を寄贈。	
1－12	サンパウロ日本総領事館、管内邦人数を1982年10月11日現在で10万2465人と発表。内永住者9万8645人で前年比1173人減。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－16	日系初の実費制老人ホーム「スザノ・イベランジア・ホーム」開所。ベッド20床で第1期運営。	
1－19	日系諸団体を驚かせたJICAの「海外移住関係業務廃止案」は日本の関係筋の運動で撤回と決定。	
1－21	コロニア文芸会の世話役的存在だった武本由夫、胃癌で死去。72歳。戦後の「コロニア文学」、「コロニア詩文学」の編集と運営の中心。	
2－1	サンパウロ市議に当選の花城ゼツリオ議員運輸局長に就任。	
2－5	精薄児への音楽療法で著名な「東京ミュージック・ボランティア協会」赤星建彦理事長着聖。	
2－18		中曽根首相が日中戦争は日本の侵略と歴代首相として初めて表明。
2－19	聖州政府、「イピランガ章」授与者発表。日系人は文化教育部門に赤間みちへ、斉藤広志、半田知雄。社会福祉部門に武藤一郎、尾身倍一、田中丑子。産業部門に西村一喜、吉岡省、山本勝造。日本移民75周年へのオメナージェン。	
2－20		クルゼイロ貨30％マクシ切下げ、抜き打ち発表。
3－10	中沢源一郎南伯農協中央会理事長に「吉川英治文化賞」（講談社）授与。	
3－11	聖州立移民収容所内に移民博物館創設。日本移民の写真パネル記録など収蔵。初代担当者木村みどり。	
4－12	野村丈吾下議、ブラジル連邦下院外交委員長に。	
4－14	ブラジル日本文化協会会長に尾身倍一選出。	
4－28	春の叙勲にブラジルから15名。	
5－22	救済会が創立25周年を祝う（憩の園に於て）。	
5－29	大阪浪花会館で徳島県人会が創立25周年祝典を挙行。	
6－18	日本移民75年祭。聖市セー寺院で先没者追悼ミサ、文化センターで仏式法要。その他各地で記念行事。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－23	全日本大学選抜軟式野球チーム聖市着。	
7－6	パラナ州首都クリチーバ市に「パラナ日伯工業技術センター」完成。７日午後、開所式典。JICA とパラナ州と姉妹県の兵庫県が大協力。	
7－6	文協の呼び掛けで南・北米７ヵ国の日系代表者会議開く。	
7－12	日本経団連経済ミッションがブラジリアでフィゲレード大統領を訪問。	
7－23	熊本県人会創立35周年記念式典。	
7－24	高知県人会創立30周年記念式典。	
7－26	伯国国際相撲協会発足。	
7－31	香川県人会と岐阜県人会が「県人移住70周年記念式典」を母県から慶祝団を迎えて開催。	
8－10	モジ・ダス・クルーゼス近郊所在、建築以来41年間、風雨に耐えて来た純日本式建物「カザロン・デ・シャ」を歴史的建築物として認可するよう州政府に申請。願いは認められたが保存経費は地元でと言われて総領事館に相談。	
8－11		韓国移民20周年記念式典聖市市立劇場で。
8－16	外務省派遣教師としてリオ市の日本人学校に赴任していた武田一馬が一時帰国の際に拳銃３丁、実弾100発を密輸していたのが発見され大阪府警が逮捕。	
8－21	山梨県人会創立30周年、埼玉県人会創立25周年それぞれの記念式典。	NHK のテレビドラマ「おしん」がブラジルでも大人気。
8－28	山形県人会創立30周年記念式典。	
9－7	赤間学院（サンパウロ女学院）創立50周年。（註：半田年表では創立６月。）	
9－18	愛媛県人会創立30周年記念式典。	
9－21	日本の国立国会図書館、移民関係文書資料の収集にブラジル日本移民史料館の協力を求める。	
10－	伯国住友銀行創立25周年。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－16	滋賀県人会創立25周年記念式典。	
10－18	ブラジル三菱銀行（元東山銀行）創立50周年。	
10－22	アルモニア学生寮創立30周年を祝う。	
10－23	岩手県人会創立25周年並びに会館完成を祝う。	
11－3	秋の叙勲で、ブラジルの日本人11名、ブラジル人3名（内日系1名）が受章。	
11－6	鹿児島県人移住70年記念祝典。栃木県人会創立25周年及び会館落成の祝典。	
―――	パラー州ベレン市対岸のバルカレーナに、日伯合弁のアルブラス社工場の建設工事が始まる。	
―――	アマゾン流域から第1回少年少女の日本訪問使節団を派遣。	
―――	永大産業がアマゾン進出10周年記念式典。	
11－10	移民史料館で特別展「初期植民地展」始まる。資料はジュケリー、イグアッペ、コチア、リンス、東京、ビリグイ、平野、カカツー、バイベン、ブレジョン、上塚の11植民地。	
11－13	宮城県人会創立30周年記念祝典。	
11－19	半田知雄、絵画シリーズ「移民の生活」45点、移民史料館へ寄贈。	
11-25～26	文協主催で、日系2、3世を対象の「日系社会の将来と展望」セミナー開催。	
11－30	日伊伯合弁ツバロン製鉄所（エスピリト・サント州ビトリア）の高炉に火が入れられ活動を開始。年産粗鋼300万トン。ウジミナス製鉄所に次ぐブラジル第3の規模。	
12－5	色摩力夫、聖市駐在新総領事着任。	
12－10	年末恒例となった聖市リベルダーデ区の「東洋祭り」開催。中国系、台湾系、韓国系の参加も年を追って盛ん。日本からはラジオ体操使節団。	
―――	★『ラテンアメリカ研究者名鑑』ラテンアメリカ協会。 ★アンドウ・ゼンパチ『ブラジル史』岩波書店。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	★斉藤広志『新しいブラジル－歴史と社会と日系人』サイマル出版会。 ★日本労働協会編『ブラジルの労働市場の特色』日本労働協会。 ★熱帯農業研究センター『ブラジルの野菜』農林統計協会。 ★堀坂浩太郎『ドキュメント・カントリーリスク－金融危機世界を走る』日本経済新聞社。 ★松岡春寿『南の国に菊咲く』（自伝）自費出版。	
1984（昭和59） 1－1	本年度事業計画として文協は総合スポーツ・センター建設、援協は病院建設に全力。	
1－7		南米最大イタイプー発電所建設のため、名勝セッテ・ケーダス水没（パラナ州）。
1－11	サンパウロ日本総領事館内（サンパウロ、マット・グロッソと三角ミナス）日本人数10万627人と発表。	
1－18	聖市ノーボ・ムンド所在「工業移住センター」（国際協力事業団）の敷地建物の対援協有償譲渡式。ここに病院を建設する計画。中心街から遠過ぎて不便という意見と郊外や奥地からは便利という意見が二分する。	
1－20	ノロエステ鉄道線ピラジュイ市の精薄施設は「今泉利彦さんの個人経営で隠れた徳行」と日伯毎日がトップで報じる。尚、収容者は全て日系以外。	
1－27	コーバス聖市市長、65歳以上の無料乗車を制度化。この年齢者の行動力を数倍増す善政と大好評。	
2－10	日本の国立国会図書館の三塚俊武総務部長、井門閲覧部新聞雑誌課長着聖。移民史料館関係者と移民の文書資料集めについて懇談。	
2－17	移住開始から30周年の「コチア青年」が記念誌刊行を企画。移住2500人の内、帰国・死亡約500人。残り実数はほぼ2000人と関係者。	
2－17	駐伯日本８公館調べで、全伯の日本人13万433人と判明。	
3－2	バルゼア・アレグレ移住地（南マット・グロッソ州）の入植25周年記念祝典。折柄の大豆景気で移住地は活気横溢。	
3－13	JETROが1983年度日伯貿易実績を発表。ブラジル側９億ドルの黒字。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－24	戦後の養蚕移民関連文書史料が移民史料館へ。寄贈者は当事者だった堀清元サンパウロ産業組合中央会主事。	
4－12	事業団（JAMIC）の中央線ジャカレイ農業移住センターのコチア産組中央会へ有償譲渡式。コチアはここに農業学校を経営する計画。	
4－24	養蚕移民移住開始30周年。	
4－25	大越秀二駐クリチーバ総領事着任。	
4－29	春の叙勲で全伯で日本人13名、ブラジル人2名が受章。	
4－29	花嫁移住25周年祭。	
5－3	IBASEC出版の本「セラード・日本占領」（Uma Ocupação Japonesa no Campo）がコロニアを驚かす。著者は神父と噂される。	
5－24		訪日のフィゲレード大統領、元赤坂の迎賓館で歓迎の宴。後、皇居で天皇と懇談。夜は中曽根首相と会談。
5－25	日本政府、セラード農業開発第2期計画に7億ドルの貸与を発表。	
5－28	JICAのブラジル現地法人ジャミック移植民会社解散に伴う所有財産処分の内、サンミゲール・アルカンジョ市のコロニア・ピニアールに譲渡される物件の譲渡式が同地日伯文化協会会館で。	
6－15	日本郵船が旧移民船の9隻の写真を移民史料館へ寄贈。土佐丸、阿波丸、備後丸、河内丸、若狭丸、神奈川丸、博多丸、讃岐丸、鎌倉丸。これで不足は旅順丸、厳島丸、第二運海丸、帝国丸の4隻と史料館が報告。	
6－18	恒例移民の日。聖市議会が特別議会を開いて祝う。	
6－19	聖州議会ホールで初の原爆展。	
7－20	創立25周年記念行事として「子供の園」が「知恵遅れの子の為の日伯シンポジウム」を文協サロンで開催。	
7－23	パラナ州サンタ・マリアナ奥山孝太郎の新種ぶどう「ルビー・オクヤマ」を日本の農水省が新品種と認定登録。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－28		ロス五輪開幕。
8－7	柔道の恩村ルイス選手、ロス五輪で銅メダル。	
8－14	サンパウロ州技術研究院（IPT）にJICAが新鋭選鉱機器を寄贈。	
8－16	海上自衛隊練習艦隊「かとり」「なつぐも」リオ入港。一行602人。	
8－19	福井県人会創立30周年記念式典。	
―――	ベレン周辺で空地に不法侵入が横行はじめ、市街に近接した日系人農地にも被害が続出してくる。	
8－22	エスペランサ婦人会創立35周年を祝う。現会員900名。	
8－26	宮崎県人会創立35周年祝典。	
9－4	海上自衛隊練習艦隊、サントス入港。	
9－5	文協で海上自衛隊コロニアの歓迎会。	
9－21	JICA創立10周年。協力功労者とコロニアの7名を表彰。	
9－22	アマゾン日本移民55周年を記念してベレン市を中心に主な日系人居住地で慶祝行事開催。（日伯毎日紙報道）尚、アマゾン地帯の日本移民は1929年9月23日のパラ州アカラ（現トメアスー）入植が初め。	
10－4	モジ郊外所在の通称「カザロン・デ・シャ」が聖州文化局によって歴史的建造物として認められ、同局が発行する一連の記録文献の第1号「カザロン・デ・シャ」が刊行され、5日には出版記念会がジアリオ・デ・モジ社内で催された。	「カザロン・デ・シャ」は重要文化財として認められているが、その保存には苦労が伴っている。
10－7	大阪なにわ会館に於いて伯国日本語学校連合会（日学連）創立30周年記念祝典。	
10－21	大阪なにわ会館に於いて広島県人会創立30周年記念祝典。	
10－28	青森県人会創立30周年記念祝典。	
11－3	秋の叙勲で日本人11名、ブラジル人2名受章。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－6	三木申三徳島県知事、聖州と姉妹州県友好協定をモントーロ知事の間で調印。 経団連ミッション来伯。フィゲレード大統領訪日への答礼。	
11－11	長野県人会創立25周年記念式典。	
12－3	援協と旧ジャミックとの間で、旧工業移住センターの移譲登記完了。日伯友好病院建設の機運に弾み。	
12－		バイア州北部バレーラス地方のセラード開発計画にコチア産組中央会が積極的参加態勢を示す。
	死　亡　・12/26 南伯農協中央会中沢源一郎理事長。77歳。前援協、前文協会長。 ・1/27　千葉皓元駐ブラジル大使。 ・4/11　斉藤広志サンパウロ大教授。死後叙勲として勲三等旭日章。	
	刊行物　★水野一『ブラジル日系企業の研究』文部省。 ★斉藤広志『ブラジルと日本人－異文化に生きて50年』サイマル出版会。 ★寺田愼一『アマゾンの農業開発』熱帯農業研究センター。 ★『宮坂幾別春遺句集』南米銀行。 ★河合武夫『古猿録』サンパウロ人文科学研究所。 ★『菊のした水』（和田周一郎伝）サンパウロ新聞社。 ★馬場てる子『消えゆく南十字星』南伯農協50周年記念出版。 ポ語版 “Superando as Limitações”	
1985（昭和60） 1－4	札幌少年野球選抜チーム来聖。	
1－5	サンパウロ総領事館管内の邦人9万8，759人と10万人を割る。	
1－15		タンクレード・ネーベス大統領に当選。
1－20		ブラジル最大のグァルーリョス国際空港開港。
1－25		サンパウロ市創設430周年記念式典。 USP（サンパウロ大学）創設50周年記念式典。
2－2	グァタパラ移住地でJICA財産譲渡式。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
2－7	日本語能力一斉試験でブラジルの1級受験者トップ成績。	
3－15	福田赳夫元総理、新大統領就任式に来伯。	
3－23	ポンペイア農工高校（ジャクト農機西村俊治が私費で作った学校）の第1期生29人が卒業。	
4－12	ブラジル日本商工会議所会頭にブラジル・カネボウ社長別役道昌就任。	
4－13	ブラジル日本文化協会尾身培一会長再選。	
4－21		タンクレード・ネーベス大統領死去。後任にジョゼー・サルネイ副大統領。
5－1	田中竜男、三塚博衆議、農拓協強化問題で来聖。	
5－5	みずほ村（サン・ベルナルド・ド・カンポ）入植50年祭。	
5－8	JICA海外開発青年制度発足。	
5－14	「日本語普及センター」発会式。	
5－19	ブラジル原爆被爆者協会初総会。	
5－20	毎日新聞社主催「海外移住と国際化」シンポジウム。	
6－22	新宿コマ劇場で援協日本病院建設の為、北島三郎がチャリティショー。竹中援協会長に450万円手渡す。	
7－12	神戸市に日伯交流協会発足。	
7－16	久島啓太選手等相撲親善使節団来伯。	
7－21	富山県とサンパウロ州が友好提携協定調印。	
7－28	コチア青年、渡伯30周年記念式典開催。	
9－1	イタケーラ、コロニア入植60周年記念祝典開く。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－11	第1回ゲートボール親善使節団訪日、日伯親善ゲートボール大会を開く。	
9－30	阿部晋太郎外相ブラジル訪問。	
10－24	アルブラスがサルネイ大統領を迎えて開所式。日本からは岩動道行参議を団長とする70人が参加。アルブラスは年間16万トンのアルミ地金を生産、その70%が日本に輸出される。	
11－1	駐サンパウロ総領事に小野純男、ベレン総領事に大川忠治発令。	
11－3	産婆一筋50年の佐藤カメノ（74歳）に勲六等瑞宝章の叙勲。	
11－24	“カズ”こと三浦和良、サッカー聖州選手権公式試合に日本人として初出場。	
―――	死亡　・1/2　永島倫二（63）永島会計事務所代表。 ・1/7　畠山道生（73）サドキン電球副社長。 ・6/17　笹谷新市（79）前プロズトーレス倉庫会社副社長。 ・6/30　宮武勝（77）バストス週報社長。 ・7/19　富岡清治（92）画家、俳人。 ・7/23　吉雄武（76）カサバーバ製麻社長。 ・8/8　菊池軍兵（80）栃木県人会長。 ・8/17　有村紀央（55）サントアンドレー市議会副議長。 ・9/17　中久保益太郎（78）わかもと社長。 ・10/12　武藤一郎（65）南米銀行副社長。 ・10/12　和田進（74）元ペレイラ・バレット文協会長。 ・10/14　藤平正義（73）シブラン商事社長。 ・10/26　木原暢（77）医師。 ・10/30　市丸順一（68）農業、ブラガンサ・パウリスタ。 ・11/4　塚本彰美（75）建築技師。 刊行物　★『アマゾン地域における邦人移住の歩み』汎アマゾニア日伯文化協会編。 ★藤田留雄『回想録－移民の手記－遥なる丘』。 ★佐藤常蔵『ブラジル全史』。 ★清谷益次『遠い日々のこと』自費出版。 ★赤間学院『写真で見る学院史』。	この年にカラジャス鉱山からマラニオン州のポンタ・ダ・マデイラ港までの890キロの鉄道が完成。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	★『ブラジルの温帯果樹』平松薫。南伯農協中央会。 ★清谷益次『わが道を行くひとたち』南伯農協中央会。 ★コチア青年連絡協議会『コチア青年移住30年史』アグロナセンテ出版社。 ★D. シェルトン著、関西ラテンアメリカ研究会訳『奇蹟の犠牲者たち、ブラジルの開発とインディオ』現代企画社。 ★伊沢紘生著『アマゾン動物記』どうぶつ社。 ★椰子樹社『椰子樹』200号記念別冊特集。	
1986（昭和61） 2－15	JICA海外開発青年第1期生13人来伯。	
2－25	ブラジル生まれのタイ残留日本兵、坂井勇（69）、長女のソンブンを伴って日本航空の好意の46年振りの里帰り。	
2－27		インフレ対策に政府がクルザード・プランを発令。このあと90年まで数多くの経済プランが乱発される。
2－28	伊達邦美大使に帰国令。	
3－1		IBC（ブラジルコーヒー院）東京事務所閉鎖。
3－4	駐ブラジル大使に小村康一発令。	
3－11	営農に破れ帰国した黒崎厚、宮崎忠太郎の日本政府に対する損害賠償訴訟、最高裁で敗訴。	
3－21	県連総会、県連会館設立お預け。	
4－2	80歳の舞踏家大野一雄一行来聖、公演。	
4－10	ブラジルで歌舞伎初公演。	
6－8	全伯日系陸上競技大会50回を迎える。	
6－9	大相撲幕下の伯山桃太郎（パスコアル・ポスケ）廃業。	
6－21	日伯友好病院定礎式。	
6－24	農拓協、テイシェイラ・デ・フレイタス（バイア州）に独自の移住地造成を決定。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－9	邦画館、年内閉鎖確定。	
―――	マナウスに日系企業の進出が盛んとなる。	
―――	作家三好徹がアマゾン来訪。	
7－27	南米産業開発青年隊、渡伯30周年記念祭。	
8－11	サンパウロで初の中南米大使会議。	
9－25	出家し、先没者の法要に奥地を巡回していた元日本移住家族会連合会事務局長藤川真弘（俗名辰雄）アマゾン河で入水自殺。	
10－2	パラグワイ「日本人移住50年祭」挙行。	
10－3	常陸宮御夫妻がパラグワイ日本移住50周年記念式典に出席の帰途、サンパウロ訪問。	
10－	宝田豊造（66）日伯友好病院建設に500万クルザード相当の金塊を寄附。	
11－7	福島県浪江町から町ぐるみ訪問団100人来聖。	
11－15	1986年総選挙。日系立候補者下議20人、州議39人の乱立。結果は下議3、州議4名が当選。	
11－17	日伯文化連盟（アリアンサ）30周年記念式典。	
12－1	田付七太の銅像（1927年ノロエステ線の日本移民が贈呈したもの）を移民資料館に寄贈。	
	死　亡 ・1/11　佐藤忠四郎（69）ノロエステ連合文協会長。 ・1/17　阿部　望（67）伯国柔道連審判員。 ・1/20　安東義良（88）在日本、元ブラジル大使。 ・1/21　釘宮綾雄（79）元ピロット輸出入会社々長。 ・2/17　竹田仙造（75）野球振興功労者。 ・3/2　山口昇三郎（81）元東山銀行社長。 ・3/21　大家　好（67）大家商工代表。 ・4/4　羽瀬作良（92）羽瀬商会代表。 ・4/23　友保山司　コチア青年パラカツ農牧専務。 ・5/8　山本辰雄（69）サンスイ工業社長、援協理事。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	・6/9　宮平カメ（104）笠戸丸移民。 ・9/25　前田重森（82）イビウナ文協会長、コチア産組指導者。 ・11/10　松本竜一（85）みずほ村々長、援協理事。 ・11/18　新宮良範（73）曹洞宗南米別院仏心寺開教総監。在日本。 [redacted] ★半田知雄著『ブラジルの移民の生活－半田知雄画文集』無明舎刊。 ★吉田ルミ子編『ラテンアメリカ地域日本語文献目録1975－85』アジア経済研究所。 ★小田睦男編『概説ブラジル史』有斐閣。 ★水野一編『ラテンアメリカ社会と貧困』上智大学イベロアメリカ研究所。 ★東田直彦『借金国の経済学　ブラジルもう一つの経済原理』日本経済新聞社。 ★中牧弘允『新世界の日本宗教－日本の神々と異文明』平凡社。 ★北杜夫『「輝ける碧き空の下で　第二部』新潮社。 ★西村俊治『路ひとすじ』（自伝）自費出版。 ★角田房子『宮坂國人伝』南米銀行。	
1987（昭和62） 1－6	渡辺美智雄衆議院議員来聖。	
1－7	評論家立花隆来聖。イエズス会遺跡取材に来伯したもの。	
1－13	坂根茂、日向ノエミア共著『ローマ字ポ和辞典』完成。	
1－21	聖市総領事管内邦人数９万5,764人。昨年比で1713人減少。	
1－26	天理教団ツアーの一員、間野忠夫が拳銃16丁、実弾538発密輸。広島県警に逮捕される。	
1－28	旧ジャミック譲渡のバルゼア・アレグレ牧場購入を巡って紛争発生。	
2－9	サン・ベルナルド・ド・カンポ市市議会が植松ミゲル、田中清両日系市議を議会正副議長に選出。	
2－12	日本通産省発案の定年退職者の海外居住者を目的とするシルバーコロンビア計画、コロニアでも話題となる。	
3－10	ゼツリオ花城州議、州政府メトロポリターノ長官に就任。	
3－12	日本工業大学水野坦教授来伯。人文研実施の日系人口調査の為。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－15	南マット・グロッソ州で日系初の州副知事に滝本ジョルジュ就任。	
3－25	花嫁日照りの日本農村からコロニアに嫁探しに来る。	
3－30	友好病院に日本から一億円の援助届く。	
4－7	世界救世教南米本部会館、開館式挙行される。	
4－12	第28回日本語教職員講習会決算報告書問題で下本八郎会長等執行部が日学連事務所を強行閉鎖敢行したのに抗議し、安江信一事務局長、ピストル自殺。	
4－16	サンパウロ大学日本語学科に大学院創設の見通しなる。	
4－29	日本政府、春の生存者叙勲でブラジル関係者は勲四等榛葉隆一（70）はじめ８名。	
5－3	ブラジリア日伯文化協会連合会は連邦直轄区移住30周年を祝う。	
5－7	イビウーナ市と宮崎県串間市が姉妹都市となる。	
5－15	ジェニー・ワキサカUSP日本語学科教授文学博士号取得。	
5－16	松平康隆アジア・バレーボール連盟会長来伯。	
5－28	なぎなた普及に高橋初江日本なぎなた連盟範士が来伯。	
6－3	シネ松竹28年の歴史を６月一杯で閉じる。	
6－13	北パラナ・マリアルバ入植50周年。	
6－20	援協日伯友好病院上棟式。	
6－29	広中和歌子参議院議員来伯。	
7－14	サッカー留学の“カズ”こと三浦和良、インテル・チームと正式契約。	
7－17	チャリティーショーのために全盲の歌手竜鉄也来伯。	
7－18	日本移民八十年祭委員会発足式。文協室内体育館・文化施設落成式。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－26	福島県人会創立70周年。	
7－31	日系初の将軍誕生。川南政雄少将。	
8－12	サンパウロ日本人学校創立20周年を祝う。	
8－16	千葉県人会創立30周年記念式典。	
―――	胡椒相場が暴落し、アマゾン流域からも日本出稼ぎが盛んとなる。	
8－17	サンパウロ市で開催された第２回国際建築会議に日本代表として黒川紀章夫妻が出席。	
8－22	山口県人会創立60周年、長崎県人会創立25周年をそれぞれ祝う。	
9－8	第５回日本現代音楽週間開幕。服部公一がピアノの井手美佐子と来聖。 中野隆昭MOA理事長来聖。	
9－15	コチア産業組合中央会創立60周年を祝う。	
9－18	「浮世絵三百年展」MASP（サンパウロ美術館）で開幕。	
9－20	援協カンポス・サナトリオ創設50周年を祝う。	
10－3	大分県人会創立35周年。	
10－7	リオ日系協会が80年記念事業で醍醐麻沙夫著『森の夢』ポ語訳刊行決める。	
10－11	第３アリアンサ富山村60周年を祝う。	
10－	ブラジルからの出稼ぎが日本でも話題なる。	
10－	コチア産組、ジャカレイに農業高校落成。	
10－20	日伯友好病院長に菅原正視博士就任。	
10－25	石川県人会創立50周年、中西陽一知事を迎え、歓迎式典挙行。	
11－3	日本政府、秋の生存者叙勲でレナット・ダ・コスタ・リーマ元農相が勲一等瑞宝章。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	日系人では勲五等角田歳丸と門馬金雄の２人。	
11－9	ブラジル日本移民80年祭の日本側委員会体制固まる。会長は田中龍夫代議士。80年祭シンボルマークと標語『日伯を結びて移民80年』と決まる。	
11－13	日本へＵターン出稼ぎ問題化。労働省が実情調査へ。	
12－11	連邦政府労働功労章に橘富士雄、井上忠志、山本勝造、漆間宏、前田隆之、水本光任。	
―――		●日系人出稼ぎ ブラジルからのＵターン出稼ぎは85年頃から発生し、87年頃に１世を中心に拡大した。この当時、２世の出稼ぎも見られたが、当時、入管法改正前であり、他の外国人労働者同様の様々な問題に直面した。 ２世の出稼ぎが急増するのは89年からで、90年６月の入管法前後をピークとする。
	死亡者　・5/18　押切他男元トメアスー産組理事長（76歳）。 ・10/16　鈴木威（78歳、建築技師、元マッケンジー大学教授）。	
	刊行物　★大貫良夫、落合一泰、国本伊代、福島正徳、松下洋監修『ラテン・アメリカを知る事典』平凡社。 ★堀坂浩太郎『転換期のブラジル－民主化と経済再建』サイマル出版会。 ★丸谷吉男編『ラテンアメリカの経済開発と産業政策－累積債務危機下の戦略産業』アジア経済研究所。 ★コチア産組中央会刊行委員会『コチア産業組合中央会60年の歩み』コチア組合中央会。 ★山根一眞『アマゾン入門』文藝春秋社。 ★西田季子歌集『やまばと』自費出版。 ★半田知雄『移民の生活の歴史』ポ語訳版 "O Imigrante Japonês-História de sua Vida no Brasil" T・A・Queiroz Editora Centro de Estudos Nipo-Brasileiros。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1988（昭和63） 1－7	サンパウロ総領事館が管内邦人数93,767人と発表。	
1－10		ブラジル南部地方に大降雹、リンゴ生産に大被害。
1－13	国際協力事業団の第1回日本語学校教師本邦研修生10人が訪日。	
1－30	半田知雄「移民の生活の歴史」のポ語版出版記念会催される。	
2－1	日系エイズ患者が死亡。針灸感染と断定される。	
2－20	日本語普及センターが創立総会行う。初代会長橘富士雄。	
2－	福島県のブラジルでの嫁探しが具体化。	
2－22	日伯間の週一便で日航・パリグの共同運行調印式行われる。	
2－	TVマンシェッテが東映アニメーションを放映開始。	
2－28	伯国日語学校連合会総会で日本語普及センターへの合併が承認される。	
3－19	サッカーのキンゼ・デ・ジャウーチームのカズ（三浦和良）がコリンチャンス戦で日本人として初ゴールを決める。	
3－20	屋比久孟清著の『ブラジル沖縄移民誌』出版祝賀会行われる。	
3－29	歌手水前寺清子が来聖。	
4－3	第30回虚子忌全伯俳句大会開かれる。	
4－9	リベルダーデ広場にラジオ体操記念塔建つ。	
4－12	ソールナッセンテ人材銀行の女性出稼ぎ第1陣出発。	
4－18	第1回全伯プレ・ジュニオール野球大会でサンパウロチーム優勝。	
4－29	日本政府の春の叙勲でブラジル関係者は32人。アントニオ上野下院議員は勲二等旭日章。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－30	日伯友好病院が完成。倉成前外相ら迎え建設会社からの引渡し式が行われる。	
5－1	第40回全伯選抜野球大会でソロカバナチームが優勝する。	
5－3	国際協力事業団が実施したアルゼンチン日系人口実態調査の結果は47,300人と発表される。	
5－10	移民史料館が「10年の歩み」写真特別展示を行う。	
5－	リベルダーデ商工会の新会館「東洋センター」の起工式。	
5－13		ブラジル奴隷解放百年祭行われる。
5－16	サンパウロ人文科学研究所は日系総人口を116万人、純日系は84万人、世帯総数は33万7千と調査中間発表。	
5－	全日本バレーボール選手団が着聖。	
5－18	日本移民80年祭出席のため礼宮の訪伯が決定。	
5－21	笠戸丸移民の児玉良一が里帰り。	
5－25	ブラジル日系2世中心のブラジル日系協会が誕生。	
5－29	救済会創立45周年、憩の園創設30周年の記念式典が催される。	
5－	岐阜県人会創設50周年記念式典催される。	
6－7	日本全国知事会発表によると、移民80年祭祝賀使節は7県知事、副知事は12都道府県、出納長は7県、合わせて26都道府県が参加。	
6－10	俳優杉良太郎来伯。	
6－11	パラナ州で移民80年祭物産展開催される。	
6－12	日伯国際交流シンポジウム開幕。	
6－14	歌手北島三郎、山本譲二ら来聖。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－	専永家元等迎え、池の坊ブラジル支部が20周年花展を開催。	
6－16	礼宮ブラジリア空軍基地に到着。 17日にサンパウロ訪問。	
6－17	サンパウロ市で開拓先没者慰霊ミサと法要が行われる。	
6－18	ブラジル日本移民80年祭祝典がパカエンブー競技場で開催され、サルネイ大統領と礼宮が参列。 その他の記念行事としては、 －日伯病院イナウグラソン（開院式）。 －サンパウロ七夕祭り実施。 －ブラジル日系美術家展開催等。	
6－19	コチア青年パラカツ農牧（株）ムンド・ノーボ牧場が創立10周年を祝う。	
6－19	高知県人会が中村副知事迎え、創立35周年記念式典行う。	
6－21	礼宮マナウス到着。 有吉ハワイ州前知事夫妻来聖。	
6－22	礼宮ベレン到着。	
6－23	カシオペア（ロックグループ）と歌手近藤真彦来聖。 毎日新聞社・日航共催の文化講演会（大山康晴将棋永世名人、作家山田智彦）。	
6－24	礼宮リオから帰国。 モジ市で秋祭り花火大会実施。	
6－30	ゼツリオ・ハナシロ聖州交通長官辞任し、PSDB（民社党）に移る。	
7－2	第1回国際カラオケ大会開催。ブラジル優勝。	
7－6	ブラジル東芝が20周年を祝う。	
7－9	バストス入植60周年記念行事始まる。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－10	日本移民80周年記念沖縄郷土祭りが催される。	
7－12	読売サッカークラブ初来伯。	
7－14	三重県・聖州姉妹都市提携15周年。	
7－19	日本移民80年記念ビデオ（祭典委員会製作）が発売される。	
7－24	徳島県人会創立30周年記念式典が行われる。	
7－28	慶応大野球チーム来伯。対ブラジル戦4戦4勝。	
8－4	日伯友好病院に国際協力事業団（JICA）の援助による医療機器の伝達式。	
8－6	ウバツーバ日本人会が移民80年祭と創立30年祭式典を行う。	
8－8	愛知県人会創立30周年式典。	
8－14	ツクルビー文協が創立45周年記念式典を行う。	
8－17	ブラジル永大が創立15周年記念パーティを催す。	
8－19	マナウスに初の日系人個人のアマゾン自然科学博物館が建設される。	
8－23	ブラジル・ナショナルがビデオ業界に「パナソニック」で参入。	
8－28	ブラジル熊本県人会が創立30周年記念式典を催す。	
9－1	モジ市で第1回日系画家美術展が開催される。	
9－3	日本移民80周年記念の日本現代音楽週間が開幕。	
9－11	椰子樹創刊50周年記念の第40回全伯短歌大会催される。	
9－14	朝日新聞国際衛星版ブラジル発行1周年記念講演会。	
9－19	天皇陛下の容体悪化、コロニアにも衝撃走る。 22日に日系4団体がセー大寺院で快癒祈念ミサ。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－25	南米浄土宗別院日伯寺が開教35周年祝典とセンター上棟式行う。	
10－15	第10回念腹忌俳句会催される。	
10－23	アルモニア学生寮の創立35周年式典が催される。	
10－30	静岡県人会が会館落成式と創立30周年記念式典を催す。	
11－3	日本政府、秋の叙勲者は在留邦人（帰化人含む）11人、ブラジル2人の計13人。	
11－22	聖市議会選挙の全開票が終了。新市議53人が確定。そのうち日系市議は現役のジョージ羽藤、マリオ野田、前州議のパウロ小林、新人の神谷牛太郎の4人が当選。	
12－2	出稼ぎ、旅券申請で総領事館大混雑。	
12－4	北パラナ運動連盟創立40周年。	
―――	汎アマゾニア日伯協会創立30周年の記念式典。またアマゾン日本人移住60周年祭委員会が発足。	
	死亡　・1/2　県連名誉会長和田周一郎（86歳）。 ・5/11　元汎アマゾニア日伯協会会長の越知栄（82歳）。	
6－28	刊行物　★角田房子著『アマゾンの歌』ポ語訳出版。 ★日本ブラジル中央協会編『ブラジルに関する日本語文献目録』。 ★石井章編『ラテンアメリカの都市と農業』アジア経済研究所。 ★伊藤千尋『燃える中南米－特派員報告』岩波書店。 ★三山裕三『ブラジルの投資関係法』アジア経済研究所。 ★『ブラジルに於ける日系人口調査報告書1987-1988』サンパウロ人文科学研究所。 ★丸谷吉男編『ラテンアメリカの経済危機と外国投資』アジア経済研究所。 ★佐藤常蔵『ブラジル全史』トッパン・プレス印刷出版社。 ★半田知雄『愛はいつまでも』自費出版。 ★滝井康民作品集『きずな』自費出版。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1989 (昭和64/平成元年) 1－1	小林パウロ市議サンパウロ市議会日系初の第1副議長に選出。	ルイザ・エルンジーナ、サンパウロ市長に就任。
1－5	日本棋院・在サンパウロ南米囲碁会館落成式。	
1－7		昭和天皇崩御。
1－9	天皇陛下崩御を奉悼する弔問記帳が各地日本総領事館管轄地域で行われた。サンパウロ市では総領事館と文化センター講堂に分れて弔問記帳がなされた。総領事館1,100名、文化センター4,875名。	
1－12	昭和天皇奉悼ミサと佛式奉悼会が文化センター講堂で行われる。	
1－15		大統領、インフレ撲滅“夏季プラン”発表。物価・給与の無期限凍結。 クルザード・ノーボNCZ$、デノミ1000分の1。
1－18	統政剛教授（56）、保健・衛生大臣就任。日系史上3人目の大臣。	
1－20		アメリカ第41代大統領ジョージ・ブッシュ（64）就任。
2－1	南マットグロッソ州日伯文化連合会創立25周年記念誌“躍進への道”刊行。	
2－10	岐阜市名和昆虫博物館名和秀雄館長夫妻、昆虫採集・生態研究のため来伯、講演を行う。	
2－11	比嘉信克判事、南マットグロッソ州上級裁判所長官に任命さる。	
2－14	ブラジル日本文化協会ビル内の援護協会診療所は日本への出稼ぎ希望の若者達の健康診断や検査に大童わ。尚、アマゾン方面でも領事館前に査証を求める人の行列が出来る状態となった。	
2－24	サンパウロ日本文化センターで昭和天皇歛葬の儀遥拝式挙行。文化協会、援護協会、県人会連合会、商工会議所、明治神宮崇敬会、伊勢神宮ブラジル崇敬会共催。	
2－26		ブッシュ米大統領、中国訪問。
2－27	訪日の尾身倍一ブラジル日本文化協会会長等、海外日系代表、大喪の儀出席。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－4	リオ日系協会で高尾勇会長選出。初の２世会長。	
3－18	援協創立30周年記念式典、功労者を表彰。	
3－31	南伯農業協同組合中央会定期総会においてマイナス成長報告、インフレによる営農危機著しい。	
3－26		エリツィン、ソ連人民代議員選挙勝利。
4－4	ブラジル日本文化協会定期総会、尾身倍一会長４選。	
4－20	ブラジル国外務大臣が竹中正援協会長・日伯友好病院経営審議会会長にリオ・ブランコ勲章を贈る。福祉事業尽力による。	
5－20		中国北京市内で学生・市民デモ。新中国成立（1949年）以来、初めての戒厳令施行。
6－3		イラン・イスラム革命の最高指導者ルオラ・ムサビ・ホメイニ師（86）死亡。
6－4		天安門広場デモを武力制圧。
6－6	日航名人会が三笑亭夢楽師匠等５名によって、ベレンSESI劇場で行われる。	
7－22	「こどもの園」30周年記念式典。	
8－24	日本海上自衛隊練習艦“かとり”、“さわゆき”、“あさゆき”サントスに入港。	
8－27	宮崎県人会創立40周年記念式典挙行。松形知事夫妻、101人の慶祝団とともに出席。	
10－12	南米日系出稼ぎ人2000人から、給金のピンハネで１年間に34億円を稼いでいたという「三協」三原常雄社長を労働者派遣法違反罪で、神奈川県警が逮捕。同社は1986年サンパウロ市にも「三協海外エンタープライズ」を設立。日本出稼ぎ者より給料のピンハネをしていた。	
10－	カラオケブームが高齢者層にもひろがり、ますます盛況。サンパウロ市内だけでも100余りのクラブがあると新聞報道。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－17		米国サンフランシスコ市一帯、M6.9の大地震。
10－28	青森県人会創立35周年記念式典、北村正哉知事出席。 栃木県人会創立30周年記念式典、母県渡辺文雄知事出席。	
11－9		ベルリンの壁、消滅。
11－14	長野県人会創立30周年記念式典挙行。日本より吉村午良知事夫妻、県会議長等多数慶祝団出席。	
11－25	11月30日までの6日間にわたり、ベレン、トメアスーなどでアマゾン日本人移住60年祭典が繰り広げられ、日本やブラジル南部から300人近い人が参加。	
12－3		ブッシュ米大統領・ゴルバチョフ・ソ連最高会議議長のマルタ島で行われた会談により"冷戦の終わり"が成立。
12－17		フェルナンド・コロール・デ・メーロが新大統領に選出される。
	死亡　・8/9　水本毅（水本商会社長、リベルダーデ商工会会長・文協副会長）。(69歳)。 ・9/19　児玉良一（95歳）ブ・プルデンテ自宅にて。第1回笠戸丸移民生き残りの一人。	
	刊行物　★ラテンアメリカ協会編『ラテンアメリカ事典』。 ★アルフレッド・C・ステパン著、堀坂浩太郎訳『ポスト権威主義－ラテンアメリカ・スペインの民主化と軍部』同文館。 ★森下郁子『アマゾン河紀行－原始の川を診る』日本放送出版協会。 ★伊藤直『南米から見た日本人』サイマル出版。 ★大里義久『遠い道　人生百年』。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1990（平成2） 1－18	山口県岩国市とサンパウロ州ジュンジアイ市提携仮調印。	
1－24	リベルダーデ東洋街発展の為に功績のあった故水本毅（69）リベルダーデ商工会会長に日本外務省死後叙勲として勲五等双光旭日章を伝達。	
2－1	第２次大戦勃発と同時に敵性資産として接収されたサンタ・クルース病院（旧日本病院）の返還運動がライオンズクラブ日系人を中心に進められていたが、同病院役員会医師会に日系人半数参加に病院側は同意。13日サルネイ大統領も日伯合意書にサイン、旧日本病院の日系への返還に大きく一歩を踏み出す。	
2－2	リベルダーデ商工会、リベルダーデ通りに東洋文化会館を建設。落成式挙行。	
2－21	サンパウロ美術館で「珠玉の日本美術名宝展」開催。	
2－	ー山形県実習生が嫁探し。 県がブラジルに派遣した国際体験実習生７人は、実習のかたわら日本で不足の花嫁探しも行っていたが、同県人会の熱心な斡旋もあって３組のカップルが誕生。	２月のインフレ72.78％とIBGE発表。サルネイ政権５年間のインフレ率は100万％に達した。
3－8	日本の「現代版画展」がサンパウロ、リオなど８ヵ所で開催。	
3－11	ブラジル日蓮正宗の創立30周年記念「世界平和文化祭」サンパウロで開催さる。	
3－14	竹下登元総理がコーロル新大統領就任式列席の為ブラジリアへ。17日元総理は11月に２・３世250人を日本へ招待と発表。	
3－15		コーロル新大統領就任。
3－20	第１回パンアメリカン少年野球大会でブラジル・チーム優勝。	
3－26		大量の日系ブラジル人を不法斡旋したとして日本の「三協工業（株）」有罪判決。
4－1	日本でデビュー２年目の日系３世歌手マルシアが初のアルバム「抱きしめて」発表。	
4－11	国道116号線ミラカツー管内で交通事故の為レジストロのゲートボールチーム15名死亡。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－11	サンパウロ総領事館の訪日ビザ発給数３ヵ月で１万を突破。日系２～３世の出稼ぎ急増。	
4－16	日系企業パカエンブー製油（食用油）が和議申請。	
4－29	“春の叙勲”でサンパウロ管内、山本勝造以下10名が叙勲、伝達される。	
4－	日系旅行社各社出稼ぎブームに助けられて好実績。	
5－13	出稼ぎでモジ・ダス・クルーゼスの日系農家が激減。野菜類が異状な高値とポ語紙のルポ。	
5－13	リオ州日伯文化体育連盟（原林平理事長）では創立35周年記念式典開催。傘下に州内各地の23日系団体加盟。	
5－18	歌手マルシアが里帰り公演の為帰国。	
5－21	パラナ・兵庫県姉妹州提携20周年祭開催。	
6－1	日本法務省が入国管理法を改正実施。日系人の日本入国・在留の条件が緩和される。	
6－3	福岡県人ブラジル移住80周年・在伯福岡県人会創立60周年記念式典開催。	
6－5	横綱千代の富士・北勝海ら日本大相撲一行100人、ブラジル公演の為来伯。９～11日の３日間に渡り、サンパウロ・イビラプエイラ体育館で興行。	
6－13	東京都・サンパウロ州州都友好交流協定調印の為、鈴木俊一都知事が来伯。州政庁パンデイランテス宮においてオレステス・クエルシア知事との間で調印。	
6－28		ペルー国で初めての日系大統領にアルベルト・フジモリ就任。
7－15	秋田県人会創立30周年記念・新会館落成式典開催。前日（14日）東洋街で秋田の“竿灯”も披露。	
8－1	日系主要旅行社による旅行社協会設立。	
8－1	サンパウロ総領事館前に出稼ぎ者ビザ発給を求め、１日平均200人に上る長蛇の列。総領事館は大混乱。過労の為領事・職員がバタバタと倒れるまでに発展。	
8－5	佐賀県人ブラジル移住80周年・在伯佐賀県人会35周年記念式典開催。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－28	第23回山本喜誉司賞。熊谷春雄・清市兄弟（ゴヤバ改良栽培）七種忠利（ピメントン栽培）らが授賞。	
8－28	岡山県人ブラジル移住80周年及び留守家族制度創設30周年記念式典開催。	
8－28	日本語普及センター落成式挙行。	
9－6	竹下登元総理の提唱により実現した“ふるさと創生訪日団”の役員及び団員251名が決定。	
9－9	オペラ歌手岡村喬来伯公演。	
9－15	ベレンに「アマゾン日伯文化交流センター」が落成。	
9－18	セラード開発プロジェクトの一環、バイア州バレイラス在コチア組合の団地入植者、融資資金の停滞のため崩壊の危機に直面。	
10－7	憩の園に新ホーム完成。救済会の“憩の園”は日系社会の高齢化に対処して療養施設と特別養護老人ホームを建設。落成式を挙行。	
10－17	移民80年祭記念事業の一環としてサンパウロ人文科学研究所が行って来た「日系人口調査」が完了。その全容を発表。 これにより、日系総人口は122万8千と判明。日系2～3世の台頭、混血化の進捗とともに高齢化傾向も指摘される。	東西ドイツ41年間の分割の歴史に終止符。統一なる。
10－18	日系史上最高の7下議誕生。 総選挙開票の結果、日系連邦下院議員が史上最多の7人に。サンパウロ州議は3名。ブラジリア連邦区議に1名当選。	
10－25	依然続く出稼ぎ増加で、サンパウロ総領事館のビザ発給は今年4万件突破。	
10－25	日系4大移住地の一つ、チエテ移住地（パレットス）のシンボルであったチエテ橋（ポンテ・ノーボ・オリエンテ）がダム建設の犠牲となって湖底に姿を消す。60年に渡って移住地を支えて来た由緒ある橋であった。	
11－3	日本政府が秋の叙勲者を発表。ブラジルからは13名。	
11－5	「ふるさと創生訪日団」249人出発。10日間の日伯交流を果たす。（19日帰国）	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－12	天皇即位の礼にブラジル代表として招待された尾身倍一ブラジル日本文化協会会長、橋富士雄ブラジル日本商工会議所名誉会長等６名参列。	
11－18	ニッポン・カントリー・クラブ（山本勝造会長）創立30周年記念式典開催。	
11－18	希望の家福祉協会創立20周年記念式典並びにチャリティー・ショー開催。	
11－20	日系人不法派遣の疑いでイムラ開発社長等逮捕される。	
12－8		**「ソ連邦」消滅を宣言。** 69年の歴史に幕。「独立国家共同体」創設。
	死亡 ・1/15　アイヌ彫り彫刻家戸塚ユポ（53才）。 ・4/13　渡部重（南仙子）（82歳）。コロニア現代俳句リーダー。 ・6/30　西村一喜（89歳）。元コチア産業組合理事、伯国相撲連盟会長。 ・10/3　宮部一郎（101歳）在東京。元全農協中央会理事・元家の光協会々長・コチア青年移民生みの親。	
	刊行物 ★ヘンリー・W・ベイツ著、長沢純夫訳『アマゾン河の博物学者』思索社。 ★中隅哲郎著『パンタナール』無明舎出版。 ★西島幸次編『ラテンアメリカのインフレーション』アジア経済研究所。 ★向寿一『国家破産－累積債務と世界マネー循環』講談社。	
1991（平成３） １－１	小林パウロ・サンパウロ市会議員、市議会議長に選出される。サンパウロ市の市会議長としては日系ではじめて。	
１－９	サンパウロ人文科学研究所、日本の統計数理研究所（林知己夫代表）グループと共同で「ブラジル日系人の意識」調査を開始。	
１－17		ペルシャ湾岸戦争始まる。 （２月27日戦闘停止）
１－22	静岡県浜松市内のスーパーで万引き被害続出の為、ブラジル人お断りとの表示が出現。	
１－28	サンパウロ日伯援護協会、サントス厚生ホーム落成式挙行。	
２－４	彫刻家豊田豊、サンパウロ美術評議会から90年度最優秀作家賞授賞。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
2－25	91歳の梅津フユ（福島県出身、1913年渡伯）玄孫（やしゃご）まで加え、直系家族207人とサンパウロ新聞発表。	
3－3	サンパウロ大学（USP）で日本からの文楽公演、大盛況。	
3－5	南米銀行の新社長に２世の伝田耕平副社長就任。２世の登用は初めて。大幅な２世登用の人事も発表。	
3－7	聖州野球連盟が45周年記念を挙行。	
3－10	スザノ福博村入植60周年祭を挙行。	
3－11	カリフォルニア水田米、サンパウロに登場。味抜群で人気上々。	
4－4	ブラジル日本文化協会会長にも初めて２世、山内淳会長誕生。	
4－29	日本政府の春の生存者叙勲。ブラジル関係は内山良文（日本文化連盟会長、勲四等瑞宝章）以下10名。	
5－6		イタイプー発電所、18年がかりで完成。18タービン、フル回転で1260万kw。
6－7	木下正夫（91歳）死亡。日系最古の弁護士、自由メソジスト教会伝道師。	
6－25		ユーゴ連邦分解。クロアチア、スロベニア、ユーゴからの独立を宣言。
7－7	ブラジル非日系男性４人、日系女性との偽造結婚証明書で出稼ぎの為訪日、不法就労が発見され逮捕される。	
7－12		ペルーのワラル市で国際協力事業団（JICA）派遣の農業技術指導専門家、宮川清忠（58）元JICAサンパウロ勤務、中西浩（39）、金良清之（31）の３名、左翼テロ「センデロ・ルミノッソ」に襲撃され殺害される。
7-13～14	南米産業開発青年隊がパラナ州ウムアラーマとセーラ・ドス・ドラードスの旧訓練所あとで、35周年記念式典挙行。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
7－17	第24回山本喜誉司賞に村田豊太郎（日本梨の開発）、青山繁（ジャガイモの害虫防除・輪作方法の開発）、山本守（サンフランシスコ河畔地区のブドウ栽培開発）の３名が選ばれる。	
8－6	日本の労働省が雇用サービス・センターをサンパウロに設立。	
8－20	岡山市のMK工業社長、日系人斡旋ピンハネで逮捕される。	
8－21	サンパウロ日本総領事館、90年度のビザ発給６万３千件と発表。	
8－25	新潟県人会創立35周年を祝う。	
9－1	茨城県人会創立30周年記念式典挙行。	
9－1	立正佼成会ブラジル教会創立20周年挙行。	
9－6		バルト３国独立。51年のソビエト併合史に幕。
9－8	ジアデーマ市在沖縄文化センター（花城清和理事長）創立20周年式典挙行。	
10－7	日本移民80年祭を記念して計画された「ブラジル日本移民80年史」完成。同編纂委員会から刊行される。	
10－24	ブラジル日本文化協会第20回美術展開催。	
10－24		ウジミナス製鉄所11億7千万ドルで落札。公社民営化第１号となる。
10－26	ブラジル日本文化協会創立35周年式典挙行。	
11－3	日本政府は秋の生存者叙勲、ブラジル関係はマリオ・アマット（勲三旭日章、サンパウロ州工業連盟会長）以下８名。	
11－8～10	ブラジル日本文化協会主催「出稼ぎに関するシンポジウム」開催。	
11－21	旅行社関係者が刑法第206条により起訴される。出稼ぎ斡旋業者が裁判沙汰になったのは初めて。	
11－27	日本政府派遣経済ミッション（団長佐渡正一東芝相談役・経団連副会長）一行17人来聖。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
12－		かつて世界の空を席巻したパンナム（パン・アメリカン）倒産。
	死亡 ・11/16　水本光任（76歳）。サンパウロ新聞社会長。	
	刊行物 ★日本移民八十年史編纂委員会『ブラジル日本移民八十年史』ブラジル日本文化協会。 ★国本伊代・乗浩子『ラテンアメリカ都市と社会』新評論社。 ★小池洋一『ブラジルの企業－構造と行動』アジア経済研究所。 ★生長の家ブラジル伝導本部『聖火燃ゆ』。 ★藤崎康夫『出稼ぎ日系外国人労働者』明石書房。 ★P・タビー著、斉藤正美訳『ブルドーザーが来る前に－世界銀行とナンビクワラ・インディオ』三一書房。	
1992（平成4） 1－1	スザノの日系旅行社社長が航空運賃30人分を横領。	
1－5	日航が名古屋への直行便を開始。	
1－6	ロイアル観光社が出稼ぎ斡旋で連邦警察官から1万5千ドル要求される。	
1－8	1991年のサンパウロ総領事館の査証発行数は6万1500件で世界一と発表された。	
1－8	ルイス・パウロ・リンデンベルグ・セッテ元駐日大使が、明治維新後の日本の発展をまとめて『ア・レポルソン・サムライ』を刊行。	
1－9	援協診療所が92年の日本出稼ぎ健康診断受診者7109名で、内1世は9.1%、2、3世が88%であり、非日系は7.3%で増加傾向にあると発表。	
1－9	サンパウロ市内で日系の刑事が泥酔し、麻薬を吸いロ論して同僚を射殺。	
1－10	国際交流基金が『日本映画と文学展』を開催。	
1－13	全伯日本語教師研修会が始まる。138名の参加者の内、非日系2名。	
1－16	東京都友会がパウリスタ大通りに事務所を開設。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－16	連邦警察の介入、及び文協に出稼ぎ相談所が開設される動きについて、日系旅行社協会が会合して対策を練る。	
1－18	アントニオ猪木参議員が環境問題調査で来伯。	
1－18	KDD（国際電信電話株式会社）が月２回の出稼ぎ向け生活情報誌を発行して無料配布を開始。	
1－20	パラナ州の病院で治療中の日本人麻薬犯人を犯罪者仲間が奪回。	
1－24	サンパウロ州保安局職員に２万５千クルゼイロ贈賄の日系弁護士が現行犯逮捕される。	
1－25	日系パラセ・ホテル内の宝石店が強盗で２万ドルの被害。	
1－27	日本で出稼ぎ中の日系女性、川西ヨシ子がサンパウロのガン病院にミシンを４台寄贈。	
1－29	サンパウロ郊外の路線バスの日系運転手がバスジャック犯人を逮捕。	
1－30	アルゼンチンのブエノス・アイレス市で３ヵ国合同日本語教師講習会が開かれる。	
1－31	松田セルソ元サンパウロ市配給局長が連邦政府農業政策局々長に就任。	
1－		1991年の国勢調査の結果、ブラジルの人口は１億4500万人、サンパウロ市の人口は920万人と発表される。
2－5	JICAが社会福祉分野で初めてのシニア専門家３名を派遣。	
2－10	家の光協会の床鍋繁則会長がブラジルの農業視察に来訪。	
2－11	パウリスタ医大附属病院の院長に別府オズワルド医博が日系として初めて就任。	
2－12	東京で作業員宿舎が火事となり出稼ぎ日系人が焼死。	
2－14	元留学生会と海外研修生OB会とが合併して、後進の育成の為に新しくアセベックス（ACEBEX）として発足。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
2－15	第6回ハイカイ（ポ語）大会には150名が参加。	
2－15	グァルーリョス市で2人組強盗が日系人店主を射殺。	
2－18	日伯友好病院とサンタ・クルース病院が協力体制を確立することを決定。	
2－18	国際交流基金が『日本名作映画特集』として10本の映画を上映。	
2-23～26	第1回日伯脳外科シンポジウムがサンパウロ大学で開催される。	
2－26	日本人旅行者坪井勝巳が麻薬所持で逮捕される。	
2－26	日本の対外経済協力審議会から現地視察団が来訪。	
2－29	KDD（国際電信電話株式会社）主催でサンパウロ市と静岡県浜松市を結ぶ国際テレビ電話の実演が行われ、出稼ぎの親子、恋人達が声だけでなくイメージに対面。	
3－5	救済会の渡辺マルガリーダ会長に『吉川英治文化賞』授与が決定。	
3－11	日本に留学し、90年度の日本学生相撲チャンピオンとなった3世の池森剛がプロの玉ノ井部屋に入門。	
3－12	20年に渡り無料で巡回診療をした森口幸雄ポルトアレグレ・カトリック大学医学部教授に第2回医療功労賞が贈られる。	
3－13	阿部和子は出稼ぎ先の企業の作文コンクールに優勝し、賞金を憩の園に寄附。	
3－15	パラナ州西部のウムアラーマ市に学生寮が建設される。	
3－15	日本からのサッカー留学生がチエテ駅で強盗に1000万クルゼイロの他、所持品全てを強奪される。	
3－16	八巻培夫、パウロ・コリーナは俵万智短歌集『サラダ記念日』を翻訳し、ポ語版を出版。	
3－25	詩人の吉増剛造が国際交流基金派遣でサンパウロ大学日本語学科の客員教授として着任。	
3－26	日本の鬼木市次郎がサンパウロ市内に針灸・マッサージ専門学校を設立。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－26	三重県教職員組合から出稼ぎ子弟の教育問題調査の為に来訪。	
3－26	外務省派遣の海外日本語教育調査団４名が来伯。	
3－		グァルーリョス国際空港を中心に出稼ぎ帰国者をねらう強盗の跳梁が激しくなり、被害が激増している。
3－		サンパウロ市内だけで昨年の盗難車数２万５千台と発表される。
3－		ペルーからアマゾン経由でコレラが侵入し、目下東北地方で蔓延している。
4－1	文協に出稼ぎ情報・オリエンテーション・援護センターが発足。尚、最初の１月の相談件数は137件。	
4－2	各地の野球チームがキューバから５人の元選手を指導者として招聘。この後、日系野球チームにキューバからの指導者が増加していく。	
4－8	経団連などから80名が参加し、日伯経済合同会議が７年振りにブラジリアで開催。	
4－10	日本経済新聞主催の日伯経済シンポジウムがリオで開催される。	
4－10	岡山市の温交教世社から３名の有志が日系福祉施設を慰問する為に来訪。	
4－10	ポーソ・アレグレ市に南ミナス日伯文化体育協会が発足。	
4－14	サンパウロ市で国際日本版画展が開かれる。	
4－24	国際交流基金がサンパウロ市で『日本人形展』を開催。	
4－25	愛知県教育委員会では日系就労者子弟教育の為に、日系の語学研修員４名を嘱託として採用。	
4－26	バルセローナ・オリンピックの柔道選手に日系の山崎シゲト３段と石井タニア２段の２人が選ばれる。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－28	日伯親善高校野球試合にブラジル選手団25名が出発。	
4－29	春の叙勲にブラジルからは勲三等竹中正ら5名が発表される。	
4－29	サンパウロで9キロのコカインを持つ日系を含む6名の麻薬組織が逮捕される。	
4－29	横河パーソネル日本語研修センターがサンパウロ市に進出。	
4－29	錦鯉愛好会がブラナルト宮に寄贈した錦鯉が不注意で全滅。	
4－		日本でバブル経済が終焉し、不景気となって多数の出稼ぎ者に甚大な影響。
4－		リオ州では暴徒によるスーパー襲撃が多発してきている。
5－5	山形国体にはブラジル日系選手団の招聘は中止と決定。	
5－5	姉妹都市大阪からサンパウロ市へ贈られた鯉のぼりが大阪橋公園で掲揚される。	
5－10	マリンガー市の市制45周年記念式典に姉妹都市加古川市の市長等が参加。	
5－9	ブラジル・セイコーが日語普及センターに日語学習コンピューター・ソフトを寄贈。	
5－12	援協診療所の出稼ぎ健康診断件数が激減と報道される。	
5－12	ヤクルト商工の若林輝男会長にサンパウロ名誉市民権が授与される。	
5－13	宮城県人会は若生修知事を迎え、会館移転披露式典を行う。	
5－13	沖縄大学の宇井純教授が環境問題調査の為に来訪。	
5－17	沖縄日本復帰20年を祝って沖縄演芸大会が開かれる。	
5－25	創価学会の池田大作会長にクリチーバ名誉市民権が贈られる。	
5－26	アマゾン・ミナマタ・シンポジウム参加の為に51名の使節団が日本から来訪。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
5－29	長崎屋がブラジル撤退を表明。	
5－30	援協が創立30周年を祝う。	
5－		ロンドニアで金採掘業者の使用する水銀による中毒が多発。
6－2	画家小暮光孝が文協美術館建設費にと1000万クルゼイロを寄附。	
6－2	『日本移民80年史』のポルトガル語版が刊行される。	
6－3	リオで環境サミットが始まり、日本からは竹下元総理、海部元総理等、政府代表以外に多くのジャーナリスト、宗教団体を含むNGO代表達が来訪。日本館がつくられ、またシェラトン・ホテルでは4日に『ジャパン・デー』が開催され、7日にはジャパン・ナイトで日本舞踊や盆踊りなどまで行われた。これに合わせてサンパウロでは国際環境技術博覧会も開催。	リオで150国代表とNGOを加えて3万人が参加して国連環境会議（地球サミット）が開催される。
6－5	リオ・サミットに参加した南米フォーラム・グループが、日本以外では初めてサンパウロでフォーラムを開催。	
6－5	サンパウロ州にもコレラが発生し、東洋街で第2回予防説明会。	
6－5	サンパウロ南西ジャガイモ生産者協会が発足。	
6－6	1932年6月のリオ丸で渡航した人達の同船会が60年ぶりに行われる。	
6－6	身体障害者達の第4回ミニ運動会が開かれる。	
6－7	救済会創立50周年が憩の園で祝われる。	
6－10	世界連邦建設同盟の幹部達も環境サミットに参加した後、サンパウロ州ジャンジーラの臨時市議会に出席し、世界連邦平和都市宣言を行う。	
6－11	第3アリアンサ移住地が入植65周年を祝う。	
6－25	日語普及センター附属校がラザール・セガール美術館の教育プログラムに参加。	
6－26	UNESP（Universidade Estadual Paulista）アシス校に日本語科が新設される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－29	サンパウロ市近郊マウアー市で強盗を追いかけた日系店主が撃たれて死亡。	
6－29	日系人斉藤アントニオが陸軍大佐と偽って日系、韓国系人を脅迫していて逮捕され、後7月11日に獄中で自殺。	
7－2	サンパウロ市内で日系医師が不法堕胎手術で逮捕される。	
7－5	グワタパラー移住地が入植30年を祝う。	
7－5	ピエダーデ市で15回目の桜祭り。	
7－9	日米韓伯の4大学が共同で日本人、韓国人の海外移住者生活レベル調査を開始。	
7－11	ピニャール移住地では福井県の栗田幸雄知事等47名の日本からの客を迎えて入植30年祭を挙行。	
7－15	吉川英治文化賞を贈られた渡辺マルガリーダに、出身地の鹿児島県枕崎市から市長以下13名の使節が来訪して名誉市民権を贈る。	
7－23	外務省の荒義尚移住部長が中南米の日系社会視察の為に来訪。	
7-25～26	ブラジル・ゲートボール連合会の10周年を記念して、外国から45チームを迎え国際親善大会がサンパウロ市で開かれる。	
7－		インフレで政府は10万クルゼイロ紙幣を発行。
7－		新型麻薬“クラック”がリオ、サンパウロで急激に普及。
7-25～8/9		バルセローナ・オリンピックが開幕。
8－3	バルセローナのパラリンピックにブラジルの日系人では唯一人、下前原慶記（51歳）が卓球選手として出場。	
8－4	群馬県から11名の交流親善使節が来訪し、援協にサナトリウム建設資金として1000万円を寄附。なおこの使節団は以前には、やすらぎホームに2000万円、サントス厚生ホームにも1000万円を寄贈している。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－5	明治学院大学の渡辺雅子教授等が出稼ぎ日系人の調査に来訪。	
8－15	今年の山本喜誉司賞は村上慶之輔（果樹との複合経営）、平田マノエル（コーヒー密植栽培）、伊勢知明（有機農法）に贈られた。	
8－17	レシーフェ沖合いで日本漁船『第81瑞宝丸』の船員が喧嘩して殺人。	
8－19	前田農場の飛行機がサンタ・カタリーナ州で墜落して前田兄弟4名が死亡。	
8－21	兵庫県とサンパウロ州の教職員が第5回教育シンポジウムを開催。なお、1988年の最初からこのシンポジウム開催に貢献した兵庫県教職員組合の石井亮一委員長にサンパウロ名誉市民権が贈られる。	
8－25	『蒼氓』の故石川達三の長男で上智大学教授の旺（48歳）が学会の為に来伯し、『蒼氓』の舞台のモジアナ線サント・アントニオ耕地を訪れる。	
8－25	ドミニカ移民調査団が再移住者を訪ねてブラジルにも来訪。	
8－27	2世の伊藤カーレンが日本のテイチクから歌手としてデビュー。	
8－28	東洋大学社会学部の喜多川豊宇助教授一行が、日本就労者の調査に来訪。	
8－28	サンベルナルド・ド・カンポ市に国際協力事業団が協力した国立工業訓練所（SENAI）の製造オートメーション・センターが完成。	
9－2	東京浅草商店連合会とリベルダーデ商工会が正式に姉妹商店街関係の調印。	
9－3	日本移住家族会連合会が肉親移住者を尋ねての訪問団を送る。	
9－4	都道府県人会連合会主催の『移民のふるさと巡り』は北パラナを訪問。	
9－8	国際交流基金派遣の5名の室内管弦楽団が演奏会を行う。	
9－14	静岡県浜松市にある国際交流事務所（民間）から小林良久相談役がブラジル事情視察に来訪。	
9－18	サンベルナルド・ド・カンポス市のファベーラ（スラム）で福祉団体などが協力して第2回日本祭り。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
9－19	モジ市近郊の曙植民地の75家族が入植47年で会館を落成。	
9－19	パウリスタ新聞が創立45周年で、韓国の歌手キム・ヨンジャの公演を行う。	
9－20	カンポス・ド・ジョルドン市の援協サナトリウムの新病棟が完成し又、サンタ・クルース病院所有となっていた4アルケールの土地をサナトリウムに寄贈。	
9－21	日伯さくら友好連合会とブラジル桜の会がサンパウロ州議会に桜を植樹。	
9－24	日語普及センターが教師用上級講座を開設。	
9－25	横河電気が超音波診断機の第2号を援協病院に寄贈。	
9－29	サンパウロ市内のサウーデ地区文協が創立25年を祝う。	
9－28	文協、援協、県連が『国外就労者情報センター』の設立総会を開催。	
9－		下院でコーロル大統領の弾劾が441票対38票で可決される。
10－2		サンパウロのカランジルー刑務所で暴動がおき、囚人111名が殺害される。
10－3	全国で統一地方選挙が行われ、サンパウロ州ではスザノ、バストスなどに日系市長7人が当選。サンパウロ市議には小林パウロ（PSDB）、神谷牛太郎（PSB）、羽藤ジョルジ（PMDB）、野村アウレリオ（PL）の4名が当選。パラナ州ではアサイに4世の副田美法市長も誕生。	
10－7	アルゼンチンのマル・デル・プラッタで開かれるパン・アメリカ日系スポーツ大会にブラジルからは98名が参加。	
10－8	サンパウロ学生会が来年から総合学園を設立すると発表。	
10－10	南米にいる原爆被爆者の為に巡回医師団が来訪。	
10－15	アニェンビーの自動車ショーに日本のメーカーも8車種を展示。	
10－16	国際映画祭に国際交流基金が11本の日本映画を上映。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－16	日本プロ野球セ・リーグでヤクルトスワローズが優勝したことで、伯国ヤクルト社は日系5団体に5000万円を寄附。	
10－16	コチア組合がショッピング・センター設立の計画を発表。	
10－18	サンパウロ州食糧配給センターの第5回世界食料祭りで、日本など11ヵ国が民族舞踊も披露。	
10－18	福島県人会が佐藤県知事などを迎えて創立75年を祝う。	
10－21	姉妹都市締結10周年で岐阜市からカンピーナス市に親善使節が来訪。	
10－22	サッカーのカズ（三浦和良）の実父納谷宣雄（日伯フットボール協会会長）が、外為法違反の容疑で公判中。	
10－23	岩国南幼稚園から姉妹関係のむつみ幼稚園に親善使節が来る。	
10－26	『国外就労者情報援護センター』が文協ビル内に開所。	
10－27	大韓航空がサンパウロに乗り入れ週2便を就航。	
10－27		リオ名物ポン・デ・アスーカルのケーブルカーが設置80周年を祝う。
10－30	静岡県下湖西市内で日系人就労者に反日系『帰国勧告文』が貼り出される。	
10－30	ペルーの天野博物館が経営困難になったと報道される。	
11－3	日本政府の秋の叙勲でブラジル関係は7名と報道。	
11－5	国際交流基金派遣で柔道指導者4名が来伯。	
11－8	母県から使節を迎えて、県人会が鳥取県は創立40年を、山口県は創立65年をそれぞれ祝う。	
11－8	第34回珠算大会には全国から500名の代表が集まったが、内30％は非日系で、日系以外にも浸透していることを示す。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－11	日本で運転免許証を偽造販売していた日系の２人に、懲役３年の判決が下される。	
11－13	昨年、群馬県前橋でホステスを殺害した前田テルミ被告に13年の懲役が判決される。	
11－16	京セラ稲盛和夫会長の盛和塾のブラジル事務所が開設される。	
11－17	ナタール沖合いで日本漁船「第80千代丸」（宮城県）が領海侵犯で拿捕される。	
11－20	「ブラジル味の素」が精薄児治療福祉団体APAEに、精薄児治療用として向こう２年に渡りアミノ酸を提供することを約束。	
11－21	ブラジリアで50ヵ国の議員が集まって列国議会同盟会議があり、日本の議員も参加。	
11－25	吉増剛造サンパウロ大学客員教授の詩集『オシリス石の神』がポ語出版される。	
11－26	マルフサンパウロ新市長で花城ゼツリオ州議が交通局長に、内海アメリコ（コチア組合副会長）が配給局長に任命される。	
11－27	日本出稼ぎ目当てに日系との偽装結婚が増加していると報じられる。	
12－1	リベルダーデ商工会が『男はつらいよ』ブラジル版ロケ誘致に５万人署名獲得運動を開始。	
12－2	国際観光振興会が、ブラジルからの訪日は前年比50％の減少と発表。	
12－4	国際交流基金派遣による日本人の太鼓とジャズの公演が行われる。	
12－6	日本式の私立全日制小学校が２校、サンパウロ州教育局の公認を得た。大志万小学校とロベルト・ノリオ学校で、どちらも93年２月から開校。	
12－6	国際交流基金と日本国際教育会共催の日本語能力試験に、今年はブラジル全国で5197人が挑戦したが、非日系人の比率が増加している。	
12－15 12－	石垣泰司サンパウロ総領事が帰国。	この年のインフレ率は1158％、経済成長率はマイナス０．８％と発表されている。 ブラジル史上初めて大統領が弾劾裁判で追放された。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	死　亡　・7/5　森岡達雄（55歳）、養鶏業、富山県人会長。 ・8/18　古関ベルキース範子（79歳）、救済会顧問。 ・8/18　生け花竹風会の太田竹風理事長（81歳）が旅先のミナスで。 ・9/18　中林敏彦（77歳）、日伯毎日新聞社創立者で元社長。 ・10/18　北口勝治（66歳）、モジ連合文協の元会長。 ・11/11　徳尾恒寿（83歳）、公認会計士、元鳥取県人会長。 ・11/15　酒井清（71歳）、南伯組合副理事長。 ・11/26　大塚実（79歳）、ブラス綿商工の元専務。 刊行物　★ジョン・C・クリッチャー著、井沢紘生監修、幸島司郎訳『熱帯雨林の生態学－アマゾンの生態系と動植物』どうぶつ社。 ★西沢利栄・小池洋一『アマゾン－生態と開発』岩波書店。 ★『ブラジル日系企業年鑑1992年』実業のブラジル社。 ★『ブラジル日系人の意識調査』サンパウロ人文科学研究所。 ★安部栄子『「光源都市』（二）サンパウロ短歌会。 ★相場真一・相場道子編『相場美成の生涯』自費出版。 ★『ブラジル日本移民八十年史』ポ語翻訳版“Uma Epopéia Moderna 80 anos da Imigração Japonesa no Brasil” E. Hucitec・Centro de Estudos Nipo-Brasileiros。	
1993（平成5） 1－7	サンパウロ総領事館、昨年の査証発給数4万1,828件と発表。在外公館ではトップの査証数、相変わらず日本就労者の多いことを物語るもの。	
1－16	郊外スザノ在、援協イペランジア老人ホームが開設10周年を祝う。	
1－20	日航名人会3年振りにサンパウロで開催、三笑亭夢楽師匠等3名。文化センター講堂満席の盛況。	米国第42代大統領にビル・クリントン（42）就任。民主党政権12年振り。
1－22	サンパウロ市立劇場所属バレエ団の美術監督に日系の吉村イボニセ・サチエ（42）就任。	
1－28	三重県下で非日系人を含む日系出稼ぎ者の強盗事件2件発生。いずれも犯人4人逮捕される。日系出稼ぎ者の増加とともに日系の引き起こす犯罪も増加。	
1－29	サンパウロ人文科学研究所、日本外務省委託の「日系出稼ぎ者の実態と日系社会への影響」調査結果を発表。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
2－7	社団法人サンパウロ学生会（植村文明会長）のアルモニア教育センター開校式挙行。現在は初等教育の認可のみだが最年長組が7年後には高校運営までの総合学園を計画。	
2－13	日本出稼ぎ者のノイローゼ患者が急増。対応が急がれる。	
3－29	サンパウロ・ブラジル日本商工会議所会頭に初の2世、伝田耕平南米銀行社長選出される。	
4－7		ヴォルタ・レドンダ国営製鉄所（CSN）が民営化される。半世紀の国営事業に幕。
4－17	サンパウロの総領事館に田中克之総領事着任。	
4－18	香川県人会、母県から平井城一知事等一行24名を迎え、同県人会館で県人移住80周年を祝う。	
4－27	日系女性初の外交官誕生。パラナ州クリチーバ出身の石谷けいこファチマ（24歳）。リオ・ブランコ外交官養成所を最年少で卒業。	
4－29	日本政府、春の生存者叙勲。ブラジル関係者5名受章。	
5－7	北伯から下ってきたコレラ、サンパウロでも本格的流行の兆し。なまもの規制法を市が公布し11日から実施。日本料理店大打撃。料理店主ら団体抗議を準備。（22日に規制法解除される）この結果、日本料理協会が発足した。	
5－14	移住者として渡伯後、サンパウロ総領事館に勤務、64年現地採用者として外交官となった須山章リオ総領事館主席領事、ベレン総領事となる。	
5－17	コレラ騒動を契機に日系飲食業者間に協会設立の機運高まる。19日第2回会合で発足準備委員会を結成。	
5－26	援協やすらぎホーム中川デシオ院長、日本就労者の精神障害者の増加について警告。	
5－27	コチア組合中央会の財政危機遂に表面化。債権銀行団、救済へ動き出す。	
6－7	ブラジルからの訪日客92年度は4万1,487人と前年比40.3％減。	
6－8	皇太子殿下御成婚の御祝いにサンパウロの文協・援協・県連・商工会議所は福島近画伯の「春のいぶき」（100号）を贈呈することに決定。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6－9	サンパウロ市に日本料理店協会（池田優会長）発足。	皇太子徳仁殿下（33）、小和田雅子（29）と御結婚。
6－18	日本移民85周年記念追悼ミサと仏式法要行われる。781名の契約移民と10人の自由移民からなる、笠戸丸第1回移民の中で現在なお健在なのは、到着時2歳であった中川トミ（87歳・ロンドリーナ在）唯一人となる。	
6－26	サンパウロ市東洋街で真昼の銃撃戦。ホテル・バロン・ルーに5人組の強盗侵入。日系の主犯は軍警に射殺される。	
7－1	コチア組合に債権銀行がつなぎ融資8千万ドルと報道されたが実際には実行されなかった。	
7－1	日本出稼ぎ斡旋で仲介業者が刑法に触れるおそれのあった同法第206条改正案、下院で再可決されいよいよ発効。	
7－8	サンパウロ総領事館の査証発給数、前年前半期に比べ39％減の1万6千803件と激減。	
7－11	宮城県人会、母県から本間俊太郎知事夫妻等を迎え、創立40周年記念式典を挙行。	
7－20	日本高校相撲選手団一行14名が来伯。24～25日、マリリア市で開催される第32回全伯相撲選手権大会と合わせて行われる第3回国際相撲選手権大会に出場。	
7－21	第26回山本喜誉司賞は秋山辻松（91、パラナ州アラポンガス在住）アボカド栽培、加納末広（72、モジ・ダス・クルーゼス）果樹栽培、下前原輝男（55、パラー州カスタニャール）アセローラ栽培及び内海義男（85、サンパウロ）特別賞、等が受賞。	
7－23		未明リオ市中心街の歩道で寝ていた少年7人が軍警に射殺される。事件の報は外国にも大きな衝撃を与えた。
7－25	高知県人会は橋本大二郎知事夫妻等を迎え、創立40周年記念式典を開催。	
7－30	サンタ・クルース病院再建中央委員会がサルネイ元大統領名誉委員長、若林輝男ヤクルト商工会長を委員長に発足。	
7－31	成田有恒（作家寺内大吉）浄土宗々務総長が同宗南米別院開教40周年記念式典と文化講演会のため来伯。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－1		政府は通貨デノミネーション（千分の一切下げ）を実施。通貨は「クルゼイロ・レアル」の名称。
8－6		サンパウロ市に移動式電話が稼動。だが、加入料、通話料が高く庶民には高嶺の花。
8－8	創立35周年を迎えた愛知県人会（羽田宗義会長）は母県より鈴木礼治知事夫妻等一行10人の慶祝使節団を迎えて同県人会館で記念祝賀会を開催。	
8－8	国際協力事業団（JICA）は、スール・ブラジル農協中央会の窮状に対し250万ドルを融資。	
8－12	加古川市－パラナ州マリンガ市姉妹都市提携20周年を祝い、加古川市の助成でマリンガ市に外国語センターが完成。	
8-14～15		ベネズエラとロライマ州国境のイアノマミ族インジオ部落でガリンペイロ（ダイア掘り）によりインジオ73名虐殺事件発生。
8－15	岡山県人会（岡詢会長）は創立40周年を迎え、母県から長野士郎知事夫妻等慶祝使節団列席のもとに記念式典を挙行。	
8－15	創立35周年を迎えた熊本県人会（柳森優会長）は母県から松村敏人副知事夫妻等一行9名の慶祝使節を迎え文化センターで祝賀会開催。	
8－18	日本の海上自衛隊練習艦隊（司令官五味睦佳海将補、実習幹部143名を含む乗組総員760名）3艦が4年振りにサントス港に入港。19日サンパウロ文化センターで歓迎式典。続いて各県人会による歓迎昼食会開催される。	
8－20	サンパウロ州・三重県姉妹都市提携20周年記念式典が州庁バンディランテス宮で尾崎彪夫副知事等を迎えて挙行される。	
8－23	サンタ・クルース病院へサンパウロ市より6千万クルゼイロ・レアルの助成金交付される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－29	山梨県人会（網野弥太郎会長）は母県から天野建知事夫妻等親善使節団一行95名列席のもとに創立40周年記念式典を挙行。	
8－29	沖縄県人会（宮城滋会長）は瑞慶覧長弘県観光文化局長、儀間光男県会議長ら慶祝使節団を迎えて創立55周年記念式典を挙行。	
8－30		未明、リオ市屈指の貧民窟ファベーラ・デ・ビガリオ・ジェラルを軍警の一団が4人の軍警が殺された報復として婦女子を含む21人を射殺する虐殺事件起こる。
9－13		イスラエルとパレスチナ解放機構（PLO）がパレスチナ暫定自治の原則宣言に調印。ホワイトハウスでラビン・イスラエル首相、アラファットPLO議長出席のもとに調印式行われる。中東和平実現へ向けて歴史的な転換点となる。
9－13	サンパウロ市議会は尾身倍一文協名誉会長にサンパウロの名誉市民権を同市議会議事場で授与。	
9－15	国際交流基金が懐かしのヌーベル・バーグ映画特集を7都市で上映。18日ヌーベル・バーグの旗手であった吉田喜重監督も来伯。	
9－		9月のインフレは35.28％と遂に35％を突破。90年3月以来の最高率を記録。尚1～9月間では948.85％。過去12ヵ月間では1,952、60％となる。
10－9	岐阜県人会創立40周年、日本移民85周年を記念して午後8時よりサンパウロ総合大学（USP）大広場で、岐阜新聞は日本伝統文化の粋、長良川花火大会を開催。広場を埋めたサンパウロ8万市民観衆の歓声を浴びる。大会には梶原拓県知事夫妻、杉山幹夫岐阜新聞社長等一行も列席。	
10－10	愛媛県人会は創立40周年記念式典と会館落成式を挙行。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－20	日本移民最初の移住地サンパウロ州レジストロが入植80年祭挙行。	
10－21	マナウス市在日本人学校は地元日系人子弟にも門戸を開放することとなる。	日本外務省は海外在留邦人68万人、ブラジルには9万7,500人と発表。
10－24	栃木県人会は創立35周年を祝う。同じく山形県人会は創立40周年を祝う。	
10－26	ブラジル住友銀行は創業35周年を迎え、サンパウロの文協などに総額10万ドルを寄附。	
10－28		冷害などによる日本の本年度収穫米被害額は戦後最悪の7,100億円となる見込みと発表される。
11－6	サンパウロのブラジル日本文化協会は6～7日の両日にわたり「日系コミュニティの将来」をテーマとし、日本移民85周年記念シンポジウムを開催。日・伯・米から多数の識者が参加、テーマを巡って活発に論じられる。	
11－10	カンピーナス在東山農場が農場を利用、観光事業に乗り出す。	
11－17	日本外務省海外移住審議会（吉田健三会長）が5年ぶりに外務大臣に意見書提出。移住者援護対策を3世まで拡大。	
11－17	日本政府、サンタ・クルース病院に医療機材供与（総額7千万円）を決定。	
11－17	日本ポルトガル友好450周年記念式典がサンパウロ市のカーザ・ポルトガルで行われ、両国コロニア代表等関係者200人が参加。	
11－18	国際俳句交流協会ブラジル支部がサンパウロで発足。ポ語によるハイカイが日系人、ブラジル人の間に隆盛となってきている。	
11－19	日本政府による秋の叙勲で尾身倍一ブラジル文協名誉会長（勲四瑞宝）他1名。	
11－21	サンパウロ市近郊のイタペチ移住地入植45周年を祝う。	
11－24		日本の学生移住連盟への国際協力事業団（JICA）からの助成金カットされ、同連盟の存続が危ぶまれる事態へ。
11－25	コチア産組中央会従業員給料遅配に対し抗議デモ決行。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
12－4	西村俊治技術財団が経営する特異な全寮制高校サンパウロ州ポンペイア在、農工高の第10回卒業式挙行され、35名が卒業。卒業生はこの後ブラジル国内または外国（日本又はアメリカ）の農場で10ヵ月にわたる実習が義務付けられている。	
12－5	日本の国際交流基金、国際教育協会による第10回日本語能力試験が世界各国で実施される。ブラジルでもサンパウロ、リオ、ベレン、ポルトアレグレ、ロンドリーナの5都市で行われ、サンパウロは3,450名。 5都市全体で4,590名が受験。	
12－8	サンパウロ日伯援護協会総合診療所における11月の日本出稼ぎ者健康診断数は192人と遂に200人を切るまでに減少。	
12－11	ブラジル博物研究会は植物標本館をサンパウロ市イタケーラ地区に建設に着手。	
3－8 7－	刊行物 ★『城島学校』刊行委員会刊。 ★『ブラジル経済事典』ブラジル日本商工会議所。古今書店。 ★清谷益次『岩波菊治－短歌に辿る一移民の心の軌跡』（サンパウロ人文科学研究所）。 ★中隅哲郎『ブラジル学入門』無明舎。 ★小笠原正好歌集『柿の木』自費出版。 ★合同句集『柳筏』（全伯川柳作家自選）ブラジル川柳社。 ★香山栄一『わが道』－ある準二世の半生－自費出版。 死　亡 ・2/17　牛草茂（89歳）元野村農場支配人。 ・3/16　臼井牧之助（99歳）アマゾン移民功労者。 ・3/31　田草川兵馬（79歳）全国拓殖協同組合連合会サンパウロ事務所々長。 ・5/8　野田治平（75歳）元サンパウロ州議員、伯国相互協会顧問。 ・5/26　佐藤貫一（93歳）水泳の名コーチとして知られる。 ・6/13　坂本武次（60歳）南米銀行顧問弁護士、日伯文化連盟副会長。 ・8/28　堀清（91歳）元産業組合中央会主事、ブラジル切手趣味同好会代表。 ・10/3　杉谷茂一（87歳）元援協保健衛生部長、移民事業に長年にわたり貢献。 ・10/16　武田義信。日系医師の最長老。旧同仁会などで日系の医療活動に貢献。	
1994（平成6） 1－4	1993年度朝日社会福祉賞は救済会渡辺マルガリーダ会長（93歳）に授賞と、朝日新聞社が発表。	
1－4	サンタ・クルース病院内に整形外科医院の新病棟完成。落成式が挙行される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
1－14	コチア産組従業員の給料遅配抗議ストが３日目を迎えて深刻な事態を招く。	
1－19	徳島県人会（今川明一会長）は新会館落成式と創立35周年記念祭、並びにサンパウロ州・徳島友好提携10周年などあわせて盛大な記念式典を開催。	
2－3	サンパウロ市議会はブラジル野球連盟の創立日を「野球の日」とすることに決議。関係者を招いて記念式典を行う。	
2－3	隆濤（本名池森ルイス剛、サンパウロ生まれ）が、十両に昇進。	
2－27	日系人ボランティア達がモンテ・アズールのファベーラ（サンパウロ市内）で有志援助による「日本祭」を開催。	
2－28	山城ジョゼ著の沖縄の歴史“OKINAWA－uma ponte para o mundo”（Cultura Editores Associados）発刊される。	
2－		日本法務省入国管理局は昨年６月現在の在留ブラジル国籍者は15万5,714人と発表。92年12月調査時より7,911人の増。 １世のUターン組及び二重国籍２世を含めると、日本国内就労者は17万人を超えるものと見られる。
3－4	サンパウロ蘭協会（川崎ジョルジ会長）、文協サロンで第50回記念蘭展を開催。会員外からの出品をあわせ1500鉢を展示。	
3－4	宮城県からサッカー視察団（高瀬修団長）来聖。県単位でのサッカー視察団はこれが初めて。	
3－6	生長の家ブラジル伝道本部では、ジャバクワラ本部に1000人を集め、立教65周年祭典を開催。	
3－7	日本の警視庁から、麻薬取締法違反容疑者として指名手配が届いていた日本の元暴力団員田辺仁容疑者（32歳）が連邦警察に逮捕される。	
3－7	ガルボン・ブエノ街のホーム・イン旅行社に白昼３人組強盗団が侵入、２万５千ドルを奪い、警備員１人を射殺して逃亡。犯人の１人は日系と見られる。出稼ぎ斡旋でこのところ潤っている旅行社への強盗侵入増加。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
3－10	滋賀県から県民友好使節団（15人）が来聖。主としてリオ・グランデ・ド・スール州との交流と県人を尋ねて各地訪問。	
3－11	APAN（自然農法生産者協会）では文協小講堂を満員にして「しいたけ栽培」の講習会を開催。しいたけ栽培ブームの兆し。	
3－23	旧聖美会関係者と友人等が文協貴賓室に参集。半田知雄画伯の米寿を祝う。	
3－26	サンパウロ日伯援護協会（原沢和夫会長）は、文協ビル貴賓室で第35回定期総会と、創立35周年記念祭を開催。	
3－29	日伯両政府はブラジリアでセラード農業開発第3期事業プロジェクトについて契約及び貸付契約の調印を行い、事業費約149億円。事業面積8万ヘクタールの農業開発のスタートとなった。実施地域はマラニヨン、トカンチンス両州。事業期間は5年間、入植者数は80戸。主要作物は大豆、陸稲、トウモロコシ、カジューなど。	
3－30	スール・ブラジル農産組合中央会（富森敏雄理事長）は臨時総会を開催、同農協中央会の任意解散を決定。日系2大農協の一つ消える。今回の解散は高インフレ、高金利の経済環境の中、中央会の負債が約3、300万ドルに上り、立て直しは難しく負債も膨らむ一方と見られたため。	
4－2	マリンガ市で外国語センター開設を記念し、日語教育研究会が2百名の参加者を集めて開催される。	
4－11	3月末から4月にかけ、日本からブラジルへフット・ボール研修に来ている者が3百名以上と報道される。	
4－17	母県の災害のため7ヵ月延びていたブラジル鹿児島県人会80周年式典が、母県より土屋佳照知事夫妻以下100人の慶祝使節団を迎えて、サンパウロ市カーザ・ポルトガル会館で盛大な式典を挙行。	
4－19	サンパウロの県人会連合会の主導で、在外選挙権全国署名運動開始される。	
4－19	アントニオ・ブルデンテ財団（ガンセンター経営）では、20年間ボランティアとして活動した坂野絢子、田中ヒサら7名に感謝状を贈って表彰。	
4－24	援護協会創立35周年記念慈善ショー、文協大講堂で盛大に行われる。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
4－28	1994年日本政府による春の叙勲者は八木修平（72歳、勲5瑞宝）以下6名と発表。	
5－1		イタリアのイモラのサーキットで、ブラジルのF1レーサー、アイルトン・セナが走行中事故の為非業の死を遂げる。5日遺体はサンパウロに到着。州議会で通夜を行い、6日モルンビー墓地に埋葬される。
5－10		南アフリカ共和国の新大統領にネルソン・マンデラ就任。同国初の黒人大統領。
5－18	ベレン総領事館の福沢磨智子領事（52歳）がアパートに押し入った強盗に刺殺される。	
5－24	大相撲玉ノ井部屋の隆濤（十両）をはじめ5名のブラジル出身力士が里帰りのためサンパウロ入り。	
6－5	ピニェイロス文化体育協会創立20周年記念式典開催。	
6－11	日伯友好病院の新病棟地鎮式行われる。	
6－27	ブラジル南部諸州は15年振りの大寒波に見舞われ、サンパウロ市内で－2°まで気温低下。近郊の野菜、果樹も大打撃を受ける。北パラナ、サンパウロ奥地のコーヒー樹も被害大。	
7－1		新通貨「レアル」が導入され、全国一斉に流通を開始。
7－17	福井県人会（在伯福井文化協会・富山賦一会長）が母県より栗田幸雄知事一行を迎えて、創立40周年記念式典を開催。	
7－30	俳誌「子雷」発刊100号記念俳句大会をエスペランサ婦人会サロンで開催。全伯より120名の俳人参加。	
7－30	日本ブラジル修好百周年記念サンパウロ日系協力委員会（橋富士雄委員長）の発会式南米銀行本店講堂で開かれる。（リオ実行委員会は26日既に発足）百周年記念事業に向けてようやく第一歩を踏み出す。	
8－6	こどもの園創立35周年記念と公演会がイタケーラ同本部で挙行される。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
8－7	北海道協会（舟橋喜市会長）は松田利民副知事一行54名の慶祝使節団を迎えて、文協大講堂で道人移住75周年式典を挙行。	
8－8	サンパウロ＝大阪姉妹都市提携25周年記念式典が西尾大阪市長一行を迎えて挙行される。	
8－21	青森県人会、北村正哉知事等50数名の慶祝使節団を迎えて創立40周年記念式典を挙行。	
8－28	宮崎県人会母県から松形知事をはじめ芸能文化使節団ら合わせて百人余りの慶祝使節団を迎えて県人会創立45周年記念式典を文化センターで行う。	
8－30	河野洋平副総理兼外相一行19名が着聖。アイルトン・セナの墓参後、31日ブラジリアで政府関係者と懇談。リオ・グループ・トロイカ３国外相会議に出席。９月１日帰国。	
9-3～4	ブラジル移住者の帰郷をテーマにした日本現代座公演「もくれんのうた」サンパウロ文化センターで開催される。この後、各地で12回に渡って上演されたが、いずれも観客に素晴らしい感動を与え大好評を浴びた。	
9－3	サンフランシスコ河中流域日伯文化体育協会（新良貴嵩会長）は、入植36年、会創立10周年記念式典をジュアゼイロ市同協会会館で挙行。ブラジル政府は1978年以来、同河流域の開発につとめて来たが、日系農家の灌漑農業による活躍は目覚ましく、良質のぶどう、マンゴーなど生産果実は輸出するまでに至っている。	
9－11	援協のサントス厚生ホームは創立20周年式典祝賀会を同ホームで開催。91年新館建設により設備は充実、60人余りの身よりのない病弱老移住者の安住の地となっている。	
9－12	汎アマゾニア日伯協会は移住65周年記念式典を同協会会館にて挙行。記念事業として日本の音楽グループ「ハル」、現代座「もくれんのうた」の公演の他に「日本週間」を開催。	
9－28	第25回老人週間（援協、救済会、老人クラブ連合会共催）文化センター講堂で開催される。	
9－30	コチア産業組合中央会は臨時総会を開き、任意解散を決定。創立以来、67年に渡るブラジル最大の農協が消滅するとともに、先のスール・ブラジル農産組合と並んで日系の２大農協が姿を消すこととなる。	
10－1	老人クラブ連合会主催、老人クラブ福祉センター建設基金捻出チャリティショーが文化センター講堂で開催され、超満員の盛況。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
10－9	長崎県人会の長崎会館がサンパウロ市ジャバクワラ区に完成。母県から高平米雄県町村会長を団長とする親善団15名及びボリビア、アルゼンチン、パラグワイ各県人会長その他の来客を迎え、盛大な落成式を挙行。	
10－11	94年総選挙の開票結果が発表され、サンパウロ州内では下議に具志堅ルイス、伊波興祐、神谷牛太郎の３人、州議には安部順二、下元八郎、小林パウロの３人がそれぞれ当選。パラナ州では上野アントニオ、荻堂オメロが下議に当選。	
10－13		大江健三郎ノーベル文学賞受賞。
10－31	サンパウロ総領事館がパウリスタ大通り協栄ビルから同大通り854番のトップ・センター・ビル２～４階へ移転。	
11－6	和歌山県人会が母県から仮谷志良知事や県会議長を迎えて創立40周年記念式典を文化センター講堂で開催。 長野県人会も同母県から知事代理山極達郎県出納長らを迎えて県人会創立35周年記念祭を沖縄県人会館で開催。	
11－7	国外就労者情報援護センターが待望の日本への出稼ぎ者に対する職業紹介を開始。どれだけの求人・求職があるか今後の推移が注目される。	
11－18	パラナ日伯商工会議所の友好経済使節団（上野アントニオ団長）一行20人が訪日。経済全般にわたっての日本視察。特に今回は95年の日伯修好百周年記念事業について各界と意見を交換。	
11－25	日本政府、秋の叙勲。ブラジル関係は遠藤義雄（勲五双光旭日）、光田八千代（勲六宝冠）の２人。	
12－5	サンパウロ大学の日伯修好百周年記念委員会は、来年実施の記念事業プログラムを発表。コンサート、講演会、セミナーなど文化的イベント60種目余り。	
12－13	日伯修好百周年記念事業サンパウロ日系協力委員会は記念事業を発表。アイデア公募からの企画案54の内、採用決定22件、総予算は100万ドル。	
12－	ブラジルからの出稼ぎ者に対応する為に、日本の６県警から８人の警察官がサンパウロでポルトガル語の研修実施。研修期間は３～６ヵ月間の予定。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	死亡 ・1/27　尾関興之助（81歳）元コチア理事会補佐、元文協理事、元移民史料館館長。 ・5/15　坂根源吾、援協カンポス・サナトリオ支配人。 ・12/11　田付景一（87歳）。日本ブラジル中央協会会長・海外日系人協会理事長、親子２代にわたってブラジル大使（1961年）を務める。 刊行物 ★山中光男『農協42年の春秋』自費出版。 ★栢野桂山『桂山写生文集』自費出版。 ★山下雪雄『モジアナの土に生きる』自伝、自費出版。 ★木村軟風『教師の日』（俳句・随筆）自費出版。 ★『椰子樹』250号記念別冊特集　椰子樹社。 ★夛田邦治歌集『黒い夜』。 ★弘中千賀子文集『いのち折々』日伯毎日新聞社、日伯文化連盟刊。 ★『南米銀行五十年史』南米銀行刊。	
1995年（平成７） １－１		フェルナンド・エンリッケ・カルドーゾ連邦共和国第38代大統領就任。
１－１		アルゼンチン、パラグァイ、ウルグァイ、ブラジル４国を統合するメルコスール（南部南米共同市場）が始動。
１－６	日本の不況による出稼ぎ者の減少が旅行業者を直撃。日系旅行社の販売実績は３年前の３分の１に低下。	
１－10	世界相撲大会が日本の国技館で行われ、ブラジルからの参加選手は団体３位の成績をあげる。	
１－12	サンパウロ市ファリア・リマ大通りの拡張工事のため、市役所は聖ヨハネ教会（日系最古の教会）取り壊し作業を開始。信者達は日本移民の文化財であるこの取り壊しに抵抗。	
１－17	阪神地方に震度7.2の大地震発生、死者5,200余名。同地方に出稼ぎの日系ブラジル人８名も死亡。24日被害にあった帰国第１陣37人がサンパウロ到着。29日までに約50人の被災者と４人の遺骨が帰国を果たした。	
２－20		「オウム真理教」による無差別テロ事件発生。東京都内の地下鉄16駅で毒物サリンが撒かれ、5,500人が重軽傷。12人が死亡。

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
2－22	サンパウロのエスペランサ婦人会に初の２世、今中会長が誕生。	
2－25	サンパウロ市イビラプエラ公園で日伯修好百周年を記念してイペーの植樹が協力委員会の手で行われる。	
2－26	日本に出稼ぎのため、日本人と偽装結婚につぎ、養子縁組みが大流行の兆し。ロンドリーナで15人が申請中。	
3－25	往年の童謡歌手川田正子サンパウロで公演。聴衆に大きな感動と懐かしさを与える。	
3－30	日伯修好百周年サンパウロ協力委員会、市内カルモ公園においてもイペーの記念植樹を行う。	
4－1	修好百周年記念事業の一環として日本の劇団「SEI」サンパウロ市他９ヵ所で日・ポ両語により公演。	
4－20	往年のシネマ屋生存者による第15回物故者追悼法要行われる。	
4－22	日本食ブームで、日本食料理店、すし職人の引き抜きが悩みの種。	
4－24	日本政府、春の叙勲。シゲオ・ワタナベ（70歳、サンパウロ大学物理学教授）以下３名。	
5－7	サン・ベルナルド・ド・カンポ在の瑞穂（みずほ）村、入植60周年を祝う。	
5－16		地下鉄サリン事件を起こした「オウム真理教」代表麻原彰晃（40）を逮捕。
5－20	ブラジル歌壇の先達、岩波菊治の歌碑、故郷の諏訪湖々畔百景園内に建立される。	
5－22	群馬県人会創立50周年記念挙行。	
6－3	逝去した田付景一にかわり、日本ブラジル中央協会々長に吉田建三元ブラジル大使選出される。	
6－17	日伯修好100周年記念事業の一つとして日本の同委員会の派遣した春風亭栄枝師匠等の落語公演会を文協講堂で開催。	
6－18	ブラジル日本移民史料館、文協などの主催による「移民の記録の保存に関する国際シンポジウム」文協にて開催。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
6 -20～21	日伯修好百周年記念事業として「都市と地域開発における環境問題」のフォーラムをリオ・デ・ジャネイロ市で開催。日本・ブラジル側関係者の間で環境問題への取組みや課題について意見を交換。	
6－22	平野植民地入植80周年記念式典が挙行される。残留日系家族は14。	
6－25	ブラジル日本文化協会は95年度の白寿者18人と先駆移民52人の表彰式を行う。白寿者の内8人が出席。特別表彰として日系社会最年長の杉山ヒデ（109歳）が表彰される。	
7－15	サンパウロ・ジョッキー・クラブにて大日本弓馬会派遣の「流鏑馬」公開され、2万5千人がつめかける。	
7－28	日伯修好百周年を記念して、サンパウロ州工業連盟、サンパウロ州立大、ブラジル日本商工会議所、サンパウロ総領事館の主催による経済セミナーを開催。両国の経済問題について意見を交換。	
7－30	秋田県人会（清橋武司会長）は佐々木喜久治知事を迎えて創立35周年記念祭を開催。	
8－5	在伯奈良県人会（梅崎嘉明会長）は、母県より柿本善世知事らを迎え、県人会館で35周年記念式典を開催。	
8－6	ブラジル岡山県人会（川上壯六会長）は母県から長野士郎知事を迎えて県人移住85周年祝典を開催。	
8－6	在ブラジル原爆被爆者協会、広島県人会、長崎県人会主催、原爆投下50年記念の追悼法要がサンパウロ市本派本願寺南米教団本部でしめやかに営まれる。被爆者及びその家族約100人が列席。	
8－8	日伯修好100周年を記念して日伯文化連盟は、日本の太鼓と民舞のグループ「森の踊り衆」（沢崎真彦団長）の公演を文化センターで開催。約500名が観賞。同グループはこのあと6都市を巡回公演。	
8－10	日伯修好100周年記念事業の一環として、文協及び同美術委員会による「ブラジル日系作家展－ブラジルの大地に生きる日系美術家たち」、新潟展を皮切りに日本各地で巡回展開始。(96年6月まで)	
8－15	第2次世界大戦開戦当時、ヨーロッパのユダヤ人6,000人に日本通過ビザを発給。ナチの追跡から救った外交官杉原千畝の未亡人杉原幸子著「六千人の命のビザ」を日伯新聞がポ語	50回目の終戦記念日、日本政府主催の「全国戦没者

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
	に翻訳出版。サンパウロ在エブライカ協会で著者出席のもとに出版記念サイン会を開催。	追悼式」東京の日本武道館で開催される。
8－16	ブラジル陸軍に日系2世将官が誕生。任官した小原彰少将（55）はブラジリア陸軍司令部で陸軍大臣より軍刀を授与される。	外国人登録を行っている在日外国人、昨年末現在で135万4千11人と法務省発表。日本総人口に占める割合は1.08%。この20年間で1.82倍の増加。
8－20	群馬県人会は創立50周年記念と母県、サンパウロ州との姉妹都市提携15周年祝賀式典を小寺弘之県知事ら一行64名を迎えて開催。	
8－20	ブラジル佐賀県文化協会は創立40周年記念式典を同協会々館に井本勇知事等慶祝団50余名を迎え開催。	
8－22	日本のふるさと創生訪伯団101名が来伯。各地日系と10日間にわたり交流。	
9－6	ブラジル農業技術研究会（ABETA）は95年度山本喜誉司賞受賞者を発表。古橋侑雄（アルタ・パウリスタ）ブドウ栽培。長南俊（サンタ・カタリーナ州クリチバーノス）ニンニク栽培、間島正典（ロンドリーナ）特別賞。	
9－12	ジュンジアイ文化協会連合会（難波孫三郎会長）は創立50周年記念式典を開催。	
9－13	日本より宮城道雄の流れをくむ琴の名手30人がサンパウロ市立劇場で修好100周年記念演奏会を開催。	
9－17	コチア青年移住40周年記念式典がコペルコチア・クラブで開催。約300名が列席。コチア青年の平均年齢は既に60歳前後。	
10-6～7	日伯修好百周年記念「出稼ぎに関する国際シンポジウム－帰還、社会復帰、展望」パラナ州ロンドリーナ文化体育協会主催で同会館で開催される。従来顧みられなかった帰国後の諸問題も検討される。	
10－10	バイア州ウナ移住地で鴨島田理輝（59）と妻優子（53）息子の四揚（14）が縛られた上射殺される。出稼ぎの金を狙った犯罪多発の傾向。	
10－11	ブラジリア日本大使館で現地採用職員等が35%の増給を求めてスト決行。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
11－1	皇太子殿下夫妻、村山首相、ブラジルからマルコ・マシェル副大統領出席のもとに日伯修好百周年記念式典が東京にて開催。	
11－3	日本政府は秋の叙勲者を発表。サンパウロ総領事館管内では高野芳久（勲五双光旭日）、水本すみ子（勲五瑞宝）ら7名。	
11－4	ブラジル富山県人会（茶木勲会長）は日本から中沖知事等50人を迎えて創立35周年記念と、母県・サンパウロ州との姉妹県締結10周年を祝う式典を挙行。	
11－5	日本のオペラ「夕鶴」がサンパウロ市立劇場で開演。	
11－8	サンパウロ州・日伯修好百周年記念事業、サンパウロ日系協力委員会共催の紀宮歓迎式典が州政庁バンディランテス宮で開催。1300名が列席。この後紀宮はサンパウロ総合大を訪問。	
11－9	ブラジリア、イタマラチー宮においてブラジル政府による日伯修好100周年記念式典開催。日本代表として紀宮、百周年記念事業組織委員会斉藤裕委員長、ブラジル側委員会委員長リンデンベルグ・セッテ元駐日大使、同委員会名誉総裁マルコス・マシェル副大統領等列席。	
11－12	ブラジル広島県人会（定常大二郎会長）は母県より藤田雄山県知事はじめ総勢46名の訪問団を迎えて、創立40周年記念式典を挙行。80歳以上の高齢者292人も表彰。	
11－16	紀宮、12日よりマット・グロッソ州クヤバ日系人と交流。13日パンタナール見学、14日南マット・グロッソ州カンポ・グランデ日系人会の歓迎会。15日再びサンパウロに戻り憩の園、東洋街、カルモ公園などを訪問の後、ボリビア向け出発。	
11－18	日伯援護協会友好病院の新病棟落成式挙行。	
11－19	ブラジル鳥取県人会は母県から西尾邑次知事、井上万吉男県会議長等43人を招き県人会館の完成を祝う。	
11－21	ノロエステ連合日伯文化協会（五十嵐二郎会長）では、「日系コロニアよ何処へ行く」のテーマで、アラサツーバ日伯文化協会々館でシンポジウムを開催。	
11－29	日伯修好100周年を記念して日本国外務大臣が日系社会に貢献した日系人を表彰。銀杯を伝達。サンパウロ総領事館内では68人。	

年　号	移　民　史　・　日　系　社　会　史	関連事項
12- 1～2	日伯百周年を記念して、日本語普及センターは「21世紀の日本語を考える」のテーマのもとにシェラトン・ホテルにおいてシンポジウムを開催。日本語関係者等500名が参加。日本から日本語教育学会の野元菊雄会長（元国語研究所々長、元サンパウロ大日本語学科客員教授）も招かれて列席。	
12- 8～10	100周年記念事業の一つとして弁士出演「日本無声映画特集」音と映像博物館（MIS）で開催。	
12－	日本法務省入国管理局の発表によると、95年6月現在外国人登録済みのブラジル人は半年前に比べ、9千人の増加。総数17万人に近く、出稼ぎに行く者の数はブーム時に比べ減少しているが、就労者の滞在期間の長期化にともない、滞在ブラジル人の絶対数は増加傾向にあることを物語るもの。	
1－13 3－21 4－18	**刊行物** ★増田恒河著「ブラジル季寄せ『自然諷詠』」日伯新聞社刊。 ★東京銀行海外部参与鈴木孝憲著『目覚める大国ブラジル』 ★青木公著『甦る大地セラード』国際協力出版会。 ★渡辺雅子編『共同研究出稼ぎ日系ブラジル人』上・下明石書店。 ★中隅哲郎『ブラジル観察学』無明舎。 ★『細江静男先生とその遺業』刊行委員会。 ★八木修平『雲の峰』自費出版。 ★畑本文子『ジャカランダ』文・短歌　自費出版。 ★谷口範之『青春の賦』自費出版。 **死　亡** ・7/18　日本の政財界に隠然たる力を持ち、ブラジル日系社会にも種々影響のあった笹川良一（96）、東京にて。 ・8/22　山本勝造（84歳）サドキン電機会長、日本カントリー・クラブ名誉会長、サンパウロ人文科学研究所会長。 ・9/15　渡辺美智雄（72）元副総理・外相、日伯議員連盟日本側会長。 ・9/23　リオの学界に出席後、リオ観光中の川口福井大学教授、トロンバ（ひったくり）により、電車より突き落とされ死亡。	

■基礎文献 （著者名アイウエオ順）

―著　者　名―	―　書　　名　―	―発　行　所―		刊行年
アマゾン日本人移住60年記念史委員会（編）	『日本人による60年の移住史』	ベレン市	汎アマゾニア日伯協会	1994
ありあんさ移住地十年史刊行会（編）	『創設十年』	信濃海外協会	ありあんさ移住地十年史刊行会	1936
伊丹金蔵	『在伯同胞発展録』	サンパウロ市	――――	1941
今井伸平（編）	『実業図鑑』	サンパウロ市	ブラジル文化出版社	1970
移民70年史編纂委員会（編）	『ブラジル日本移民70年史1908-1978』	〃	ブラジル日本文化協会	1980
移民八十年史編纂委員会（編）	『ブラジル日本移民八十年史』	〃	移民80年祭典委員会 ブラジル日本文化協会	1991
入江寅次	『邦人海外発展史』 上・下	東　京	海外邦人史料会	
〃	『ブラジル移民五十年』	〃	松沢書店	1958
〃	『移民九十年』	〃	外務省移民局第一課	1958
池田重二	『在伯邦人産業・文化躍進の60年』	サンパウロ市	――――	1968
牛窪　保	『パラナ日系60年史』	ロンドリーナ	――――	1972
小野真禅	『ブラジルに於ける第1線に活躍する人々』上（下巻なし）	サンパウロ市	――――	1940
外務省領事移住部（編）	『わが国民の海外発展－移住百年の歩み』2巻	東　京	外務省領事移住部	1971
海外興業株式会社（編）	『日本移民概史』	〃	海外興業株式会社	1937
北原地価造追憶集刊行会（編）	『アリアンサ移住地の父・北原地価造追憶集』	サンパウロ市	北原地価造追憶集刊行会	1972
香山六郎編著	『移民四十年史』	〃	――――	1949
児玉正一	『ブラジル移民の父－上塚周平』	〃	――――	1950
在伯日本人文化協会（編）	『伯国憲法審議会に於ける日本移民問題の経過』	〃	在伯日本人文化協会	1934
斉藤広志	『ブラジルの日本人』	東　京	丸善株式会社	1960
サンパウロ新聞社（編）	『コロニア戦後十五年史』	サンパウロ市	サンパウロ新聞社	1960
〃	『戦後四半世紀の軌跡』	〃	〃	1971
〃	『サンパウロ年鑑』	〃	〃	1971～96
鈴木貞次郎	『ブラジル移民の草分け』	神　戸	神戸日伯協会	1933
〃	『　〃　』（改訂版）	サンパウロ市	――――	1967

―著　者　名―	―　書　　名　―	―発　行　所―		刊行年
鈴木貞次郎	『埋れ行く拓人の足跡』	サンパウロ市	神戸日伯協会	1941
〃	『　　〃　　』(改訂版)	〃	――――	1969
聖州新報社(編)	『のろえすて日本人年鑑』	パウルー市	聖州新報社	1927
〃	『　　〃　　』	〃	〃	1928
〃	『ノロエステ、ソロカバナ、パウリスタ邦人年鑑』(三線年鑑ともいう)	〃	〃	1930
〃	『在伯日本移植民廿五周年記念鑑』	〃	〃	1933
聖市四百年祭典日本人協力会(編)	『サンパウロ四百年祭』	サンパウロ市	祭典日本人協力会	1958
チエテ自治会(編)	『チエテ十年史』	〃	チエテ自治会	1938
トレス・バーラス青年連盟(編)	『トレス・バーラス移住地』	〃	帝国書院	1960
中西周甫	『北パラナ国際植民地開拓十五年史』	〃	――――	1950
西本哲朗	『ブラジル大観』	〃	――――	1956
日本移民五十年祭委員会(編)	『かさと丸』	〃	日本移民五十年祭委員会	1958
〃	『物故先駆者列伝』	〃	〃	1958
日伯毎日新聞社(編)	『新年特別号』	〃	日伯毎日新聞社	1965～96
野田良治	『ブラジル人国記』	東　京	博文館	1926
農事通信社(編)	『農業のブラジル―プロミッソン開拓十周年記念号』	サンパウロ市	農事通信社	1928
パウリスタ新聞社(編)	『コロニア戦後十年史』	〃	パウリスタ新聞社	1956
〃	『コロニア五十年の歩み』	〃	〃	1958
〃	『コロニア産業地図』	〃	〃	1962
〃	『目でみるコロニア60年』	〃	〃	1968
〃	『コロニア25年の歩み』	〃	〃	1972
〃	『パウリスタ年鑑』	〃	〃	1950～96
〃	『日本・ブラジル交流人名事典』	東　京	五月書房	1996
汎アラサツーバ日本人会(編)	『アラサツーバ五十年史』	アラサツーバ市	アラサツーバ日本人会	1958

―著　者　名―	―書　　名―	―発　行　所―		刊行年
平野植民地日本人会（編）	『平野廿五周年史』	カフェランジャ郡	平野植民地日本人会	1941
ブラジルに於ける日本人発展史刊行委員会（編）	『ブラジルに於ける日本人発展史』上・下	東　京	ラテン・アメリカ中央会	1941
伯剌西爾時報社（編）	『伯剌西爾年鑑』	サンパウロ市	伯剌西爾時報社	1933
〃	『新進之伯剌西爾』	〃	〃	1922
ブラジル日系人実態調査委員会（編）	『ブラジルの日本移民』資料編・記述編二巻	東大出版会	日系人実態調査委員会	1964
福島（在伯）県人会（編）	『大和民族渡伯五十周年ー福島記念誌』	サンパウロ市	福島県人会	1958
水野昌之	『バストス二十五年史』		――――	1955
宮城松成	『サンパウロ、リオ・デ・ジャネイロ日系名士録』	サンパウロ市	――――	1962
レジストロ植民地開設五十年祭々典実行委員会（編）	『レジストロ郡現勢概覧』	レジストロ市	五十年祭々典委員会	1963
輪湖俊午郎編著	『バウルー管内の邦人』	サンパウロ市	――――	1939
輪湖俊午郎	『北西年鑑』	バウルー市	――――	1924
〃	『流転の跡』	日　本	――――	1941

編纂スタッフ（ABC 順）

清谷 益次
宮尾　進
森　幸一
本山 省三
中隅 哲郎
田尻 鉄也
脇坂 勝則

表紙デザイン　田中　慎二

ブラジル日本移民・日系社会史年表

－半田知雄編著改訂増補版－

発　行　：1996年10月
発行所　：サンパウロ人文科学研究所
CENTRO DE ESTUDOS NIPO-BRASILEIROS
Rua São Joaquim,381
CEP 01508-900　S.Paulo － SP　Brasil
印刷所　：トッパン・プレス印刷出版会社